

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (79)

九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 XII

# 大坪遺跡

(鹿児島県出水市)

上 卷

2005年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

## 序 文

この報告書は、九州新幹線鹿児島ルート建設工事に伴って、平成10年度から平成12年度にかけて実施した出水市美原町に所在する大坪遺跡の発掘調査の記録です。

平成16年3月13日に待望の九州新幹線鹿児島ルートが部分開業（鹿児島中央駅～新八代駅間）し、多くの人びとや情報が行き交って、21世紀に飛躍する鹿児島を象徴しています。新幹線開通に至るまでには30年余を要してさまざまな分野での関わりがありましたが、埋蔵文化財との調整もその中の一つでした。発掘調査は、平成5年4月に西鹿児島駅緊急整備事業の一環として鹿児島市武遺跡の調査を開始し、平成13年5月末、川内市京田遺跡を最後に21か所の発掘調査全てを終了しました。

本遺跡では縄文時代の終わり頃を中心に、古代・中世など多彩な遺構や遺物が発見され、出水地方の歴史の一端を垣間見ることができました。縄文時代後期終末から晩期にかけては、37基の埋設土器をはじめ勾玉・管玉などの玉類、各種土器や石器が多く出土しました。奈良時代から平安時代初期の竪穴住居に伴うつくり付けの竈の発見例は、他県では一般的にみられるものの県内では初めての検出となりました。また、平安時代末から鎌倉時代初期には、東西南北に合わせた大規模な土地区画である条里型地割が行われていたことがわかりました。

この調査の成果が地域の歴史研究や埋蔵文化財の啓発普及の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、調査に当たり御協力いただいた日本鉄道建設公団九州新幹線建設局及び出水市の関係部局並びに発掘調査に従事された地域の方々に厚く御礼申し上げます。

平成17年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター  
所長 木原 俊孝

# 報 告 書 抄 録

書 名	おおつぼ 大坪遺跡							
副 書 名	九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻 次	XII							
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター 埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	79							
編 著 者 名	ひがし かずゆき のまぐち いさむ せき あきえ もり ゆうじ ながさき しんたろう みやた えいじ 東 和幸 野間口 勇 関 明恵 森 雄二 長崎 慎太郎 宮田 栄二 やぎ さわ いちろう かわぐち まきゆき やまもと まみ こ うわとこ まこと 八木澤 一郎 川口 雅之 山元 真美子 上床 真							
編 集 機 関	鹿児島県立埋蔵文化財センター							
所 在 地	〒899-4461 鹿児島県国分市上之段1175番地1 Tel. 0995-48-5811							
発 行 年 月 日	西暦2005年3月							
所収遺跡名	所在地	コ ー ド		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおつぼ 大坪遺跡	かごしまけん 鹿児島県	46208	051	32°	130°	1999.5.6.～	27,247m <sup>2</sup>	九州新幹線鹿児島ルート 建設に伴う埋蔵文化財発 掘調査
	いずみし 出水市			05′	21′	2000.3.31.		
	みはらちよう 美原町			51″	23″	2000.5.1.～ 2001.3.27.		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
おおつぼ 大坪遺跡	散布地	縄文後期終末 ～晩期	埋設土器, 凹地, 土坑, 焼土 石溜り, ドングリピット	上加世田式土器, 入佐式土器, 黒川 式土器, 石器各種, 玉類各種		埋設土器の検出数は県内で最 も多い。  玉類の製作地である。		
		古代初期	竈付堅穴住居跡, 焼成土坑, 土坑, 溝状遺構	須恵器, 土師器, 甌, 土錘, 鉄製品 轆の羽口, 紡錘車, 馬の歯, 刻書土 器, ガラス玉, 円面硯?		竈付の堅穴住居跡及び焼成土 坑の検出例は県内で最初であ る。		
		古代末～中世	掘立柱建物跡, 溝状遺構, 波 板状凹凸面, 条里型地割	青磁, 白磁, 土師器, 滑石製石鍋, 砥石		県内で条里型地割が発掘調査 されたのは初めてである。		
		近世～近代	波板状凹凸面, 道跡	薩摩焼, 輸入陶磁器, 肥前系陶磁器 キセル, 金属製かんざし, 鉛弾		各時代の波板状凹凸面の芯々 距離は共通する。		

八代海



大坪遺跡の位置 (1/50,000)

# 例 言

- 1 本報告書は、平成11年度・平成12年度に、鹿児島県立埋蔵文化財センターが日本鉄道建設公団九州新幹線建設局の受託事業として実施した「九州新幹線鹿児島ルート建設」に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査の時点では小字名により、大坪遺跡・見入来遺跡・榎木田遺跡に分けていたが、遺跡自体が時期的にも空間的にも連続していることから、本報告書では全体を大坪遺跡として報告することとする。
- 3 調査の組織は、「第Ⅰ章 発掘調査の経緯」の中に記した。
- 4 本書に用いたレベル数値は、海拔絶対高である。
- 5 遺物番号は通し番号とし、本文・挿図・表・写真図版の番号は一致する。
- 6 本報告書に掲載した遺構・遺物の縮尺はそれぞれの挿図内に提示してある。
- 7 遺構・遺物の実測や製図は主として担当職員のもと臨時職員及び委託業者が行った。  
遺構の実測及び玉類の実測製図については、(株)埋蔵文化財サポートシステム（以下、埋文サポート）に委託した。また、石器類の実測製図については、九州文化財研究所に委託した。
- 8 本報告書に使用した写真図版のうち、遺構撮影を高岡和也が主に行い、遺物撮影については当センターの西園勝彦が主に行った。
- 9 玉類の石材産地分析を京都大学原子炉実験所の藁科哲男氏に、また、各種科学分析については(株)古環境研究所に依頼し、その分析結果を掲載した。
- 10 遺物で出土地点が不明なものもあるが、平成11年9月23日の台風でプレハブが飛ばされ、遺物カードが分離してしまったものである。また、担当者の不注意でわからなくなってしまったものもある。
- 11 石器の分類は東が行ったものを、宮田栄二が確認した。
- 12 石器の石材鑑定については東が行ったものを、宮田栄二が確認した。
- 13 土師器及び須恵器の分類については東が行ったもの

- のを、当センターの中村和美が確認した。
- 14 鉄製品の保存処理及び赤色顔料の分析については、当センターの永濱功治が行った。
  - 15 遺構及び遺物の該当時期は、目次の各時期に合わせてあるが、レイアウト等の都合上必ずしもそうでない場合もある。記述及び表等で確認していただきたい。
  - 16 出土した遺物は、報告書作成後、鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し、活用する予定である。
  - 17 本報告書の執筆・編集は、東和幸・関明恵・八木澤一郎・宮田栄二・川口雅之・野間口勇・山元真美子・森雄二・長崎慎太郎・上床真が行った。
  - 18 各項目の執筆は、次のとおり分担して実施し、それ以外の文責は東である。

第Ⅱ章 第1節 遺跡の位置と立地	森・長崎
第Ⅱ章 第2節 周辺の遺跡と歴史的環境	野間口
第Ⅲ章 第3節 各グリッドの状況	野間口・東
第Ⅳ章 第1節 2.(2)⑤ ピエスエスキュー	宮田・東
⑦ 石核	宮田・東
⑨ 石製土掘具	川口
⑪ 磨石・敲石・凹石	八木澤・東
⑬ 石錘	山元・東
⑭ 異形石器	宮田・東
第Ⅳ章 第3節 1.(4) 土坑	野間口・東
第Ⅳ章 第3節 1.(6) 03区~01区の土坑等	野間口・東
第Ⅳ章 第3節 2.(1) 掘立柱建物跡	八木澤・東
第Ⅳ章 第3節 2.(2) 土坑	野間口・東
第Ⅳ章 第3節 3.(1) 土坑	野間口・東
第Ⅳ章 第3節 4.(5)① 紡錘車	山元・東
第Ⅳ章 第3節 4.(5)② 土錘	山元・東
第Ⅳ章 第3節 4.(10) 陶磁器	関
第Ⅳ章 第3節 4.(13) 鉄製品	野間口
第Ⅳ章 第4節 2.近世後期~現代の出土遺物	野間口
第Ⅵ章 調査のまとめ	東・上床・野間口
  - 19 本報告書は上巻と下巻に分かれているが、遺物番号・図番号・表番号及びページは通し番号となっている。下巻は第Ⅳ章第2節以降を掲載している。

# 凡 例

- 1 例言に記したが、発掘調査時点で分けていた見入来遺跡及び榎木田遺跡を含めて大坪遺跡と総称する。03 区～01 区が榎木田遺跡の範囲であり、1 区～8 区が見入来遺跡の範囲である。これより以南を大坪遺跡の範囲として調査時には進めてきた。したがって、記述の上では遺跡名で呼んだり、区名で呼んだりする部分が出てくるので、予めご了承ください。
- 2 調査時点での遺構名と本報告書での遺構名の対応は、表 5～表 9 に示してある。
- 3 調査時点での遺物取上番号と本報告書での遺物番号の対応は、各遺物観察表に示してある。
- 4 調査日誌抄は、調査時点で認識していたことをそのまま書いているので、本文の内容と異なる部分もある。
- 5 溝状遺構及び道路遺構については、それぞれ検出した長さが異なるので、1 ページに収まるように調整してある。したがって、各遺構の縮尺率は異なり、それぞれスケールを添えてある。なお、断面図は 1/50 に統一した。
- 6 各遺構については、方位、スケール、公共座標を表示し、断面図には絶対高を記す。
- 7 断面を切った部分は、▶ー、ー◀ で示し、断面が複数ある断面図の場合は、アルファベットを添えた。
- 8 断面を切った線がない場合は、見通し断面である。ただし、見通して見えるはずの上バ線、下バ線は省略した。
- 9 波板状凹凸面及び溝状遺構の縦断面については、直線の部分でおさえることができないので、見通し断面で表現しており、床面の部分だけを表した。スケールは平面図と同じである。
- 10 遺構内で出土した遺物については、遺構図に図示しているものもあるが、図のスケールは不統一である。出土遺物の頁で、時代順あるいは種

類ごとに載せてあるので、参照されたい。遺物番号と同じである。

- 11 遺跡では縄文時代から現代までの遺構や遺物が重複して出てくるので、各グリッド状況図では色を変えて提示してある。縄文時代の遺構と遺物及び公共座標・方位・スケールを赤色で示し、弥生時代以降の遺構と遺物及びグリッド調査範囲・土層断面を黒色で示してある。壁面で位置を示す場合、北側壁面では西側から、西側壁面では南側からの数値である。

- 12 各グリッド状況図での遺物ドットの種類は下記のとおりである。

## <縄文時代>

縄文土器	●
玉	★
石鏃	△
磨石・敲石・凹石・石皿	□
石製土掘具	■
石錘	☆
スクレイパー	◎
磨製石斧	○
石匙・ノット・スクレイパー・刃潰し	▽
異形石器	◆
円盤状石製品	◇
ピエス・エスキーユ	*
石錐	▼
石核	×

## <弥生時代以降>

土師器	△
須恵器	▲
轡羽口	★
把手	×
弥生・古墳時代の遺物	□
鉄製品・砥石	▼
焼塩壺	●
滑石製品	■
土錘	◇
陶磁器	☆
刻書土器	*
葉莢・古銭・馬の鞆・鉛弾	○
その他	▽

13 遺物ドットに番号が入っていないものは、図化はしていないけれども器種が明らかな遺物である。

14 遺物及び遺構の中には、掲載した名称として確証の得られていないものもあるが、注意を喚起する意味で載せているものもある。その際は「？」を付けている。

15 本文中で参考とした文献については、斜体文字で示してある。

#### 16 条里型地割の説明

条里型地割の説明に当たって、それぞれの場所の呼び方が雑になるので、起点を設定する事にする。遺構として検出された部分と昭和40年代の地籍図で条里型地割が合致する場所をその起点としたい。そうするとD-24区の溝状遺構16(SD55)と溝状遺構20(SD57)が直角に交差する地点が最もふさわしく、ここを起点として本報告書内での説明を行うこととする。公共座標では、おおよそ $X = -99994$ 、 $Y = -60748$ の地点である。

#### 17 時代・時期の把握について

鹿児島県内の通常の遺跡では、年代の分かる火山灰が堆積しており、検出遺構や遺物の上下関係がはっきりすることから層位を利用して時代を区分することが可能である。しかし、大坪遺跡は低地に立地しており、層位による時代及び時期区分は不可能であった。したがって時代及び時期区分の把握は出土遺物に頼らざるを得ず、通常の報告書では遺構の説明の中で埋土内出土遺物の説明を行うのであるが、今回は遺物を後でまとめ、土器・土師器・須恵器・陶磁器等を指標として時代及び時期区分を行い、それを該当する遺構に戻してある。この件について、埋設土器は遺構でありながらもその単体は遺物であることから、遺構・遺物のどちらの項目で詳しく扱ったほうが良いのかは悩んだ点である。それで先に遺物として分類し、時期を特定した後遺構に戻すことによって、遺構の使用時期や存続した年代を考えていくことにしたい。遺構内遺物については、縮小はしているものの再載して利用の便を図ることとする。

#### 18 遺構の性格等について

本来、未だ統一された見解がない遺構や遺物

については、まずその遺構や遺物の客観的な記述を行った後、考察もしくはまとめで見解を示すべきである。しかし、そうすると記述の仕方で混乱を起こすことになりかねないので(例えば、溝状遺構は「掘られた」のか「ほげた」のか)、本報告書ではそのような場合結論を先に述べて混乱を避けることとしたい。ただし、発掘調査の過程で考えが次第に変わってきたものもあるので、以前の考えに基づいて書いている場合もある。今回の報告書で提示する結論は次の点である。

「波板状凹凸面の成因は、牛馬が長年歩いたことによるものである。」

「溝状遺構の中には、長年道として使われた結果、窪んだものもある。」

#### 19 遺物及び遺構の説明について

遺物及び遺構の説明について、客観的な報告部分のみを本文に書いて、調査担当者の主観的な考え及び考察的な内容については後の章でまとめるのが一般的なのかもしれない。しかし、客観的な内容については図面及び表等で表現されていることもあり、考察するには短い内容であるものについて、本文中に主観的な記述をしてある。

20 公共座標の数値は、北緯33度・東経131度を基準にしてある。

# 目 次

## [上巻]

序文

報告書抄録

例言

凡例

### 第I章 調査の経緯

第1節 調査に至るまでの経緯	1
第2節 調査の組織	1
第3節 調査の概要と調査経過	3

### 第II章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と立地	10
第2節 周辺の遺跡と歴史的環境	10

### 第III章 発掘調査の概要

第1節 発掘調査の方法	23
第2節 遺跡の層位	31
第3節 各グリッドの状況	31

### 第IV章 発掘調査の成果

#### 第1節 縄文時代の成果

1. 縄文時代の検出遺構	125
(1) 埋設土器 (2) 供献土器 (3) 土坑 (4) 大型凹地 (5) 凹地 (6) 不明遺構 (7) 焼土 (8) 石溜り (9) ピット	
2. 縄文時代の出土遺物	154
(1) 縄文土器	
① 深鉢形土器 ② 組織痕土器 ③ 浅鉢形土器 ④ 小型浅鉢形土器 ⑤ 鉢 形土器 ⑥ 盃形土器 ⑦ 深鉢形土器底部 ⑧ 縄文土製品	
(2) 縄文石器	
① 石鏃 ② 石匙 ③ スクレイパー ④ 石錐 ⑤ ピエス・エスキーユ ⑥ 刃潰しのある石器 ⑦ 石核 ⑧ 磨製石斧 ⑨ 石製土掘具 ⑩ 円盤状石製 品 ⑪ 磨石・敲石・凹石 ⑫ 石皿 ⑬ 石錘 ⑭ 異形石器 ⑮ 石刀? ⑯ 玉類	

## [下巻]

第2節 弥生時代～古墳時代の成果	359
第3節 古代前半期～近世前半期の成果	
1. 古代前半期の検出遺構	362
(1) 竈付竪穴住居跡 (2) 焼成土坑 (3) 不明遺構 (4) 土坑 (5) 焼土 (6) 03区～01区の土坑等 (7) 溝状遺構	
2. 古代後半期～中世前半期の検出遺構	387
(1) 掘立柱建物跡 (2) 土坑 (3) 焼土 (4) 不明遺構 (5) 溝状遺構 (6) 波板状凹凸面	
3. 古代前半期～近世前半期の出土遺物	428
(1) 須恵器	
① 坏・皿 ② 埴 ③ 蓋 ④ 甕 ⑤ 壺 ⑥ その他 ⑦ 硯	
(2) 土師器	
① 坏 ② 皿 ③ 埴 ④ 蓋 ⑤ 高坏 ⑥ 甕 ⑦ その他	
(3) 焼塩壺	



(4) 刻書土器	
(5) 甌	
(6) 把手	
(7) 支脚	
(8) 鞆羽口	
(9) 土製品	
① 紡錘車 ② 土錘	
(10) 陶磁器	
① 中世陶磁器 ② 近世陶磁器	
(11) 滑石製品	
(12) 砥石	
(13) 鉄製品	
4. 中世後半期～近世前半期の検出遺構	472
(1) 土坑 (2) 溝状遺構 (3) 波板状凹凸面	
第4節 近世後半期～現代の成果	
1. 近世後半期～現代の検出遺構	492
溝状遺構	
2. 近世後半期～現代の出土遺物	498
(1) 古銭 (2) 鉛弾 (3) キセル (4) 銃弾・薬莖 (5) 歯ブラシ	
(6) 馬具 (7) 追加遺物	
第V章 分析同定	
大坪遺跡出土の玉類, 玉材片の産地分析	503
大坪遺跡における自然科学分析 (平成11年度)	533
大坪遺跡における自然科学分析 (平成12年度)	538
第VI章 調査のまとめ	544

## 挿図目次

[上巻]			
第1図 大坪遺跡の位置	11	第19図 遺構検出及び遺物出土状況 (1)	41
第2図 グリッド設定図 (現況図)	12	D・C-03区	
第3図 グリッド設定図 (昭和40年代の地籍図)	13	第20図 遺構検出及び遺物出土状況 (2)	42
第4図 グリッド設定図 (昭和40年代の地形図)	14	D・C-02区	
第5図 周辺遺跡図 (1)	17	第21図 遺構検出及び遺物出土状況 (3)	43
第6図 周辺遺跡図 (2)	18	D・C-01区	
第7図 確認調査の範囲	24	第22図 遺構検出及び遺物出土状況 (4)	44
第8図 年度ごとの調査範囲	25	D・C-1区	
第9図 大坪遺跡土層模式図	31	第23図 遺構検出及び遺物出土状況 (5)	45
第10図 遺構配置図 (1) 03区～2区	32	D-2区	
第11図 遺構配置図 (2) 2区～6区	33	第24図 遺構検出及び遺物出土状況 (6)	46
第12図 遺構配置図 (3) 11区～15区	34	C-2区	
第13図 遺構配置図 (4) 14区～18区	35	第25図 遺構検出及び遺物出土状況 (7)	47
第14図 遺構配置図 (5) 19区～22区	36	B-2区	
第15図 遺構配置図 (6) 23区～26区	37	第26図 遺構検出及び遺物出土状況 (8)	48
第16図 遺構配置図 (7) 27区～30区	38	A-2・3区	
第17図 遺構配置図 (8) 31区～34区	39	第27図 遺構検出及び遺物出土状況 (9)	49
第18図 遺構配置図 (9) 35区～38区	40	D-3区	
		第28図 遺構検出及び遺物出土状況 (10)	50

	C-3区		D-16区
第29図	遺構検出及び遺物出土状況 (11) …… 51	第53図	遺構検出及び遺物出土状況 (35) …… 75
	B-3区		C-16区
第30図	遺構検出及び遺物出土状況 (12) …… 52	第54図	遺構検出及び遺物出土状況 (36) …… 76
	D-4区		B-16区
第31図	遺構検出及び遺物出土状況 (13) …… 53	第55図	遺構検出及び遺物出土状況 (37) …… 77
	C-4区		D-17区
第32図	遺構検出及び遺物出土状況 (14) …… 54	第56図	遺構検出及び遺物出土状況 (38) …… 78
	B-4区		C-17区
第33図	遺構検出及び遺物出土状況 (15) …… 55	第57図	遺構検出及び遺物出土状況 (39) …… 79
	A-4・5区		B-17区
第34図	遺構検出及び遺物出土状況 (16) …… 56	第58図	遺構検出及び遺物出土状況 (40) …… 80
	D-5区		D-18区
第35図	遺構検出及び遺物出土状況 (17) …… 57	第59図	遺構検出及び遺物出土状況 (41) …… 81
	C-5区		C-18区
第36図	遺構検出及び遺物出土状況 (18) …… 58	第60図	遺構検出及び遺物出土状況 (42) …… 82
	B-5区		B-18区
第37図	遺構検出及び遺物出土状況 (19) …… 59	第61図	遺構検出及び遺物出土状況 (43) …… 83
	D-6区		D-19区
第38図	遺構検出及び遺物出土状況 (20) …… 60	第62図	遺構検出及び遺物出土状況 (44) …… 84
	C-6区		C-19区
第39図	遺構検出及び遺物出土状況 (21) …… 61	第63図	遺構検出及び遺物出土状況 (45) …… 85
	B-6区		B-19区
第40図	遺構検出及び遺物出土状況 (22) …… 62	第64図	遺構検出及び遺物出土状況 (46) …… 86
	C-7区		D-20区
第41図	遺構検出及び遺物出土状況 (23) …… 63	第65図	遺構検出及び遺物出土状況 (47) …… 87
	B-7区		C-20区
第42図	遺構検出及び遺物出土状況 (24) …… 64	第66図	遺構検出及び遺物出土状況 (48) …… 88
	D-8区		B-20区
第43図	遺構検出及び遺物出土状況 (25) …… 65	第67図	遺構検出及び遺物出土状況 (49) …… 89
	D・C・B-11区, C・B-12区		D-21区
第44図	遺構検出及び遺物出土状況 (26) …… 66	第68図	遺構検出及び遺物出土状況 (50) …… 90
	D・C-12区		C-21区
第45図	遺構検出及び遺物出土状況 (27) …… 67	第69図	遺構検出及び遺物出土状況 (51) …… 91
	D-13区		B-21区
第46図	遺構検出及び遺物出土状況 (28) …… 68	第70図	遺構検出及び遺物出土状況 (52) …… 92
	C-13区		A-21・22区
第47図	遺構検出及び遺物出土状況 (29) …… 69	第71図	遺構検出及び遺物出土状況 (53) …… 93
	D-14区		D-22区
第48図	遺構検出及び遺物出土状況 (30) …… 70	第72図	遺構検出及び遺物出土状況 (54) …… 94
	C・B-14区		C-22区
第49図	遺構検出及び遺物出土状況 (31) …… 71	第73図	遺構検出及び遺物出土状況 (55) …… 95
	D-15区		B-22区
第50図	遺構検出及び遺物出土状況 (32) …… 72	第74図	遺構検出及び遺物出土状況 (56) …… 96
	C-15区		D-23区
第51図	遺構検出及び遺物出土状況 (33) …… 73	第75図	遺構検出及び遺物出土状況 (57) …… 97
	B-15区		C-23区
第52図	遺構検出及び遺物出土状況 (34) …… 74	第76図	遺構検出及び遺物出土状況 (58) …… 98

	B-23 区				B-36 区
第 7 7 図	遺構検出及び遺物出土状況 (59) …… 99	第 101 図	遺構検出及び遺物出土状況 (83) …… 123		A-36 区
	A-23・24 区	第 102 図	遺構検出及び遺物出土状況 (84) …… 124		A・B-37・38 区
第 7 8 図	遺構検出及び遺物出土状況 (60) …… 100	第 103 図	埋設土器検出状況 (1) …… 125		埋設土器 1 (SJ124)・2 (SJ119)
	D-24 区	第 104 図	埋設土器検出状況 (2) …… 126		埋設土器 3 (SJ79)
第 7 9 図	遺構検出及び遺物出土状況 (61) …… 101	第 105 図	埋設土器検出状況 (3) …… 127		埋設土器 4 (SJ38)
	C-24 区	第 106 図	埋設土器検出状況 (4) …… 128		埋設土器 5 (SJ115)・6 (SJ8)
第 8 0 図	遺構検出及び遺物出土状況 (62) …… 102	第 107 図	埋設土器検出状況 (5) …… 129		埋設土器 7 (SJ33)
	B-24 区	第 108 図	埋設土器検出状況 (6) …… 130		埋設土器 8 (SJ6)
第 8 1 図	遺構検出及び遺物出土状況 (63) …… 103	第 109 図	埋設土器検出状況 (7) …… 131		埋設土器 9 (SJ80)・10 (SJ39)
	D-25 区	第 110 図	埋設土器検出状況 (8) …… 132		埋設土器 11 (SJ40)・12 (SJ4)
第 8 2 図	遺構検出及び遺物出土状況 (64) …… 104	第 111 図	埋設土器検出状況 (9) …… 134		埋設土器 13 (SJ5)・14 (SJ31)
	C-25 区	第 112 図	埋設土器検出状況 (10) …… 135		埋設土器 15 (SJ12)・16 (SJ9)
第 8 3 図	遺構検出及び遺物出土状況 (65) …… 105	第 113 図	埋設土器検出状況 (11) …… 136		埋設土器 17 (SJ3)・18 (SJ7)
	B-25 区	第 114 図	埋設土器検出状況 (12) …… 137		埋設土器 19 (SJ78)
第 8 4 図	遺構検出及び遺物出土状況 (66) …… 106	第 115 図	埋設土器検出状況 (13) …… 138		埋設土器 20 (SJ41)・21 (SJ130)
	A-25・26 区	第 116 図	埋設土器検出状況 (14) …… 139		埋設土器 22 (SJ30)・23 (SJ49)・24 (SJ42)・
第 8 5 図	遺構検出及び遺物出土状況 (67) …… 107		25 (SJ50)・26 (SJ10)		第 117 図
	D-26 区		埋設土器 27 (SJ175)・28 (SJ46)		埋設土器検出状況 (15) …… 141
第 8 6 図	遺構検出及び遺物出土状況 (68) …… 108		埋設土器 29 (見 SJ5)・30 (見 SJ84)		第 118 図
	C-26 区		埋設土器 31 (SJ131)・32 (SJ11)		埋設土器検出状況 (16) …… 142
第 8 7 図	遺構検出及び遺物出土状況 (69) …… 109		埋設土器 33 (SJ47)・34 (SJ51)・供献土器 1 (SJ48)		第 119 図
	B-26 区		埋設土器 35 (SJ128)・36 (SJ126)・37 (SJ125)		埋設土器検出状況 (17) …… 143
第 8 8 図	遺構検出及び遺物出土状況 (70) …… 110		供献土器 2 (SJP129)		第 120 図
	B-27 区		土坑検出状況 (1) …… 146		埋設土器検出状況 (18) …… 144
第 8 9 図	遺構検出及び遺物出土状況 (71) …… 111		土坑 1 (SK71)・2 (SK118)		第 121 図
	B-28・29 区		土坑検出状況 (2) …… 147		埋設土器検出状況 (19) …… 145
第 9 0 図	遺構検出及び遺物出土状況 (72) …… 112				埋設土器 35 (SJ128)・36 (SJ126)・37 (SJ125)
	B-30 区				供献土器 2 (SJP129)
第 9 1 図	遺構検出及び遺物出土状況 (73) …… 113				第 122 図
	B-32 区				土坑検出状況 (1) …… 146
第 9 2 図	遺構検出及び遺物出土状況 (74) …… 114				土坑 1 (SK71)・2 (SK118)
	A-31・32 区				第 123 図
第 9 3 図	遺構検出及び遺物出土状況 (75) …… 115				土坑検出状況 (2) …… 147
	C-33・34 区				
第 9 4 図	遺構検出及び遺物出土状況 (76) …… 116				
	B-33 区				
第 9 5 図	遺構検出及び遺物出土状況 (77) …… 117				
	A-33 区				
第 9 6 図	遺構検出及び遺物出土状況 (78) …… 118				
	B-34 区				
第 9 7 図	遺構検出及び遺物出土状況 (79) …… 119				
	A-34 区				
第 9 8 図	遺構検出及び遺物出土状況 (80) …… 120				
	C・B-35 区				
第 9 9 図	遺構検出及び遺物出土状況 (81) …… 121				
	B・A-35 区				
第 100 図	遺構検出及び遺物出土状況 (82) …… 122				

	土坑3 (SK169)・4 (見SK1)		
第124 図	大型凹地検出状況 (SX60) ……………	148	
第125 図	凹地検出状況 (SF193) ……………	149	
第126 図	不明遺構検出状況 (1) ……………	150	
	不明遺構1 (SX67)		
第127 図	不明遺構検出状況 (2) ……………	151	
	不明遺構2 (SF117)		
第128 図	焼土検出状況 (1) ……………	152	
	焼土1 (SF32)・2 (SF173)・3 (SF127)・4 (SF120)・		
	5 (見SF4)		
第129 図	石溜り及びびット検出状況 ……………	153	
	石溜り1 (見SS2)・びット1 (SX28)・2 (SP121)		
第130 図	出土遺物 縄文土器 (1) ……………	155	
第131 図	出土遺物 縄文土器 (2) ……………	156	
第132 図	出土遺物 縄文土器 (3) ……………	157	
第133 図	出土遺物 縄文土器 (4) ……………	158	
第134 図	出土遺物 縄文土器 (5) ……………	159	
第135 図	出土遺物 縄文土器 (6) ……………	160	
第136 図	出土遺物 縄文土器 (7) ……………	161	
第137 図	出土遺物 縄文土器 (8) ……………	162	
第138 図	出土遺物 縄文土器 (9) ……………	163	
第139 図	出土遺物 縄文土器 (10) ……………	164	
第140 図	出土遺物 縄文土器 (11) ……………	165	
第141 図	出土遺物 縄文土器 (12) ……………	166	
第142 図	出土遺物 縄文土器 (13) ……………	167	
第143 図	出土遺物 縄文土器 (14) ……………	168	
第144 図	出土遺物 縄文土器 (15) ……………	169	
第145 図	出土遺物 縄文土器 (16) ……………	170	
第146 図	出土遺物 縄文土器 (17) ……………	171	
第147 図	出土遺物 縄文土器 (18) ……………	172	
第148 図	出土遺物 縄文土器 (19) ……………	173	
第149 図	出土遺物 縄文土器 (20) ……………	174	
第150 図	出土遺物 縄文土器 (21) ……………	175	
第151 図	出土遺物 縄文土器 (22) ……………	177	
第152 図	出土遺物 縄文土器 (23) ……………	178	
第153 図	出土遺物 縄文土器 (24) ……………	179	
第154 図	出土遺物 縄文土器 (25) ……………	180	
第155 図	出土遺物 縄文土器 (26) ……………	181	
第156 図	出土遺物 縄文土器 (27) ……………	182	
第157 図	出土遺物 縄文土器 (28) ……………	183	
第158 図	出土遺物 縄文土器 (29) ……………	184	
第159 図	出土遺物 縄文土器 (30) ……………	185	
第160 図	出土遺物 縄文土器 (31) ……………	186	
第161 図	出土遺物 縄文土器 (32) ……………	187	
第162 図	出土遺物 縄文土器 (33) ……………	188	
第163 図	出土遺物 縄文土器 (34) ……………	189	
第164 図	出土遺物 縄文土器 (35) ……………	190	
第165 図	出土遺物 縄文土器 (36) ……………	191	
第166 図	出土遺物 縄文土器 (37) ……………	192	
第167 図	出土遺物 縄文土器 (38) ……………	193	
第168 図	出土遺物 縄文土器 (39) ……………	194	
第169 図	出土遺物 縄文土器 (40) ……………	195	
第170 図	出土遺物 縄文土器 (41) ……………	196	
第171 図	出土遺物 縄文土器 (42) ……………	198	
第172 図	出土遺物 縄文土器 (43) ……………	199	
第173 図	出土遺物 縄文土器 (44) ……………	201	
第174 図	出土遺物 縄文土器 (45) ……………	202	
第175 図	出土遺物 縄文土器 (46) ……………	203	
第176 図	出土遺物 縄文土器 (47) ……………	204	
第177 図	出土遺物 縄文土器 (48) ……………	206	
第178 図	出土遺物 縄文土器 (49) ……………	207	
第179 図	出土遺物 縄文土器 (50) ……………	208	
第180 図	出土遺物 縄文土器 (51) ……………	209	
第181 図	出土遺物 縄文土器 (52) ……………	210	
第182 図	出土遺物 縄文土器 (53) ……………	211	
第183 図	出土遺物 縄文土器 (54) ……………	214	
第184 図	出土遺物 縄文土器 (55) ……………	215	
第185 図	出土遺物 縄文土器 (56) ……………	216	
第186 図	出土遺物 縄文土器 (57) ……………	217	
第187 図	出土遺物 縄文土器 (58) ……………	218	
第188 図	出土遺物 縄文土器 (59) ……………	219	
第189 図	出土遺物 縄文土器 (60) ……………	220	
第190 図	出土遺物 石器 (1) 石鏃 ……………	223	
第191 図	出土遺物 石器 (2) 石鏃 ……………	224	
第192 図	出土遺物 石器 (3) 石鏃 ……………	225	
第193 図	出土遺物 石器 (4) 石鏃 ……………	226	
第194 図	出土遺物 石器 (5) 石鏃 ……………	227	
第195 図	出土遺物 石器 (6) 石鏃 ……………	228	
第196 図	出土遺物 石器 (7) 石鏃 ……………	229	
第197 図	出土遺物 石器 (8) 石鏃 ……………	230	
第198 図	出土遺物 石器 (9) 石鏃 ……………	231	
第199 図	出土遺物 石器 (10) 石鏃 ……………	232	
第200 図	出土遺物 石器 (11) 石鏃 ……………	233	
第201 図	出土遺物 石器 (12) 石鏃 ……………	234	
第202 図	出土遺物 石器 (13) 石鏃 ……………	235	
第203 図	出土遺物 石器 (14) 石鏃 ……………	236	
第204 図	出土遺物 石器 (15) 石鏃 ……………	237	
第205 図	出土遺物 石器 (16) 石鏃 ……………	242	
第206 図	出土遺物 石器 (17) 石鏃 ……………	243	
第207 図	出土遺物 石器 (18) 石鏃 ……………	244	
第208 図	出土遺物 石器 (19) 石鏃 ……………	245	
第209 図	出土遺物 石器 (20) 石鏃 ……………	247	
第210 図	出土遺物 石器 (21) 石匙 ……………	248	
第211 図	出土遺物 石器 (22) 石匙 ……………	249	
第212 図	出土遺物 石器 (23) 石匙 ……………	250	
第213 図	出土遺物 石器 (24) 石匙 ……………	251	

第214図	出土遺物	石器 (25)	スクレイパー	252	第262図	出土遺物	石器 (73)	石製土掘具	308
第215図	出土遺物	石器 (26)	スクレイパー	253	第263図	出土遺物	石器 (74)	石製土掘具	309
第216図	出土遺物	石器 (27)	スクレイパー	254	第264図	出土遺物	石器 (75)	石製土掘具	310
第217図	出土遺物	石器 (28)	スクレイパー	256	第265図	出土遺物	石器 (76)	石製土掘具	311
第218図	出土遺物	石器 (29)	スクレイパー	257	第266図	出土遺物	石器 (77)	円盤状石製品	315
第219図	出土遺物	石器 (30)	スクレイパー	258	第267図	出土遺物	石器 (78)	円盤状石製品	316
第220図	出土遺物	石器 (31)	石錐	260	第268図	出土遺物	石器 (79)	円盤状石製品	317
第221図	出土遺物	石器 (32)	石錐	261	第269図	出土遺物	石器 (80)	円盤状石製品	318
第222図	出土遺物	石器 (33)	ピエス・エスキュー	262	第270図	出土遺物	石器 (81)	磨石・敲石・凹石	319
第223図	出土遺物	石器 (33)	ピエス・エスキュー	263	第271図	出土遺物	石器 (82)	磨石・敲石・凹石	320
第224図	出土遺物	石器 (35)	刃潰しのある石器	264	第272図	出土遺物	石器 (83)	磨石・敲石・凹石	321
第225図	出土遺物	石器 (36)	石核	265	第273図	出土遺物	石器 (84)	磨石・敲石・凹石	322
第226図	出土遺物	石器 (37)	石核	266	第274図	出土遺物	石器 (85)	磨石・敲石・凹石	323
第227図	出土遺物	石器 (38)	石核	267	第275図	出土遺物	石器 (86)	磨石・敲石・凹石	324
第228図	出土遺物	石器 (39)	磨製石斧	270	第276図	出土遺物	石器 (87)	磨石・敲石・凹石	325
第229図	出土遺物	石器 (40)	磨製石斧	271	第277図	出土遺物	石器 (88)	磨石・敲石・凹石	326
第230図	出土遺物	石器 (41)	磨製石斧	272	第278図	出土遺物	石器 (89)	磨石・敲石・凹石	327
第231図	出土遺物	石器 (42)	磨製石斧	273	第279図	出土遺物	石器 (90)	磨石・敲石・凹石	328
第232図	出土遺物	石器 (43)	磨製石斧	274	第280図	出土遺物	石器 (91)	磨石・敲石・凹石	329
第233図	出土遺物	石器 (44)	磨製石斧	275	第281図	出土遺物	石器 (92)	磨石・敲石・凹石	332
第234図	出土遺物	石器 (45)	磨製石斧	276	第282図	出土遺物	石器 (93)	磨石・敲石・凹石	333
第235図	出土遺物	石器 (46)	石製土掘具	281	第283図	出土遺物	石器 (94)	磨石・敲石・凹石	334
第236図	出土遺物	石器 (47)	石製土掘具	282	第284図	出土遺物	石器 (95)	磨石・敲石・凹石	335
第237図	出土遺物	石器 (48)	石製土掘具	283	第285図	出土遺物	石器 (96)	磨石・敲石・凹石	336
第238図	出土遺物	石器 (49)	石製土掘具	284	第286図	出土遺物	石器 (97)	石皿	338
第239図	出土遺物	石器 (50)	石製土掘具	285	第287図	出土遺物	石器 (98)	石皿	339
第240図	出土遺物	石器 (51)	石製土掘具	286	第288図	出土遺物	石器 (99)	石皿	340
第241図	出土遺物	石器 (52)	石製土掘具	287	第289図	出土遺物	石器 (100)	石皿	341
第242図	出土遺物	石器 (53)	石製土掘具	288	第290図	出土遺物	石器 (101)	石皿	342
第243図	出土遺物	石器 (54)	石製土掘具	289	第291図	出土遺物	石器 (102)	石錘	343
第244図	出土遺物	石器 (55)	石製土掘具	290	第292図	出土遺物	石器 (103)	石錘	344
第245図	出土遺物	石器 (56)	石製土掘具	291	第293図	出土遺物	石器 (104)	石錘	345
第246図	出土遺物	石器 (57)	石製土掘具	292	第294図	出土遺物	石器 (105)	石錘	346
第247図	出土遺物	石器 (58)	石製土掘具	293	第295図	出土遺物	石器 (106)	石錘	347
第248図	出土遺物	石器 (59)	石製土掘具	294	第296図	出土遺物	石器 (107)	石錘	348
第249図	出土遺物	石器 (60)	石製土掘具	295	第297図	出土遺物	石器 (108)	石錘	349
第250図	出土遺物	石器 (61)	石製土掘具	296	第298図	出土遺物	石器 (109)	異形石器・石刀?	350
第251図	出土遺物	石器 (62)	石製土掘具	297	第299図	出土遺物	石器 (110)	玉類	353
第252図	出土遺物	石器 (63)	石製土掘具	298	第300図	出土遺物	石器 (111)	玉類	354
第253図	出土遺物	石器 (64)	石製土掘具	299	第301図	出土遺物	石器 (112)	玉類	355
第254図	出土遺物	石器 (65)	石製土掘具	300	第302図	出土遺物	石器 (113)	玉類	356
第255図	出土遺物	石器 (66)	石製土掘具	301	[下巻]				
第256図	出土遺物	石器 (67)	石製土掘具	302	第303図	出土遺物			360
第257図	出土遺物	石器 (68)	石製土掘具	303			弥生時代及び古墳時代の土器 (1)		
第258図	出土遺物	石器 (69)	石製土掘具	304	第304図	出土遺物			361
第259図	出土遺物	石器 (70)	石製土掘具	305			弥生時代及び古墳時代の土器 (2)		
第260図	出土遺物	石器 (71)	石製土掘具	306	第305図	竪穴住居検出状況 (SH29)			362
第261図	出土遺物	石器 (72)	石製土掘具	307	第306図	<small>かまど</small> 竈 検出状況 (SH29)			363

第 307 図	焼成土坑検出状況 (1) …………… 364 焼成土坑 1 (SK82)	第 325 図	土坑検出状況 (13) …………… 382 土坑 50 (榎 SK20)・51 (榎 SK22)・52 (榎 SK1)・ ピット 15 (榎 SP21)・焼土 11 (榎 SF27)
第 308 図	焼成土坑検出状況 (2) …………… 365 焼成土坑 2 (SK133)・3 (SK45)	第 326 図	溝状遺構検出状況 (1) …………… 384 溝状遺構 1 (SD43)・4 (SD70)
第 309 図	不明遺構検出状況 (3) …………… 366 不明遺構 3 (SX75)	第 327 図	溝状遺構検出状況 (2) …………… 385 溝状遺構 2 (見 SD81)
第 310 図	不明遺構遺物出土状況 (1) …………… 367 不明遺構 3 (SX75)	第 328 図	溝状遺構検出状況 (3) …………… 386 溝状遺構 3 (見 SD6)
第 311 図	不明遺構遺物出土状況 (2) …………… 368 不明遺構 4 (SX81)	第 329 図	掘立柱建物跡検出状況 (1) …………… 387 掘立柱建物跡 1 (SB166)
第 312 図	不明遺構・土坑検出状況 …………… 369 不明遺構 5 (SX85)・土坑 6 (SK84)・7 (SK83) ピット 3 (SP86)	第 330 図	掘立柱建物跡検出状況 (2) …………… 388 掘立柱建物跡 2 (SB187)
第 313 図	土坑検出状況 (3) …………… 370 土坑 8 (SK134)・9 (SK135)	第 331 図	掘立柱建物跡検出状況 (3) …………… 389 掘立柱建物跡 3 (SB137)
第 314 図	土坑検出状況 (4) …………… 371 土坑 10 (SK76)	第 332 図	掘立柱建物跡検出状況 (4) …………… 390 掘立柱建物跡 4 (SB190)
第 315 図	土坑検出状況 (5) …………… 372 土坑 11 (SK113)・12 (SK112)・13 (SK111)・ 14 (SK110)	第 333 図	掘立柱建物跡検出状況 (5) …………… 391 掘立柱建物跡 5 (SB199)
第 316 図	土坑検出状況 (6) …………… 373 土坑 15 (SK106)・16 (SK105)・17 (SK104) ピット 5 (SP123)・6 (SP122)	第 334 図	掘立柱建物跡検出状況 (6) …………… 394 掘立柱建物跡 6 (SB189)
第 317 図	土坑検出状況 (7) …………… 374 土坑 18 (SK77)・19 (SK102)・20 (SK101)・ 21 (SK100)・22 (SK99)・23 (SK98)	第 335 図	掘立柱建物跡検出状況 (7) …………… 396 掘立柱建物跡 7 (SB188)
第 318 図	土坑遺物出土状況 …………… 375 土坑 18 (SK77)・24 (SK103)	第 336 図	掘立柱建物跡検出状況 (8) …………… 397 掘立柱建物跡 8 (SB198)
第 319 図	土坑検出状況 (8) …………… 376 土坑 24 (SK103)・25 (SK97)	第 337 図	掘立柱建物跡検出状況 (9) …………… 398 掘立柱建物跡 9 (SB200)
第 320 図	土坑検出状況 (9) …………… 377 土坑 26 (SK96)・27 (SK87)・28 (SK92)・29 (SK93)・ 30 (SK90)・31 (SK89) ピット 7 (SP95)・8 (SP94)・9 (SP91)	第 338 図	土坑検出状況 (14) …………… 399 土坑 57 (SK34)・58 (SK35)・59 (SK36)・60 (SK37)
第 321 図	土坑検出状況 (10) …………… 378 土坑 32 (SK114)・ピット 4 (SP116)・10 (SP109)・ 11 (SP108)・12 (SP107)	第 339 図	土坑検出状況 (15) …………… 400 土坑 61 (SK148)・62 (SK151)
第 322 図	焼土検出状況 (2) …………… 379 焼土 6 (SF19)・7 (SF18)・8 (SF171)・ 9 (SF170)・10 (SF66)	第 340 図	土坑検出状況 (16) …………… 401 土坑 63 (SK139)・64 (SK140)・65 (SK167)・ 66 (SK152)・67 (SK147)
第 323 図	土坑検出状況 (11) …………… 380 土坑 34 (榎 SK4)・35 (榎 SP7)・ 36 (榎 SK8)・37 (榎 SK5)・38 (榎 SK6)	第 341 図	土坑検出状況 (17) …………… 402 土坑 68 (SK155)・69 (SK154)・70 (SK153)・71 (SK192)
第 324 図	土坑検出状況 (12) …………… 381 土坑 39 (榎 SK16)・40 (榎 SK17)・41 (榎 SK18)・ 42 (榎 SK15)・43 (榎 SK9)・44 (榎 SK19)・ 45 (榎 SK3)・46 (榎 SK2)・47 (榎 SK10)・ 48 (榎 SK11)・49 (榎 SK12)	第 342 図	土坑検出状況 (18) …………… 403 土坑 72 (SK183)・73 (SK184)・74 (SK185)・75 (SK186)
		第 343 図	焼土検出状況 (3) …………… 404 焼土 12 (SF58)・13 (SF174)・15 (SF73)・16 (SF172)
		第 344 図	焼土検出状況 (4) …………… 405 焼土 17 (SF204)・18 (SF194)
		第 345 図	不明遺構検出状況 (4) …………… 406 不明遺構 6 (SK69)
		第 346 図	不明遺構及びピット検出状況 …………… 407 不明遺構 7 (SX149)・8 (SX150)・ピット 16 (SP59)
		第 347 図	溝状遺構検出状況 (4) …………… 409 溝状遺構 6 (SD68)・7 (SD136)

第 348 図	溝状遺構検出状況 (5) …… 410 溝状遺構 8 (SD65) ・ 9 (SD62) ・ 10 (SD61)	第 376 図	出土遺物 土師器 (2) 坏・皿 …… 440
第 349 図	溝状遺構検出状況 (6) …… 411 溝状遺構 11 (SD22)	第 377 図	出土遺物 土師器 (3) 埴 …… 441
第 350 図	溝状遺構検出状況 (7) …… 412 溝状遺構 12 (SD23)	第 378 図	出土遺物 土師器 (4) 埴 …… 442
第 351 図	溝状遺構検出状況 (8) …… 413 溝状遺構 14 (SD1)	第 379 図	出土遺物 土師器 (5) 埴 …… 443
第 352 図	溝状遺構検出状況 (9) …… 414 溝状遺構 15 (SD64) ・ 16 (SD63)	第 380 図	出土遺物 土師器 (6) 蓋・高坏 …… 444
第 353 図	溝状遺構検出状況 (10) …… 415 溝状遺構 17 (SD55)	第 381 図	出土遺物 土師器 (7) 甕 …… 445
第 354 図	溝状遺構検出状況 (11) …… 416 溝状遺構 20 (SD52)	第 382 図	出土遺物 土師器 (8) 甕 …… 446
第 355 図	溝状遺構検出状況 (12) …… 417 溝状遺構 22 (SD146) ・ 24 (SD145)	第 383 図	出土遺物 土師器 (9) 甕 …… 447
第 356 図	溝状遺構検出状況 (13) …… 419 溝状遺構 25 (SD203) ・ 26 (SD202) ・ 27 (SD205) ・ 28 (SD201)	第 384 図	出土遺物 土師器 (10) 甕 …… 448
第 357 図	溝状遺構検出状況 (14) …… 420 溝状遺構 23 (SD168) ・ 29 (SD143) ・ 30 (SD144) ・ 31 (SD142) ・ 32 (SD24)	第 385 図	出土遺物 土師器 (11) その他 …… 449
第 358 図	溝状遺構検出状況 (15) …… 421 溝状遺構 33 (SD141)	第 386 図	出土遺物 焼塩壺 …… 451
第 359 図	波板状凹凸面検出状況 (1) …… 422 波板状凹凸面 1 (SR26)	第 387 図	出土遺物 刻書土器 …… 452
第 360 図	波板状凹凸面検出状況 (2) …… 423 波板状凹凸面 2 (SR25)	第 388 図	出土遺物 甌・支脚・轆羽口 …… 454
第 361 図	波板状凹凸面検出状況 (3) …… 424 波板状凹凸面 3 (SR182) ・ 溝状遺構 13 (SD181)	第 389 図	出土遺物 紡錘車 …… 455
第 362 図	波板状凹凸面検出状況 (4) …… 425 波板状凹凸面 4 (SR72)	第 390 図	出土遺物 土錘 (1) …… 456
第 363 図	波板状凹凸面検出状況 (5) …… 426 波板状凹凸面 5 (SR176) ・ 6 (SR191) ・ 7 (SR27) ・ 8 (SR54)	第 391 図	出土遺物 土錘 (2) …… 457
第 364 図	波板状凹凸面検出状況 (6) …… 427 波板状凹凸面 9 (SR197) ・ 10 (SR196) ・ 11 (SR195)	第 392 図	出土遺物 陶磁器 (1) …… 459
第 365 図	出土遺物 須恵器 (1) 坏及び皿 …… 428	第 393 図	出土遺物 陶磁器 (2) …… 460
第 366 図	出土遺物 須恵器 (2) 埴 …… 429	第 394 図	出土遺物 陶磁器 (3) …… 462
第 367 図	出土遺物 須恵器 (3) 蓋 …… 430	第 395 図	出土遺物 陶磁器 (4) …… 463
第 368 図	出土遺物 須恵器 (4) 甕 …… 431	第 396 図	出土遺物 滑石製品 (1) …… 465
第 369 図	出土遺物 須恵器 (5) 甕 …… 432	第 397 図	出土遺物 滑石製品 (2) …… 466
第 370 図	出土遺物 須恵器 (6) 甕 …… 433	第 398 図	出土遺物 砥石 (1) …… 467
第 371 図	出土遺物 須恵器 (7) 甕 …… 434	第 399 図	出土遺物 砥石 (2) …… 469
第 372 図	出土遺物 須恵器 (8) 壺 …… 435	第 400 図	出土遺物 砥石 (3) …… 470
第 373 図	出土遺物 須恵器 (9) 円面硯・高坏等 …… 436	第 401 図	出土遺物 鉄器 …… 471
第 374 図	出土遺物 須恵器 (10) 硯 …… 437	第 402 図	土坑検出状況 (19) …… 473 土坑 76 (見 SK9) ・ 77 (見 SK10) ・ 78 (見 SK11) ・ 79 (見 SK16)
第 375 図	出土遺物 土師器 (1) 坏 …… 439	第 403 図	土坑検出状況 (20) …… 474 土坑 80 (見 SK82) ・ 81 (見 SK50)
		第 404 図	土坑検出状況 (21) …… 475 土坑 82 (見 SK57) ・ 83 (見 SK63) ・ 84 (見 SK64) ・ 85 (見 SK66) ・ 86 (見 SK65) ・ 87 (見 SK67)
		第 405 図	土坑検出状況 (22) …… 476 土坑 88 (見 SK83) ・ 89 (見 SK12)
		第 406 図	土坑検出状況 (23) …… 477 土坑 90 (見 SK14) ・ 91 (見 SK13)
		第 407 図	土坑検出状況 (24) …… 478 土坑 92 (見 SK15) ・ 93 (見 SK17) ・ 94 (見 SK18) ・ 95 (見 SK19) ・ 96 (見 SK20)
		第 408 図	土坑検出状況 (25) …… 479 土坑 97 (見 SK21) ・ 98 (見 SK22) ・ 99 (見 SK23) ・ 100 (見 SK24) ・ 101 (見 SK25) ・ 102 (見 SK26)
		第 409 図	土坑検出状況 (26) …… 480 土坑 103 (見 SK28) ・ 104 (見 SK27) ・ 105 (見 SK29) ・ 106 (見 SK30) ・ 107 (見 SK31) ・ 108 (見 SK32)
		第 410 図	土坑検出状況 (27) …… 481

	土坑 109 (見 SK33)・110 (見 SK34)・111 (見 SK35)・ 112 (見 SK36)・113 (見 SK37)		土坑 140 (見 SK71)・141 (見 SK72)・142 (見 SK73)
第 411 図	土坑検出状況 (28) …………… 482	第 419 図	土坑検出状況 (36) …………… 491
	土坑 114 (見 SK40)・115 (見 SK41)・116 (見 SK42)・ 117 (見 SK38)・118 (見 SK39)		土坑 147 (見 SK79)・148 (見 SK80)・149 (見 SK78)・ 150 (SK21)
第 412 図	土坑検出状況 (29) …………… 483	第 420 図	波板状凹凸面・溝状遺構検出状況 …… 492
	土坑 119 (見 SK51)・120 (見 SK52)・121 (見 SK53)・ 122 (見 SK48)・123 (見 SK49)・124 (見 SK46)・ 125 (見 SK47)		波板状凹凸面 12 (SR177)
第 413 図	土坑検出状況 (30) …………… 484		溝状遺構 35 (SD178)・36 (SD179)
	土坑 126 (見 SK54)・127 (見 SK55)・128 (見 SK56)	第 421 図	波板状凹凸面検出状況 (7) …………… 494
第 414 図	土坑検出状況 (31) …………… 485		波板状凹凸面 13 (SR156)・14 (SR157)・15 (SR158)・ 16 (SR159)
	土坑 129 (見 SK43)・130 (見 SK44)・131 (見 SK45)	第 422 図	波板状凹凸面検出状況 (8) …………… 495
第 415 図	土坑検出状況 (32) …………… 486		波板状凹凸面 17 (SR160)・18 (SR165)・19 (SR161)・ 20 (SR162)・21 (SR163)・22 (SR164)
	土坑 132 (見 SK59)・133 (見 SK60)・134 (見 SK61)・ 135 (見 SK62)・136 (見 SK58)・137 (見 SK68)	第 423 図	溝状遺構検出状況 (16) …………… 496
第 416 図	土坑検出状況 (33) …………… 487		溝状遺構 39 (SD44)・40 (SD13)
	土坑 138 (見 SK69)・139 (見 SK70)	第 424 図	溝状遺構検出状況 (17) …………… 497
第 417 図	土坑検出状況 (34) …………… 489		溝状遺構 43 (SD14)・44 (SD15)
	土坑 143 (見 SK74)・144 (見 SK75)・145 (見 SK76)・ 146 (見 SK77)	第 425 図	出土遺物 古銭 …………… 498
第 418 図	土坑検出状況 (35) …………… 490	第 426 図	出土遺物 …………… 500
			鉛弾・キセル・銃弾・葉莢・歯ブラシの柄・馬の鞆
		第 427 図	追加遺物 …………… 502

## 表 目 次

[上巻]		表 22	縄文土器観察表 13 …………… 222
表 1	周辺遺跡地名表 1 …………… 19	表 23	石器観察表 1 …………… 227
表 2	周辺遺跡地名表 2 …………… 20	表 24	石器観察表 2 …………… 232
表 3	周辺遺跡地名表 3 …………… 21	表 25	石器観察表 3 …………… 237
表 4	周辺遺跡地名表 4 …………… 22	表 26	石器観察表 4 …………… 238
表 5	遺構一覧表 (挿図番号順) 1 …………… 26	表 27	石器観察表 5 …………… 239
表 6	遺構一覧表 (挿図番号順) 2 …………… 27	表 28	石器観察表 6 …………… 240
表 7	遺構一覧表 (挿図番号順) 3 …………… 28	表 29	石器観察表 7 …………… 241
表 8	遺構一覧表 (挿図番号順) 4 …………… 29	表 30	石器観察表 8 …………… 245
表 9	遺構一覧表 (発掘調査時の遺構名順) …… 30	表 31	石器観察表 9 …………… 246
表 10	縄文土器観察表 1 …………… 161	表 32	石器観察表 10 …………… 253
表 11	縄文土器観察表 2 …………… 163	表 33	石器観察表 11 …………… 254
表 12	縄文土器観察表 3 …………… 170	表 34	石器観察表 12 …………… 255
表 13	縄文土器観察表 4 …………… 175	表 35	石器観察表 13 …………… 259
表 14	縄文土器観察表 5 …………… 176	表 36	石器観察表 14 …………… 261
表 15	縄文土器観察表 6 …………… 182	表 37	石器観察表 15 …………… 268
表 16	縄文土器観察表 7 …………… 184	表 38	石器観察表 16 …………… 269
表 17	縄文土器観察表 8 …………… 199	表 39	石器観察表 17 …………… 276
表 18	縄文土器観察表 9 …………… 200	表 40	石器観察表 18 …………… 311
表 19	縄文土器観察表 10 …………… 205	表 41	石器観察表 19 …………… 312
表 20	縄文土器観察表 11 …………… 212	表 42	石器観察表 20 …………… 313
表 21	縄文土器観察表 12 …………… 221	表 43	石器観察表 21 …………… 314



表 44 石器観察表 22	314	表 55 須恵器観察表 2	438
表 45 石器観察表 23	329	表 56 土師器観察表 1	442
表 46 石器観察表 24	330	表 57 土師器観察表 2	448
表 47 石器観察表 25	331	表 58 土師器観察表 3	449
表 48 石器観察表 26	337	表 59 土師器観察表 4	450
表 49 石器観察表 27	337	表 60 土師器観察表 5	455
表 50 石器観察表 28	349	表 61 土師器観察表 6	457
表 51 石器観察表 29	351	表 62 陶磁器観察表 1	461
表 52 石器観察表 30	357	表 63 陶磁器観察表 2	464
[下巻]		表 64 石製品観察表	468
表 53 弥生時代・古墳時代遺物観察表	359	表 65 鉄器観察表	471
表 54 須恵器観察表 1	437	表 66 キセル他観察表	501

## 写真図版目次

[下巻]	写真図版 31	589
写真図版 1	写真図版 32	590
写真図版 2	写真図版 33	591
写真図版 3	写真図版 34	592
写真図版 4	写真図版 35	593
写真図版 5	写真図版 36	594
写真図版 6	写真図版 37	595
写真図版 7	写真図版 38	596
写真図版 8	写真図版 39	597
写真図版 9	写真図版 40	598
写真図版 10	写真図版 41	599
写真図版 11	写真図版 42	600
写真図版 12	写真図版 43	601
写真図版 13	写真図版 44	602
写真図版 14	写真図版 45	603
写真図版 15	写真図版 46	604
写真図版 16	写真図版 47	605
写真図版 17	写真図版 48	606
写真図版 18	写真図版 49	607
写真図版 19	写真図版 50	608
写真図版 20	写真図版 51	609
写真図版 21	写真図版 52	610
写真図版 22	写真図版 53	611
写真図版 23	写真図版 54	612
写真図版 24	写真図版 55	613
写真図版 25	写真図版 56	614
写真図版 26	写真図版 57	615
写真図版 27	写真図版 58	616
写真図版 28	写真図版 59	617
写真図版 29	写真図版 60	618
写真図版 30		

## 第 I 章 調査の経緯

### 第 1 節 調査に至るまでの経緯

日本鉄道建設公団九州新幹線建設局は、九州新幹線鹿児島ルート建設を計画し、事業予定区内の埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育委員会文化課（当時、平成8年4月以降文化財課）に照会した。それを受けて文化課は、平成4年12月に予定地内の分布調査を実施し、21か所の遺跡を確認した。

その後、分布調査に基づいて、日本鉄道建設公団九州新幹線建設局、県教育庁文化財課、県立埋蔵文化財センターの三者で新幹線ルート内の各遺跡の取り扱いについて協議し、平成8年度から用地取得等条件の整った遺跡から確認調査、緊急発掘調査を実施した。

大坪遺跡ほかの確認調査は、平成11年1月5日から同年3月19日にかけて実施した。確認調査の結果、縄文時代晩期から中世・近世にわたる複合遺跡であることが判明した（第7図）。大坪・榎木田・見入来遺跡の本調査は2年間にわたって行われ、平成11年度は平成11年5月6日から平成12年3月31日まで、平成12年度は平成12年5月1日から平成13年3月27日まで実施し、予定地内すべての調査を終了した（第8図）。なお、整理作業は他の新幹線関係遺跡と併行しながら、平成13年4月から平成16年3月まで行い、平成16年度に印刷・製本した。

### 第 2 節 調査の組織

事業主体者 日本鉄道建設公団九州新幹線建設局  
独立行政法人 鉄道建設運輸施設整備機構  
(平成15年度～)

調査主体者 鹿児島県教育委員会  
企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

#### 平成10年度（確認調査）

調査責任者 鹿児島県立埋蔵文化財センター所長 吉永 和人

調査企画者  
次長 尾崎 進  
主任文化財主事兼調査課長 戸崎 勝洋  
調査課長補佐兼第一調査係長 新東 晃一  
主任文化財主事兼第二調査係長 立神 次郎

調査担当者  
主任文化財主事 彌榮 久志  
文化財主事 前田 誠

調査事務担当

総務課長 尾崎 進  
主 査 前屋敷 裕徳  
主 査 政倉 孝弘  
主 事 溜池 佳子

#### 平成11年度（本調査）

調査責任者 鹿児島県立埋蔵文化財センター所長 吉永 和人

調査企画者  
次 長 黒木 友幸  
主任文化財主事兼調査課長 戸崎 勝洋  
調査課長補佐兼第一調査係長 新東 晃一  
主任文化財主事兼第二調査係長 立神 次郎

調査担当者  
主任文化財主事 彌榮 久志  
文化財主事 東 和幸  
文化財主事 高岡 和也  
文化財研究員 上床 真

調査事務担当  
総務課長 黒木 友幸  
総務係長 有村 貢  
主 査 政倉 孝弘  
主 査 今村 孝一郎  
主 事 溜池 佳子

現地指導者 鹿児島大学教授 森脇 広  
(平成11年8月26日)

島根大学助教授 山田 康弘  
(平成11年12月9～10日)

熊本県文化課課長補佐 島津 義昭  
(平成11年12月15～16日)

鹿児島大学助教授 本田 道輝  
(平成12年2月8日)

鹿児島大学教授 西中川 駿  
(平成12年3月8日)

#### 平成12年度（本調査）

調査責任者 鹿児島県立埋蔵文化財センター所長 井上 明文

調査企画者  
次 長 黒木 友幸  
主任文化財主事兼調査課長 新東 晃一  
調査課長補佐 立神 次郎

主任文化財主事兼第二調査係長 彌榮 久志  
 調査担当者  
 文化財主事 濱崎 一富  
 文化財主事 東 和幸  
 文化財主事 高岡 和也  
 文化財調査員 森田 裕之  
 調査事務担当  
 総務課長 黒木 友幸  
 総務係長 有村 貢  
 主 査 今村 孝一郎  
 主 査 栗山 和己  
 主 事 溜池 佳子  
 現地指導者  
 ラ・サール学園教諭 永山 修一  
 (平成12年9月25日)  
 熊本市文化財課文化財保護主事 網田 龍生  
 (平成12年10月5日)  
 熊本大学教授 甲元 眞之  
 (平成13年1月15日)  
 鹿児島大学教授 新田 栄治  
 (平成13年2月13日)

**平成13年度 (整理・報告書作成作業)**

調査責任者  
 鹿児島県立埋蔵文化財センター所長 井上 明文  
 調査企画者  
 次 長 黒木 友幸  
 主任文化財主事兼調査課長 新東 晃一  
 調査課長補佐 立神 次郎  
 主任文化財主事兼第二調査係長 彌榮 久志  
 調査担当者  
 文化財主事 東 和幸  
 文化財主事 関 明恵  
 調査事務担当  
 総務課長 黒木 友幸  
 総務係長 前田 昭信  
 主 査 今村 孝一郎  
 主 査 栗山 和己  
 主 事 池 珠美

**平成14年度 (整理・報告書作成作業)**

調査責任者  
 鹿児島県立埋蔵文化財センター所長 井上 明文  
 調査企画者

次 長 田中 文雄  
 調査課長 新東 晃一  
 調査課長補佐 立神 次郎  
 主任文化財主事兼第二調査係長 彌榮 久志  
 調査担当者  
 文化財主事 東 和幸  
 文化財主事 森 雄二  
 文化財研究員 長崎 慎太郎  
 調査事務担当  
 総務課長 田中 文雄  
 総務係長 前田 昭信  
 主 査 栗山 和己  
 主 査 脇田 清幸  
 主 事 池 珠美

**平成15年度 (整理・報告書作成作業)**

調査責任者  
 鹿児島県立埋蔵文化財センター所長 木原 俊孝  
 調査企画者  
 次 長 田中 文雄  
 調査課長 新東 晃一  
 調査課長補佐 立神 次郎  
 主任文化財主事兼第二調査係長 彌榮 久志

調査担当者  
 文化財主事 東 和幸  
 文化財主事 野間口 勇  
 調査事務担当  
 総務課長 田中 文雄  
 総務係長 平野 浩二  
 主 査 脇田 清幸  
 主 事 池 珠美  
 主 事 福山 恵一郎

**平成16年度 (報告書刊行事業)**

調査責任者  
 鹿児島県立埋蔵文化財センター所長 木原 俊孝  
 調査企画者  
 次 長 賞雅 彰  
 調査課長 新東 晃一  
 調査課長補佐 立神 次郎  
 調査事務担当  
 総務課長 賞雅 彰  
 総務係長 平野 浩二  
 主 査 脇田 清幸

### 第3節 調査の概要と調査経過

#### 1 調査の概要

##### (1) 平成10年度の調査（確認調査）

保守基地および本線が通る大坪遺跡と見入来遺跡から確認調査を開始した。グリッドは、市道六月田朝熊線上の本線センターと市道沖田2号線上の本線センターを通したラインを基準に10mピッチで設定した。トレンチは、65区の市道沖田2号線より南に4本（2×40, 2×10, 2×10, 2×10m）、市道六月田朝熊線と市道沖田2号線の間は、基本線の東側D列と基準線より20m東に平行したF列に幅2mで約500mを2本、合計6本設定した。また、榎木田遺跡は市道六月田朝熊線の本線センターと遺跡の北側端の本線センターを通したラインに6か所のトレンチ（2×80, 2×18, 2×4, 2×10, 2×6, 2×5m）を設定した（第7図）。調査の結果、大坪遺跡では縄文時代晩期の入佐式土器・黒曜石と奈良・平安時代の土師器・須恵器が出土した。また、見入来遺跡では縄文時代晩期の入佐式土器と奈良・平安時代の土師器が、榎木田遺跡では縄文時代のものと思われる土器片が出土した。本調査対象範囲は、榎木田遺跡の60m分、1～12区、21～52区、62～72区とした。

##### (2) 平成11年度の調査（本調査）

前年度実施した確認調査の結果に基づき、5月から9月末まで見入来遺跡の本調査を実施し、その後10月から大坪遺跡の新たなグリッド20区以北の調査に入った。なお、耕作の関係で、未調査部分のD-1～3区を11月に、工事進捗の関係でB・C-33～36区の調査を1・2月に実施した。また、途中で安原遺跡と宮野脇遺跡の確認調査を併行して行った。平成11年度の調査面積は12,024㎡であるが、当初予定していなかったB・C-33～36区の調査を実施した代わりに、B-14～16区は次年度にまわすことになった（第8図）。

##### (3) 平成12年度の調査（本調査）

平成12年度の調査は大坪遺跡を5月から翌年3月にかけて実施し、10月から12月初旬まで榎木田遺跡の調査を併行して行った。なお、確認調査の時点で発掘調査対象外とされた27区・28区、36区～38区にも遺構がつながって続いていたため、協議の上調査を行った。平成13年3月27日までに調査の全てを終了した。平成12年度の調査面積は15,223㎡である（第8図）。

##### (4) 平成13年度の調査（整理・報告書作成作業）

国分市上野原遺跡地内の仮設事務所において、4月より整理・報告書作成作業を実施した。

途中、寿国寺遺跡・計志加里遺跡の整理作業を併行して実施した。

##### (5) 平成14年度の調査（整理・報告書作成作業）

県立埋蔵文化財センター内において、4月より整理・報告書作成作業を実施した。途中、山ノ脇遺跡・楠元遺跡の整理作業を併行して実施した。

##### (6) 平成15年度の調査（整理・報告書作成作業）

県立埋蔵文化財センター内において、4月より整理・報告書作成作業を実施した。途中、上ノ平遺跡の整理作業を併行して実施した。

##### (7) 平成16年度

平成17年3月に埋蔵文化財発掘調査報告書を刊行した。

#### 2 発掘調査の経過

発掘調査の経過は、日誌抄より略述する。

##### (1) 平成10年度の調査（確認調査）

###### (ア) 大坪遺跡

平成11年1月5日～1月29日の15日間実施。調査面積は1,300㎡。2か所にトレンチを設定。（部分的には3か所設定。）遺跡の範囲は、約13,000㎡と約4,000㎡で、沖田岩戸遺跡の範疇もしくは、隣接地に入る地域。縄文時代晩期の入佐式土器と、奈良・平安時代該当の土師器・須恵器等が出土。

###### (イ) 見入来遺跡

平成11年2月1日～2月12日の10日間実施。調査面積は1,000㎡。2か所にトレンチを設定。遺跡の範囲は、約6,500㎡が推定され、遺物は、縄文時代晩期の入佐式土器と奈良・平安時代該当の土師器と須恵器が出土。

###### (ウ) 榎木田遺跡

平成11年2月15日～3月9日の7日間実施。調査面積は140㎡。6か所にトレンチを設定。第1トレンチの第3層より縄文時代晩期を主体とする遺物の出土が確認される。遺跡の範囲は、市道六月田朝熊線から70mの範囲が想定され、遺跡としては見入来遺跡と連続した遺跡の範囲が推定される。

##### (2) 平成11年度の調査

###### (ア) 5月

6日から機材等を搬入し、作業開始。見入来遺跡のB・C-2・3区から掘り下げ。中世の青磁、古代～中世の須恵器、縄文時代晩期の黒川式土器・磨製石斧・石製土掘具・石鏃・石錐が出土。低地の粘土層なので晴れの日が続くとカチカチ、雨の日はグチャグチャになり、発掘に苦慮。10日に松山健司氏（鉄

建公団出水建設局所長) 来訪。

(イ) 6月

B・C-2・3区の一部、B-4区の掘り下げ。Ⅱ層中(古代～中世)より馬の歯出土。Ⅲ層より縄文時代晩期の土坑1基・石溜まり3基・黒川式土器・石製土掘具・石鏃・石錘・小型の磨石(土器の研磨具か?)等出土。

B-3区の一部、B-5・6区の掘り下げ。Ⅱ層上面で遺構検出。深さ20cm程度・径1m程度の円形もしくは楕円形の土坑を十数基検出。人頭大の礫の配置がみられる。時期・用途については不明。

(ウ) 7月

B-4区の掘り下げ。埋設土器検出。入佐式土器と考えられ、底部は故意に打ち欠いている。蓋が被っていたかどうかは、削平されているため不明。内部に円礫が入る。Ⅲ層内に幅40cm・深さ30cmの溝状の掘り込み(SD6)が、蛇行しながら10mほど検出。埋土からは縄文晩期の土器が出土。(調査時点では、SD6を縄文時代の遺構と考えていた。)

B-5・6区の掘り下げ。Ⅱ層上面の遺構の半截。Ⅲ層下位の青灰色粗砂土の掘り下げ。須恵器など出土。一部溝状遺構を検出。

C-4・5区の掘り下げ。近世の石列(SX7)を検出。真北の方向へ延びる。砂質の川跡(SX8)もあり、中世から近世にかけての陶磁器類が出土。

D-4・5区のⅡ・Ⅲ層掘り下げ。石鏃・石匙等出土。

7月19日(月) 東中野政己氏夫妻(高尾野町在住陶芸家)来訪。

7月31日(土) (上野原フェスタ見学)

(エ) 8月

C-5区のⅡ・Ⅲ層から銅製かんざし・ノミ形石斧・青磁の底部、C-6区のⅡ・Ⅲ層から埋設土器・石鏃、B-2区から石鏃・深鉢出土。B-3～5区で南東から北西方向に流れる溝状遺構を検出。

8月12日(木) 東京都国分寺市教育委員会 上敷領久氏来訪。

8月26日(木) 鹿児島大学法文学部教授 森脇広先生による現地指導。「地表下2.5mには粗粒の礫層があり、河床堆積物となっている。その上がフラッドルームと呼ばれるシルト・粘土層であり、遺跡を形成する。縄文時代後期以降目立った洪水は襲来していない。」

(オ) 9月

21日から大坪遺跡D-11～13区の掘り下げ。C-1・2・4～6区(C-6区土師器坯出土)B-2～7区馬歯・土師小皿(B-6区)出土。溝状遺構検出(B-4・5区)。須恵器高坪(B-7区)出土。A-1～3・5区黒川式浅鉢(A-2区)出土。

9月24日(金) 未明の台風18号でプレハブ全壊。

(カ) 10月

4日までにプレハブ再設置。6日に池田和人氏(鉄建公団副所長)他3名来訪。

10月6日で一部の未調査区を残し、見入来遺跡の発掘調査終了。大坪遺跡の発掘調査に入る。

D-11区において東西方向の溝状遺構(SD1)を検出。埋土中に須恵器の小破片が混入しているため少なくとも古代よりは新しい時期のものであると思われる。

D-13区では時期不明の土坑状遺構を数基検出。精査して明らかにしたい。

10月26日(火) 出水市立米ノ津東小学校6年(87名・引率4名)遺跡見学・発掘体験・火起こし・薫製卵作りを行う。KTS・南日本新聞・西日本新聞・鹿児島新報・出水市広報の取材。

(キ) 11月

大坪遺跡は11月から本格的に調査を開始。表土を除去した時点で、縄文時代晩期の埋設土器を6基検出した。また、奈良時代から平安時代前半にかけての須恵器や土師器が出土。

見入来遺跡の未調査部分(D-1～3区)の稲刈り終了後発掘開始。

(ク) 12月

[見入来遺跡の調査] D-2区の埋設土器及び縄文時代晩期の土坑を処理して調査終了。直後に工事開始。

C・D-11～14区:12月中に調査終了。年明けから工事着工予定。縄文晩期の土器・石器多数出土。古代か中世の東西に延びる小溝1条、縄文時代晩期の土坑4基検出。

15～20区:Ⅱ～Ⅲ層の掘り下げ。奈良時代から平安時代前半の土師器や須恵器が多数出土。土製の紡錘車及び土錘出土。ガラス玉出土(時期不明)。縄文時代晩期の土器・石器多数出土。軟玉製の玉及び「つちのこ」状の異形石器出土。埋設土器は見入来遺跡とあわせて8基になる。

B・C-33～35区:工事用道路建設のため先行して調査を開始。玉縁の白磁や滑石製石鍋・内黒土師器など中世の遺物出土。

12月9・10日 島根大学助教授 山田康弘

先生による現地指導。「縄文時代晩期の埋設土器は、すべてが埋葬用とは限らないので土器内に何が入っていたかの科学的な分析が必要である。」

12月15・16日 熊本県文化課課長補佐 島津義昭先生による現地指導。「縄文時代晩期土器は熊本平野よりも人吉地域など南部の土器に類似する。胎土の特徴で見分けられる可能性がある。弥生土器及び古代の土器は熊本のものとの共通点が多い。」

12月3日(金) 出水高校1年生280名遺跡見学。

(ケ) 1月

B・C-15～20区：Ⅱ～Ⅲ層の掘り下げ。奈良時代から平安時代前半の土師器や須恵器が多数出土。刻書土器・甑の把手・土製の紡錘車及び土錘等出土。埋設土器は見入来遺跡とあわせて11基になる。B・C-33～36区：溝状遺構2条(SD22・SD23)及び波板状遺構1条(SR25)検出。内外面黒色土師器など11世紀から12世紀にかけての遺物出土。

〔宮野脇遺跡の調査〕

トレンチを2か所設定して調査する。客土の下に旧水田層があり、それ以下は砂利層で、遺物・遺構とも確認されなかった。

(コ) 2月

B・C-15～20区：Ⅱ～Ⅲ層の掘り下げ。奈良時代から平安時代前半の土師器や須恵器が多数出土。焼土3か所。縄文時代晩期の土器・石器多数出土。緑色の管玉・丸玉・勾玉出土。玉砥石の出土は今のところないが、石屑も数点出土しているなのでこの場所で玉造りを行っていた可能性が高い。波板状凹凸面を2か所(SR26・SR27)検出。1条(SR27)は南北方向に延びており、条里型地割に重なる可能性有。確実な時期は不明であるが、中世を想定。B・C-33～35区の調査。

2月8日(火) 鹿児島大学助教授 本田道輝先生による現地指導。「縄文時代晩期の遺物の組み合わせにおいて、南薩地域と若干の差がみられる(軽石製品がない等)。遺跡の性格差によるものか、地域的なものか検討する時期にきている。」

2月23日(水) 福岡大学教授 小田富士夫先生来跡。

(サ) 3月

15～20区：Ⅱ～Ⅲ層の掘り下げ。縄文時代晩期の土器・石器多数出土。緑色の玉類(勾

玉・管玉・丸玉)十数点及び異形石器2点出土。埋設土器は見入来遺跡と合わせて13基。古代の焼土は4か所あり、その内1基について調査する。土坑に接して、1m四方に焼土や炭化物が敷き詰められており、土師甕が出土。竈状の遺構となり、全体が堅穴住居状となった。SF29をSH29に変更。B-20区から検出された波板状凹凸面(SR27)は、条里型地割上にあり、方向も南北に延びており、関係あるものと考えられる。次年度の調査区に延びるものであり、広がり注目したい。

B-14～17区については、協議の上次年度の調査にまわすこととなる。

3月8日(水) 鹿児島大学獣医学科教授 西中川駿先生による現地指導。「馬の歯であることは間違いないが、残りの状態が悪いので大きさ等を明らかにできるかどうかわからない。」

(3) 平成12年度の調査

(ア) 5月

〔14～16区の調査〕

昨年度残ったC-14～16区の一部を掘り下げる。埋設土器3基を検出。緑色の玉類も多く出土。穿孔途中のものや擦り切り技法による切断面の残る破片も出土しており、この場に玉の製作場があった可能性がさらに高くなる。ただし、玉砥石などの製作具は今のところ出土なし。9世紀初めの須恵器・土師器などの遺物取り上げ。

〔D-21～26区の調査〕

21区：Ⅲ層掘り下げ。22区：平安時代の溝状遺構(SD43)掘り下げ。埋設土器掘り下げ。23区：昭和40年代までの川跡(SD44)掘り下げ。埋設土器検出。24区：平安時代と考えられる溝状遺構検出。長さ150cm・幅45cmの長方形の遺構(SD45)検出。焼土が筋状に取り囲む。25区：遺構らしき砂の部分(SR54)を掘り下げ。26区：西側と東側にトレンチを設定して調査中に、表土下1m20cmのところから縄文土器や玉類が出土。平安時代と考えられる遺構らしきものも確認。

5月1日(月) 平成12年度の調査開始。

5月19日(金) 出水高校教諭3名地域貢献体験事業(岩切義弘先生・東香織先生・堀まゆみ先生)。

5月22日(月) KTSテレビ湯田登春記者及び南日本新聞社蔵菌修治出水市局長現

地取材。

5月26日（金） 南日本新聞掲載。

(イ) 6月

新幹線本線の工事が急がれるため、D区を優先して発掘作業を進める。埋設土器が新たに6基確認され、合計で25基となる。縄文時代晩期の玉類は、21区以南にも出土。なお、穿孔に用いたと考えられる水晶の破片も見つかってきている。条里型地割に該当すると考えられる溝状遺構や波板状凹凸面も検出されているが、つながらりや時期は未だ明確でない。

〔D-21～23区の調査〕

21区：Ⅲ層掘り下げ。埋設土器掘り下げ。22区：SD43掘り下げ。埋設土器掘り下げ。23区：SD44掘り下げ。埋設土器掘り下げ。D-21～23区は6月20日に明け渡す。

〔D-24～26区の調査〕

24区：平安時代と考えられる溝状遺構を2条検出。SK45掘り下げ。深さは約40cmで底には炭が約5cmの厚さで堆積している。壁面は全体的に焼けている。用途不明。25区：SR54掘り下げ。波板状凹凸面が3列平行。26区：平安時代と考えられる面までの掘り下げ。

〔C-21～23区の調査〕

D区からの延長を調査。埋設土器の1基(SJ51)には、緑色の石材を用いた磨製石斧が納められている。

6月1日～16日 大口市柿川幸司氏・東郷町萩原潤一郎氏長期研修。

6月12日（月） 長崎外国語短期大学助教授 木本雅康先生来跡。

6月16日（金） 米ノ津東小学校及び桂島分校の6年生約90名、発掘体験。KTSテレビ・NHK「撮ってもビデオ」吉海保氏及び西日本新聞社久保安秀川内支局長・南日本新聞社・鹿児島新報社現地取材。熊本大学教授 甲元眞之先生・同大助手 大坪志子氏来跡。

6月20日（火） 大坪遺跡縄文晩期包含層から出土した2点の玉類の材質調査。ガラスの可能性が考えられたため、奈良国立文化財研究所へ持参する。

6月23日（金） 阿久根郷土史会（濱之上訓衛会長）来跡。

(ウ) 7月

新幹線本線の工事が急がれるため、D区を優先して発掘作業を実施。勾玉が新たに2点出土し、勾玉は合わせて製品4点・未製品1点となる。それぞれの溝状遺構の追跡調査を行う。

〔D-24～26区の調査〕

24区：平安時代と考えられる溝状遺構を4条検出。この区で南北と東西方向の溝が交わっている。SD52とSD56は角を切りながら東の方向へ延びており、南と西への通行が終わったことを示す事例であると考えられる。これらの溝内からは、主に須恵器が出土しているが、確実な時期を示す物は出ていない。

SK45の調査。用途については不明。類例の教示を願う。Ⅲ層以下の調査。縄文晩期の土器や石器出土。25区：時期は特定できないが、焼土面(SF58)及び焼土を伴うピット(SP69)検出。26区：平安時代及び縄文時代晩期の調査。D-24～26区については7月21日に明け渡す。

〔C-21～23区の調査〕

21区：Ⅲ層掘り下げ。22区：SD44掘り下げ。SD43掘り下げ。23区：南北に延びる溝(SD57)の調査。

〔C-25～26区の調査〕

25区：SD55の追跡調査及びⅢ層の掘り下げ。26区：Ⅲ層掘り下げ。C-25～26区の西側半分については7月28日に明け渡す。

7月22日（土）（出水市夏祭りに「大坪縄文人」出現）



蒸気機関車が活躍した頃

(エ) 8月

新幹線引き込み線の工事が急がれるため、C区西側を優先して発掘作業を実施。24区に深い位置から縄文土器が出土する地点(SX60)があり、多量の焼土を伴うことから、上加世田遺跡などにみられる凹地の可能性も考えられる。平安時代以降の溝状遺構の追跡調査を行う。14～16区の平安時代初頭の遺構検出。

〔C-21～23区の調査〕

21区：Ⅲ層掘り下げ。22区：SD44及びSD43掘り下げ。平安時代の溝及び土坑が少なくとも4つ、重なって存在。23区：南北に延びる溝(SD57)の調査。

〔C-24区の西側半分の調査〕

直径5m・深さ1m50cm程度の凹地(SX60)の調査。一番深い位置に、拳大の焼土が直径1m50cmの範囲にみられる。

〔C-25～26区の東側半分の調査〕

25区：SD55の追跡調査及びⅢ層の掘り下げ。26区：Ⅲ層掘り下げ。27区にかけて延びる平安時代の溝状遺構(SD61)の調査。

〔B-14～16区の調査〕

Ⅲ層上面で精査。遺構らしきものの存在は解るが、どのような遺構になるかは不明。8世紀後半から9世紀前半にかけての須恵器類が多数出土。

8月2日～4日 西出水小学校1名(原口真理子先生)地域貢献体験事業。

お盆明けの大雨で、3日間水没状態。

8月18日(金) 北海道恵庭市教育委員会 上屋眞一氏・佐藤幾子氏来跡。

(オ) 9月

新幹線引き込み線の工事が急がれるため、C区側を優先して発掘作業を実施。空中写真撮影のため、平安時代以降の溝状遺構の追跡調査。14～16区の平安時代初頭の遺構検出。

C-21区：SD44掘り下げ。C・B-22区：SD43追跡調査。B-22区東側でほぼ直角に曲がり

北方向へ延びる。23・24区：溝(SD68)の追跡調査。SD65とつながると思われる。25・26区：SD64・SD55の追跡調査。B-25区東側でほぼ直角に曲がり南向きに27区方向へ延びる。SD55は波板状凹凸面を伴う。

〔B-14～16区の調査〕

遺構掘り下げ。8世紀後半から9世紀前半にかけての須恵器類が多数出土。刻書土器出土。

C-21～26区：9月末明け渡し。

C-17～20区：9月末明け渡し。

9月20日(水) 溝状遺構を中心に空撮。

9月25日(月) ラ・サール学園 永山修一先生による現地指導。「刻書土器の文字は不明。文字を読めなかった人が見よう見まねで書いたのではないか。もし、類例が増えてくれば、元々の文字がわかってくるのではないか。」

(カ) 10月

B-22・21区：SD43追跡調査。B・C-21・22区：Ⅲ層掘り下げ。埋設土器2基検出。26～29区：SD64・SD55の追跡調査。B-25区東側でほぼ直角に曲がり南向きに29区方向へ延びる。溝の東側に波板状凹凸面が並行して延びている。

〔B-14～16区の調査〕

14～16区：遺構掘り下げ。8世紀後半から9世紀前半にかけての須恵器類が多数出土。Ⅲ層の掘り下げ。埋設土器2基検出。10月末日明け渡し。

〔榎木田遺跡の調査〕

グリッド設定後、調査開始。ベルト部分の掘削と土層断面図作成。

10月10日から、榎木田遺跡及び大坪遺跡32～34区調査開始。

10月3日(火) 北海道埋蔵文化財センター 西田茂氏来跡。

10月5日(木) 熊本市教育委員会 網田龍生先生による現地指導。「大坪遺跡出土の須恵器には、荒尾産と考えられるものが数点入っている。他の須恵器は八代平野以北の熊





本産とは考えられず、川内市鶴峯窯を中心に比較検討した方がよい。」

10月7日～9日（日本考古学協会鹿児島大会）

10月14日～11月19日 出水市考古学展示会「いずみのむかし」への遺物貸し出し。於：出水市クレインパーク

10月24日（火） 鉄道建設公団との協議。

「榎木田遺跡は工専用道路を優先する。休憩用プレハブの下（B-30区）にも遺構が延びるので、この部分も調査する。」

(キ) 11月

[21～26区の調査]

B-22・21区：SD43追跡調査。B・A-21・22区：Ⅲ層掘り下げ。埋設土器3基検出。B-23区：焼土を伴う方形土坑1基（SFK133）・須恵器と土師器を包含する楕円形の土坑1基（SK134）検出。A-23区：土師甕を包含する楕円形の土坑1基（SK135）検出。24～26区：Ⅲ層上面での精査。B-26区：2間×3間の掘立柱建物跡1棟（SB137）検出。平安時代後半か？

[榎木田遺跡の調査]

工事が先行する農道部分及び橋脚部分の調査。D-03区：中世頃と考えられる円形土坑を6基検出。柱痕をもつピット1基検出。D-02区：焼土及び炭化物が集中する場所を検出中。C-03区：焼土の入ったピット検出。（調査中は中世頃と考えていたが、古代のものである。）

緑色をした円礫が十数点出土。しかし、大坪遺跡のものに比較すると透明度が無く、加工されたものも無い。見入来遺跡でも玉類に関する遺物は全く出ていないので、この周辺の転石に含まれているものと考えられる。

11月5日（日）（前期旧石器捏造問題発覚）

11月10日（金） 二県協議会（熊本県・鹿児島県）現地視察。

11月18日（土）（『新石器発見考古速報

展 宮崎』見学）

11月19日（日）まで 出水市考古学展示会「いずみのむかし」への遺物貸し出し。於：出水市クレインパーク 20日返却。

11月29日（水） 埋文センター職員現地研修。

11月29日～ 休憩所用プレハブの移転。

(ク) 12月

[21～26区の調査]

B-21区：埋設土器5基取り上げ。SJ131は上甕も深鉢形土器であり、下甕に倒立してすっぽり収まっていた。入佐式土器と考えられる。

（調査時点では入佐式土器と考えていた。）縄文時代の円形土坑を1基検出。B・A-22区：SD43に流れ込む溝（SD132）を検出。平安時代と考えられる柱穴3基検出。B-23区：SFK133、SK134の調査。A-23区：SK135の調査。B-24区：Ⅲ層掘り下げ。土器集中区掘り下げ。A-26区：平安時代後半と考えられる溝の検出。

[30～36区の調査]

B-30区：アスファルト掘削。A-34～36区：溝3条・波板状凹凸面8条検出。玉縁白磁・須恵器・土師器・鉄製品出土。平安時代末期から鎌倉時代初期と考えられる。

[榎木田遺跡の調査]

D-01・02区：直径2m・深さ1.5m程の土坑の掘り下げ。埋土上部から土師器・須恵器が出土。中位には焼土・炭化物の堆積層がみられた。用途は不明である。D-02・03区：焼土を伴う楕円形の遺構の調査。壁面は全体的に焼けており、滑落している箇所がみられる。床面には炭が数cmにわたり堆積している。平安時代前半の遺構と考えられる。12月8日に調査を終了し、明け渡す。

12月1日（金） 休憩所用プレハブの移転。

12月4日（月） 出水高校1年生現地見学。

12月26日（火） 年内（西暦1000年代ミレニアム・20世紀末）の調査終了。



生活と観光を担う肥薩おれんじ鉄道

(ケ) 1月

[23～26区の調査]

各グリッドを10mおきに下層確認のためのトレンチ調査。A-23区：SK135の調査。B-23区：SFK133・SK134の調査。B-24区：Ⅲ層掘り下げ。土器集中区検出中。A-26区：平安時代後半と考えられる溝の検出。B-26区：SB137の調査。

[29・30区の調査]

B-29・30区：溝の延長部分検出。方形竪穴遺構（SK151）？検出中。柱穴も10数基検出されているものの、建物になるものはない。

[31・32区の調査]

A-31・32区：アスファルト掘削。

[33区～37区の調査]

A・B-33～37区：溝5条・波板状凹凸面8条検出中。礫を伴う円形土坑などかなりの遺構がでそうである。縄文時代晩期の遺物もみられる。

1月12日（金） 公団との協議。「2月20日までに切り替え道路部分(33区)を終了し、現在の市道部分を3月末までに調査を終える。」

1月15日（月） 熊本大学教授 甲元眞之先生による現地指導。積雪のため出土遺物を中心に指導いただく。「縄文時代の玉づくりの良好な遺跡であり、滑石一個の素材から一点の製品を製作する技法と、切断して多量の角柱状の素材を形成する方法の二通りの製作技法がみられる。砥石・錐・擦切石器などの製作道具を探すように。」同大助手 緒方智子氏来跡。

(コ) 2月

[23～26区の調査]

各グリッドを10mおきに下層確認のためのトレンチ調査。A-23区：SK135の実測・撮影。B-23区：SFK133・SK134の実測・撮影。縄文晩期の土坑1基の調査。B-24区：Ⅲ層掘り下げ。土器集中区掘り下げ。B-29・30

区：方形竪穴遺構と思われた遺構（SK151）は、結局深さ1mの逆台形状の土坑になった。性格は不明である。A-31・32区：溝状遺構3条と焼土が点在する区域を検出。

[33区～37区の調査]

A・B-33～37区：溝5条・波板状凹凸面11条検出中。溝状遺構からは、玉縁白磁・須恵器・土師器・中央に筋のある砥石・鉄製品・滑石製品など出土。平安時代末期から鎌倉時代初期と考えられる。円形土坑5基検出。溝状遺構よりも波板状凹凸面の方が新しいが、SR25とSD23は同時期と考えられる。柱穴も検出中であるが、1棟のみ2間×3間の掘立柱建物が建った。それに、略方形のジメジメしていたような遺構が2基（SX149・SX150）検出されている。縄文時代晩期の土器・石器・玉類の出土もみられる。

2月13日（火） 鹿児島大学教授 新田栄治先生による現地指導。「縄文晩期の玉類、古代の土師焼成土坑などを東南アジアの視点を含めて指導いただいた。」

2月16日（金） 航空写真撮影

33区は市道付け替えのため2月22日明け渡し。

2月某日 元興寺文化財研究所 佐藤重聖氏来跡。

(ク) 3月

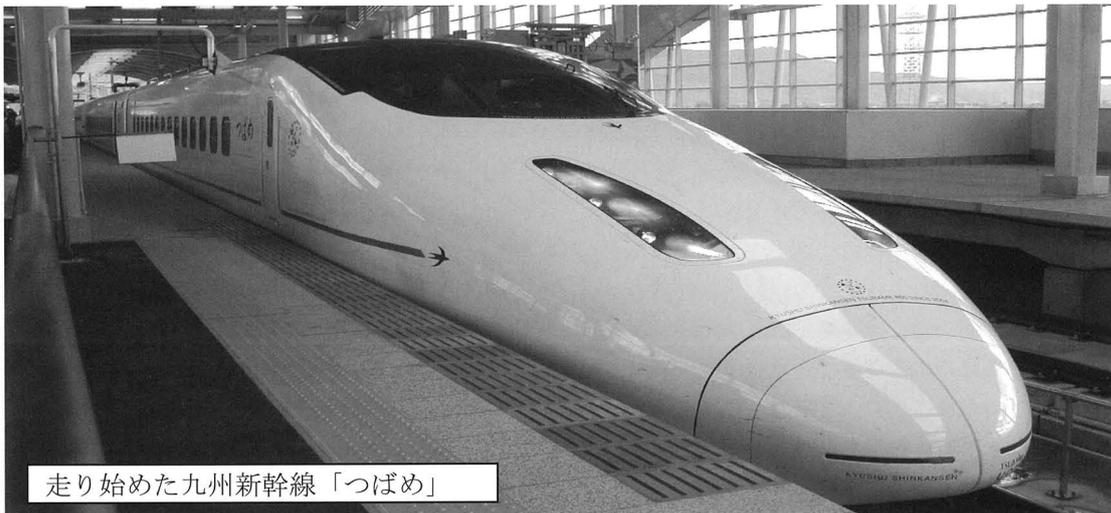
[25・26区の調査]

B-25区：Ⅲ層掘り下げ。埋設土器1基検出。A・B-26区：古代末の柱穴及び焼土検出。

[31～37区の調査]

A・B-31・32区：溝状遺構3条と焼土1か所検出。掘立柱建物跡3棟検出。A・B-33～37区：溝5条・波板状凹凸面11条検出。2間×3間の掘立柱建物跡5棟検出。縄文時代晩期の焼土を伴う凹地検出。

3月27日 すべて完了。



走り始めた九州新幹線「つばめ」

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 第1節 遺跡の位置および立地

大坪遺跡は北半球にあり、北緯32° 05′ 55″ で中国南京・米国ジョージア州コロンバスなどの都市と同緯度にあり、東経は130° 21′ 23″ で中国琿春（フンチュン）・豪州ダーウィンなどの都市と同じである。ユーラシア大陸の東端に位置する日本は、四面を海で囲まれている。大坪遺跡から東京までの直線距離は約950kmであり、この範囲内に沖縄県那覇市、朝鮮半島のソウル・平壤、中国の上海などの都市は位置する。九州島の西海岸側は東海岸に比べ複雑な地形をなしており、リアス式海岸が続く長崎県、大きな湾内である有明海、穏やかな八代海、そして東シナ海に面した鹿児島県となっている。その中の八代海南部に大坪遺跡はあり、海路としても陸路としても優位な場所に位置する。大坪遺跡から鹿児島市までの直線距離は約60kmであり、天草諸島はもちろんのこと、甌島・島原半島・人吉地方など的一部分にかかる距離である。

大坪・見入来・榎木田遺跡は出水市市街地より北西約1.5kmの出水市美原町に所在する。出水市は鹿児島県の最北端に位置しており、熊本県水俣市に接する県境の市である。鹿児島・熊本の県境一帯は、標高600～1000mの山地が東西方向に伸びた形で広く分布している（以下、「肥薩山地」とよぶ）。肥薩山地は、地質時代という新第三紀鮮新世（520万～170万年前）に噴出した火山岩類から構成されており、「肥薩火山区」とよばれている。肥薩火山区の主要な領域は南北30km、東西50kmの広い範囲にわたっており、火山岩類の一部は長島や阿久根にも分布する。これらの火山岩類を、「肥薩火山岩類」と総称している。肥薩火山岩類は主に輝石安山岩の溶岩と凝灰角礫岩からなり、両者が多数累積した地質構造をなす。北東部は熊本県と境をなす矢筈岳（687m）を主峰とする肥薩山系が略東西方向に走り、熊本県水俣市および鹿児島県大口市と接する。南部は、紫尾山（1,067m）を主峰とする四万十層群と一部花崗閃緑岩よりなる紫尾山地が略南北方向に走り、薩摩郡宮之城町及び鶴田町と接する。紫尾山は北薩地方の一の高峰である。この紫尾山地と、出水平野との境の断層崖下には、シラス台地と高位段丘がある。これにつづく大野原一帯は、松山を扇頂とする洪積台地の扇状地で広大に広がっている。この扇状地を囲むように、河岸段丘と沖積地が発達している。矢筈山地に源を発した広瀬川と、紫尾山地を源とする平良川は中流域で合流して米ノ津川となり、北流して八代海に注ぐ。平良川及び米ノ津川の左岸には、知識面と呼ばれる河岸段丘が扇状地をとりまくように細長く形成され、中流域では米ノ津面とよ

ばれる沖積地が発達する。なお、下流域では三角州や海岸平野となり八代海となるが、海岸部は江戸時代以降干拓が行われ、現況の地形を呈している。西部は、扇状地及び高尾野川、野田川によって形成された河岸段丘や沖積地で、出水郡高尾野町と境を接する。北西部は江戸時代以降に造られた干拓地であり、国の特別天然記念物である鶴の渡来地として有名である。さらに、遠浅の八代海を距てて、出水郡東町及び熊本県の日草諸島を望むことができる。なお、今回の調査期間中の晴天の日には東光山（160m）から島原半島の雲仙普賢岳を目視することができ、両県の近さを実感した。

大坪遺跡は、矢筈岳の裾部から出水平野に広がる沖積地に立地している。東光山から延びる裾部で傾斜が緩くなった所には朝熊集落や松尾集落が形成され、小さな谷になった部分にも、ひと昔前までは2、3軒の人家があった様である。この裾部から平野部に移り変わったところに大坪遺跡はある。八代海に注ぐ米ノ津川及び高柳川の右岸にあり、標高は約7～8mである。昭和40年代以前の地籍図をみると、高柳川は現在よりも西側を流れており、今回の調査地点はわずかに高い地点に位置する。大坪遺跡は沖田岩戸遺跡と隣接し、見入来遺跡及び榎木田遺跡も連続した地形の同一地域内にあることから、これらを総称して大坪遺跡として紹介することとする。

### 第2節 周辺の遺跡と歴史的環境

#### 旧石器時代・縄文時代

出水地方は県境の街ということもあり、早くから考古学・歴史学研究のフィールドとして、学術上重要な地として注目されてきた。特に考古学の面では、昭和36年～54年に出水高校に在職された池水寛治先生が考古学部を創設し、上場遺跡や長島の古墳群などの発掘調査をはじめ、研究誌『もぐら』を発行して活発な活動を続けた。出水周辺で確認されている遺跡の多くは、その時期の活動成果である。当時高校生だった童顔たちは、現在全国各地で埋蔵文化財に携わっておられる方も多く、後進の指導にも活躍しておられる。

出水市の東部、大口市、水俣市と接する標高約500mの上場高原一帯は、旧石器時代の遺物が集中する。特に上場遺跡は、県内で初めて発掘調査された旧石器時代の遺跡であり、爪形土石器と細石器の共出や、始良テフラ通称シラス（約2.45万年前）の上下でナイフ形石器、台形石器等を包含する7時期の文化層の存在が明らかとなり、前期旧石器の捏造問題以降改めてその成果が再評価されつつある。全国で初めて検出された旧石器時代の住居跡については、再検

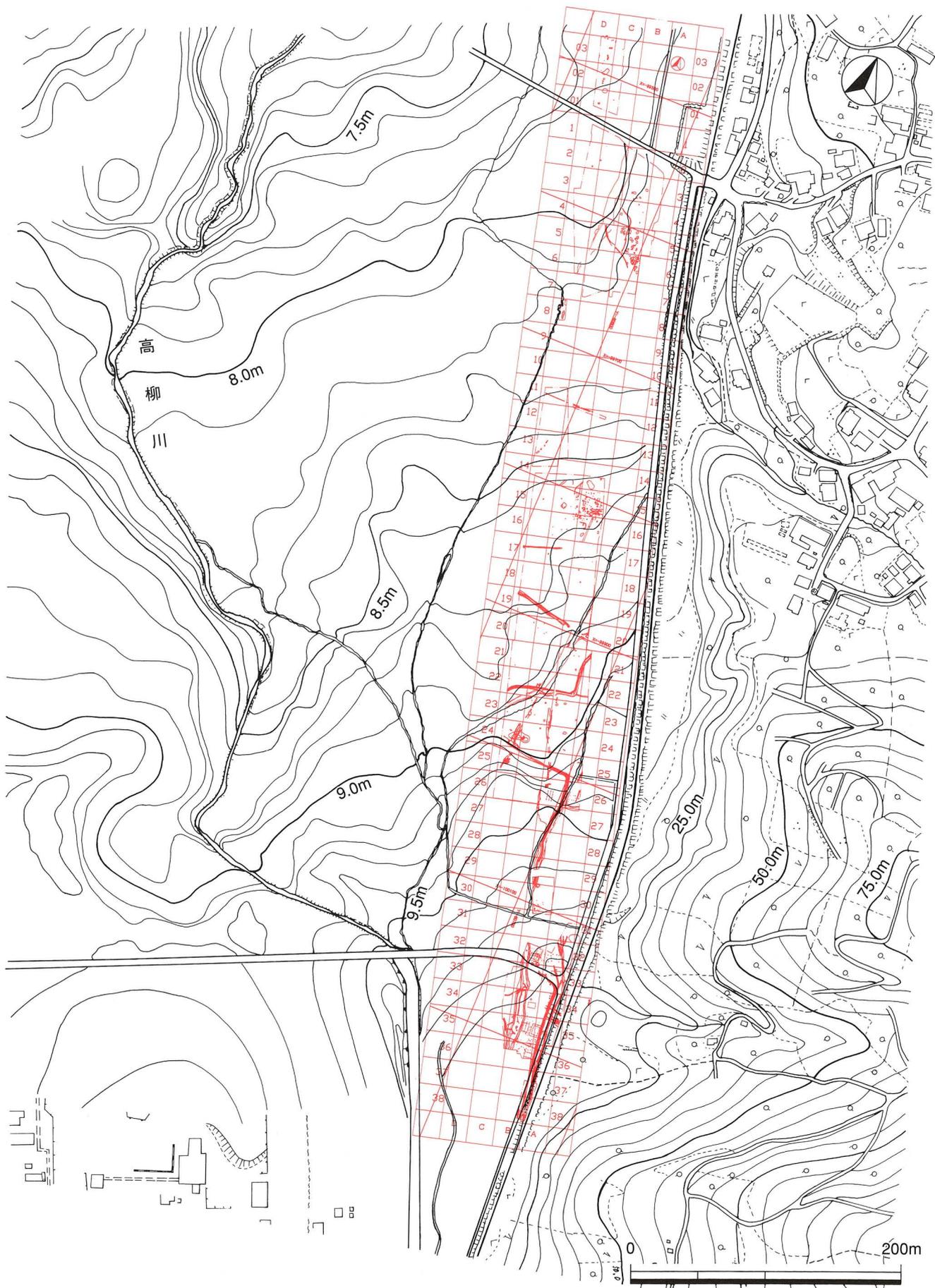




第2図 グリッド設定図(現況図)



第3図 グリッド設定図（昭和40年代の地籍図）



第4図 グリッド設定図（昭和40年代の地形図）

討を求める意見も出されている。なお、上場一帯から隣接する大口市日東及び下青木一帯には、黒曜石原産地が所在する。

出水平野での遺跡の立地は主に、扇頂部および扇端部の河岸段丘や山麓縁辺、裾部に集中し、縄文時代早期・前期・後期の牟田尻遺跡やカラン迫遺跡、前期の荘貝塚、中期の柿内遺跡や江内貝塚等が知られている。特に出水貝塚は、大正9年(1920年)に京都大学によって本県で最初の貝塚遺跡調査が行われ、縄文時代後期前半に位置づけられる出水式土器の標式遺跡である。また、戦後の調査によって貝塚下から縄文時代早期の押型文土器の単純層が確認され、南九州においても押型文土器を単独にもつ集落であることがわかった。縄文時代全時期を通して貝殻文を多用する南九州において、これが時期差を示すものなのか、地域差を示すものなのか今後の課題である。縄文時代後期から晩期の遺跡では大坪遺跡に隣接する沖田岩戸遺跡・中里遺跡が知られ、最近の調査で黒川式土器新段階から刻目突帯文土器にかけての時期の遺物が大量に出土した下柵迫遺跡がある。

#### 弥生時代・古墳時代

弥生時代の遺跡としては、中期の覆石墓から後期の葺石土壙墓、古墳時代の地下式板石積石室へと移行する埋葬形態の変遷を知ることができる堂前遺跡や下高尾野遺跡がある。しかし、主体的な弥生集落の発見例は未だない。

古墳時代になると、洪積台地縁辺に位置し、短甲が出土した地下式板石積石室を主とする溝下古墳群、海岸沿いに位置し箱式石棺墓を主とする切通古墳群、八代海と東シナ海をつなぐ黒之瀬戸海峡によって隔てられた長島には、5世紀から7世紀にかけての高塚古墳が出現する。

#### 古代

出水の地名が文献資料にあらわれるのは奈良時代後期の記述である続日本記の宝亀9年(778年)11月の条に遣唐船が出水海岸に漂着、その後和名抄には「伊豆美」とあり、山内(やまと)、勢戸(せと)、借家(かしくり)、大家(おおやけ)、国形(にしかた)の五郷から構成されていると記載されている。

奈良時代出水郡の行政に携わる役人たちの中に、「肥君」や「五百木部」等の肥後系の人物がいることから、大和朝廷がこの地に住んでいた隼人を支配するために肥後から移民を送り込み、この移民を中核として、当時の出水郡は構成されていたことが考えられる(註1)。

平安時代になると全国各地で荘園が開墾されるようになり、出水でも山門院や和泉荘といった荘園

が形成されてくる。これらは、島津荘の成立と共に吸収される。

出水の荘園のことが記載されている史料は、「山門院文書」や「肝付文書」がある。これらの文献史料によると、この当時和泉荘を領有している人物は、肝付氏の流れをくむ伴氏が代々下司職を受けて領有していると記載されている(註2)。伴一族は、後に和泉氏を名乗り井上、朝熊、知識、上村方面に土着していった。大坪遺跡は、朝熊と隣接する地域に位置していることから、当時は和泉荘の一部であったのではないかと思われる。また、大坪遺跡は、その名のとおり「坪」という土地面積をあらわす語が使用されている。周辺の字名にも、「八反田・七次・杉坪」等の数詞地名が使用されている。大坪遺跡では条里型地割をあらわすような遺構も検出されていることから、条里制と何らかの関係があるのではないかと考えることができる。

平安時代末期(12世紀後半)には、和泉兼保が亀ヶ城を築き、この地方を領有している。その後鎌倉時代に書かれた建久凶田帳には「和泉郡」として登場する。同書によると、現在の出水地区は、「和泉郡(荘)、山門院、莫禰院」と記載されている。

#### 中世

鎌倉期では、源頼朝より島津忠久が元暦2年(1185年)に島津荘下司職に補任され、忠久は山門院に守護被官本田貞親を入部させる。貞親は、山門院内に木牟礼城を築き、以後ここは5代貞久まで薩摩国守護所として守護勢力の拠点となる。

和泉荘を領有している和泉氏は当時の島津氏と反目しており、南北朝期になると島津氏が北朝側に着くが、和泉荘の領主たちは南朝側に着いて島津氏と戦っている。正平9年(1354年)の戦いを境に和泉一族らの在地土豪の組織だった抵抗はなくなってくる。

島津氏に敵対する強力な勢力がなくなると、島津氏一族の中で争いがおこってくる。その争いを平定したのが島津忠国・用久であり、この用久が1425年に薩州家を興し、以後約130年間出水を領有することになる。このころより荘園は崩壊していき、荘園制の村落から郡郷制の村落へと移行していく。豊臣秀吉の九州出兵の後、文禄2年(1593年)に薩州家は改易され、出水は一時秀吉の直轄領となった。しかし、慶長4年(1599年)に「泗川の戦い」の戦勝を賞し、再び島津氏に返還された。この時期の遺跡としては、主に中世城郭があげられる。出水市内でも松尾城などが調査されており、成果があがっている。

#### 近世

江戸時代の藩政期に入ると、島津家の外城制度の下に藩境地としての政治的要所の性格を強め、藩内



最大の外城とし、藩の直轄地とした。そのため、藩内各地から派遣された屈強な郷士が、国境及び海岸線に居を構える、県内でも最大規模の武家屋敷等の衆中地である「麓」を形成するに至った。武士は麓に集められ、農民は「門割制度」によって、新しい村に編成されていく。この頃になり、大規模な開田工事も実施され、平野部も水田化されていくことになる。藩境である出水は交通の要所にもなり、肥後国水俣に至る「出水筋」は参勤交代に使われ、また野間の番所（野間ノ関）で人や物資の出入りを厳重に監視していた。

大坪遺跡からも、近世時代に使用されたと思われる「煙管」「古銭（寛永通宝）」等の遺物が出土しており、この時代にも人々が生活していたことを窺うことができる。

### 近・現代

明治時代に入り、明治10年（1877年）に西南戦争が勃発する。この時出水麓の郷士たち（出水衆中）は、薩軍（西郷軍）の3番4番大隊に編入され、戦闘に参加する。このとき、矢筈岳山頂付近で激しい戦闘が展開されたという記録がある。また、官軍側は米ノ津から広瀬橋を渡り、竹之山（向江町）方面・広瀬橋付近・鍋野付近のそれぞれから、総攻撃を開始する。海軍は米ノ津港へ接岸し、艦砲射撃や上陸作戦を行っている。この時出水の郷士たちは才願寺墓地を主陣地として防戦するが、壊滅する。大坪遺跡からは、鉛の弾が出土している。この鉛の弾は、球形を成している。当時使用された官軍の銃弾は、流線型の形状を成していることから、これらの出土した弾は、薩軍が使用した弾であるのではないかと思われ、西南戦争と深い関わりがあるのではないかと思われる。明治時代の学制発布により、全国的に教育が盛んになってくる。出水地方でも教育が普及していき、それに伴い経済が発展してくる。

太平洋戦争時は、昭和18年（1943年）に出水海軍航空隊が発足し、昭和20年（1945年）には特攻隊基地となる。本土空襲によりこの基地も空襲を受ける。大坪遺跡からも、この当時使用されていたと思われる葉莢や弾が出土している。戦後は、出水市となり、従来からの産業をもとに工業都市として発展してきている。昭和40年代には高度成長と共に農地の圃場整備が実施され現在の様な田園風景に変わったが、それ以前の区画及び地形は第3図及び第4図の様であった。ほぼ磁北を基調とする110m四方の区画が整然としており、条里型地割が存在していることがわかる。条里型地割がどれぐらいさかのぼるのかについては、文献資料もなく、今回の調査の大きな課題であった。

### 出水の交通

出水は県境に位置しているため、交通の要所として発展してきた。先述したように江戸期の出水筋は参勤交代に使われ、大正12年（1923年）には鹿児島から米ノ津まで鉄道が敷かれた。また、昭和2年（1927年）には米ノ津から八代までの鉄道が開通し、これが鹿児島本線となった。元来鹿児島本線は明治42年（1909年）に、鹿児島→国分・吉松→人吉・八代というルート（現在の肥薩線）を通過していたが、米ノ津⇄八代間の鉄道が開通したことにより、こちらの方を鹿児島本線とした。この結果、出水には中央からの文化が随時流入し、これに伴って経済も発展することになった。平成16年（2004年）3月13日には九州新幹線が開通し、その停車地となった出水は中央との時間的な距離が縮まり、今後とも文化的、経済的な発展をしていくことが予想される。

このように出水地方は旧石器時代～古墳時代はもとより、古代から南北朝・鎌倉・中世・近世・近代・現代にかけて歴史の変換点の中で、豊富な歴史をもち、衆目の注目する場所である。

（註1）736年の「薩摩正税帳」によれば、「大領外正六位下勲七等肥君・少領外従八位勲七等五百木部・主政外初位上勲十等大伴部足・主帳元位大伴部福足」と記載されている。

（註2）建永2年（1207年）に書かれた肝付文書では、「蓋當兼貞時 族人成房亦墾於薩州和泉 以隸 御莊成辦濟使及下司職」とあり、また建永2年（1207年）の肝付兼保護状には、「散位伴朝臣兼保謹辞 讓与内舍人伴保忠嶋津御庄和泉庄弁財使并下司職・田畠山野狩倉事、在四至東限神河西限石坂 南紫尾山高尾 北限海 副渡代々 證文等、當御庄者、是兼保之重代相傳之領地也、随高祖父伴成房・曾祖父時房・親父守房・嫡子兼保四代相傳成」と記載されている。

『出水郷土誌』出水郷土誌編集委員会

『肝属文書』『鹿児島県史料』旧記雑録拾遺家わけ二

『出水麓遺跡』出水市埋蔵文化財発掘調査報告書(5)

1995 出水市教育委員会

西山賢一 2001 「出水周辺の地形・地質について」『鹿児島県考古学会平成13年度秋季大会研究発表資料』

# 出水地区周辺遺跡図



# 旧石器



# 縄文



# 弥生

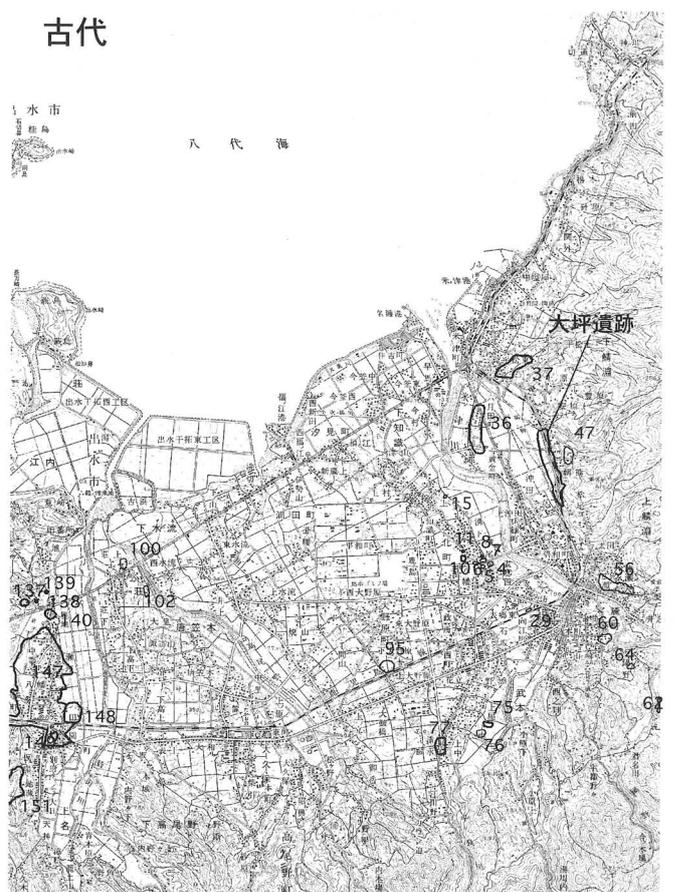


第5図 周辺遺跡図(1)

古墳



古代



中世



近世



第6図 周辺遺跡図(2)

表1 周辺遺跡地名表1

番号	遺跡名	遺跡番号	所在地	地形	時代	遺構・遺物	備考
1	出水貝塚	08-001-0	出水中中央町尾崎	台地	縄文(早・中・後)、中世	押型文・阿高式・南福寺式・出水式・貝輪・玉製品・人骨・集石・石鍾集積	京大報告6、県埋文報(5)、大正9・昭和28・29・平成8～10年学術調査、市埋文報(11)
2	尾崎城跡	08-027-0	出水中中央町尾崎	台地	中世	水の手・掘立柱建物跡	知色氏・島津氏居城、別称「知識城」
3	尾崎A	08-067-0	出水中中央町表郷西	台地	縄文(後・晩)、奈良、平安、中世、近世	縄文晩期土器・土師器・須恵器・陶磁器	平成5年確認調査、平成6年本調査、市埋文報(6)
4	新村B	08-061-0	出水中文化町横尾	台地	奈良、平安	土師器	平成5年分布調査、平成7年確認調査
5	新村A	08-060-0	出水中文化町横尾	台地	奈良、平安	土師器	平成5年度市町村、遺物採集地、市埋文報(6)
6	慶頭原	08-059-0	出水中文化町横尾	台地	奈良、平安	土師器	平成5年度市町村、遺物採集地
7	尾崎B	08-068-0	出水中文化町横尾	台地	縄文(後・晩)、奈良、平安、中世、近世	縄文晩期土器・土師器・須恵器・陶磁器	平成5年確認調査、平成6年本調査、市埋文報(6)
8	野中田	08-058-0	出水中文化町山下	台地	奈良、平安	成川式・土師器・近代墓	平成5年度市町村、平成7年緊急調査
9	山下	08-057-0	出水中文化町山下	台地	奈良、平安～中世	土師器・青磁	平成5年度市町村、遺物採集地
10	再願	08-056-0	出水中文化町山下	台地	奈良、平安	土師器	平成5年度市町村、遺物採集地
11	正八幡	08-055-0	出水中文化町山下	台地	縄文～奈良、平安	成川式・土師器・近代墓	平成5年度市町村、平成7年緊急調査
12	上松	08-094-0	出水中文化町上松	台地	縄文	土器	平成9年度北薩・伊佐分布調査
13	下郡山	08-095-0	出水中文化町溝下	台地	縄文・古墳	縄文土器・土師器	H9北薩分布調査
14	溝下古墳群	08-011-0	出水中文化町399	台地	古墳	地下式板石積石室・短甲・鉄鏃・土師器壺・成川式	旧名「溝下」、昭和8年記録なし、昭和32・45・平成12年学術調査
15	川除	08-069-0	出水中文化町上村東	台地	古墳～奈良、平安	土師器	
16	谷城跡	08-028-0	出水中下知識町上村西	台地	中世	水の手	
17	庵木園	08-093-0	出水中知識町上村東	台地	縄文・古墳	土器・土師器	H9北薩分布調査
18	御堂	08-092-0	出水中下知識町上村西	台地	古墳、中世	土師器・青磁	平成9年度北薩・伊佐分布調査
19	西宮ノ脇	08-090-0	出水中下知識町津山	河岸段丘	古墳	土器	平成9年度北薩・伊佐分布調査
20	八幡	08-102-0	出水中上知識町八幡	台地	古墳、中世	土器	平成9年度北薩・伊佐分布調査
21	表郷東	08-123-0	出水中中央町表郷東	台地	中世	鉄滓・韃口	遺物採集地
22	一町樋	08-103-0	出水中中央町八坊	河岸段丘	古墳	土器	平成9年度北薩・伊佐分布調査
23	天神原	08-104-0	出水中中央町表郷東	台地	古墳	土器	平成9年度北薩・伊佐分布調査
24	成願寺	08-009-0	出水中中央町八坊	河岸段丘	弥生～古墳、中世(安土桃山)	箱式石棺・土師器・須恵器・弥生土器	発掘記録なし
25	田中	08-010-0	出水中中央町八坊	河岸段丘	弥生	弥生土器・須恵器・土師器	
26	内城跡	08-032-0	出水中中央町八坊	河岸段丘	中世	切岸?・土壘?	平城氏居城
27	専修寺跡	08-034-0	平良馬場(中村医院)	河岸段丘	中世(室町)～近代(明治3年)	寺跡	薩州島津家第5代実久設立、「出水風土記」
28	成願寺跡	08-033-0	出水中中央町八坊	台地	中世(安土桃山)～近世	寺跡	1633年焼失、「出水風土記」
29	並松	08-105-0	出水中中央町表郷東	台地	古墳、奈良、平安	土器	平成9年度北薩・伊佐分布調査
30	塚込	08-106-0	出水中中央町西町	台地	古墳	土器	平成9年度北薩・伊佐分布調査
31	山王西	08-107-0	出水中五万石町石坂	台地	古墳	土器・土師器	平成9年詳細分布調査、北薩・伊佐分布調査
32	新蔵	08-091-0	出水中福ノ江町新蔵上	台地	縄文	土器・黒曜石	平成9年度北薩・伊佐分布調査
33	東福ノ江	08-121-0	出水中福ノ江町福ノ江	海岸平野	縄文	土器	遺物採集地
34	西福ノ江	08-120-0	出水中福ノ江町福ノ江	海岸平野	縄文	土器	遺物採集地
35	長松寺	08-089-0	出水中福ノ江町福ノ江	低地	縄文	土器	平成9年度北薩・伊佐分布調査
36	六反ヶ丸	08-073-0	出水中六月田町六月田下	低地	奈良、平安	土師器	市埋文報(13) 遺物採集地
37	平松	08-083-0	出水中下騎町平松東	丘陵	縄文、古墳、奈良、平安	土器・青磁・染付・黒曜石	平成9年度北薩・伊佐分布調査
38	野間の関跡	08-117-0	堀之内2577・2578	台地	中世(安土桃山)～近世	古井戸	(市)昭和41.12.20

表2 周辺遺跡地名表2

番号	遺跡名	遺跡番号	所在地	地形	時代	遺構・遺物	備考
39	上針原	08-119-0	出水市境町針原	山麓緩斜面	縄文	土器	遺物採集地
40	井手山	08-118-0	出水市境町前田	海岸段丘	縄文	土器	遺物採集地
41	鳥越平	08-128-0	出水市境町切通	山麓緩斜面	縄文	土器	遺物採集地
42	茶屋ノ元	08-050-0	出水市境町切通	段丘	弥生	土器	平成10年確認調査
43	切通	08-012-0	出水市境町切通	丘陵	古墳	箱式石棺	昭和46年非公式調査
44	安原城跡	08-031-0	出水市美原町上ノ原	台地	中世	腰郭・空堀	安原氏居城
45	安原鎧	08-039-0	出水市美原町安原	河岸段丘	縄文、弥生、古墳	土器・黒曜石	遺物採集地
46	朝隈城跡	08-023-0	出水市美原町朝隈	丘陵	中世	主郭・曲輪・空堀・土塁・虎口	朝隈氏居城
47	諏訪後	08-084-0	出水市美原町朝隈	台地	縄文、奈良、平安	土器・青磁・土師器	平成9年度北薩・伊佐分布調査
48	沖田岩戸	08-008-0	出水市黄金町・美原町	低地	縄文晩期・古代	縄文土器・石鏃・石斧・磨石 弥生式土器等	鹿泉埋7埋文報(26) 48・49発掘・県文化財報告26
49	牛ヶ迫東平	08-122-0	出水市東光山山頂	山頂緩斜面	中世	土師器・青磁	遺物採集地
50	大坪	08-051-0	出水市黄金町・美原町	低地	縄文(晩)、奈良、平安	埋設土器・玉類・土師器・条里型地割	平成10年確認調査、平成11～12年本調査
51	宮ノ脇	08-047-0	出水市上鯖淵松尾	低地	弥生	石器	遺物採集地
52	松尾城跡	08-030-0	出水市上鯖淵松尾	丘陵	中世	曲輪・掘立柱建物・腰郭・大手・空堀・土師器・青磁	市埋文報(10) 上村氏居城
53	太田城跡	08-026-0	出水市上鯖淵太田	丘陵	中世	主郭・曲輪・枳形虎口・水の手	
54	乙五郎	08-078-0	出水市上鯖淵大田	山麓緩斜面	旧石器		遺物採集地
55	通山口	08-079-0	出水市上鯖淵香月	山麓緩斜面	旧石器		遺物採集地
56	井出ノ原	08-085-0	出水市上鯖淵渡瀬口	河岸段丘	縄文・古墳	土器	H9北薩分布調査
57	御所園原	08-086-0	出水市上鯖淵井之上	台地	縄文	土器・黒曜石	平成9年度北薩・伊佐分布調査
58	井ノ上城跡	08-025-0	出水市上鯖淵井上	丘陵	中世	主郭・曲輪・空堀・切岸・腰郭・水の手	和泉氏・井田氏、別称「井口城」「小城」
59	鯖淵	08-087-0	出水市上鯖淵井之上	河岸段丘	縄文・中世	押型文土器	H9北薩分布調査
60	水天上	08-088-0	出水市麓町山崎	台地	縄文、奈良、平安、近世	土器・黒曜石・土師器	平成9年度北薩・伊佐分布調査
61	出水麓	08-054-0	出水市麓町堅馬場	台地	中世～近世	地頭館跡・ピット・陶磁器	平成5年確認調査、平成6年本調査、平成8年確認調査、平成9年本調、市埋文報(5・8)
62	下ヶ原	08-040-0	出水市武本水之頭	河岸段丘	縄文、奈良	土器・黒曜石	遺物採集地
63	大曲	08-041-0	出水市武本折尾野	河岸段丘	奈良、平安	土師器	遺物採集地
64	上ノ原	08-125-0	出水市武本鍋野	丘陵	縄文、奈良、平安	土器・黒曜石・土師器	遺物採集地
65	松ヶ迫	08-048-0	出水市武本鍋野	丘陵	旧石器～縄文	石器	平成10年確認調査
66	小松	08-049-0	出水市武本小松	丘陵	縄文	黒曜石	平成10年確認調査
67	出水城跡	08-024-0	出水市麓町7325	丘陵	中世	主郭・曲輪・空堀・腰郭・大手・掘め手	肝付和泉氏・島津和泉氏・薩州家、別称「亀ヶ城」「花見ヶ城」
68	見性庵跡	08-037-0	出水市麓町上堅馬場	丘陵	中世(室町)	薩州島津家の墓・位牌	「出水風土記」
69	大通寺跡	08-035-0	出水市武本西ノ口	丘陵	中世(室町)	寺跡	薩州島津家第6代義虎菩提寺、「出水風土記」
70	山田昌敏の墓	08-224	武本2893	墓地	江戸	墓石	江戸初期の出水地頭
71	龍光寺跡	08-036-0	出水市武本西ノ口	丘陵	中世(室町)～近代(明治3年)	寺跡	1459年建立、「出水風土記」
72	五万石溝底水道	08-227	武本小原下	平地	江戸	用水路	
73	平山城跡	08-029-0	出水市武本小原下	山麓緩斜面	中世		伴系和泉氏一族居城
74	武本大坪	08-101-0	出水市武本下中	河岸段丘	古墳	土器	旧名「大坪」、平成9年度北薩・伊佐分布調査
75	老神	08-053-0	出水市武本上中	河岸段丘	縄文～平安	竅穴住居跡・鈿・壺形土器	昭和62年分布調査、平成4年確認・本調査、文埋文報(4)
76	市来	08-052-0	出水市武本上中	扇状地	縄文～平安	弥生土器・土師器・須恵器	昭和62年分布調査、平成4年確認・本調査、文埋文報(4)

表3 周辺遺跡地名表3

番号	遺跡名	遺跡番号	所在地	地形	時代	遺構・遺物	備考
77	休基町高橋	08-070-0	出水市武本清水	扇状地	縄文、奈良、平安		平成9年詳細分布調査
78	上桜ノ西	08-108-0	出水市武本上中・清水	扇状地	縄文・古墳	土器	H9北薩分布調査
79	曲尺角東	08-019-0	出水市武本江川野	扇状地			旧名「楠元西」「花園園」を併合、遺物採集地
80	砂取	08-109-0	出水市武本清水	扇状地	縄文	土器・黒曜石	平成9年度北薩・伊佐分布調査、平成12年度詳細分布調査、旧名「楠元園」「上宮上」を併合
81	曲尺西	08-020-0	出水市武本清水	扇状地			旧名「楠元園」「花園園」を併合、遺物採集地
82	牟田尻	08-021-0	出水市武本清水	扇状地	縄文(早・中)、弥生		旧名「出水池下園」「出水池下園」を併合、昭和51年発掘調査、県埋文報(3)
83	楠元上	08-018-0	出水市武本清水	扇状地			遺物採集地
84	出水ヶ池	08-110-0	出水市武本清水	扇状地	縄文	土器・黒曜石	平成9年度北薩・伊佐分布調査、平成12年度詳細分布調査、旧名「出水ヶ池南」を併合
85	池ノ尾下	08-017-0	出水市武本江川野	扇状地	縄文(晩)		遺物採集地
86	江川野口	08-111-0	出水市武本江川野	扇状地	縄文	土器・黒曜石	平成9年度北薩・伊佐分布調査、旧名「上池ノ尾」「池ノ東」を併合、遺物採集地
87	牟田原	08-022-0	出水市武本清水	扇状地	縄文		遺物採集地、旧名「池ノ尾」を併合
88	中尾Ⅱ	08-016-0	出水市武本江川野	扇状地	縄文(早)		平成10年確認調査、平成11年本調査、市埋文報(12)
89	中尾Ⅰ	08-015-0	出水市武本江川野	扇状地	縄文(早)	押型文・石鏃・石斧	市埋文報(12)、平成10年確認調査
90	下小野	08-014-0	出水市武本栗毛野	扇状地			遺物採集地
91	小野口	08-112-0	出水市武本小野	扇状地	縄文	土器	平成9年度北薩・伊佐分布調査
92	西小野	08-013-0	出水市武本栗毛野	扇状地	縄文	土器	平成9年度北薩・伊佐分布調査
93	太鼓橋	08-099-0	出水市大野原町太鼓橋	台地	古墳、中世	土器・青磁	平成9年度北薩・伊佐分布調査
94	並木下	08-098-0	出水市大野原町上大野原	台地	古墳、古代	土器・土師器	平成9年度北薩・伊佐分布調査
95	丸岡	08-096-0	出水市大野原町下大野原	台地	縄文	土器・黒曜石	平成9年度北薩・伊佐分布調査
96	西牟田	08-097-0	出水市西出水町政所	台地	古墳	土器	平成9年度北薩・伊佐分布調査
97	政所	08-100-0	出水市西出水町政所	台地	縄文	土器	遺物採集地
98	高見下	08-124-0	出水市平和町ゴルフ場内	台地	縄文	土器	平成9年度北薩・伊佐分布調査
99	金松	08-115-0	出水市平和町ゴルフ場北	台地	縄文(前)、奈良、平安、中世、近世	石斧・石鏃・石匙・杭列・轟式・双角状石器・球状耳飾・骨角器	遺物採集地
100	荘貝塚	08-007-0	出水市荘下	台地	縄文、奈良、平安、中世	黒曜石・土師器・陶磁器	昭和48・53・61・63年緊急調査、市埋文報(1・3)
101	荘下	08-071-0	出水市荘下	台地	奈良、平安	土師器・須恵器	遺物採集地
102	荘上Ⅱ	08-072-0	出水市荘上	台地	中世(鎌倉)	土師器・青磁	遺物採集地、昭和49年発掘調査
103	荘上Ⅰ	08-044-0	出水市荘上	台地	中世(鎌倉)	土師器・青磁	遺物採集地、昭和49年発掘調査
104	田淵	08-116-0	出水市荘上	台地	縄文・古墳	土器・貝殻・土師器・須恵器	H9北薩分布調査
105	下高尾野	47-007-0	高尾野町下高尾野	台地	弥生(後)	弥生土器散布	
106	松ヶ野	47-008-0	高尾野町下高尾野	台地	縄文(早・晩)、古墳、中世	土器片・青磁(多量)・石鏃	平成7年度分布調査、県埋文報(71)
107	出し道	47-009-0	高尾野町唐笠木	台地	縄文、中世	黒曜石剥片・土器片・土師器	平成7年度分布調査、県埋文報(71)
108	諏訪下	47-010-0	高尾野町唐笠木	台地	縄文(早・前)、中世	土器片・土師器	平成7年度分布調査、県埋文報(71)
109	八幡ノ前	47-011-0	高尾野町唐笠木	台地	古墳	土器片・須恵器	平成7年度分布調査、県埋文報(71)
110	宮園	47-012-0	高尾野町大久保・柴引	台地	縄文、古墳	黒曜石剥片・土器片(大量)	平成7年度分布調査、県埋文報(71)
111	寺園	47-013-0	高尾野町柴引	台地	縄文(晩)、古墳	黒曜石剥片・土器片	平成7年度分布調査、県埋文報(71)
112	中里	47-014-0	高尾野町柴引中里	河岸段丘	縄文、弥生、古墳、近世	押型文・三万田式・御領式・陶器	鹿埋文七埋文報(1)、昭和49年発掘調査
113	堂前	47-015-0	高尾野町柴引	台地	縄文、古墳	黒曜石剥片・土器片	平成7年度分布調査、県埋文報(71)
114	堂前古墳	47-016-0	高尾野町柴引	扇状地	弥生(中)～古墳	地下式板石積石室古墳群・山ノ口式・須玖式・免田式・成川式・鉄鏃・勾玉・ガラス製小玉	昭和45年4月7日発掘調査(池水寛治氏)、昭和46・47年発掘調査

表4 周辺遺跡地名表4

番号	遺跡名	遺跡番号	所在地	地形	時代	遺構・遺物	備考
115	原畑	47-017-0	高尾野町大久保	台地	古墳	土器片	平成7年度分布調査、県埋文報(71)
116	道下段	47-037-0	高尾野町大久保	台地	縄文～古墳	市来式・磨消縄文土器・黒川式・打製石斧・石鏃・磨石	平成10年発掘調査
117	下柵迫	47-038-0	高尾野町大久保	台地	縄文～平安・近世	黒川式・組織痕土器・夜臼式・打製石斧・磨製石斧・磨石・石皿・砥石・石鏃・スクレーパー・黒髪式・須玖式・山ノ口式・松木園式	平成7・9年発掘調査
118	御岳	47-035-0	高尾野町大久保	河岸段丘			遺物散布地
119	柿内	47-033-0	高尾野町大久保	扇状地	縄文(中・後)	春日式・並木式・磨消縄文・阿高式・阿高谷式・南福寺式・出水式・石鏃・石鏃・磨製石斧・打製石斧・磨石・石皿・砥石・スクレーパー等	鹿泉埋文報(24)、昭和49年発掘調査
120	柿内下	47-034-0	高尾野町大久保	台地	縄文		遺物散布地
121	大久保遺跡群	47-031-0	高尾野町大久保	台地	縄文		土器片
122	カラシ迫	47-032-0	高尾野町大久保字カラシ迫	扇状地	旧石器・縄文	トラッピーズ・エンドスクレーパー・押型文・条痕文・石鏃・石斧・土師器	県埋文報(3)、昭和50年分布調査
123	迫畠	47-036-0	高尾野町大久保	台地	縄文		土器片・黒曜石剥片
124	高尾野城跡	47-026-0	高尾野町下高尾野3741(小字城内)	山地	中世		
125	柴引C	47-041-0	高尾野町柴引	台地	縄文・弥生	土器片	
126	迫田	47-029-0	高尾野町柴引	台地	縄文・古墳	黒曜石剥片・土器片	平成7年度分布調査、県埋文報(71)
127	柴引遺跡群B	47-024-0	高尾野町柴引	台地	縄文・弥生	土器片	
128	東馬場	47-030-0	高尾野町柴引	台地	縄文・古墳	土器片	平成7年度分布調査、県埋文報(71)、旧名「柴引」を併合(平成13年)
129	洞亀寺跡	47-027-0	高尾野町柴引砂原	丘陵	中世	磨崖仏	「三国名勝図会」
130	柴引遺跡群A	47-023-0	高尾野町柴引・下高尾野	台地	縄文・弥生	土器片	
131	横馬場	47-018-0	高尾野町柴引・唐笠木	台地	縄文・弥生	土器片	
132	諏訪	47-019-0	高尾野町唐笠木	台地	縄文・弥生	土器片	
133	船迫	47-022-0	高尾野町下高尾野字高松他	台地	縄文・弥生		
134	新城跡	47-021-0	高尾野町下高尾野805(小字新城)	河岸段丘	中世	土壘・堀	平成9年測量実測調査
135	放光寺	47-020-0	高尾野町下高尾野字放光寺	扇状地	縄文・弥生・古墳・中世	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器・すり鉢・火舎・瓦器・打製石斧・磨製石斧・石鏃・十字形石器	県埋文報(2)、昭和49年発掘調査
136	本城跡	47-025-0	高尾野町下高尾野2973(小字高城)	台地	中世	磨崖仏	「三国名勝図会」
137	川骨	47-004-0	高尾野町江内	台地	縄文・古墳	土器片	平成7年度分布調査、県埋文報(71)
138	木牟礼城跡	47-005-0	高尾野町江内165-2(小字尾崎)	台地	中世		「出水風土記」、島津忠久の居城
139	木牟礼	47-006-0	高尾野町木牟礼	台地	弥生(後)	弥生土器散布・石弾	
140	東笠掛	48-010-0	野田町上名屋地	台地	古墳～中世	成川式・土師器	平成7年北薩・伊佐地区分布調査、県埋文報(71)
141	中郡	48-001-0	野田町下名中郡	台地	弥生(後)	弥生土器散布	
142	山内寺跡	48-003-0	野田町下名中郡	台地	中世(鎌倉)		建久7年
143	大園	48-011-0	野田町上名大園	台地	中世	土師器	平成7年北薩・伊佐地区分布調査、県埋文報(71)
144	大畠	48-012-0	野田町上名瀬戸大畠	台地	縄文・中世	縄文土器・土師器・青磁	平成7年北薩・伊佐地区分布調査、県埋文報(71)
145	感応寺跡	48-002-0	野田町下名八幡	台地	中世(鎌倉)建立		「出水風土記」
146	下名遺跡群	48-015-0	野田町下名	低地	縄文～中世	押型文・石鏃・土師器	旧名「平地」
147	野田畠	48-009-0	野田町野田畠	台地	縄文～中世	土器・石器・土師器・須恵器他	
148	春	48-013-0	野田町上名上田多園	台地	古墳～中世	成川式・土師器・染付	平成7年北薩・伊佐地区分布調査、県埋文報(71)
149	木牟礼城屋形跡	48-008-0	野田町上名字屋地ほか	丘陵	中世	土壘	
150	上名遺跡群	48-016-0	野田町上名	台地	中世	土師器	
151	亀井城跡	48-004-0	野田町上名本城	丘陵	保元平治期		
152	新城跡	48-005-0	野田町上名字新城	丘陵	中世	空堀・土壘・帯郭	

### 第三章 発掘調査の概要

#### 第1節 発掘調査の方法

平成4年12月に実施した分布調査で、昭和48年に緊急発掘された沖田岩戸遺跡の隣接地ということと地形の類似性から、第7図で囲まれた一帯が埋蔵文化財包蔵地の可能性がある範囲としてくくられた。小字名が異なるため、北側から榎木田遺跡、見入来遺跡、大坪遺跡としてある。この小字名は昭和40年代に耕地整理されたのに合わせて改変されたものであり、大正年間の小字名とは異なっている。

平成10年に実施された確認調査では、第I章第3節で前述した内容でトレンチを設定した。グリッドは10m四方を単位とし、北側から1. 2. 3……、西側からA. B. C……とした。表土を重機で剥ぎ、それ以下は手掘りの調査を行った。遺物の実測は平板で取り上げ、グリッド名と取り上げ番号を遺物に記してある。レベルについては台帳に記してあるが、基準としていた杭の標高を本調査時に測り直したところ、誤差を生じていることが判明した。確認調査では縄文時代晚期と古代の遺物が出土すると考えられる範囲を明らかにし、工事部分と重なる第8図に図示した範囲を本調査の対象とした。

平成11・12年度の本調査では、発掘範囲が広大な面積に及ぶことから、グリッドを20m四方に変更して調査を行った。グリッドの基準点は確認調査時の点を踏襲し、市道六月田朝熊線の北側路側帯に新幹線本線のセンターと交わる点を起点とした。この点と市道沖田2号線上の新幹線本線センターが交わる点を直線で結んだ線を基準点として、グリッドを設定した。南北方向を算用数字で、東西方向をアルファベットの大きく呼ぶこととした。南北方向は起点から南側へ1. 2. 3……区とし、北側へは01. 02. 03区とした。東西方向へは起点を境に西側をD区とし、東側へそれぞれC. B. A区とした。遺跡名としてはそれぞれ異なるのであるが、グリッドの呼び方は統一してある。したがって北側から03～01区が榎木田遺跡、1～7区が見入来遺跡、8～39区が大坪遺跡の範囲となる。グリッド設定は埋文サポートが行い、同時に公共座標を設定した。

発掘調査は20mごとのグリッド境を30cm幅づつ合計60cm幅のセクションベルトとして残し、表土をバックホーで掘削しながらクローラーで廃土した。遺構の有無を確認しながら、セクションベルト沿いに手箕が入る幅で先行トレンチを設定した。これは、土層の観察を先に行うためと排水用を兼ねるためである。土層の写真が逆光にならないように、各グリッドの北側と西側を先行トレンチとして掘り下げた。先行トレンチは、遺物が出てこなくなるまで掘り下げた後、各層の境にラインを入れ、写真撮影した後、20分の1で土

層断面を実測した。したがって、土層断面を実測した場所は各グリッド境より30cm内側となる。南九州の火山灰が多様に堆積した台地部分とは異なり、沖積地での層の把握は苦慮し、ラインを入れる際は感覚的な部分も多々あり、台地上の層位ほど厳密でないことをお断りしておきたい。各土層断面図はスペースの関係で縮小しすぎて見にくいものの、各グリッドに合わせて提示してある。

表土下及び各層の上面で精査し、遺構を検出した場合は遺構の調査を優先して行った。それぞれの遺構に合わせて必要なセクションベルトを残しながら掘り下げ、写真撮影後10分の1で実測し、トータルステーションへの取り込みを行った。場合によってはトータルステーションのみでの実測もある。遺構番号はそれぞれの遺跡で発見された順に通し番号を付し、頭に略号をつけてある。発掘現場での遺構番号は検出された時点でつけてあるので、最初に認識した遺構名と完掘して明らかになった遺構名が異なるものもある。また、通し番号であるために同類の遺構数を把握しにくいので、本報告書では遺構名の再整理を行い併記することにした。現場での遺構名と本報告書での遺構名は表5～表9の通りである。発掘現場での日誌・図面等は変更していないので、使用の際は本表を参照していただきたい。

包含層の掘り下げは、手鍬やネジリ鎌あるいは竹ベラ等を用いて全体的に水平になるように行った。本遺跡のような粘土質の土壌を掘り下げる場合、適度な湿気を保つために、前日に水をまいてシートをかぶせておく方法が有効であった。また、竹製の道具が意外にも偉力を発揮した。出土した遺物は動かさずに現位置に置き、土器の小破片についてはグリッド及び各層位ごとに一括して取り上げた。特徴的な遺物については各遺跡ごとに通し番号を付して、50分の1の縮尺で平板実測した。取り上げた点数は、確認調査612点、榎木田遺跡248点、見入来遺跡1,751点、大坪遺跡17,095点である。なお、当初50分の1の平板実測図にはⅢ層上面での10cmごとのコンターを入れていったが、ほとんど削平された面であることと高低差がないことから途中で断念した。

手掘りによる掘り下げは遺物が出なくなるころまで行い、その後10mピッチで幅2mのトレンチを設定し下層の確認をして各グリッドの調査を終了した。さらに、これに加え途中からは重機による最終確認を実施したところ、埋設土器を検出できた例もあり、その後はすべて行った。なお、平成11年度末に行ったC-17区の調査は重機による最終確認まで実施する余裕がなく、下層ごとB-17区に盛り上げ、年度が変わってから遺物のみ拾い出した。その中には玉類もいくつか含まれており、深く反省する次第である。





第7図 確認調査の範囲



第8図 年度ごとの調査範囲

表5 遺構一覧表(挿図番号順) 1

本報告書での遺構名	遺跡名	発掘調査時の遺構名	区	層	時代	略称	文章ページ	挿図番号	写真図版番号		
埋設土器	1	大坪	SJ	124	B-15	Ⅲ	縄文	埋設 1	125	103	25
埋設土器	2	大坪	SJ	119	B-15	Ⅲ	縄文	埋設 2	125	103	25
埋設土器	3	大坪	SJ	79	B-14	Ⅲ	縄文	埋設 3	126	104	25,26
埋設土器	4	大坪	SJ	38	C-15	Ⅲ	縄文	埋設 4	126	105	26
埋設土器	5	大坪	SJ	115	C-16	Ⅲ	縄文	埋設 5	126	106	26,27
埋設土器	6	大坪	SJ	8	B-17	Ⅲ	縄文	埋設 6	127	106	27
埋設土器	7	大坪	SJ	33	C-16	Ⅲ	縄文	埋設 7	127	107	27
埋設土器	8	大坪	SJ	6	B-17	Ⅲ	縄文	埋設 8	128	108	27
埋設土器	9	大坪	SJ	80	B-14	Ⅲ	縄文	埋設 9	128	109	6,28
埋設土器	10	大坪	SJ	39	C-16	Ⅲ	縄文	埋設 10	129	109	28
埋設土器	11	大坪	SJ	40	C-16	Ⅲ	縄文	埋設 11	129	110	29
埋設土器	12	大坪	SJ	4	B-17	Ⅲ	縄文	埋設 12	129	110	29
埋設土器	13	大坪	SJ	5	B-17	Ⅲ	縄文	埋設 13	130	111	29
埋設土器	14	大坪	SJ	31	C-16	Ⅲ	縄文	埋設 14	130	111	30
埋設土器	15	大坪	SJ	12	C-16	Ⅲ	縄文	埋設 15	130	112	30
埋設土器	16	大坪	SJ	9	B-18	Ⅲ	縄文	埋設 16	131	112	30
埋設土器	17	大坪	SJ	3	B-16	Ⅲ	縄文	埋設 17	131	113	30
埋設土器	18	大坪	SJ	7	B-17	Ⅲ	縄文	埋設 18	133	113	31
埋設土器	19	大坪	SJ	78	B-17	Ⅲ	縄文	埋設 19	133	114	
埋設土器	20	大坪	SJ	41	D-22	Ⅲ	縄文	埋設 20	133	115	31
埋設土器	21	大坪	SJ	130	B-21	Ⅲ	縄文	埋設 21	133	115	31
埋設土器	22	大坪	SJ	30	B-18	Ⅲ	縄文	埋設 22	133	116	32
埋設土器	23	大坪	SJ	49	C-22	Ⅲ	縄文	埋設 23	133	116	32
埋設土器	24	大坪	SJ	42	D-23	Ⅲ	縄文	埋設 24	133	116	32
埋設土器	25	大坪	SJ	50	C-22	Ⅲ	縄文	埋設 25	133	116	32
埋設土器	26	大坪	SJ	10	C-20	Ⅲ	縄文	埋設 26	134	116	32
埋設土器	27	大坪	SJ	175	B-25	Ⅲ	縄文	埋設 27	134	117	32,33
埋設土器	28	大坪	SJ	46	D-21	Ⅲ	縄文	埋設 28	135	117	33
埋設土器	29	見入来	SJ	5	B-4	Ⅲ	縄文	埋設 29	135	118	33
埋設土器	30	見入来	SJ	84	D-2・3	Ⅲ	縄文	埋設 30	137	118	34
埋設土器	31	大坪	SJ	131	B-21	Ⅲ	縄文	埋設 31	138	119	34
埋設土器	32	大坪	SJ	11	D-20	Ⅲ	縄文晩期	埋設 32	140	119	35
埋設土器	33	大坪	SJ	47	C-20	Ⅲ	縄文晩期	埋設 33	140	120	35
埋設土器	34	大坪	SJ	51	C-22	Ⅲ	縄文晩期	埋設 34	140	120	36
埋設土器	35	大坪	SJ	128	B-21	Ⅲ	縄文晩期	埋設 35	140	121	
埋設土器	36	大坪	SJ	126	B-21	Ⅲ	縄文晩期	埋設 36	140	121	36
埋設土器	37	大坪	SJ	125	B-21	Ⅲ	縄文晩期	埋設 37	140	121	36
供献土器	1	大坪	SJ	48	C-20	Ⅲ	縄文晩期	供献 1	144	120	35
供献土器	2	大坪	SJP	129	B-21	Ⅲ	縄文晩期	供献 2	144	121	36
土坑	1	大坪	SK	71	C-23	Ⅳ	縄文晩期	土坑 1	146	122	7
土坑	2	大坪	SK	118	B-14	Ⅲ	縄文	土坑 2	147	122	
土坑	3	大坪	SK	169	B-23	Ⅲ	縄文	土坑 3	147	123	7
土坑	4	見入来	SK	1	C-2	Ⅲ	縄文晩期	土坑 4	147	123	6
土坑	5	大坪	SK	138	B-21	Ⅲ	縄文	土坑 5	147	123	
大型凹地		大坪	SX	60	C・D-24	Ⅲ	縄文	大型凹地	149	69	7
凹地		大坪	SF	193	A-35	Ⅲ	縄文	凹地	149	124	
不明遺構	1	大坪	SX	67	C-23	Ⅲ	縄文	不明 1	149	125	6
不明遺構	2	大坪	SF	117	B-15	Ⅲ	縄文	不明 2	149	126	6
焼土	1	大坪	SF	32	C-17	Ⅲ	縄文	焼土 1	152	127	
焼土	2	大坪	SF	173	B-24	Ⅲ	縄文	焼土 2	152	128	
焼土	3	大坪	SF	127	B-21	Ⅲ	縄文	焼土 3	152	128	
焼土	4	大坪	SF	120	B-15	Ⅲ	縄文	焼土 4	152	128	
焼土	5	見入来	SF	4	B-4	Ⅲ	縄文	焼土 5	152	128	
石溜り	1	見入来	SS	2	C-2	Ⅲ	縄文	石溜り 1	153	129	6
石溜り	2	見入来	SS	3	C-3	Ⅲ	縄文	石溜り 2	153	50	6
ピット	1	大坪	SX	28	D-15	Ⅲ	縄文	ピット 1	153	129	20
ピット	2	大坪	SP	121	B-15	Ⅲ	縄文	ピット 2	153	129	
竪穴住居		大坪	SH	29	C-15	Ⅱa	古代	竪穴住居	362	305,306	8
焼成土坑	1	大坪	SFK	82	C-15	Ⅱb	古代	焼成土坑 1	363	307	10
焼成土坑	2	大坪	SFK	133	B-23	Ⅲ	奈良~平安	焼成土坑 2	363	308	11
焼成土坑	3	大坪	SK	45	D-24	Ⅲ	古代	焼成土坑 3	364	308	9
不明遺構	3	大坪	SX	75	C-15	Ⅱb	古代	不明 3	364	309,310	11
不明遺構	4	大坪	SX	81	B-14	Ⅱb	古代	不明 4	364	311	
不明遺構	5	大坪	SX	85	B-16	Ⅱb	古代	不明 5	364	312	
土坑	6	大坪	SK	84	B-16	Ⅱb	古代	土坑 6	367	312	
土坑	7	大坪	SK	83	B-16	Ⅱb	古代	土坑 7	368	312	
土坑	8	大坪	SK	134	B-23	Ⅲ	奈良~平安	土坑 8	368	313	20
土坑	9	大坪	SK	135	B-23	Ⅲ	奈良~平安	土坑 9	370	313	
土坑	10	大坪	SK	76	B-15	Ⅱb	古代	土坑 10	370	314	
土坑	11	大坪	SK	113	B-15	Ⅱb	古代	土坑 11	370	315	
土坑	12	大坪	SK	112	B-15	Ⅱb	古代	土坑 12	371	315	
土坑	13	大坪	SK	111	B-15	Ⅱb	古代	土坑 13	371	315	
土坑	14	大坪	SK	110	B-15	Ⅱb	古代	土坑 14	371	315	
土坑	15	大坪	SK	106	B-15	Ⅱb	古代	土坑 15	371	316	
土坑	16	大坪	SK	105	B-15	Ⅱb	古代	土坑 16	371	316	
土坑	17	大坪	SK	104	B-15	Ⅱb	古代	土坑 17	371	316	
土坑	18	大坪	SK	77	B-15	Ⅱb	古代	土坑 18	371	317,318	
土坑	19	大坪	SK	102	B-15	Ⅱb	古代	土坑 19	371	317	
土坑	20	大坪	SK	101	B-15	Ⅱb	古代	土坑 20	371	317	

表6 遺構一覧表(挿図番号順) 2

本報告書での遺構名	遺跡名	発掘調査時の遺構名	区	層	時代	略称	文章 ページ	挿図 番号	写真図版 番号	
土坑	21	大坪	SK	100	B-15	IIb	古代	土坑 21	371	317
土坑	22	大坪	SK	99	B-15	IIb	古代	土坑 22	371	317
土坑	23	大坪	SK	98	B-15	IIb	古代	土坑 23	373	317
土坑	24	大坪	SK	103	B-15	IIb	古代	土坑 24	373	318,319
土坑	25	大坪	SK	97	B-15	IIb	古代	土坑 25	376	319
土坑	26	大坪	SK	96	B-16	IIb	古代	土坑 26	376	320
土坑	27	大坪	SK	87	B-16	IIb	古代	土坑 27	376	320
土坑	28	大坪	SK	92	B-16	IIb	古代	土坑 28	376	320
土坑	29	大坪	SK	93	B-16	IIb	古代	土坑 29	376	320
土坑	30	大坪	SK	90	B-16	IIb	古代	土坑 30	376	320
土坑	31	大坪	SK	89	B-16	IIb	古代	土坑 31	376	320
土坑	32	大坪	SK	114	C-15・16	IIb	古代	土坑 32	376	321
土坑	33	大坪	SK	88	B-16	IIb	古代	土坑 33		54
ピット	3	大坪	SP	86	B-16	IIb	古代	ピット 3	368	312
ピット	4	大坪	SP	116	B-15	IIb	古代	ピット 4		13,51
ピット	5	大坪	SP	123	B-15	III	奈良～平安	ピット 5	373	316
ピット	6	大坪	SP	122	B-15	III	奈良～平安	ピット 6	373	316
ピット	7	大坪	SP	95	B-16	IIb	古代	ピット 7	376	320
ピット	8	大坪	SP	94	B-16	IIb	古代	ピット 8	376	320
ピット	9	大坪	SP	91	B-16	IIb	古代	ピット 9	376	320
ピット	10	大坪	SP	109	B-15	IIb	古代	ピット 10	376	321
ピット	11	大坪	SP	108	B-15	IIb	古代	ピット 11	376	321
ピット	12	大坪	SP	107	B-15	IIb	古代	ピット 12	376	321
焼土	6	大坪	SF	19	B-15		古代	焼土 6	378	322
焼土	7	大坪	SF	18	B-15		古代	焼土 7	378	322
焼土	8	大坪	SF	171	A-25	III	平安?	焼土 8	378	322
焼土	9	大坪	SF	170	A-25	III	平安?	焼土 9	378	322
焼土	10	大坪	SF	66	C-24	IIb	古代	焼土 10	378	322
溝状遺構	1	大坪	SD	43	A-21～D-22	II		溝 1	383	326
溝状遺構	2	見入来	SD	81	B-6・C-5	II下部	古代～中世?	溝 2	386	327
溝状遺構	3	見入来	SD	6	B-4	III	古代～中世?	溝 3	386	328
溝状遺構	4	大坪	SD	70	C-22	IIb		溝 4	386	326
土坑	34	榎木田	SK	4	D-03		古代	土坑 34	380	323
土坑	35	榎木田	SP	7	D-03		古代	土坑 35	380	323
土坑	36	榎木田	SK	8	D-03		古代	土坑 36	380	323
土坑	37	榎木田	SK	5	D-03		古代	土坑 37	380	323
土坑	38	榎木田	SK	6	D-03		古代	土坑 38	380	323
土坑	39	榎木田	SK	16	D-03		古代	土坑 39	380	324
土坑	40	榎木田	SK	17	D-03		古代	土坑 40	380	324
土坑	41	榎木田	SK	18	C-03		古代	土坑 41	380	324
土坑	42	榎木田	SK	15	C-03		古代	土坑 42	383	324
土坑	43	榎木田	SK	9	D-03		古代	土坑 43	383	324
土坑	44	榎木田	SK	19	D-03		古代	土坑 44	383	324
土坑	45	榎木田	SK	3	D-03		古代	土坑 45	383	324
土坑	46	榎木田	SK	2	D-03		古代	土坑 46	383	324
土坑	47	榎木田	SK	10	D-03		古代	土坑 47	383	324
土坑	48	榎木田	SK	11	D-03		古代	土坑 48	383	324
土坑	49	榎木田	SK	12	D-03		古代	土坑 49	383	324
土坑	50	榎木田	SK	20	D-02		古代	土坑 50	383	325
土坑	51	榎木田	SK	22	D-01		古代	土坑 51	383	325
土坑	52	榎木田	SK	1	C-01		古代	土坑 52	383	325
土坑	53	榎木田	SK	26	D-02			土坑 53	383	20
土坑	54	榎木田	SK	24	D-02			土坑 54	383	20
土坑	55	榎木田	SK	25	D-02			土坑 55	383	20
土坑	56	榎木田	SK	23	D-02		古代	土坑 56	383	21
ピット	13	榎木田	SK	13	C-02		古代	ピット 13	383	20
ピット	14	榎木田	SK	14	D-02		古代	ピット 14	383	
ピット	15	榎木田	SP	21	D-02		古代	ピット 15	383	325
焼土	11	榎木田	SF	27	D-02		古代	焼土 11	383	325
掘立柱建物跡	1	大坪	SB	166	A-33	II	中世	掘立 1	387	329
掘立柱建物跡	2	大坪	SB	187	B-34	II	中世?	掘立 2	387	330
掘立柱建物跡	3	大坪	SB	137	B-26	IIb	平安～鎌倉	掘立 3	388	331
掘立柱建物跡	4	大坪	SB	190	B-36	II	中世?	掘立 4	389	332
掘立柱建物跡	5	大坪	SB	199	B-32	II	中世?	掘立 5	391	333
掘立柱建物跡	6	大坪	SB	189	A・B-35	II	中世?	掘立 6	391	334
掘立柱建物跡	7	大坪	SB	188	B-35	II	中世?	掘立 7	393	335
掘立柱建物跡	8	大坪	SB	198	B-32	II	中世?	掘立 8	393	336
掘立柱建物跡	9	大坪	SB	200	B-32	II	中世?	掘立 9	393	339
土坑	57	大坪	SK	34	D-13		古代～中世	土坑 57	398	338
土坑	58	大坪	SK	35	D-13		古代～中世	土坑 58	398	338
土坑	59	大坪	SK	36	D-13		古代～中世	土坑 59	398	338
土坑	60	大坪	SK	37	D-13		古代～中世	土坑 60	398	338
土坑	61	大坪	SK	148	A-33	II	平安～鎌倉	土坑 61	398	339
土坑	62	大坪	SK	151	B-30	II	平安～鎌倉	土坑 62	399	339
土坑	63	大坪	SK	139	B-33	II	平安～鎌倉?	土坑 63	399	340
土坑	64	大坪	SK	140	B-33	II	平安～鎌倉?	土坑 64	399	340
土坑	65	大坪	SK	167	A-33	II	中世	土坑 65	399	340
土坑	66	大坪	SK	152	B-30	II	平安～鎌倉	土坑 66	401	340
土坑	67	大坪	SK	147	A-33	II	平安～鎌倉	土坑 67	401	340
土坑	68	大坪	SK	155	A-34	II	平安～鎌倉	土坑 68	401	341

表7 遺構一覧表(挿図番号順) 3

本報告書での遺構名	遺跡名	発掘調査時の遺構名	区	層	時代	略称	文章ページ	挿図番号	写真図版番号		
土坑	69	大坪	SK	154	A-34	II	平安～鎌倉	土坑 69	401	341	
土坑	70	大坪	SK	153	A-34	II	平安～鎌倉	土坑 70	401	341	
土坑	71	大坪	SK	192	B-34	III	中世?	土坑 71	401	341	
土坑	72	大坪	SK	183	B-35	II	中世?	土坑 72	402	342	
土坑	73	大坪	SK	184	B-35	II	中世?	土坑 73	402	342	
土坑	74	大坪	SK	185	B-35	III	中世?	土坑 74	402	342	
土坑	75	大坪	SK	186	B-35	III	中世?	土坑 75	402	342	
焼土	12	大坪	SF	58	D-25	?	古代～中世?	焼土 12	402	343	
焼土	13	大坪	SF	174	B-24	III	古代～中世	焼土 13	402	343	
焼土	14	大坪	SF	74	B-25	IIb	古代～中世	焼土 14	402	83	
焼土	15	大坪	SF	73	B-26	IIb	古代～中世	焼土 15	403	343	
焼土	16	大坪	SF	172	B-24	III	平安?	焼土 16	403	343	
焼土	17	大坪	SF	204	A-31	III	中世?	焼土 17	403	344	
焼土	18	大坪	SF	194	B-35	III	中世?	焼土 18	404	344	
不明遺構	6	大坪	SK	69	C-22	IIb	中世	不明 6	404	345	
不明遺構	7	大坪	SX	149	B-33	II	平安～鎌倉	不明 7	405	346	
不明遺構	8	大坪	SX	150	B-33	II	平安～鎌倉	不明 8	405	346	
溝状遺構	5	大坪	SD	132	B-22	III	奈良～平安	溝 5	407	73,362	12
溝状遺構	6	大坪	SD	68	C-23	IIb	平安～中世?	溝 6	407	347	
溝状遺構	7	大坪	SD	136	B-23	IIb	平安～?	溝 7	407	347	
溝状遺構	8	大坪	SD	65	B-24			溝 8	407	348	
溝状遺構	9	大坪	SD	62	B-25		古代～中世?	溝 9	408	348	
溝状遺構	10	大坪	SD	61	C-26		古代～中世?	溝 10	408	348	
溝状遺構	11	大坪	SD	22	B-33～36	IIc下	中世後半	溝 11	408	349	18,53
溝状遺構	12	大坪	SD	23	B-35・36	IIc上	中世	溝 12	408	350	16
溝状遺構	13	大坪	SD	181	B-34	IIb	中世?	溝 13	408	361	19
溝状遺構	14	大坪	SD	1	B-11		古代～中世	溝 14	413	351	52
溝状遺構	15	大坪	SD	64	B-25		古代～中世	溝 15	413	352	
溝状遺構	16	大坪	SD	63	B-25・27	IIb	古代～中世	溝 16	413	352	
溝状遺構	17	大坪	SD	55	D-24・B-29	II	中世?	溝 17	413	353	
溝状遺構	18	大坪	SD	53	D-24	II	古代～中世?	溝 18	414	78	52
溝状遺構	19	大坪	SD	56	D-24	II	中世?	溝 19	414	78	
溝状遺構	20	大坪	SD	52	D-24	II	古代～中世	溝 20	414	354	52
溝状遺構	21	大坪	SD	57	D-24・C-23	II	中世?	溝 21	416	75	18
溝状遺構	22	大坪	SD	146	A-33～38	II	平安～鎌倉	溝 22	416	355	17,18
溝状遺構	23	大坪	SD	168	A-36・37	II	中世	溝 23	416	357	18
溝状遺構	24	大坪	SD	145	A-33～37	II	平安～鎌倉	溝 24	416	355	
溝状遺構	25	大坪	SD	203	A-32	III	中世?	溝 25	418	356	
溝状遺構	26	大坪	SD	202	A-31・32	III	中世?	溝 26	418	356	18
溝状遺構	27	大坪	SD	205	A-31・32	III	中世?	溝 27	418	356	18
溝状遺構	28	大坪	SD	201	A-31・32	III	中世?	溝 28	418	356	18
溝状遺構	29	大坪	SD	143	A-33・34	II	平安～鎌倉	溝 29	418	357	
溝状遺構	30	大坪	SD	144	A-33	II	平安～鎌倉	溝 30	418	357	
溝状遺構	31	大坪	SD	142	A-33	II	平安～鎌倉	溝 31	418	357	
溝状遺構	32	大坪	SD	24	C-35	IIc上	中世	溝 32	418	357	18
溝状遺構	33	大坪	SD	141	A-33	II	平安～鎌倉	溝 33	418	358	17
溝状遺構	34	大坪	SD	180	A-26	II	中世	溝 34	418	84	
波板状凹凸面	1	大坪	SR	26	C・D-17	III	中世?	波板 1	418	359	17,51
波板状凹凸面	2	大坪	SR	25	B-34	IIa	中世	波板 2	421	360	16
波板状凹凸面	3	大坪	SR	182	B-34	IIb	中世?	波板 3	423	361	19
波板状凹凸面	4	大坪	SR	72	B-26～29	IIb	古代～中世	波板 4	423	362	1,14,15
波板状凹凸面	5	大坪	SR	176	A-26	II	中世～近世	波板 5	424	363	
波板状凹凸面	6	大坪	SR	191	B-26	II	中世～近世	波板 6	424	363	
波板状凹凸面	7	大坪	SR	27	B-20	III	中世?	波板 7	424	363	17,52
波板状凹凸面	8	大坪	SR	54	D-25	II	中世?	波板 8	427	363	16
波板状凹凸面	9	大坪	SR	197	B-38	II	中世?	波板 9	427	364	17
波板状凹凸面	10	大坪	SR	196	B-38	II	中世?	波板 10	427	364	
波板状凹凸面	11	大坪	SR	195	A-38	II	中世?	波板 11	427	364	
ピット	16	大坪	SP	59	D-25	?	?	ピット 16	405	346	20
土坑	76	見入来	SK	9	B-3	II①	中世?	土坑 76	472	402	
土坑	77	見入来	SK	10	B-3	II①	中世?	土坑 77	472	402	
土坑	78	見入来	SK	11	B-3	II①	中世?	土坑 78	472	402	
土坑	79	見入来	SK	16	B-4	II①	中世?	土坑 79	472	402	
土坑	80	見入来	SK	82	B-5	II①	中世?	土坑 80	472	403	
土坑	81	見入来	SK	50	B-5	II③	中世?	土坑 81	472	403	
土坑	82	見入来	SK	57	B-6	II②	中世?	土坑 82	472	404	20
土坑	83	見入来	SK	63	B-6	II②	中世?	土坑 83	472	404	
土坑	84	見入来	SK	64	B-6	II②	中世?	土坑 84	472	404	
土坑	85	見入来	SK	66	B-6	II②	中世?	土坑 85	472	404	
土坑	86	見入来	SK	65	B-6	II②	中世?	土坑 86	472	404	
土坑	87	見入来	SK	67	B-6	II②	中世?	土坑 87	472	404	
土坑	88	見入来	SK	83	D-2	II②	中世?	土坑 88	476	405	
土坑	89	見入来	SK	12	B-3	II①	中世?	土坑 89	476	405	
土坑	90	見入来	SK	14	B-3	II①	中世?	土坑 90	476	406	
土坑	91	見入来	SK	13	B-3	II①	中世?	土坑 91	476	406	
土坑	92	見入来	SK	15	B-4	II①	中世?	土坑 92	476	407	
土坑	93	見入来	SK	17	B-4	II①	中世?	土坑 93	476	407	
土坑	94	見入来	SK	18	B-5	II①	中世?	土坑 94	476	407	
土坑	95	見入来	SK	19	B-5	II①	中世?	土坑 95	476	407	
土坑	96	見入来	SK	20	B-5	II①	中世?	土坑 96	476	407	

表8 遺構一覧表(挿図番号順) 4

本報告書での遺構名	遺跡名	発掘調査時の遺構名	区	層	時代	略称	文章 ページ	挿図 番号	写真図版 番号		
土坑	97	見入来	SK	21	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 97	476	408	
土坑	98	見入来	SK	22	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 98	476	408	
土坑	99	見入来	SK	23	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 99	477	408	
土坑	100	見入来	SK	24	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 100	477	408	
土坑	101	見入来	SK	25	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 101	477	408	
土坑	102	見入来	SK	26	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 102	477	408	
土坑	103	見入来	SK	28	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 103	477	409	
土坑	104	見入来	SK	27	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 104	477	409	
土坑	105	見入来	SK	29	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 105	481	409	
土坑	106	見入来	SK	30	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 106	481	409	
土坑	107	見入来	SK	31	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 107	481	409	
土坑	108	見入来	SK	32	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 108	481	409	
土坑	109	見入来	SK	33	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 109	481	410	
土坑	110	見入来	SK	34	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 110	481	410	
土坑	111	見入来	SK	35	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 111	481	410	
土坑	112	見入来	SK	36	B-5	Ⅱ③	中世?	土坑 112	481	410	
土坑	113	見入来	SK	37	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 113	481	410	
土坑	114	見入来	SK	40	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 114	481	411	
土坑	115	見入来	SK	41	B-6	Ⅱ①	中世?	土坑 115	485	411	
土坑	116	見入来	SK	42	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 116	485	411	
土坑	117	見入来	SK	38	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 117	485	411	
土坑	118	見入来	SK	39	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 118	485	411	
土坑	119	見入来	SK	51	B-5	Ⅱ③	中世?	土坑 119	485	412	
土坑	120	見入来	SK	52	B-5	Ⅱ③	中世?	土坑 120	485	412	
土坑	121	見入来	SK	53	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 121	485	412	
土坑	122	見入来	SK	48	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 122	485	412	
土坑	123	見入来	SK	49	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 123	486	412	
土坑	124	見入来	SK	46	B-5	Ⅱ③	中世?	土坑 124	486	412	
土坑	125	見入来	SK	47	B-5	Ⅱ③	中世?	土坑 125	486	412	
土坑	126	見入来	SK	54	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 126	486	413	
土坑	127	見入来	SK	55	B-5	Ⅱ①	中世?	土坑 127	486	413	
土坑	128	見入来	SK	56	B-5	Ⅱ③	中世?	土坑 128	486	413	
土坑	129	見入来	SK	43	B-5	Ⅱ②	中世?	土坑 129	486	414	
土坑	130	見入来	SK	44	B-5	Ⅱ②	中世?	土坑 130	486	414	
土坑	131	見入来	SK	45	B-5	Ⅱ②	中世?	土坑 131	487	414	
土坑	132	見入来	SK	59	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 132	487	415	
土坑	133	見入来	SK	60	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 133	487	415	
土坑	134	見入来	SK	61	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 134	487	415	
土坑	135	見入来	SK	62	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 135	488	415	
土坑	136	見入来	SK	58	B-6	Ⅱ①	中世?	土坑 136	488	415	
土坑	137	見入来	SK	68	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 137	488	415	
土坑	138	見入来	SK	69	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 138	488	416	
土坑	139	見入来	SK	70	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 139	488	416	
土坑	140	見入来	SK	71	B-6	Ⅱ③	中世?	土坑 140	488	418	
土坑	141	見入来	SK	72	B-6	Ⅱ③	中世?	土坑 141	488	418	
土坑	142	見入来	SK	73	B-6	Ⅱ③	中世?	土坑 142	488	418	
土坑	143	見入来	SK	74	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 143	488	417	
土坑	144	見入来	SK	75	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 144	488	417	
土坑	145	見入来	SK	76	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 145	488	417	
土坑	146	見入来	SK	77	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 146	488	417	
土坑	147	見入来	SK	79	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 147	488	419	
土坑	148	見入来	SK	80	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 148	488	419	
土坑	149	見入来	SK	78	B-6	Ⅱ②	中世?	土坑 149	488	419	
土坑	150	大坪	SK	21	B-35	Ⅱa上	中世後半	土坑 150	488	419	20
波板状凹凸面	12	大坪	SR	177	A-25	Ⅱ	中世～近世	波板 12	492	420	
波板状凹凸面	13	大坪	SR	156	A-34	Ⅱ	中世～近世	波板 13	493	421	
波板状凹凸面	14	大坪	SR	157	A-34	Ⅱ	中世～近世	波板 14	493	421	
波板状凹凸面	15	大坪	SR	158	A-34	Ⅱ	中世～近世	波板 15	493	421	
波板状凹凸面	16	大坪	SR	159	A-34	Ⅱ	中世～近世	波板 16	493	421	
波板状凹凸面	17	大坪	SR	160	A-34	Ⅱ	中世～近世	波板 17	493	422	
波板状凹凸面	18	大坪	SR	165	A-34	Ⅱ	中世～近世	波板 18	493	422	
波板状凹凸面	19	大坪	SR	161	A-34	Ⅱ	中世～近世	波板 19	493	422	
波板状凹凸面	20	大坪	SR	162	A-35	Ⅱ	中世～近世	波板 20	493	422	
波板状凹凸面	21	大坪	SR	163	A-35	Ⅱ	中世～近世	波板 21	493	422	
波板状凹凸面	22	大坪	SR	164	A-35	Ⅱ	中世～近世	波板 22	493	422	16
溝状遺構	35	大坪	SD	178	A-26	Ⅱ	中世～近世	溝 35	492	420	
溝状遺構	36	大坪	SD	179	A-26	Ⅱ	中世～近世	溝 36	492	420	
溝状遺構	37	大坪	SD	16	B-19		～近代	溝 37	85	63	
溝状遺構	38	大坪	SD	17	B-16		～近代	溝 38	76	54	
溝状遺構	39	大坪	SD	44	D-23B-20	I a	近代以降	溝 39	494	423	
溝状遺構	40	大坪	SD	13	B-20		近世?	溝 40	494	423	52
溝状遺構	41	見入来	SX	8	B-2～D-6	I～II	中世～江戸	溝 41	495	10,11	
溝状遺構	42	大坪	SR	2	D-8		近代	溝 42	64	42	20
溝状遺構	43	大坪	SD	14	C-19・B-20		近代以降	溝 43	497	424	52
溝状遺構	44	大坪	SD	15	C-19		近代以降	溝 44	497	424	
石列		見入来	SX	7	C-4～D-6	I	江戸～明治	石列	53	11	50

表9 遺構一覧表（発掘調査時の遺構名順）

遺跡名	発掘調査時の遺構名	本報告書での遺構名
榎木田	SK 1	土坑 52
榎木田	SK 2	土坑 46
榎木田	SK 3	土坑 45
榎木田	SK 4	土坑 34
榎木田	SK 5	土坑 37
榎木田	SK 6	土坑 38
榎木田	SP 7	土坑 35
榎木田	SK 8	土坑 36
榎木田	SK 9	土坑 43
榎木田	SK 10	土坑 47
榎木田	SK 11	土坑 48
榎木田	SK 12	土坑 49
榎木田	SK 13	ビット 13
榎木田	SK 14	ビット 14
榎木田	SK 15	土坑 42
榎木田	SK 16	土坑 39
榎木田	SK 17	土坑 40
榎木田	SK 18	土坑 41
榎木田	SK 19	土坑 44
榎木田	SK 20	土坑 50
榎木田	SP 21	ビット 15
榎木田	SK 22	土坑 51
榎木田	SK 23	土坑 56
榎木田	SK 24	土坑 54
榎木田	SK 25	土坑 55
榎木田	SK 26	土坑 53
榎木田	SF 27	焼土 11

見入来	SK 1	土坑 4
見入来	SS 2	石溜り 1
見入来	SS 3	石溜り 2
見入来	SF 4	焼土 5
見入来	SJ 5	埋設土器 29
見入来	SD 6	溝状遺構 3
見入来	SX 7	石列
見入来	SX 8	溝状遺構 41
見入来	SK 9	土坑 76
見入来	SK 10	土坑 77
見入来	SK 11	土坑 78
見入来	SK 12	土坑 89
見入来	SK 13	土坑 91
見入来	SK 14	土坑 90
見入来	SK 15	土坑 92
見入来	SK 16	土坑 79
見入来	SK 17	土坑 93
見入来	SK 18	土坑 94
見入来	SK 19	土坑 95
見入来	SK 20	土坑 96
見入来	SK 21	土坑 97
見入来	SK 22	土坑 98
見入来	SK 23	土坑 99
見入来	SK 24	焼成土坑 3
見入来	SK 25	土坑 101
見入来	SK 26	土坑 102
見入来	SK 27	土坑 104
見入来	SK 28	土坑 103
見入来	SK 29	土坑 105
見入来	SK 30	土坑 106
見入来	SK 31	土坑 107
見入来	SK 32	土坑 108
見入来	SK 33	土坑 109
見入来	SK 34	土坑 110
見入来	SK 35	土坑 111
見入来	SK 36	土坑 112
見入来	SK 37	土坑 113
見入来	SK 38	土坑 117
見入来	SK 39	土坑 118
見入来	SK 40	土坑 114
見入来	SK 41	土坑 115
見入来	SK 42	土坑 116
見入来	SK 43	土坑 129
見入来	SK 44	土坑 130
見入来	SK 45	土坑 131
見入来	SK 46	土坑 124
見入来	SK 47	土坑 125
見入来	SK 48	土坑 122
見入来	SK 49	土坑 123
見入来	SK 50	土坑 81
見入来	SK 51	土坑 119
見入来	SK 52	土坑 120
見入来	SK 53	土坑 121
見入来	SK 54	土坑 126
見入来	SK 55	土坑 127
見入来	SK 56	土坑 128
見入来	SK 57	土坑 82
見入来	SK 58	土坑 136
見入来	SK 59	土坑 132
見入来	SK 60	土坑 133
見入来	SK 61	土坑 134
見入来	SK 62	土坑 135
見入来	SK 63	土坑 83
見入来	SK 64	土坑 84
見入来	SK 65	土坑 86
見入来	SK 66	土坑 85
見入来	SK 67	土坑 87
見入来	SK 68	土坑 137
見入来	SK 69	土坑 138
見入来	SK 70	土坑 139
見入来	SK 71	土坑 140
見入来	SK 72	土坑 141
見入来	SK 73	土坑 142
見入来	SK 74	土坑 143
見入来	SK 75	土坑 144
見入来	SK 76	土坑 145
見入来	SK 77	土坑 146
見入来	SK 78	土坑 149

遺跡名	発掘調査時の遺構名	本報告書での遺構名
見入来	SK 79	土坑 147
見入来	SK 80	土坑 148
見入来	SD 81	溝状遺構 2
見入来	SK 82	土坑 80
見入来	SK 83	土坑 88
見入来	SJ 84	埋設土器 30

大坪	SD 1	溝状遺構 14
大坪	SR 2	溝状遺構 42
大坪	SJ 3	埋設土器 17
大坪	SJ 4	埋設土器 12
大坪	SJ 5	埋設土器 13
大坪	SJ 6	埋設土器 8
大坪	SJ 7	埋設土器 18
大坪	SJ 8	埋設土器 6
大坪	SJ 9	埋設土器 16
大坪	SJ 10	埋設土器 26
大坪	SJ 11	埋設土器 32
大坪	SJ 12	埋設土器 15
大坪	SD 13	溝状遺構 40
大坪	SD 14	溝状遺構 43
大坪	SD 15	溝状遺構 44
大坪	SD 16	溝状遺構 37
大坪	SD 17	溝状遺構 38
大坪	SF 18	焼土 7
大坪	SF 19	焼土 6
大坪	SF 20	SX81と同一
大坪	SK 21	土坑 150
大坪	SD 22	溝状遺構 11
大坪	SD 23	溝状遺構 12
大坪	SD 24	溝状遺構 32
大坪	SR 25	波板状凹凸面 2
大坪	SR 26	波板状凹凸面 1
大坪	SR 27	波板状凹凸面 7
大坪	SX 28	ビット 1
大坪	SH 29	竪穴住居
大坪	SJ 30	埋設土器 22
大坪	SJ 31	埋設土器 14
大坪	SF 32	焼土 1
大坪	SJ 33	埋設土器 7
大坪	SK 34	土坑 57
大坪	SK 35	土坑 58
大坪	SK 36	土坑 59
大坪	SK 37	土坑 60
大坪	SJ 38	埋設土器 4
大坪	SJ 39	埋設土器 10
大坪	SJ 40	埋設土器 11
大坪	SJ 41	埋設土器 20
大坪	SJ 42	埋設土器 24
大坪	SD 43	溝状遺構 1
大坪	SD 44	溝状遺構 39
大坪	SK 45	焼成土坑 3
大坪	SJ 46	埋設土器 28
大坪	SJ 47	埋設土器 33
大坪	SJ 48	供献土器 1
大坪	SJ 49	埋設土器 23
大坪	SJ 50	埋設土器 25
大坪	SJ 51	埋設土器 34
大坪	SD 52	溝状遺構 20
大坪	SD 53	溝状遺構 18
大坪	SR 54	波板状凹凸面 8
大坪	SD 55	溝状遺構 17
大坪	SD 56	溝状遺構 19
大坪	SD 57	溝状遺構 21
大坪	SF 58	焼土 12
大坪	SP 59	ビット 16
大坪	SX 60	大型凹地
大坪	SD 61	溝状遺構 10
大坪	SD 62	溝状遺構 9
大坪	SD 63	溝状遺構 16
大坪	SD 64	溝状遺構 15
大坪	SD 65	溝状遺構 8
大坪	SF 66	焼土 10
大坪	SX 67	不明遺構 1
大坪	SD 68	溝状遺構 6
大坪	SK 69	不明遺構 6
大坪	SD 70	溝状遺構 4
大坪	SK 71	土坑 1
大坪	SR 72	波板状凹凸面 4
大坪	SF 73	焼土 15
大坪	SF 74	焼土 14
大坪	SX 75	不明遺構 3
大坪	SK 76	土坑 10
大坪	SK 77	土坑 18
大坪	SJ 78	埋設土器 19
大坪	SJ 79	埋設土器 3
大坪	SJ 80	埋設土器 9
大坪	SX 81	不明遺構 4
大坪	SF K 82	焼成土坑 1
大坪	SK 83	土坑 7
大坪	SK 84	土坑 6
大坪	SX 85	不明遺構 5
大坪	SP 86	ビット 3
大坪	SK 87	土坑 27
大坪	SK 88	土坑 33
大坪	SK 89	土坑 31
大坪	SK 90	土坑 30
大坪	SP 91	ビット 9
大坪	SK 92	土坑 28
大坪	SK 93	土坑 29
大坪	SP 94	ビット 8
大坪	SP 95	ビット 7
大坪	SK 96	土坑 26
大坪	SK 97	土坑 25
大坪	SK 98	土坑 23
大坪	SK 99	土坑 22

遺跡名	発掘調査時の遺構名	本報告書での遺構名
大坪	SK 100	土坑 21
大坪	SK 101	土坑 20
大坪	SK 102	土坑 19
大坪	SK 103	土坑 24
大坪	SK 104	土坑 17
大坪	SK 105	土坑 16
大坪	SK 106	土坑 15
大坪	SP 107	ビット 12
大坪	SP 108	ビット 11
大坪	SP 109	ビット 10
大坪	SK 110	土坑 14
大坪	SK 111	土坑 13
大坪	SK 112	土坑 12
大坪	SK 113	土坑 11
大坪	SK 114	土坑 32
大坪	SJ 115	埋設土器 5
大坪	SP 116	ビット 4
大坪	SF 117	不明遺構 2
大坪	SK 118	土坑 2
大坪	SJ 119	埋設土器 2
大坪	SF 120	焼土 4
大坪	SP 121	ビット 2
大坪	SP 122	ビット 6
大坪	SP 123	ビット 5
大坪	SJ 124	埋設土器 1
大坪	SJ 125	埋設土器 37
大坪	SJ 126	埋設土器 36
大坪	SF 127	焼土 3
大坪	SJ 128	埋設土器 35
大坪	SJ P 129	供献土器 2
大坪	SJ 130	埋設土器 21
大坪	SJ 131	埋設土器 31
大坪	SD 132	溝状遺構 5
大坪	SF K 133	焼成土坑 2
大坪	SK 134	土坑 8
大坪	SK 135	土坑 9
大坪	SD 136	溝状遺構 7
大坪	SB 137	掘立柱建物跡 3
大坪	SK 138	土坑 5
大坪	SK 139	土坑 63
大坪	SK 140	土坑 64
大坪	SD 141	溝状遺構 33
大坪	SD 142	溝状遺構 31
大坪	SD 143	溝状遺構 29
大坪	SD 144	溝状遺構 30
大坪	SD 145	溝状遺構 24
大坪	SD 146	溝状遺構 22
大坪	SK 147	土坑 67
大坪	SK 148	土坑 61
大坪	SX 149	不明遺構 7
大坪	SX 150	不明遺構 8
大坪	SK 151	土坑 62
大坪	SK 152	土坑 66
大坪	SK 153	土坑 70
大坪	SK 154	土坑 69
大坪	SK 155	土坑 68
大坪	SR 156	波板状凹凸面 13
大坪	SR 157	波板状凹凸面 14
大坪	SR 158	波板状凹凸面 15
大坪	SR 159	波板状凹凸面 16
大坪	SR 160	波板状凹凸面 17
大坪	SR 161	波板状凹凸面 19
大坪	SR 162	波板状凹凸面 20
大坪	SR 163	波板状凹凸面 21
大坪	SR 164	波板状凹凸面 22
大坪	SR 165	波板状凹凸面 18
大坪	SB 166	掘立柱建物跡 1
大坪	SK 167	土坑 65
大坪	SD 168	溝状遺構 23
大坪	SK 169	土坑 3
大坪	SF 170	焼土 9
大坪	SF 171	焼土 8
大坪	SF 172	焼土 16
大坪	SF 173	焼土 2
大坪	SF 174	焼土 13
大坪	SJ 175	埋設土器 27
大坪	SR 176	波板状凹凸面 5
大坪	SR 177	波板状凹凸面 12
大坪	SD 178	溝状遺構 35
大坪	SD 179	溝状遺構 36
大坪	SD 180	溝状遺構 34
大坪	SD 181	溝状遺構 13
大坪	SR 182	波板状凹凸面 3
大坪	SK 183	土坑 72
大坪	SK 184	土坑 73
大坪	SK 185	土坑 74
大坪	SK 186	土坑 75
大坪	SB 187	掘立柱建物跡 2
大坪	SB 188	掘立柱建物跡 7
大坪	SB 189	掘立柱建物跡 6
大坪	SB 190	掘立柱建物跡 4
大坪	SR 191	波板状凹凸面 6
大坪	SK 192	土坑 71
大坪	SF 193	凹地
大坪	SF 194	焼土 18
大坪	SR 195	波板状凹凸面 11
大坪	SR 196	波板状凹凸面 10
大坪	SR 197	波板状凹凸面 9
大坪	SB 198	掘立柱建物跡 8
大坪	SB 199	掘立柱建物跡 5
大坪	SB 200	掘立柱建物跡 9
大坪	SD 201	溝状遺構 28
大坪	SD 202	溝状遺構 26
大坪	SD 203	溝状遺構 25
大坪	SF 204	焼土 17
大坪	SD 205	溝状遺構 27

## 第2節 遺跡の層位

本遺跡の層序および遺物包含層・年代・文化などの関係は下記のとおりである。なお、注意すべき点として、沖積地の土層は台地上の遺跡とは異なり、当時の表層の状態によって同じ時期の堆積層でも色調・土質が異なることがある。例えば、水が表土にたまっているところとそうでないところでは同じ時期に堆積をしていても色調や性質が異なる場合がある。また植えられた植物によっても土質が変わった可能性がある。そのため以下で説明する層序については、どの地点でも通用するが、地点によっては間が抜けていたり、上がとんでいたりすることがあることを断っておきたい。

**I層**：耕作土。灰茶褐色土。各時代の遺物が耕作等により攪乱された状態で出土する。

**I b層**：黒灰色粘質土。

**II層**：青灰色または黄色粘土。黄色の土は水田の基盤であり、酸化土である。粒子が細かく、乾燥すると非常に硬い。

**II b層**：青灰色砂質土。粒子が粗く、炭化物を含む。古代から中世の包含層。

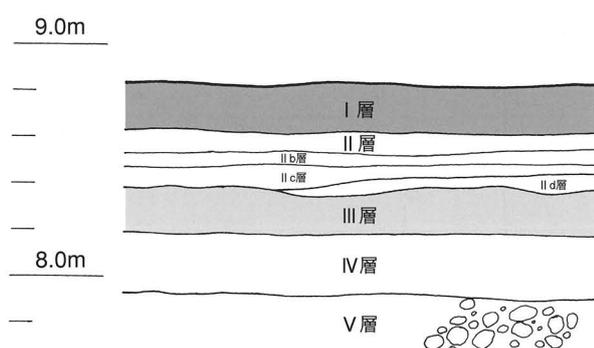
**II c層**：炭化物混入青灰色粘質土。砂を多く含み、粒子が粗い暗黄灰色の部分もある。古代～中世の包含層。大坪遺跡32区以南では、鋤痕とみられる層もこの層にある。

**II d層**：黄褐色粘土。古代末から中世の水田基盤に伴う酸化土とも考えられる。古代末から中世初頭の遺構には、この層の下面で掘り込まれたものと、上面から掘り込まれたものがあるが、水田基盤とすれば層位的な前後関係には使えないことになる。

**III層**：灰黄褐色粘質土。マンガン分が少量混入している。古代及び縄文時代後期終末から晩期前半の遺物包含層。III b・III' も同質の層である。

**IV層**：茶褐色砂質土。マンガン分が密集して混入している。上部に縄文時代後期終末から晩期前半の遺物が少量みられる。

**V層**：青灰色砂質土。場所によっては拳大の円礫が集中する。無遺物層である。



第9図 大坪遺跡土層模式図 (B-21区を基に作成)

## 第3節 各グリッドの状況

榎木田遺跡・見入来遺跡を含めた大坪遺跡全体の調査区域は南北820mに渡っており、しかも縄文時代後期から近代まで長期間営まれた生活痕跡が重複している。これらの点を考慮しながら、過不足なく発掘成果を報告しなければならないことから、時期を色分けすると共に2種類の縮尺の図を提示することとする。一つは400分の一の図で、南北4グリッド分の遺構配置を示し(第10図～第18図)、もう一つは150分の一の縮尺で、各グリッドごとに土層断面図及び遺物出土状況も含めて提示してある(第19図～第102図)。色分けやドット種類については、凡例に示したとおりである。

### 03区～01区：榎木田遺跡

この区域では古代を中心に遺構や遺物が見つかった。建物跡や溝状遺構は見出せず、この区域全体の性格を明らかにすることはできなかった。条里型地割については、昭和40年代以前の地籍図でも方向が磁北よりも11度西側に向いている。

### 1区～7区：見入来遺跡

中央部分を昭和40年代まであった川跡が南北に貫いていて、これより西側での残存状況は良くなかった。縄文時代の遺構や遺物は北側に残っていた。中世後半から近世初期ぐらいに位置づけられると考えられる土坑が東側に集中して検出された。

### 11区～18区：大坪遺跡

14区～16区にかけての東側は、古代前半の遺構や遺物が集中して出土し、この区域が当時の重要な地域であったことが窺える。縄文時代の遺構及び遺物もこの区域には多く、立地の上で共通した利点があったと考えられる。地形図をみると、この地点には谷が入り込まず、安定した微高地であったことが窺える。縄文時代後期終末の上加世田式土器が主体を占め、大坪遺跡で最古の生活痕跡はここにある。

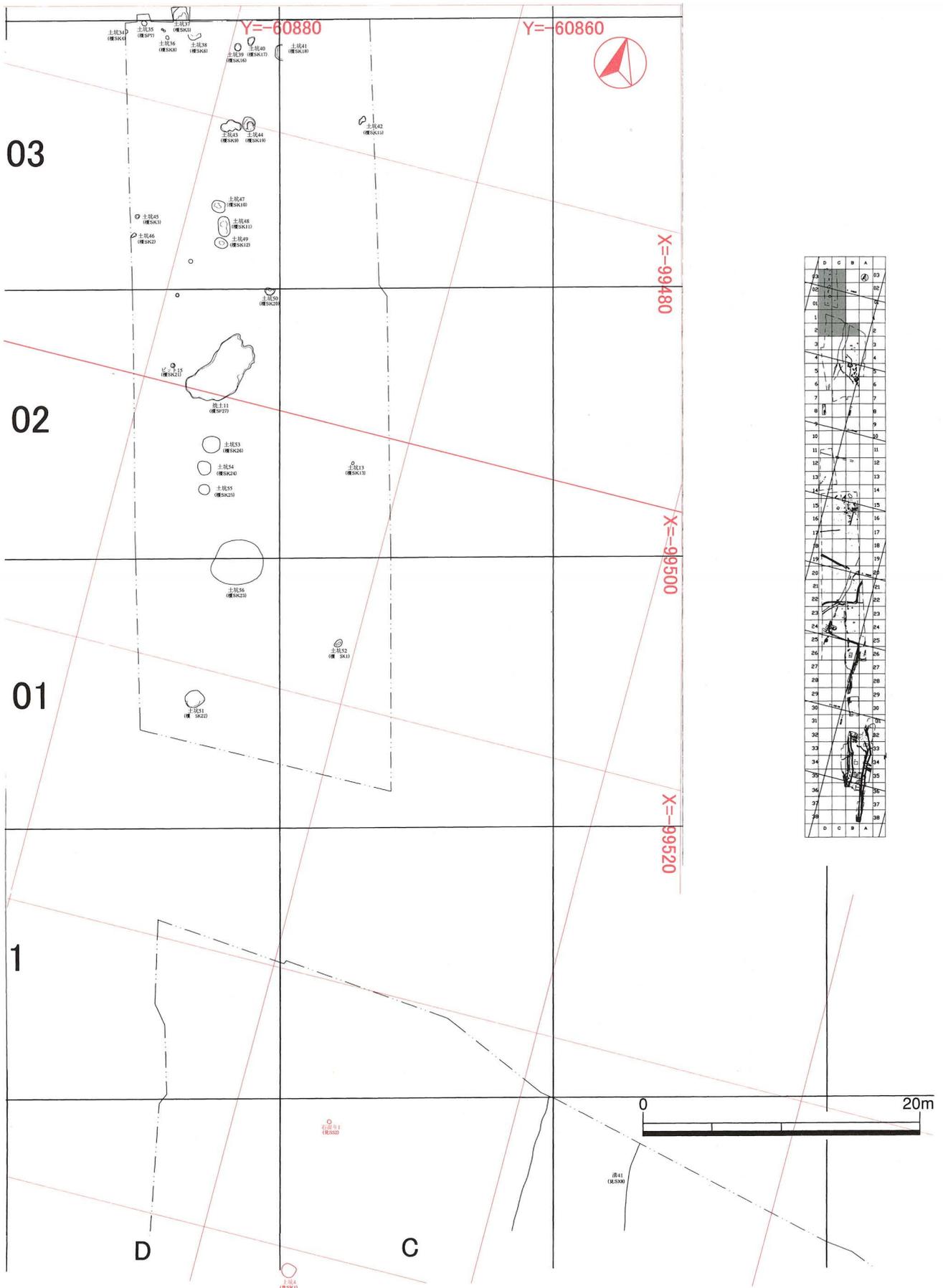
### 19区～30区：大坪遺跡

際立った遺構集中及び遺物点数はないものの、縄文時代・古代前半・古代後半～中世にかけて、それぞれの営みがあった区域である。縄文時代晩期前半の入佐式土器は24区周辺に、晩期中半から後半の黒川式土器は21区を中心に出土している。古代前半は22区～24区にかけて、生活痕跡がみられる。また、道跡と考えられる溝状遺構もあり、条里型地割施工前後の様相が窺える。

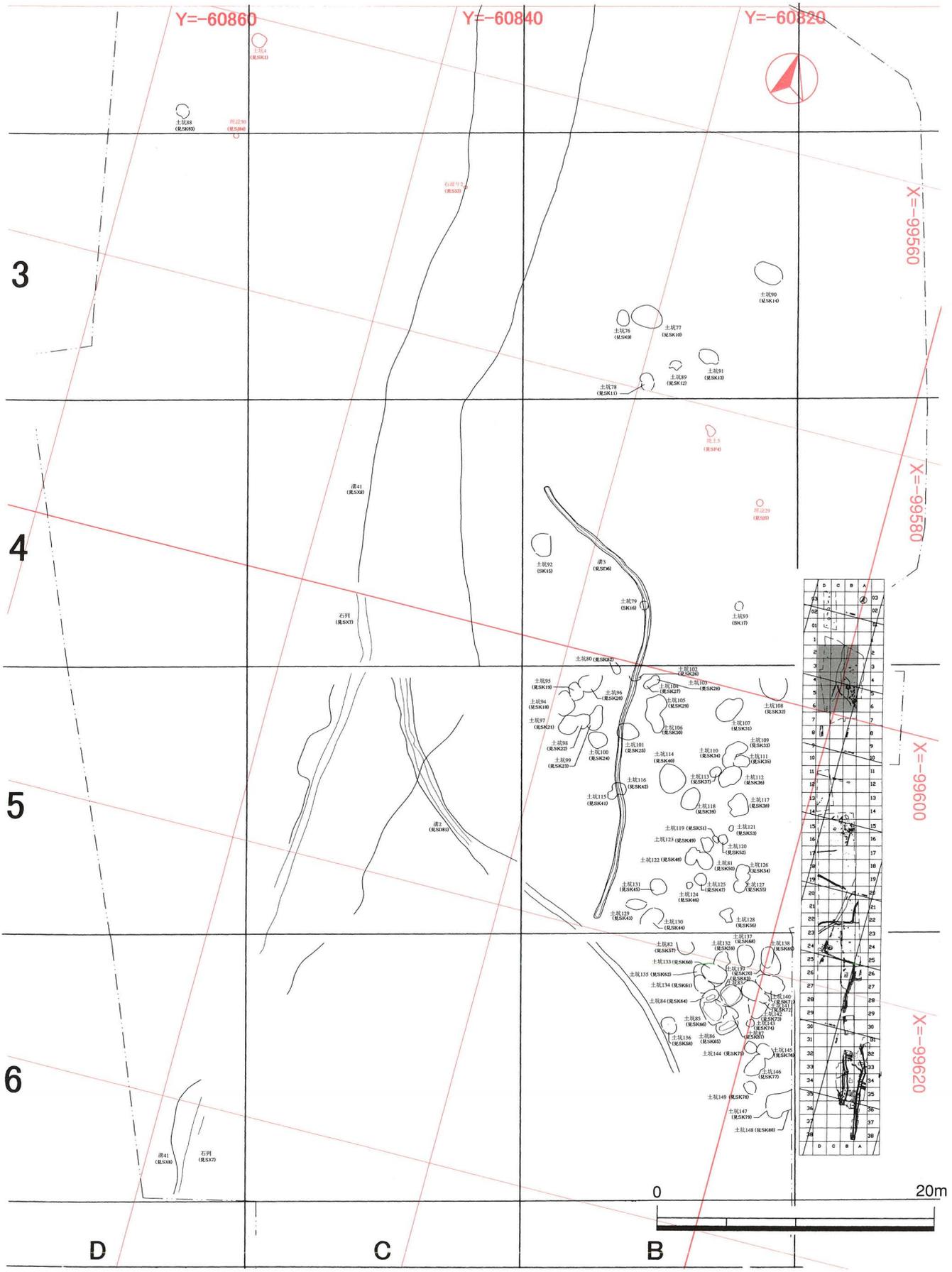
### 31区～38区：大坪遺跡

この区域では、古代後半から中世前半の生活痕跡が集中して確認できた。掘立柱建物跡及び道跡と考えられる溝状遺構の方向が2通りみられ、条里型地割の施工前と施工後の様相を窺うことができる。

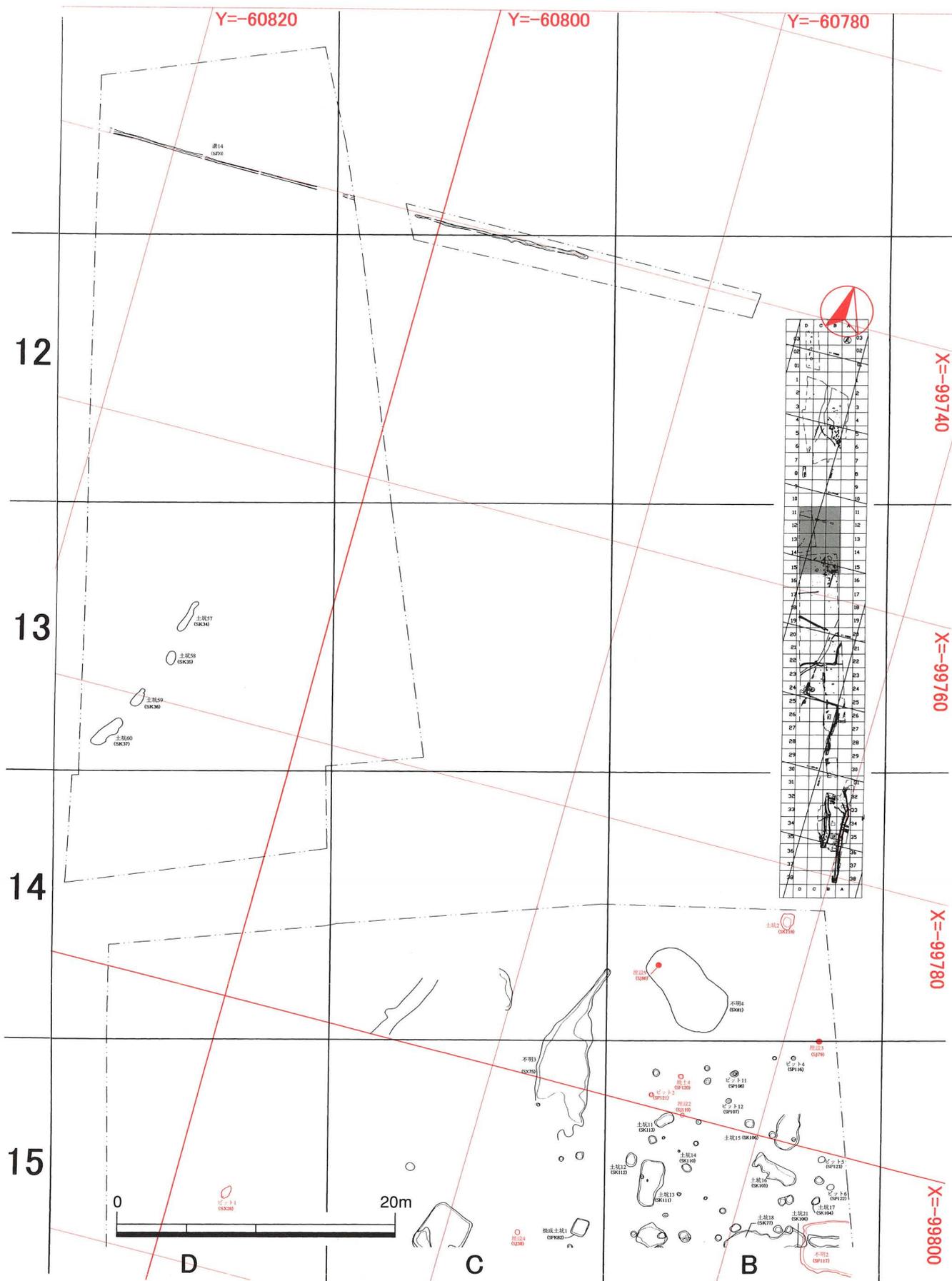




第10図 遺構配置図 (1) 03区~2区



第11図 遺構配置図 (2) 2区~6区

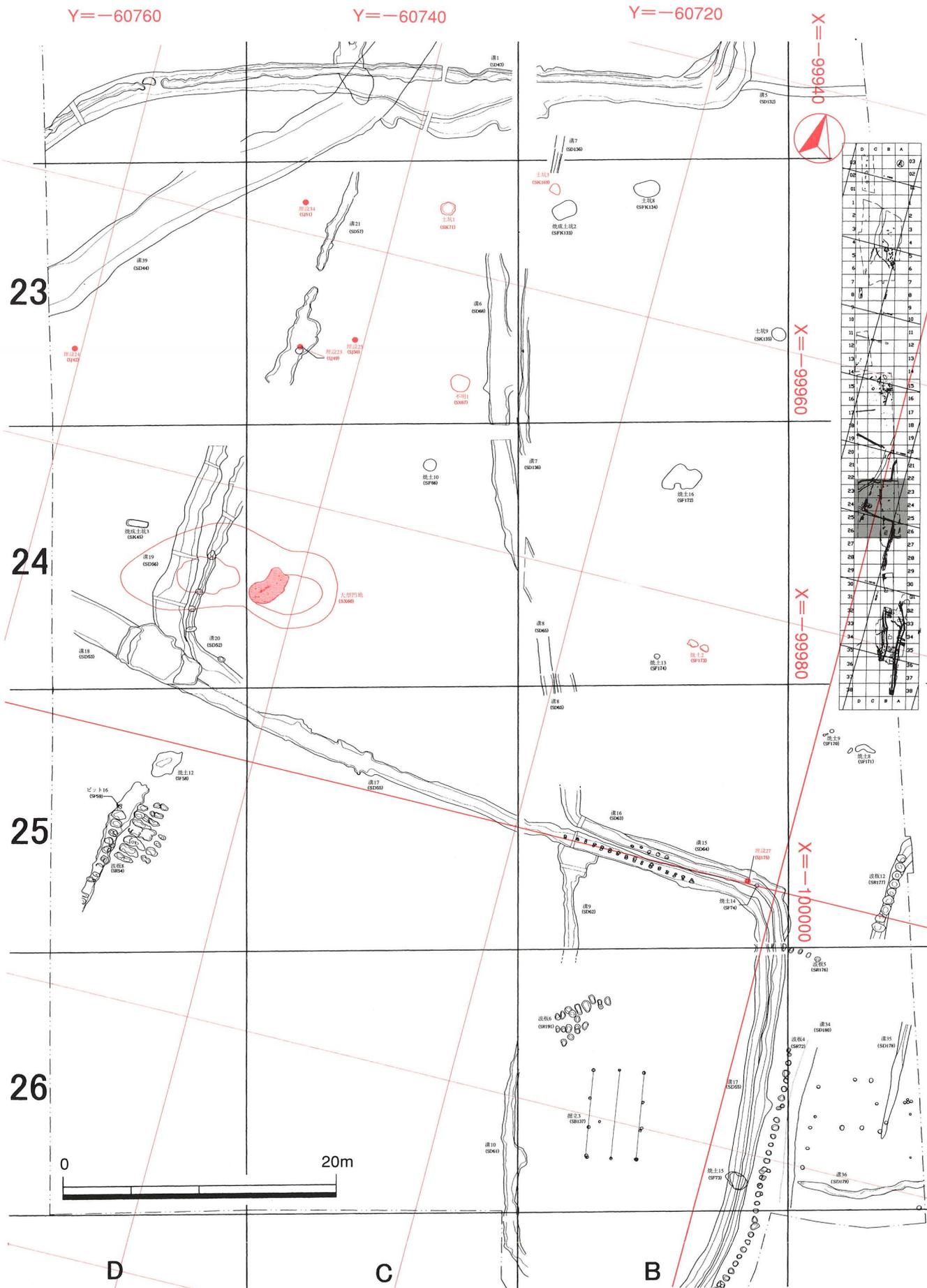


第12図 遺構配置図 (3) 11区~15区



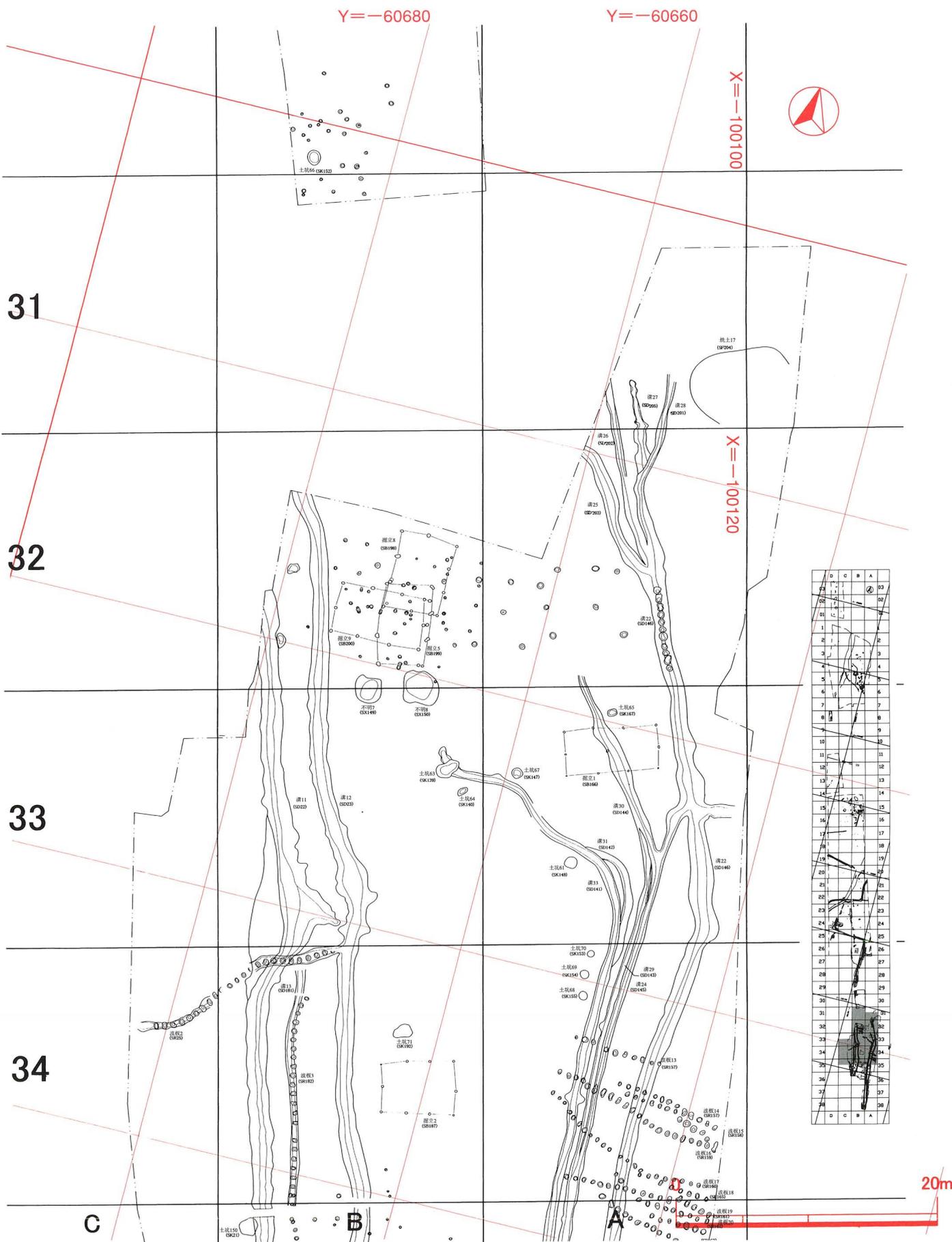


第14図 遺構配置図 (5) 19区~22区



第15図 遺構配置図 (6) 23区~26区





第17図 遺構配置図 (8) 31区~34区



Y=-60680

Y=-60660

X=-100160

X=-100180

X=-100200

X=-100220

34

35

36

37

38



D	C	B	A	23
23	24	25	26	27
28	29	30	31	32
33	34	35	36	37
38	39	40	41	42
43	44	45	46	47
48	49	50	51	52
53	54	55	56	57
58	59	60	61	62
63	64	65	66	67
68	69	70	71	72
73	74	75	76	77
78	79	80	81	82
83	84	85	86	87
88	89	90	91	92
93	94	95	96	97
98	99	100	101	102
103	104	105	106	107
108	109	110	111	112
113	114	115	116	117
118	119	120	121	122
123	124	125	126	127
128	129	130	131	132
133	134	135	136	137
138	139	140	141	142
143	144	145	146	147
148	149	150	151	152
153	154	155	156	157
158	159	160	161	162
163	164	165	166	167
168	169	170	171	172
173	174	175	176	177
178	179	180	181	182
183	184	185	186	187
188	189	190	191	192
193	194	195	196	197
198	199	200	201	202
203	204	205	206	207
208	209	210	211	212
213	214	215	216	217
218	219	220	221	222
223	224	225	226	227
228	229	230	231	232
233	234	235	236	237
238	239	240	241	242
243	244	245	246	247
248	249	250	251	252
253	254	255	256	257
258	259	260	261	262
263	264	265	266	267
268	269	270	271	272
273	274	275	276	277
278	279	280	281	282
283	284	285	286	287
288	289	290	291	292
293	294	295	296	297
298	299	300	301	302
303	304	305	306	307
308	309	310	311	312
313	314	315	316	317
318	319	320	321	322
323	324	325	326	327
328	329	330	331	332
333	334	335	336	337
338	339	340	341	342
343	344	345	346	347
348	349	350	351	352
353	354	355	356	357
358	359	360	361	362
363	364	365	366	367
368	369	370	371	372
373	374	375	376	377
378	379	380	381	382
383	384	385	386	387
388	389	390	391	392
393	394	395	396	397
398	399	400	401	402
403	404	405	406	407
408	409	410	411	412
413	414	415	416	417
418	419	420	421	422
423	424	425	426	427
428	429	430	431	432
433	434	435	436	437
438	439	440	441	442
443	444	445	446	447
448	449	450	451	452
453	454	455	456	457
458	459	460	461	462
463	464	465	466	467
468	469	470	471	472
473	474	475	476	477
478	479	480	481	482
483	484	485	486	487
488	489	490	491	492
493	494	495	496	497
498	499	500	501	502
503	504	505	506	507
508	509	510	511	512
513	514	515	516	517
518	519	520	521	522
523	524	525	526	527
528	529	530	531	532
533	534	535	536	537
538	539	540	541	542
543	544	545	546	547
548	549	550	551	552
553	554	555	556	557
558	559	560	561	562
563	564	565	566	567
568	569	570	571	572
573	574	575	576	577
578	579	580	581	582
583	584	585	586	587
588	589	590	591	592
593	594	595	596	597
598	599	600	601	602
603	604	605	606	607
608	609	610	611	612
613	614	615	616	617
618	619	620	621	622
623	624	625	626	627
628	629	630	631	632
633	634	635	636	637
638	639	640	641	642
643	644	645	646	647
648	649	650	651	652
653	654	655	656	657
658	659	660	661	662
663	664	665	666	667
668	669	670	671	672
673	674	675	676	677
678	679	680	681	682
683	684	685	686	687
688	689	690	691	692
693	694	695	696	697
698	699	700	701	702
703	704	705	706	707
708	709	710	711	712
713	714	715	716	717
718	719	720	721	722
723	724	725	726	727
728	729	730	731	732
733	734	735	736	737
738	739	740	741	742
743	744	745	746	747
748	749	750	751	752
753	754	755	756	757
758	759	760	761	762
763	764	765	766	767
768	769	770	771	772
773	774	775	776	777
778	779	780	781	782
783	784	785	786	787
788	789	790	791	792
793	794	795	796	797
798	799	800	801	802
803	804	805	806	807
808	809	810	811	812
813	814	815	816	817
818	819	820	821	822
823	824	825	826	827
828	829	830	831	832
833	834	835	836	837
838	839	840	841	842
843	844	845	846	847
848	849	850	851	852
853	854	855	856	857
858	859	860	861	862
863	864	865	866	867
868	869	870	871	872
873	874	875	876	877
878	879	880	881	882
883	884	885	886	887
888	889	890	891	892
893	894	895	896	897
898	899	900	901	902
903	904	905	906	907
908	909	910	911	912
913	914	915	916	917
918	919	920	921	922
923	924	925	926	927
928	929	930	931	932
933	934	935	936	937
938	939	940	941	942
943	944	945	946	947
948	949	950	951	952
953	954	955	956	957
958	959	960	961	962
963	964	965	966	967
968	969	970	971	972
973	974	975	976	977
978	979	980	981	982
983	984	985	986	987
988	989	990	991	992
993	994	995	996	997
998	999	1000	1001	1002

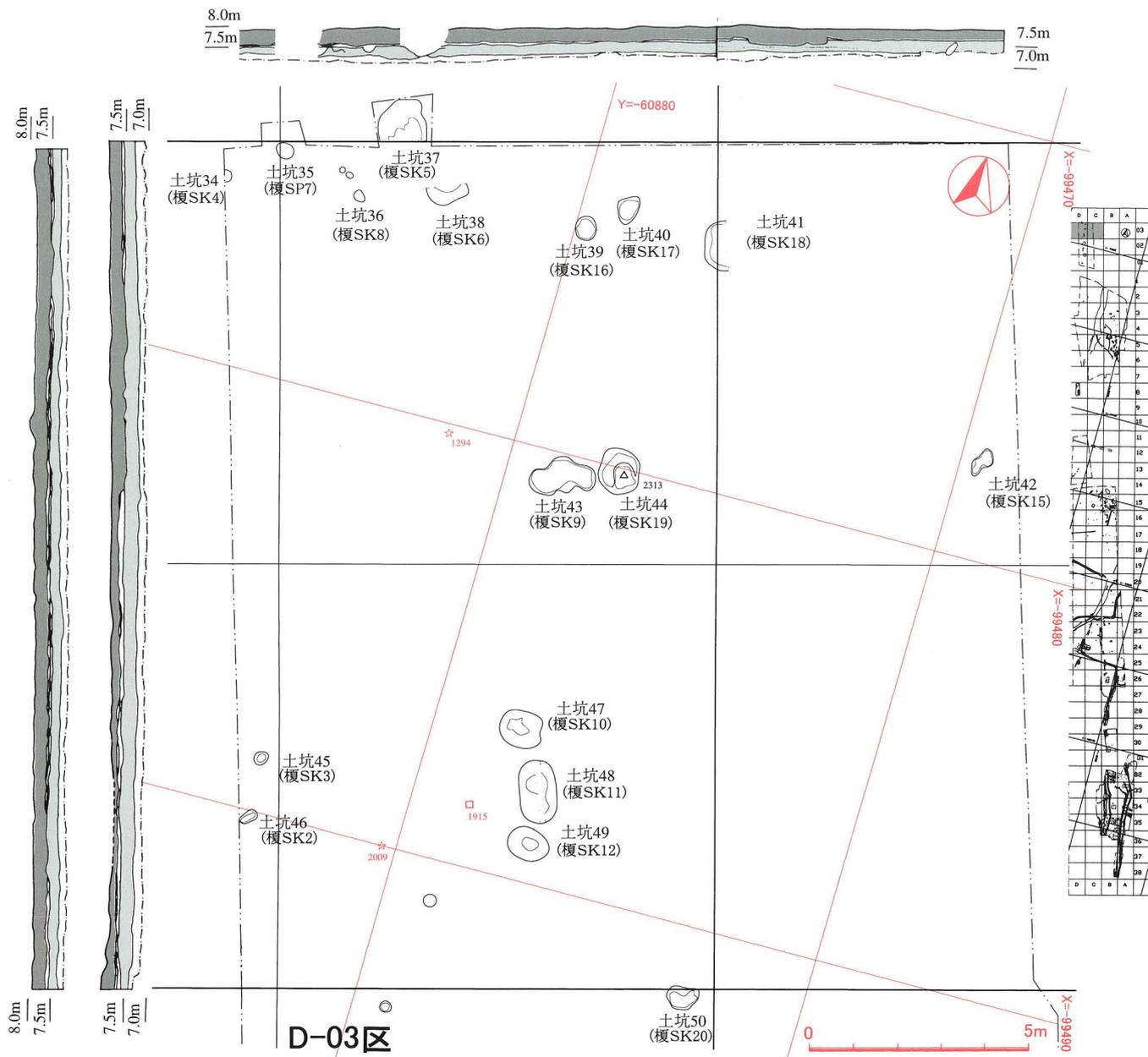


C

B

A

第18図 遺構配置図 (9) 35区~38区



第19図 遺構検出及び遺物出土状況 (1) D・C-03区

**D-03区**

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.56m、低い所で7.5mである。Ⅱ層はその堆積状況から、Ⅱa・Ⅱc層とした。北側壁面では、6か所の樹根を確認した。

この範囲から、古代の土坑46 (榎SK 2)・45 (榎SK 3)・34 (榎SK 4)・37 (榎SK 5)・38 (榎SK 6)・36 (榎SK 8)・43 (榎SK 9)・47 (榎SK10)・48 (榎SK11)・49 (榎SK12)・42 (榎SK16)・40 (榎SK17)・44 (榎SK19)・35 (榎SP 7) を検出した。榎木田遺跡の範囲内では最も遺構が集中した地域であり、北側にも広がるのが予想された。しかし、確認調査を踏まえて設定された範囲であり、溝状遺構と違って連続性を強調することが出来ない遺構であるので、各遺構を完掘

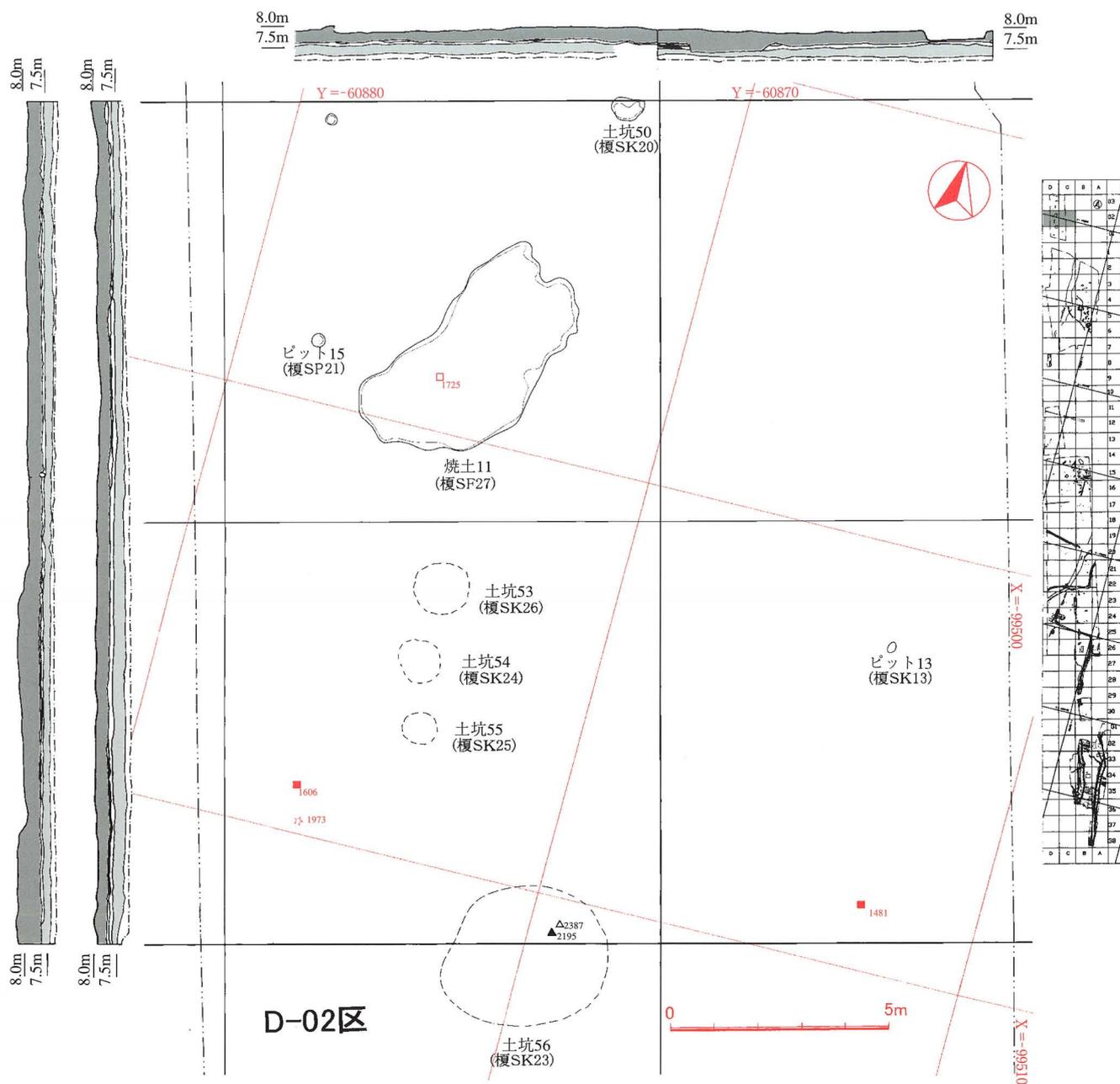
するにとどまった。

遺物の出土状況は、西寄りに広がっており、縄文時代の石器類が出土している。

**C-03区**

北側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.64m、低い所で7.5mである。Ⅱ層はその堆積状況から、Ⅱa・Ⅱc層とした。北側壁面の0.7m～2.5mの地点は、10年度の確認調査のため削平を受けていた。

この範囲からは、古代のものとも思われる土坑42 (榎SK15)・44 (榎SK19) を検出した。遺物の出土状況は、散漫で少なかった。



第20図 遺構検出及び遺物出土状況 (2) D・C-02区

#### D-02区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.6m、低い所で7.5mである。Ⅱ層はその堆積状況から、Ⅱa・Ⅱc層とした。

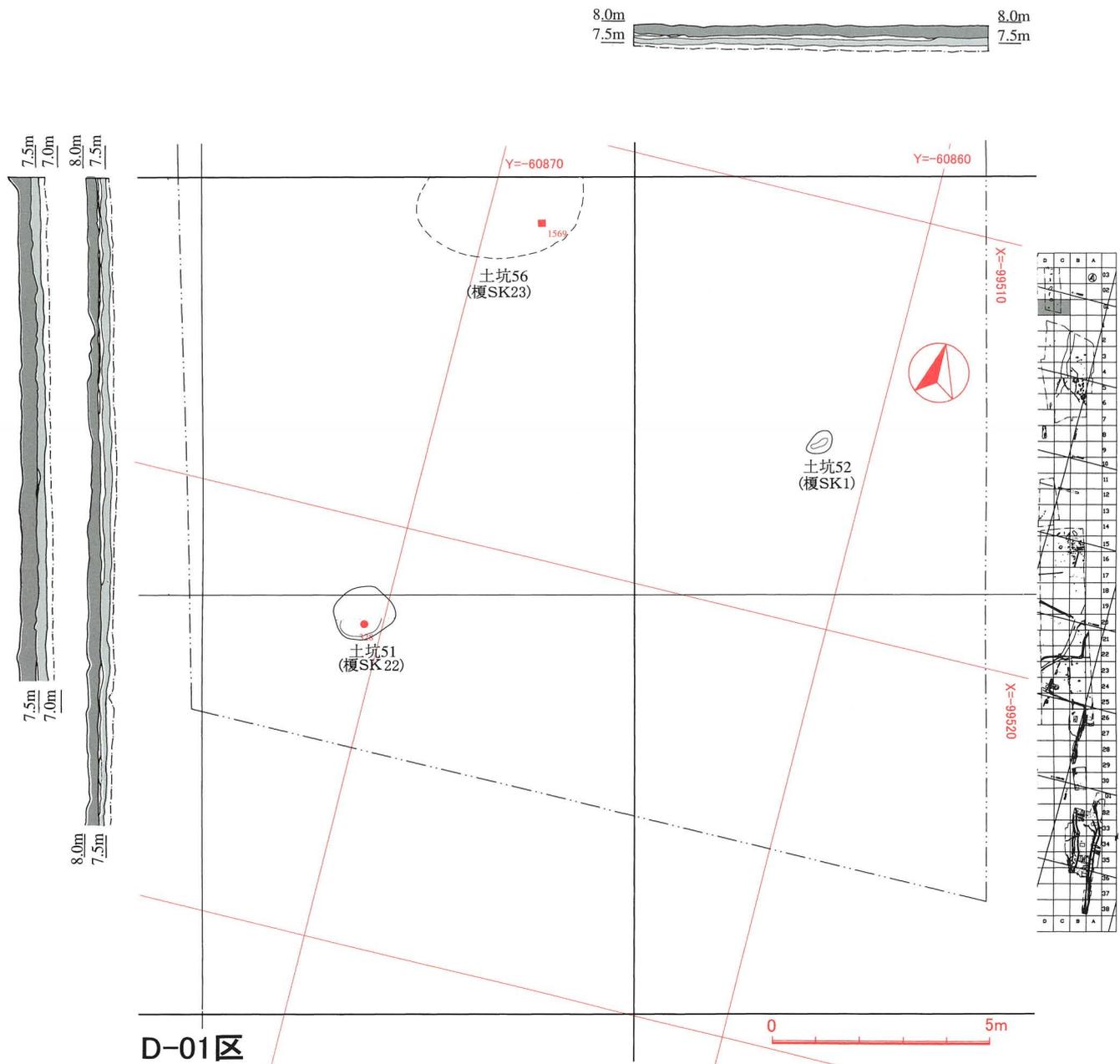
この範囲から、古代のピット14 (榎SK14)、土坑50 (榎SK20)・56 (榎SK23)・54 (榎SK24)・55 (榎SK25)、古代のものと思われるピット15 (榎SP21)、同じく古代のものと思われる焼土を伴う土坑11 (榎SF27)を検出した。

遺物の出土状況は、比較的少ないが、南北に広がっており、点在する形で出土している。縄文時代の石器や古代の土師器がある。

#### C-02区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.68m、低い所で7.5mである。Ⅱ層はその堆積状況から、Ⅱa・Ⅱc層とした。北側壁面の0.7m~2.4mの地点は、平成10年度の調査の確認トレンチのため、削平を受けていた。また、6.2m~7.7mの地点も削平を受けていた。

この範囲から、古代のピット13 (榎SK13)を検出した。遺物の出土状況は、南北に広がって出土している。



第21図 遺構検出及び遺物出土状況 (3) D・C-01区

#### D-01区

西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.6m、低い所で7.5mである。Ⅱ層はその堆積状況からⅡc層とした。Ⅱ層の堆積は薄く、この壁面でⅡ層は11.6m中1.34mしかなく、厚さ4cm～8cmしか確認できなかった。

この範囲から、古代の土坑51 (榎SK22)・53 (榎SK26) を検出した。

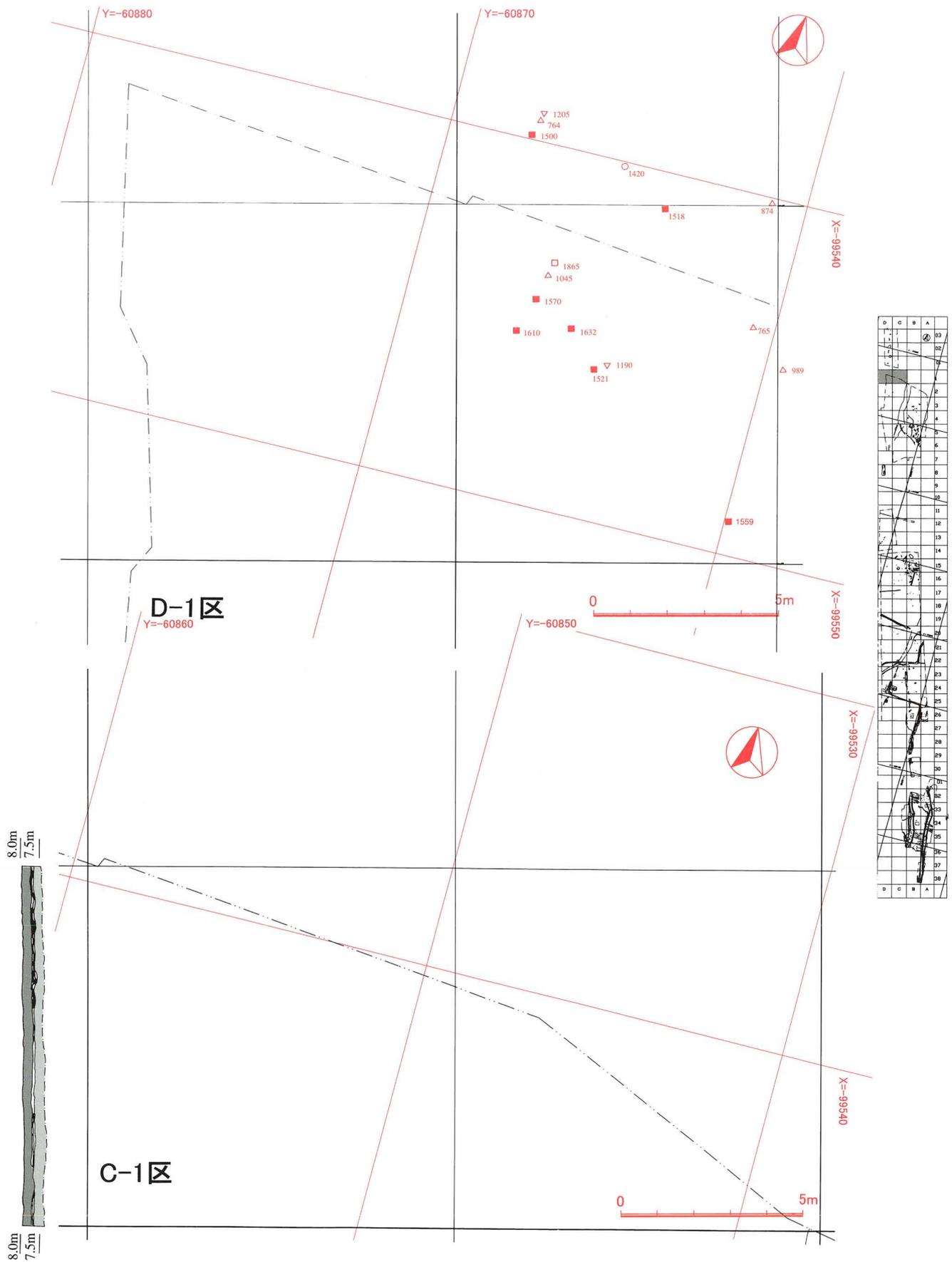
遺物の出土状況は、南側に多く、特に集中して出土している。縄文時代の石器類が出土した。

#### C-01区

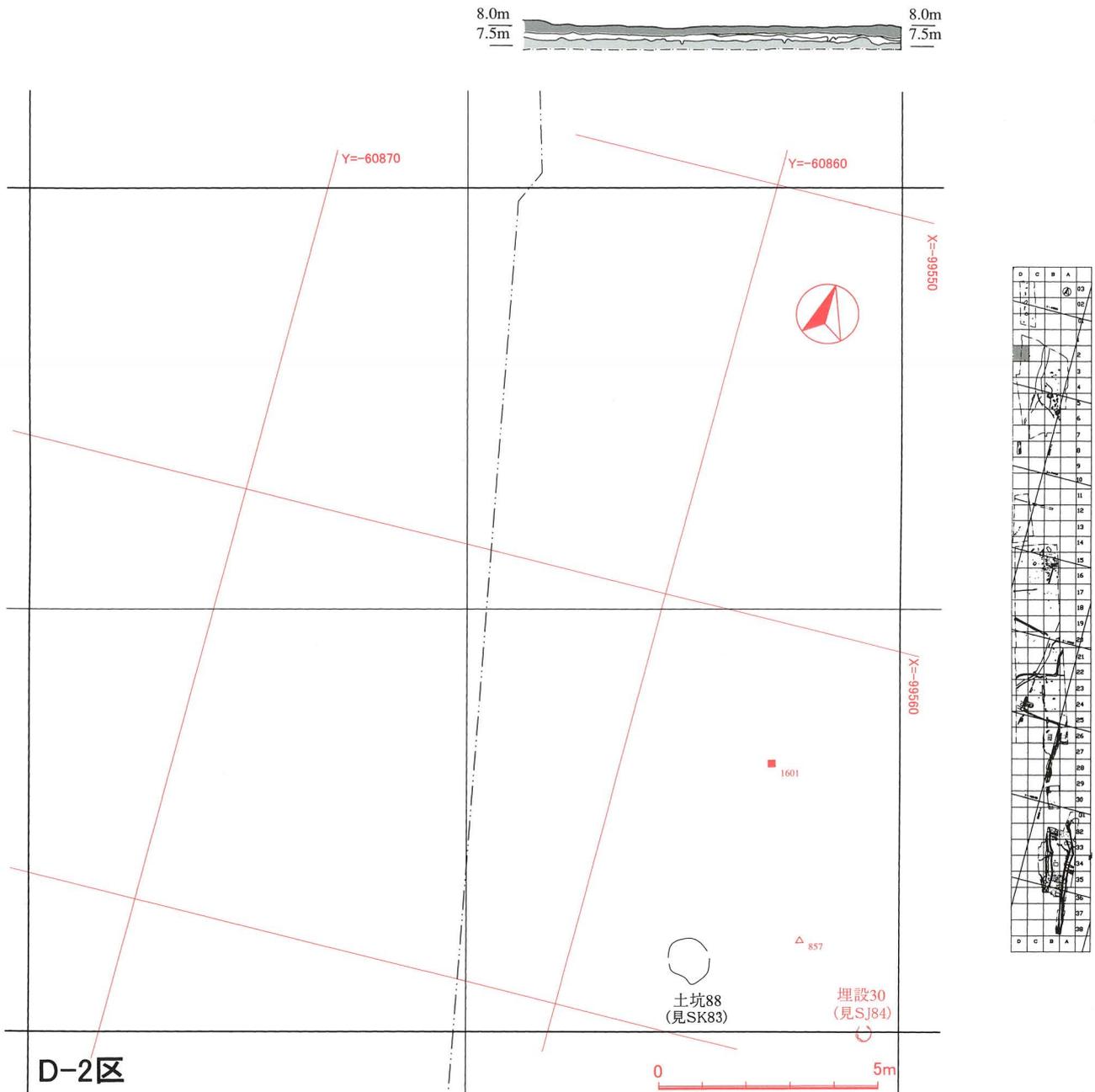
北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.6m、低い所で7.52mである。Ⅱ層はその堆積状況から、Ⅱa・Ⅱc層とした。西側壁面の0～4.5mの地点には、現在も当地域で使用される排水溝があったため、調査ができなかった。

この範囲から、古代の土坑52 (榎SK1) を検出した。

遺物の出土状況は、比較的出土遺物は少なく、南側からの出土が多い。縄文時代の石器類が出土した。



第22図 遺構検出及び遺物出土状況 (4) D・C-1区



第23図 遺構検出及び遺物出土状況 (5) D-2区

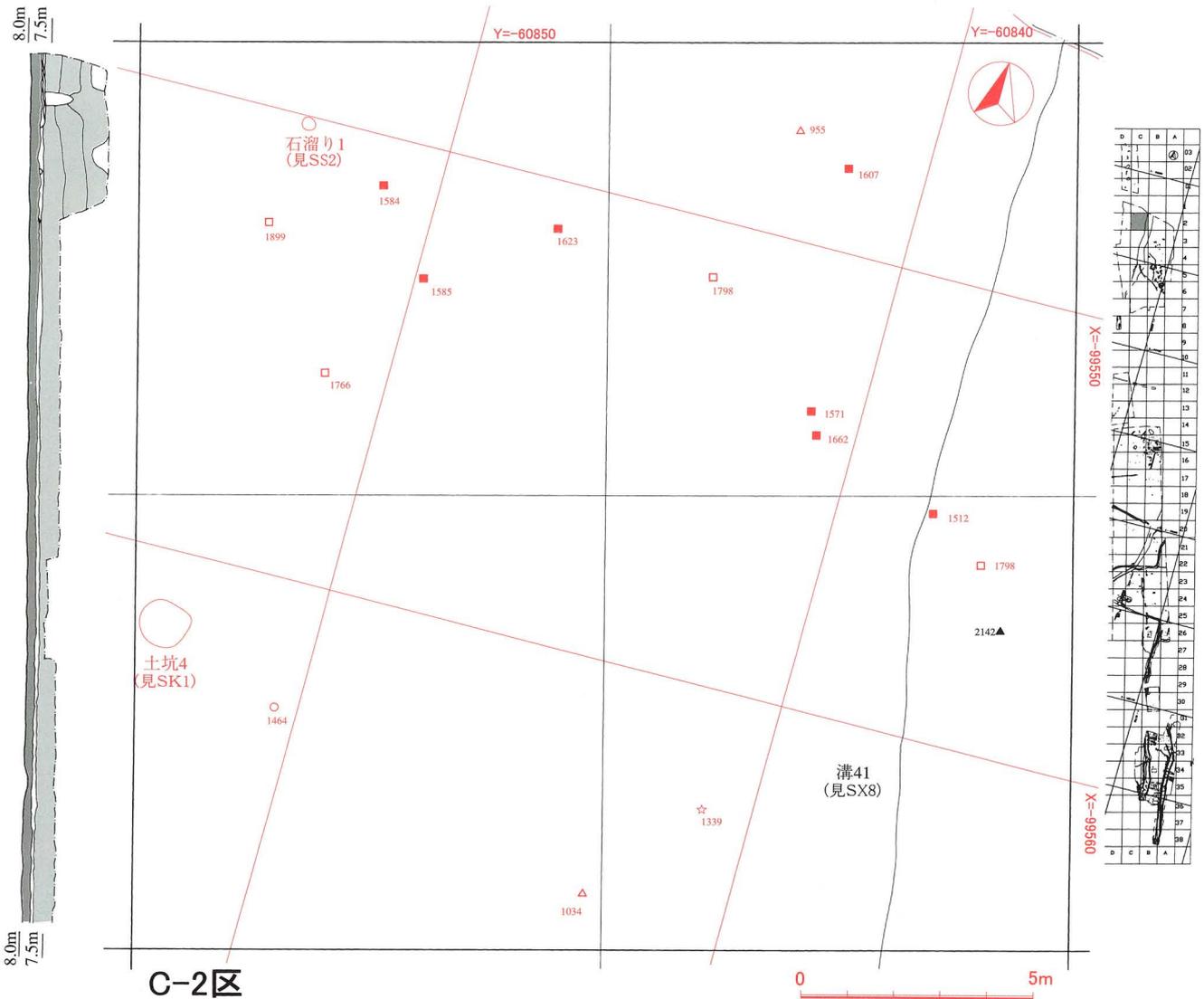
**D-1区**

市道部分及び西側は調査区域外である。水田耕作の関係でこの区の調査は平成11年11月に実施した。この範囲からは、遺構は検出されなかった。

遺物の出土状況は濃密で、縄文時代の石製土掘具や石匙、石鏃等の石器が、調査区域全般から多量に出土している。

**C-1区**

今回の発掘調査で最初に掘り下げを始めた場所である。北側壁面のⅢ層上面の標高は7.6mである。北側は市道であり、調査区域外である。この範囲からは、遺構・遺物とも検出されなかった。元々は丘陵部の裾部であり、次第に東側へ高まっていたのが、水田開発により水平を保つために高い部分が削平されたものと考えられる。



第24図 遺構検出及び遺物出土状況 (6) C-2区

#### D-2区

北側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.8m、低い所で7.7mである。西側は調査区域外であった。北側壁面のⅡ層はその堆積状況から、Ⅱ・Ⅱb層とした。

この範囲から、縄文時代後期末から晩期のもと思われる埋設土器30(見SJ84)を検出した。この遺構は、D-3区にもまたがっていた。また、中世後半のもと思われる土坑88(見SK83)を検出した。この埋土はⅢ層と同質であり、わずかに炭化粒を含んでいる。形状や規模及び埋土の状況とも、見入来遺跡にある他の多くの土坑と一緒にあり、中世後半～近世前半頃のものであると考えられる。1基のみ離れている理由は不明であるが、他の土坑の使われ方がわかってくると、この区における当時の利用方法が明らかになってくると考える。

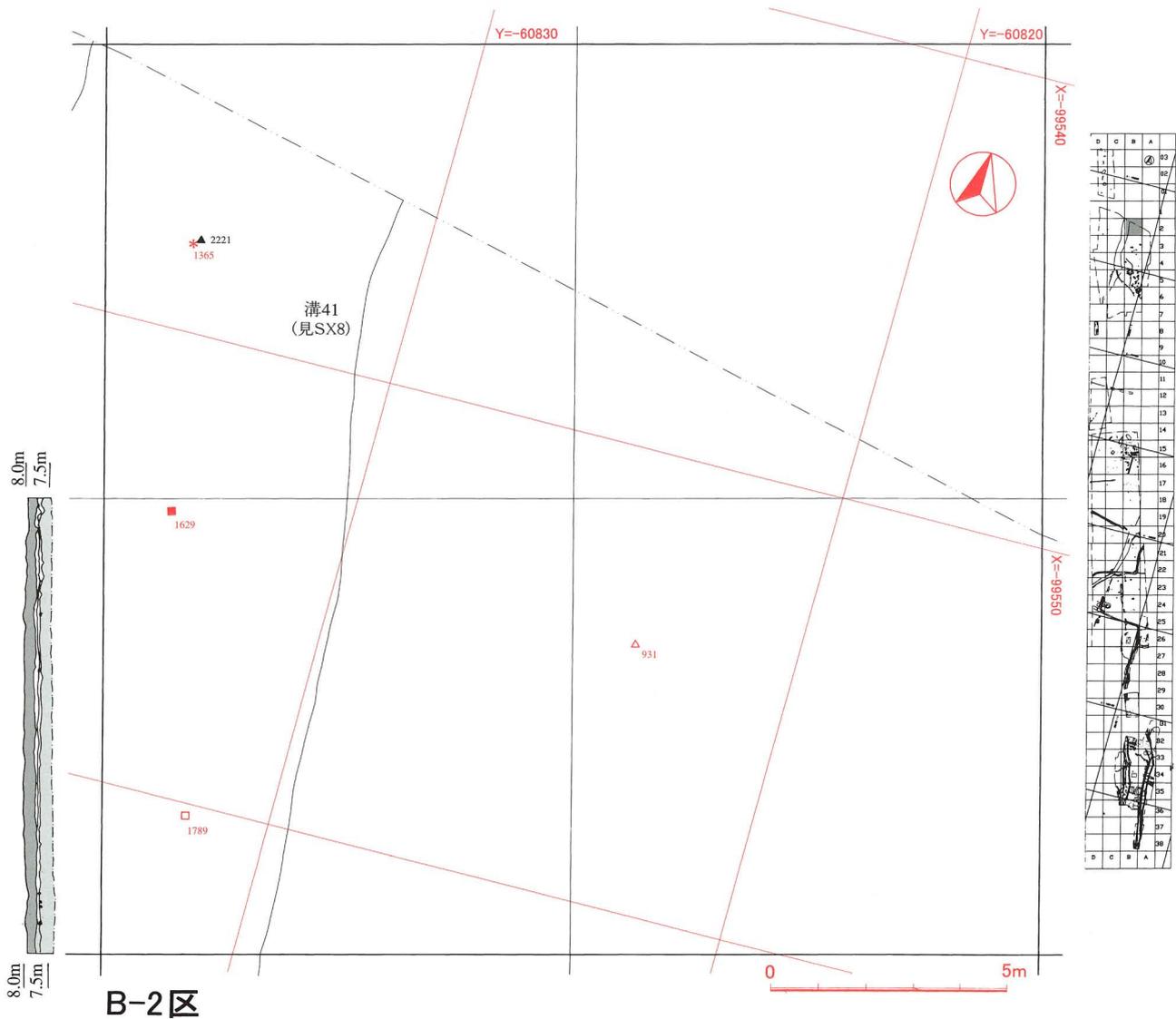
この区からは、縄文土器と石器類、それに土師質と

考えられる土器が出土した。遺物の出土状況は、調査区域全般から多く出土している。

水田耕作の関係でこの区の調査は平成11年11月に実施した。

#### C-2区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.72m、低い所で7.52mである。西側壁面のⅠ層は、その堆積状況から、Ⅰ・Ⅰb層とした。西側壁面18.12m～19.76m地点のⅡ層下部に、特徴のある層を確認したので、Ⅱa・Ⅱb・Ⅱc層と細分した。それぞれの特徴は、Ⅱa層は汚灰色土でしまりがあって柔らかい。Ⅱb層は灰色弱粘質土でしまりがなくてかたく、鉄分マンガ分はみられない。Ⅱc層は灰褐色粘質土であり、基本的にはⅢ層と同じであり他の場所に比べて茶色味が強く、炭化粒子



第25図 遺構検出及び遺物出土状況 (7) B-2区

がわずかに含まれている。しまりがあって固い層である。

また、深掘りした西側壁面の16.6mの地点から19.76mの地点のⅢ層下部に、茶灰褐色シルト質土の層が厚さ約50cmで堆積し、粘質が弱く、しまりがあって固い。その下の乳茶色粘土層の中に、厚さ30cmのしまりがあるが柔らかい淡青灰色粘質土の層とシルト質でしまりがなく柔らかい濃灰青色弱粘質土の層を確認した。北側は礫が多くあり、砂も多く、昭和40年代以前は川であった様である。

この範囲から、縄文時代晩期のものと思われる土坑4（見SK1）と石溜り1（見SS2）を検出した。土坑4はちょうど西壁面に接して検出されたので、西側半分についてはD-2区を掘り下げた平成11年11月に調査を行った。

遺物の出土状況としては濃密であり、石製土掘具や磨石、石鏃等石器類を中心に全般的な範囲から多

量に出土している。特に石製土掘具の比率が高い。

#### B-2区

西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.74m、低い所で7.58mである。南から1m～9.26mの地点のⅠ層とⅢ層の間に、多量の石を含む灰色土の層を確認した。西側は昭和40年代以前には川であった様である。川の境は明確な段はなく、漸次砂や礫が多くなっていった。この範囲からは他の遺構は検出されなかった。

1.42mの地点の灰色層とⅢ層の間に土器片を、2.4m～2.6mの地点Ⅲ層上面で黒曜石を検出した。

遺物の出土状況は、南側が濃密であり、特に南西側からの出土が多い。このような状況から、北東よりはかつて標高が高く、後世の水田開発に伴い削平されたものと考えられる。



### A-2区

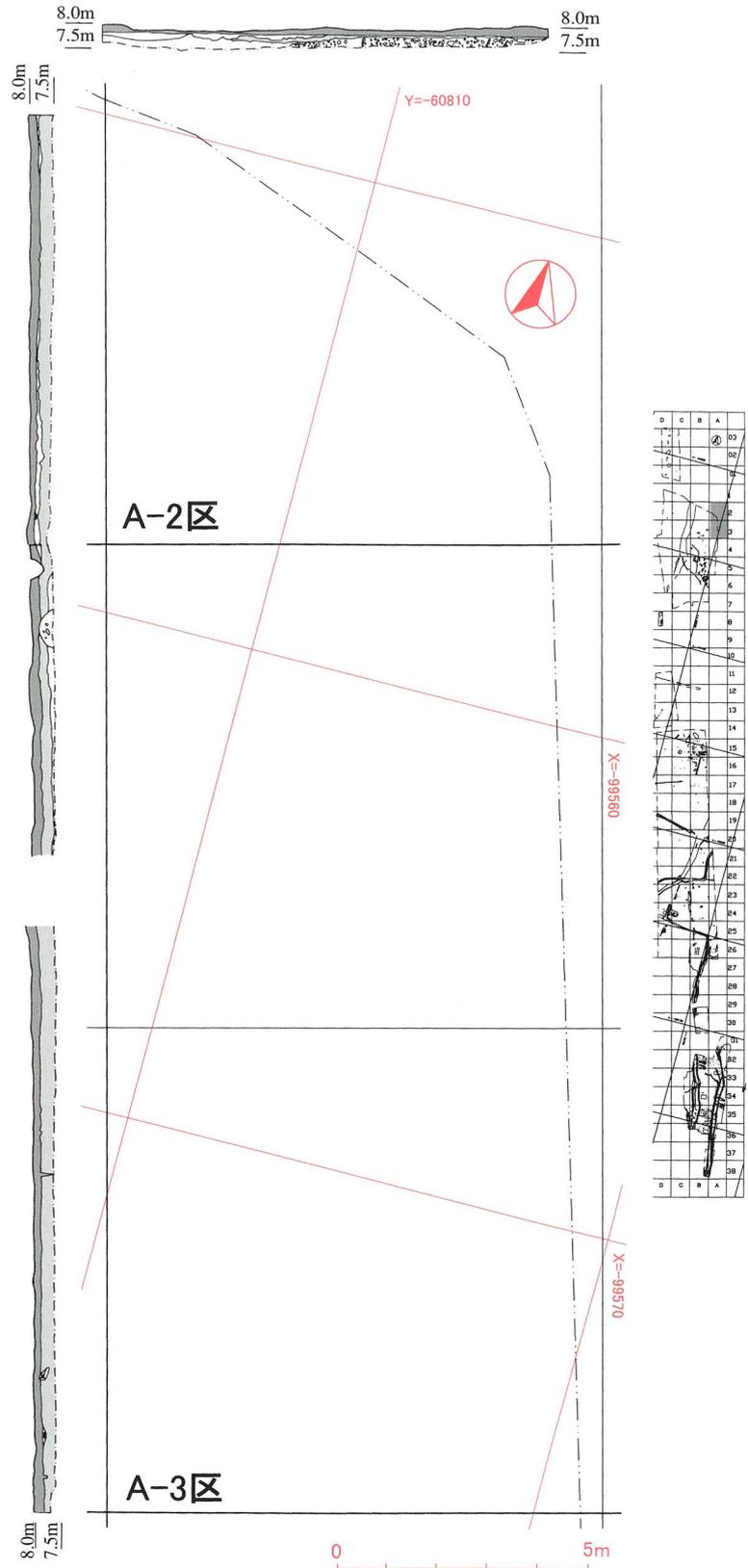
西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.82m、低い所で7.62mである。この範囲の北側及び東側は、調査区域外となるで、北側壁面の断面は調査しなかった。

この範囲からは、遺構は検出されなかった。遺物の出土状況としては、調査区域範囲内の南西側から点在する形で出土している。後世に削平を受けた部分だと考えられる。

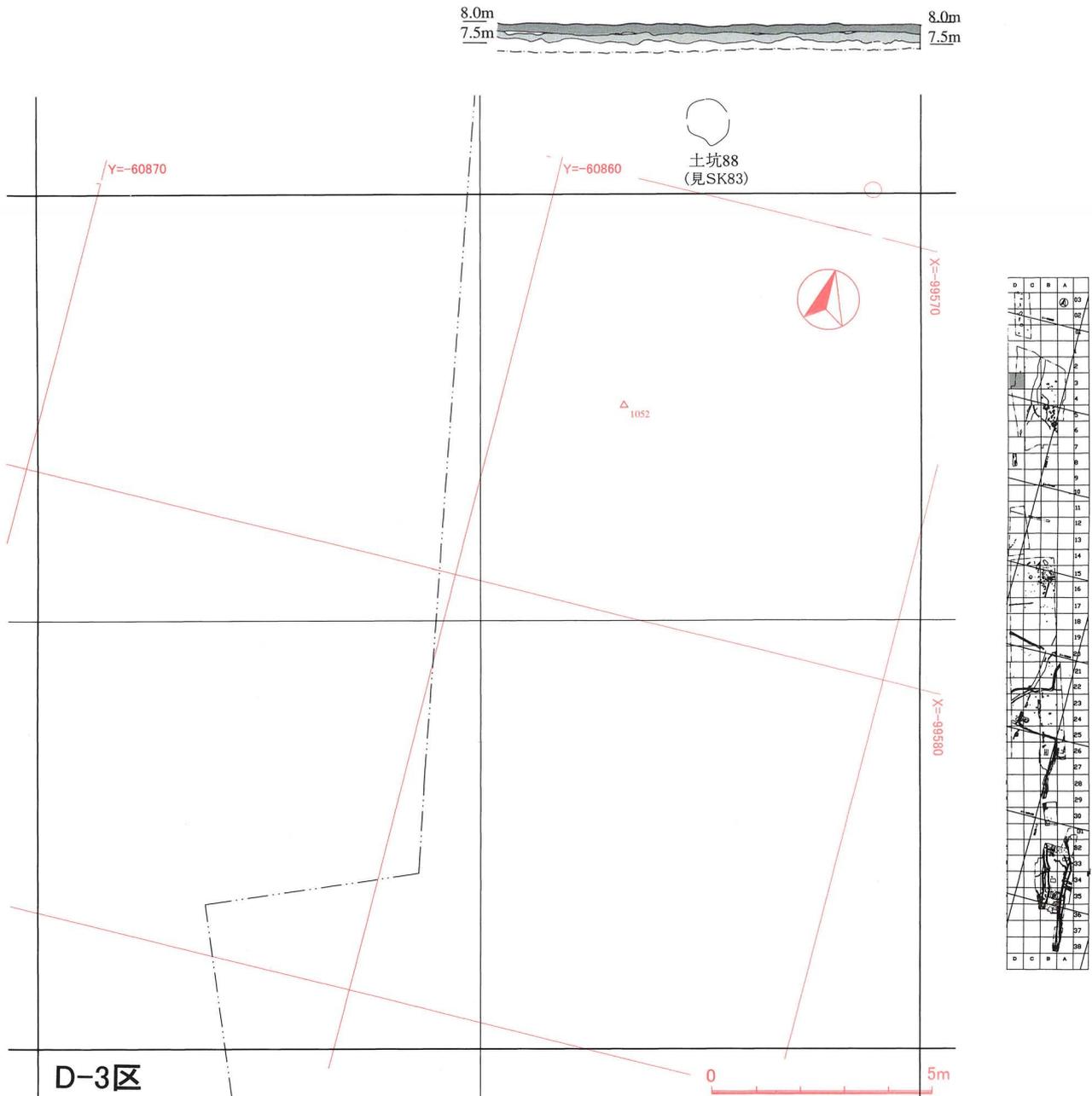
### A-3区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.9m、低い所で7.7mである。北側壁面3.66m～9mの地点のⅢ層下部に、幅5.34m、厚さ約24cmの直径5mm～120mmほどの礫がつまっている砂礫層が確認された。この礫の間は、しまった砂土であった。西側壁面1.4m～1.8mの地点のⅢ層上部にかけて、幅40cm、厚さ約8cmの灰色土の埋土が確認され、この中から石斧を検出したことから、何らかの遺構ではないかと考えられるが、具体的に確定することはできなかった。西側壁面18m～18.65mの地点Ⅰ層下部に、幅65cm、厚さ約28cmの範囲で直径5mm～100mmほどの礫が集中するしまった砂質土の層が確認された。同じく西側壁面19.3m～19.7mの地点では、幅40cm、深さ約24cmの範囲で、溝によって攪乱されていた。この範囲からは、遺構は検出されなかった。

遺物の出土状況は、西側からしか出土しておらず、しかも点在する形である。



第26図 遺構検出及び遺物出土状況 (8) A-2・3区



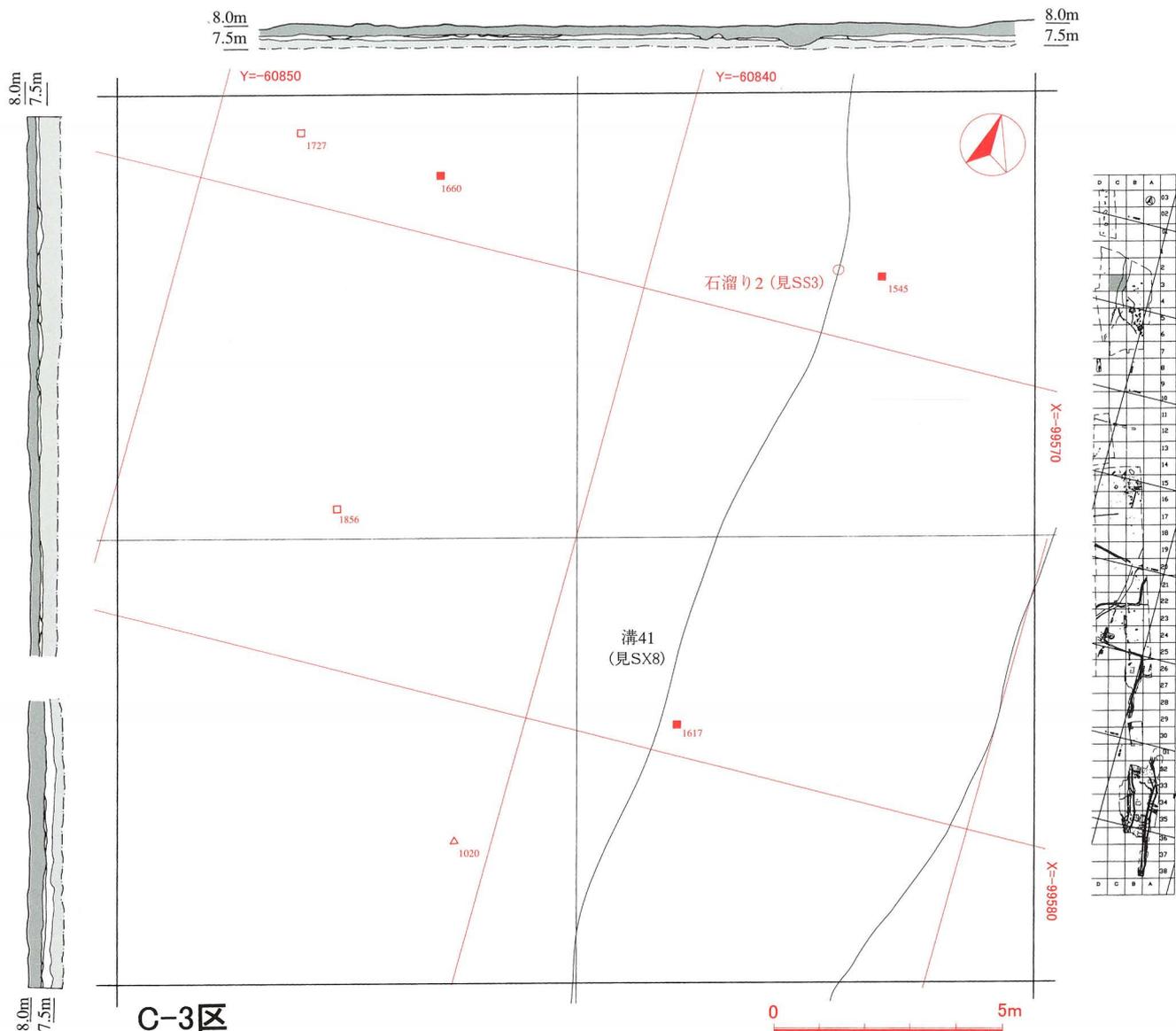
第27図 遺構検出及び遺物出土状況 (9) D-3区

**D-3区**

北側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.76m、低い所で7.7mである。Ⅱ層の堆積状況は薄く、全般的に10.42m～11.6mの地点(幅1.18m, 厚さ8cm)、12.9m～13.44mの地点(幅54cm, 厚さ8cm)、16.1m～16.5mの地点(幅40cm, 厚さ4cm)の部分でしか確認できなかった。この区域では、Ⅲ層の途中から拳大の礫が多くなった。

北側壁面を精査中、縄文時代後期終末から晩期の土器の肩部付近が確認できたので、セクションベル

トを丁寧に崩しながら掘り下げると、D-2区にまたがる埋設土器30(見SJ84)が検出された。遺物の出土状況は、北東側が濃密で、ここから多く出土している。



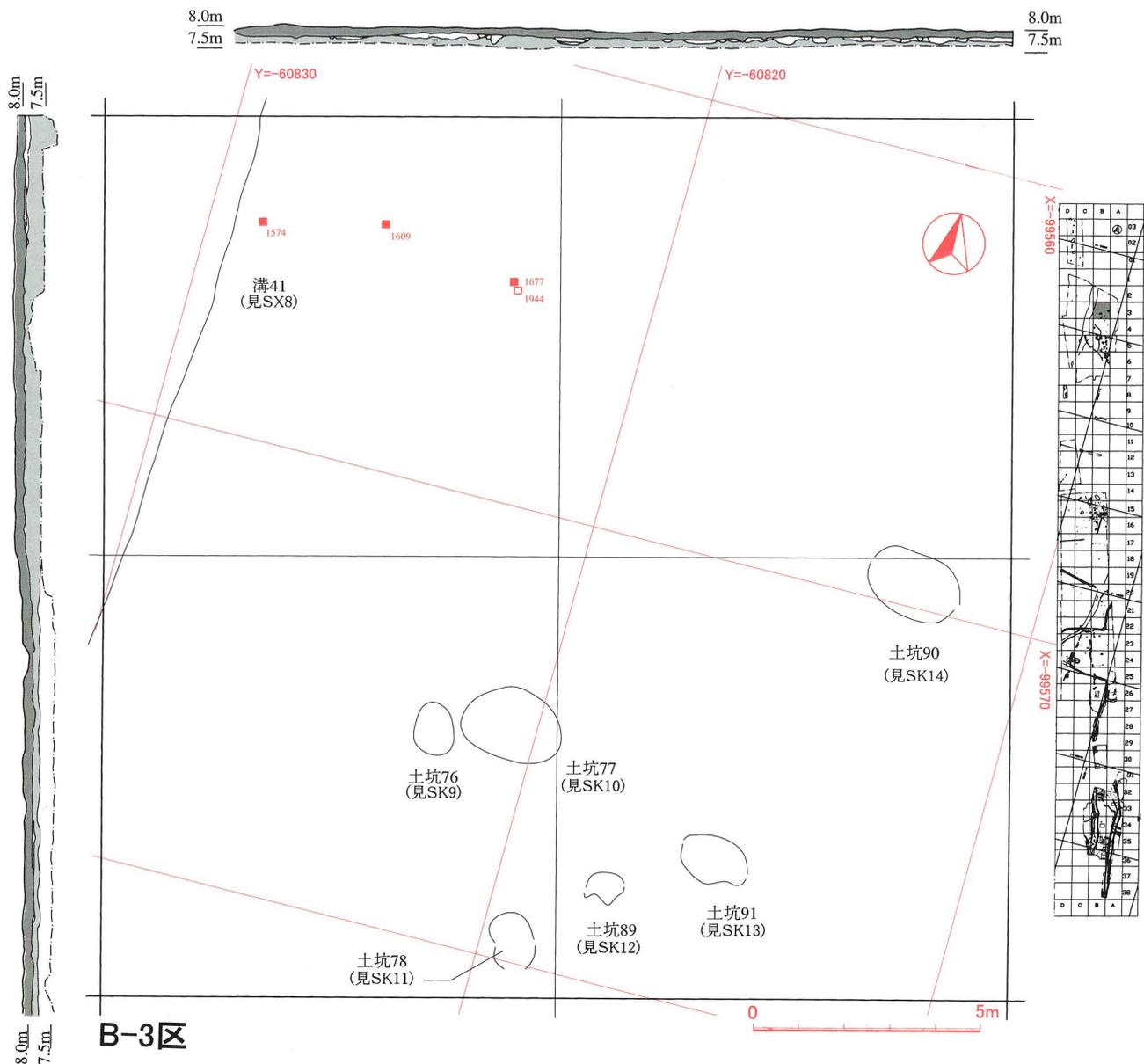
第28図 遺構検出及び遺物出土状況 (10) C-3区

**C-3区**

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.7m、低い所で7.4mである。西側壁面のⅡ層はその堆積状況から、Ⅱ・Ⅱb層とした。

東側の大半は昭和40年代の川跡があった場所である。その近くで、縄文時代晩期のものと考えられる石溜り2 (見SS3) を検出した。この遺構の礫は砂岩及び安山岩で構成されていた。

この範囲の遺物の出土状況は、石製土掘具や磨石、石鏃等石器類を中心に、全般的に広がっている。特に、東側と西側周辺部から、やや多く出土している。



第29図 遺構検出及び遺物出土状況 (11) B-3区

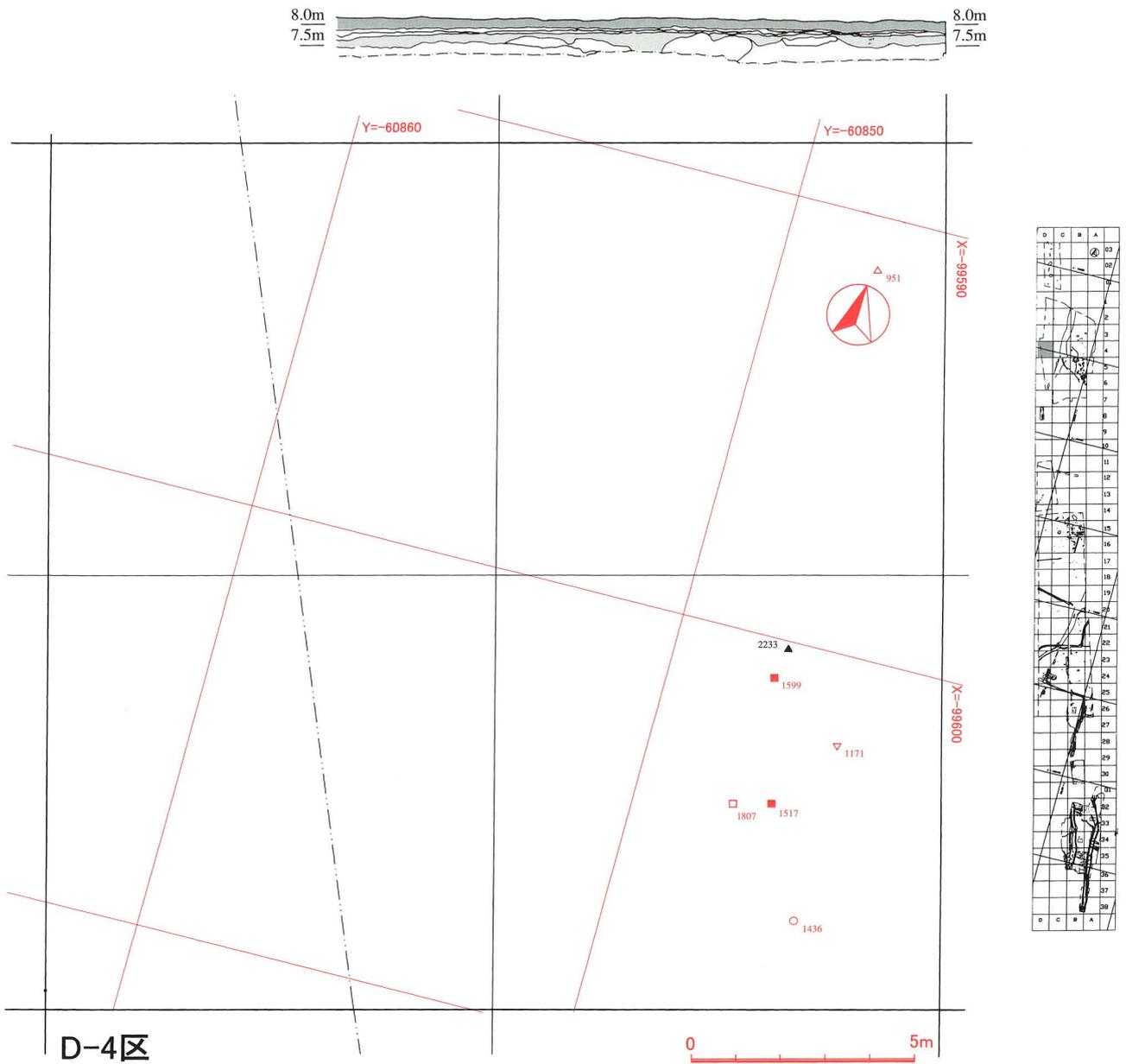
**B-3区**

西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.91m、低い所で7.76mである。Ⅰ層はその堆積状況から、Ⅰb層とした。Ⅱ層は1.7m～1.9mの地点で幅20cm、厚さ約4cm、17.4m～18.4mの地点で幅1m、厚さ約4cmしか存在しないことから、後世に削平を受けていたことが考えられる。17.04m～17.4mの地点で、Ⅰ・Ⅱ層とⅢ層の間に、幅40cmで厚さ約5cmの灰色土の層を確認した。北西側は昭和40年代以前の川跡である。

南側半分から、中世後半のものと考えられる土坑76 (見SK9)・77 (見SK10)・78 (見SK11)・89 (見SK12)・91 (見SK13)・90 (見SK14)を検出した。埋土は、青灰褐色シルト質土であった。土坑77の中からは、多

くの礫を検出した。これらの土坑の用途は不明である。

遺物の出土状況は、縄文時代の遺物が北側の方に多く、特に北西側で集中して出土している。石製土掘具が目立つ。



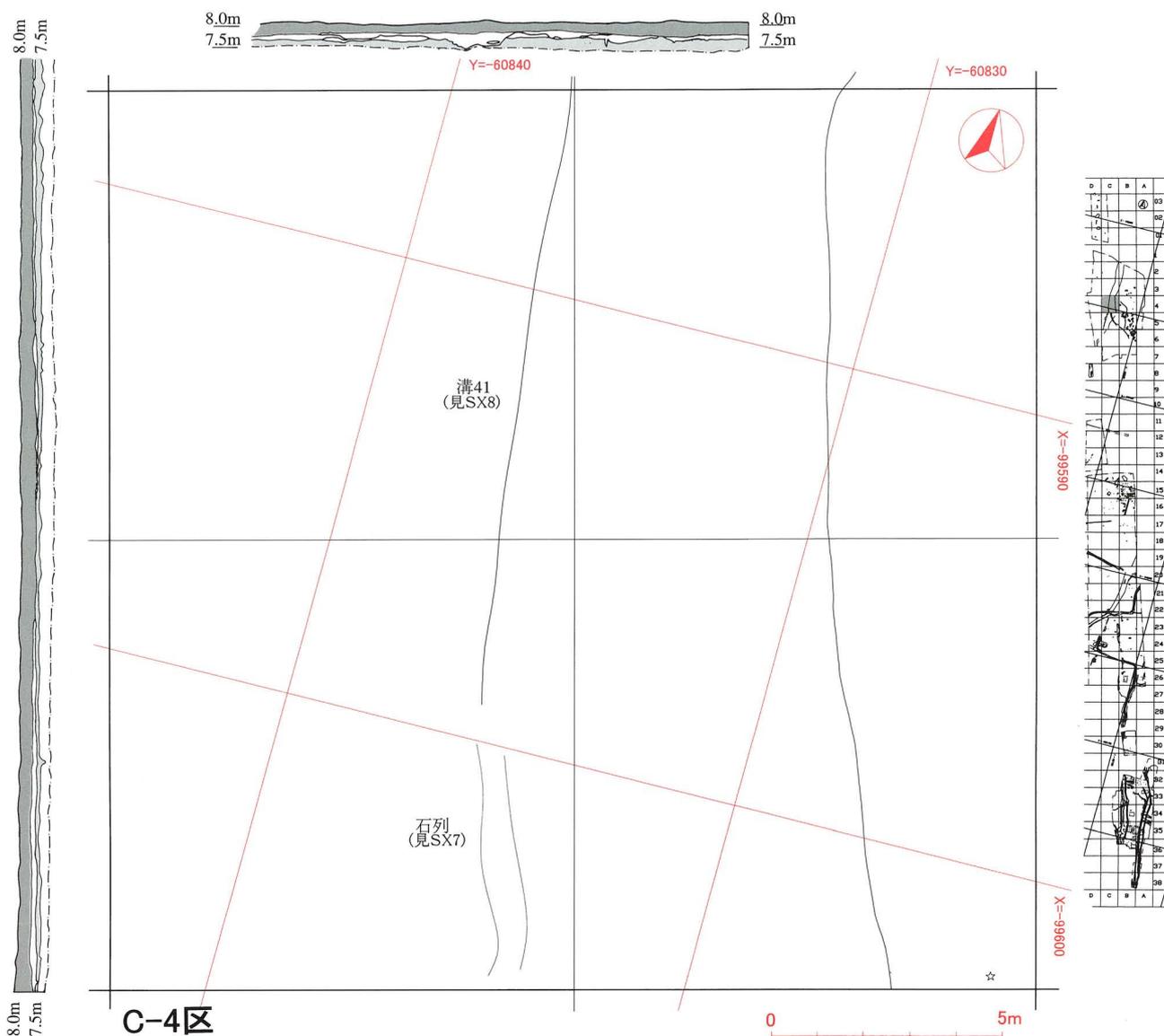
第30図 遺構検出及び遺物出土状況 (12) D-4区

D-4区

北側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.8m、低い所で7.64mである。Ⅰ層はその堆積状況から、Ⅰ・Ⅰb層とした。Ⅲ層の下部に砂礫層が堆積している部分を確認した。

この範囲からは、遺構は検出されなかった。遺物の出土状況は、東側より点在する形で出土している。

V層の礫層が上面まで浮いて出てきている場所がみられ、Ⅲ層上面でも一様ではない。遺物は東側に寄って出土した。特に石製土掘具が目立つ。



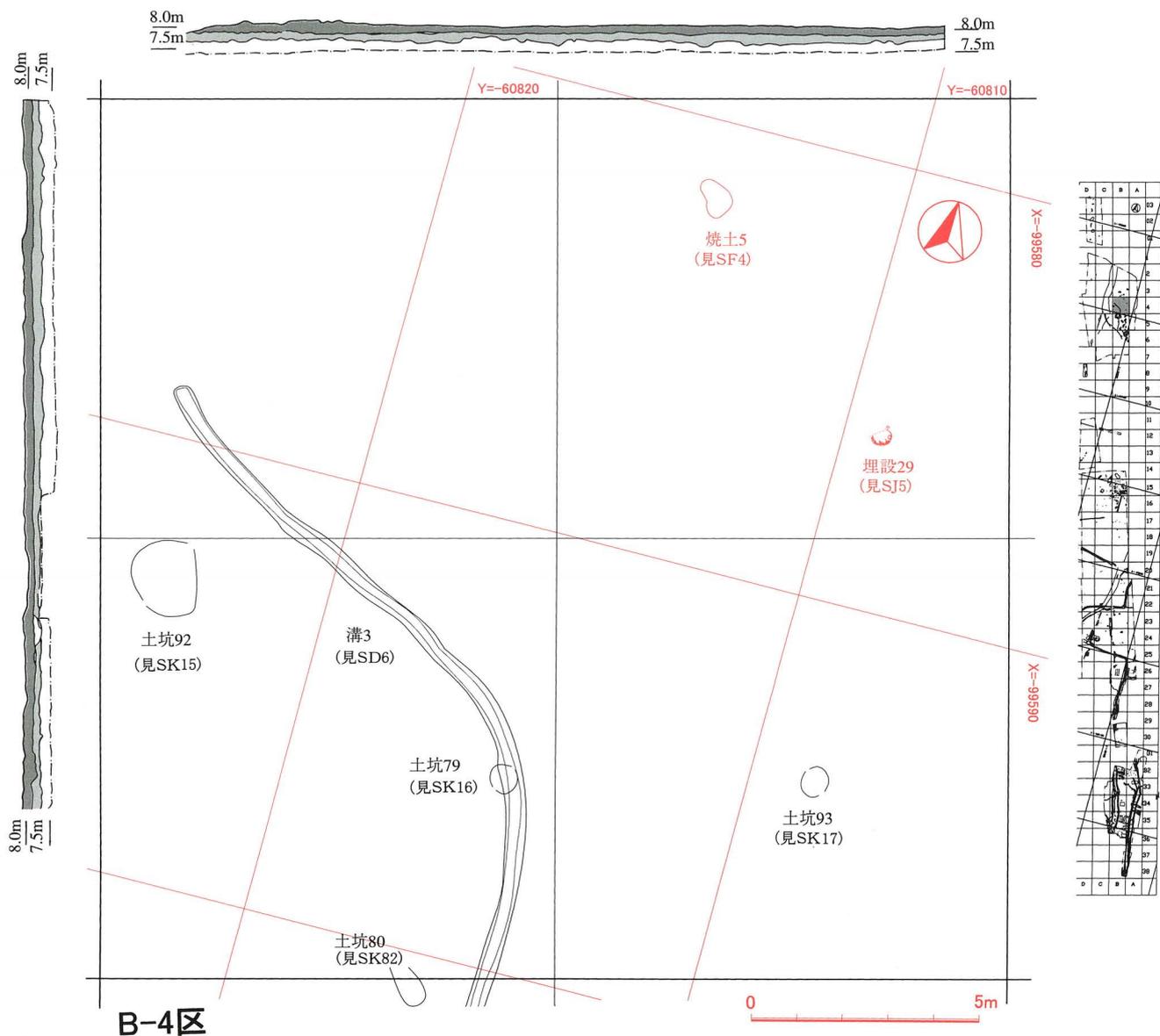
第31図 遺構検出及び遺物出土状況 (13) C-4区

**C-4区**

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.76m、低い所で7.44mである。北側壁面のⅢ層は、7.3m～8.8mの地点にかけて、幅1.5mの範囲で、最深部が32cm下方へ落ち込んでいるのを確認した。また、この壁面の8.56m～9.5mの地点、10.12m～11.9mの地点、11.96m～13.7mのⅠ層とⅢ層の間に、灰色砂質土の層が約8cm～16cmの厚さで堆積しているのを認めた。中央部分を昭和40年代以前の川跡が南流しており、礫や砂が多かった。この川跡に流し込むための木製の樋が両側にみられたが、昭和年間のものであると判断し記録しなかった。C-5区から延びてきた石列（見SX7）は北端で西側へ屈曲している。溝状遺構41（見SX8）の西側を掘り込んで、栗

石を敷きつめてある。栗石には白い物質がこびりついており、石灰を固めたものではないかと思われる。この部分は昭和40年代の地籍図に描かれており、位置を対応させることができる。

この範囲からは、他の遺構は検出されなかった。遺物の出土状況は、全般的な範囲から出土しているが、周辺部から点在する形で出土している。



第32図 遺構検出及び遺物出土状況 (14) B-4区

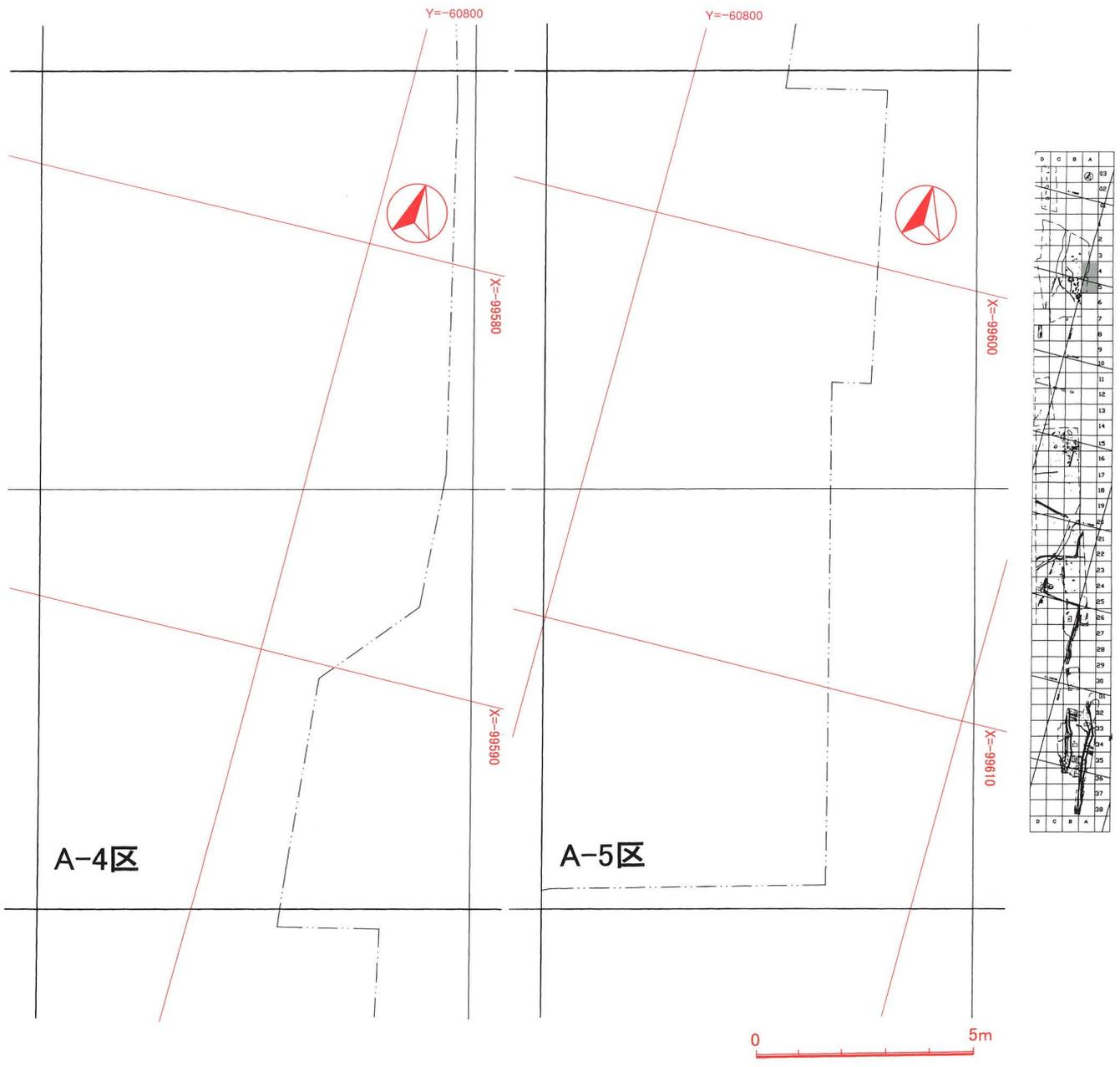
#### B-4区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.91m、低い所で7.8mである。Ⅱ層は北側壁面では6.7m～7.2m間の厚さ約4cm、西側壁面では7.46m～8.3mの84cmしか存在しないことから、削平を受けていたと考えられる。

この範囲から、縄文時代後期終末から晩期のものと思われる焼土5(見SF4)と埋設土器29(見SJ5)、古代前半のものと思われる溝状遺構3(見SD6)、中世後半のものと思われる土坑92(見SK15)・79(見SK16)・93(見SK17)を検出した。溝状遺構3の埋土は黄灰褐色粘質土であり、土坑よりは明らかに古い。

北西方向にカーブして、端部は閉塞している。土坑92・79・93の埋土は共にしまりがなく、柔らかい青灰褐色シルト質土であった。土坑79からは、多くの礫を検出した。この土坑の用途は不明である。

遺物の出土状況は、この範囲全般的に出土しており、南側に比べて北側からの出土がやや多い。



第33図 遺構検出及び遺物出土状況 (15) A-4・5区

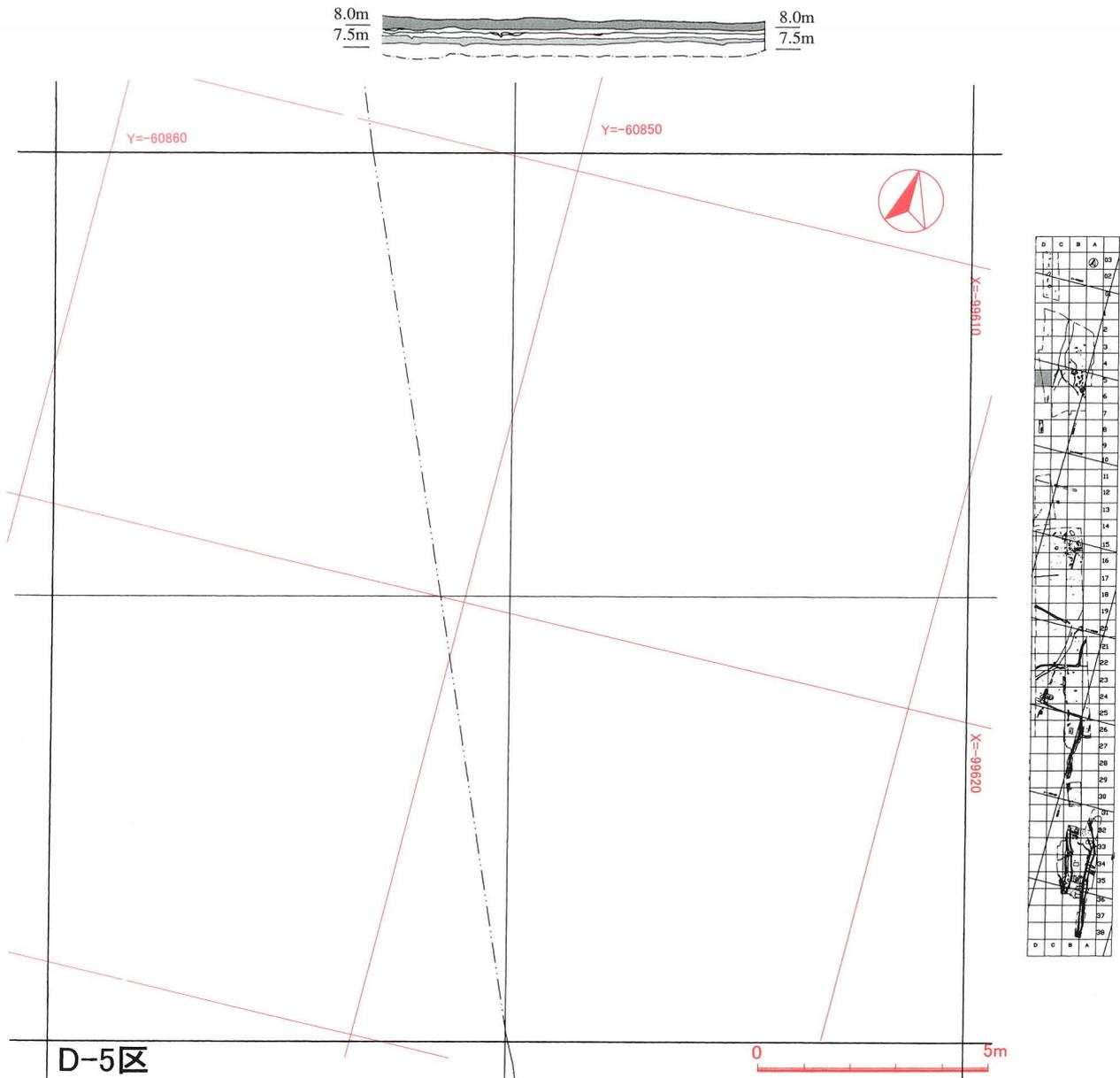
**A-4区**

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.9m、低い所で7.6mである。北側壁面の7.3m～9.4mの地点でⅢ層中に幅2.1m、厚さ約32cmの直径5mm～100mmの礫が混入し、しまった砂質土が間に入る砂礫層を確認した。西側壁面の12.2m～13mの地点Ⅲ層中には、礫が集まっている所を確認した。北側壁面の44cm～90cmの地点にかけて、幅46cm、深さ10cmの灰色土の遺構らしき埋土を検出したが、形状を明らかにすることはできなかった。この範囲からは、遺物は出土しなかった。

**A-5区**

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8m、低い所で7.8mである。北側壁面及び西側壁面のⅠ層は、その堆積状況から共にⅠ・Ⅰb層とした。北側壁面の3.1m～5.2mの地点では、Ⅰ層・Ⅰb層とⅢ層の間に、西側壁面15m～19.5mでは灰黄褐色土の層が幅4.5m、厚さ約12cmにわたって堆積しているのが確認された。Ⅲ層は、17.1m～17.76mの地点の幅65cmで厚さ約16cm、18.5m～19.5mの地点では幅1mで厚さ約12cmの部分のみに堆積していた。この範囲からは、遺構、遺物とも検出されなかった。





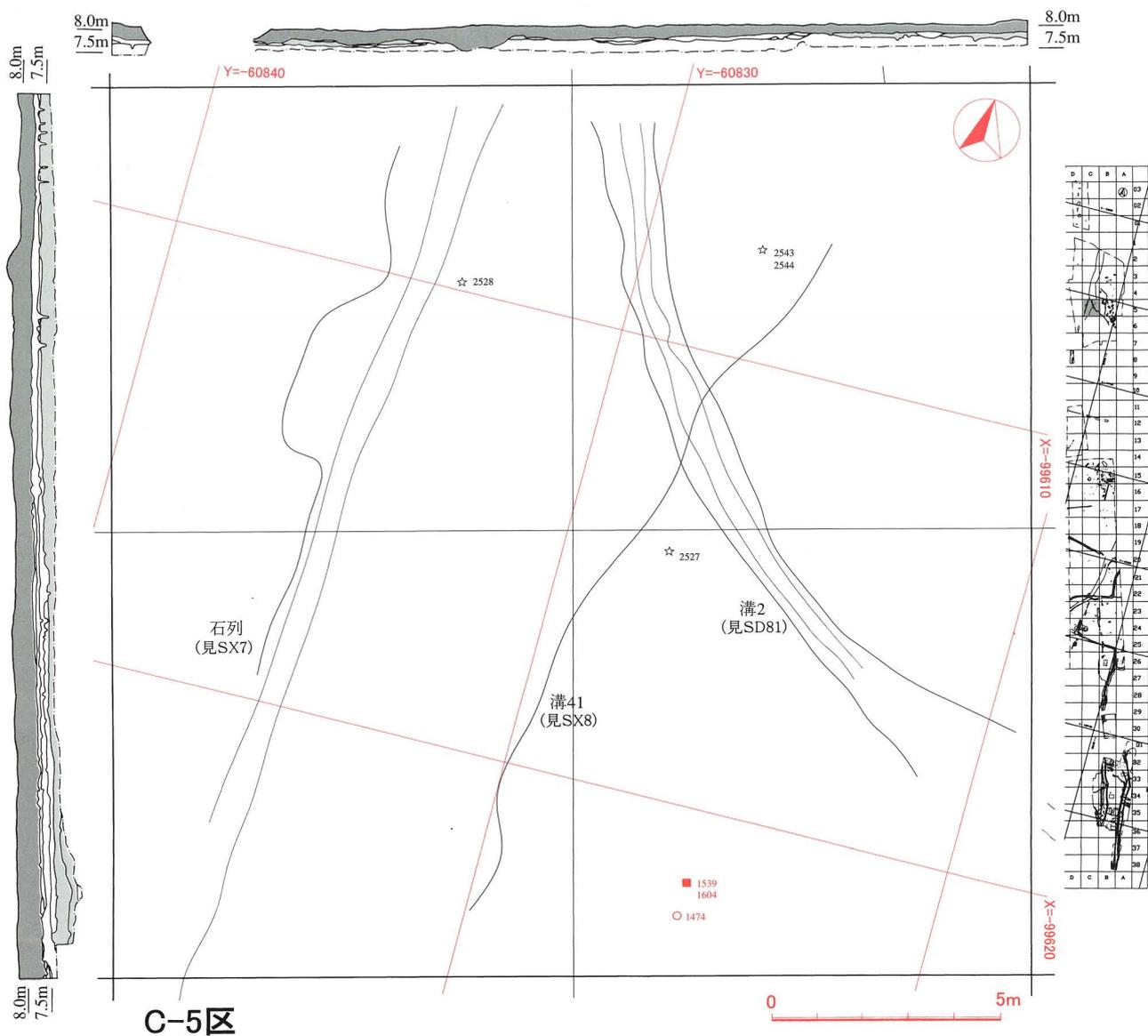
第34図 遺構検出及び遺物出土状況（16）D-5区

**D-5区**

北側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.96m、低い所で7.9mである。

この範囲からは、遺構及び遺物とも検出されなかった。

層位はしっかりしており、後世に削平された様相はみられなかったが、遺物の出土はほとんど無かった。縄文時代の生活区域の南西端であったことが窺える。



第35図 遺構検出及び遺物出土状況 (17) C-5区

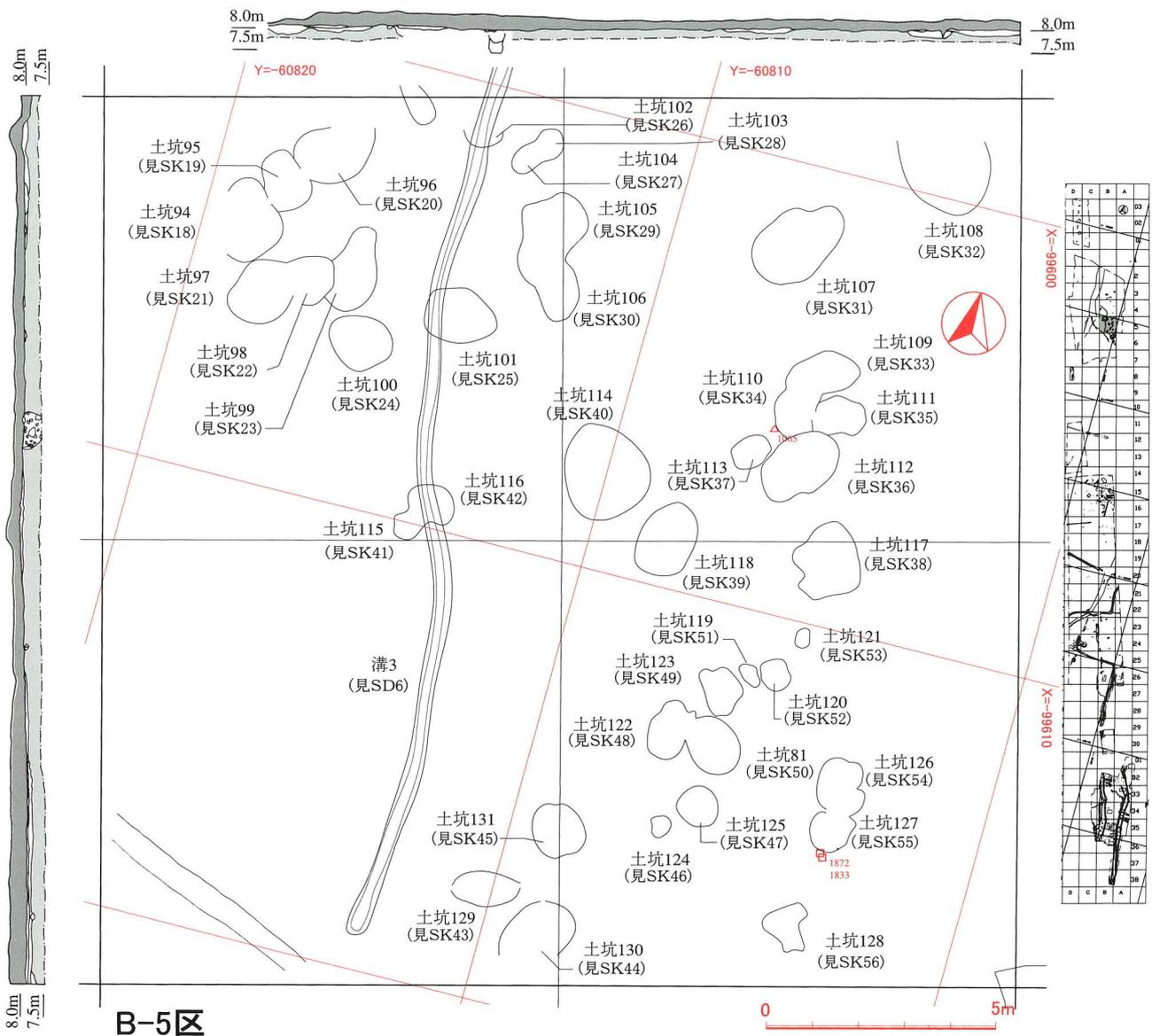
C-5区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.84m、低い所で7.5mである。西側壁面Ⅲ層の0.76m～3.7mの地点はその堆積状況から、Ⅲ・Ⅲb層とした。また、この壁面では1.7m～2.1mの地点でⅢb層下部に幅40cm、厚さ約12cmの緑色土を、5m～17.6mのⅡ層とⅢ層の間に灰色砂質土の層を確認した。北側壁面では15m～15.6mの地点にかけての厚さ約28cmほどの粘質土は、Ⅲ層とよく似ており、Ⅲ層に赤味があった土と青灰色が混ざった感じの土である。

この区の中央部は砂礫が多く、中世から近世にかけて造られた河川跡ではないかと考えられる。この中から、14世紀に使われていたと考えられる青磁が

出土した。また、その下にもぐり込む様にして溝状遺構2（見SD81）が検出された。確たる証拠はないが、幅や断面形、それにゆるくカーブする点が他の溝状遺構に類似することから、道跡ではないかと考えられる。

遺物の出土状況は、石器類や陶磁器類が多く出土しており、特に東側からの出土が多い。



第36図 遺構検出及び遺物出土状況 (18) B-5区

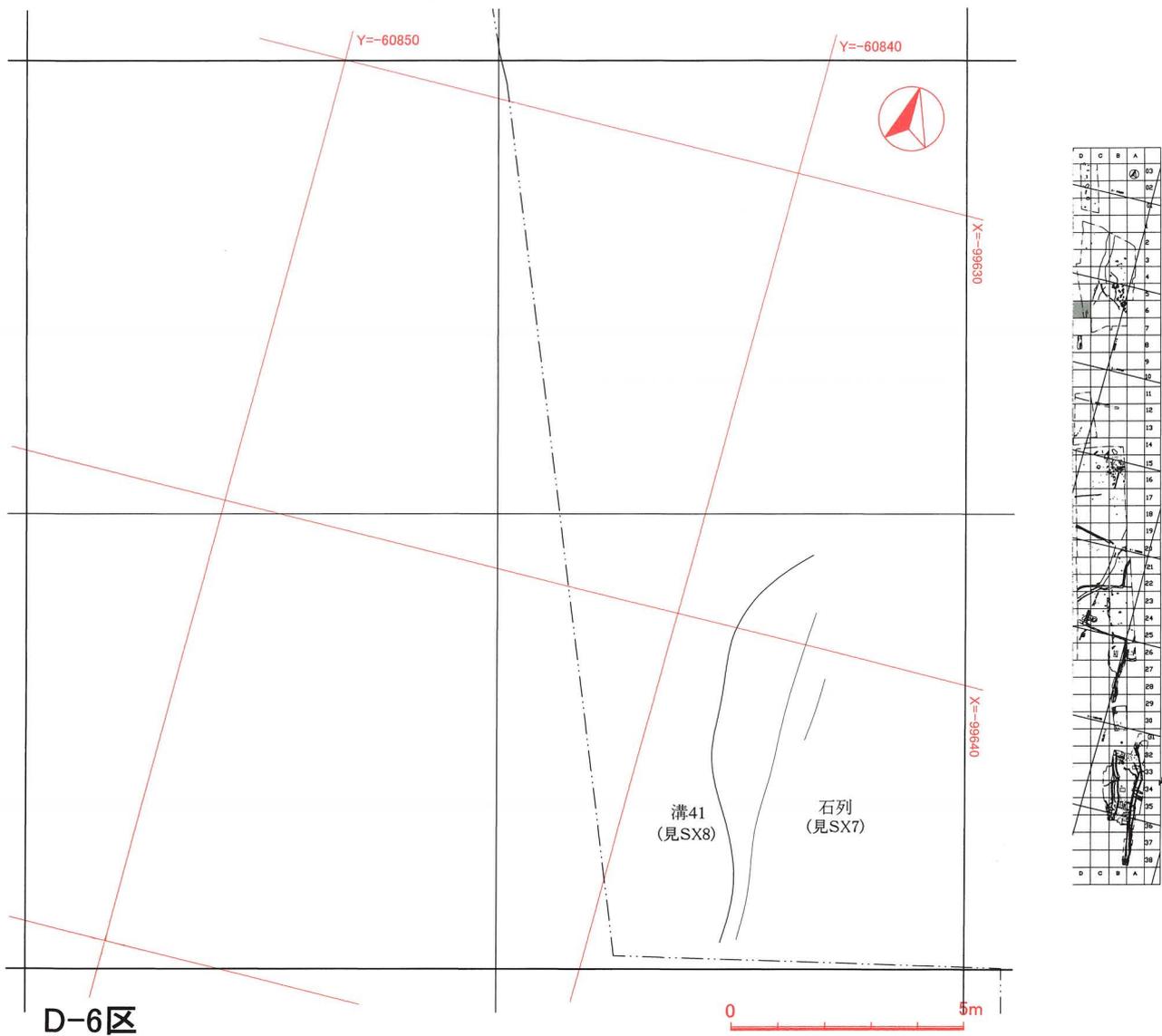
**B-5区**

北側壁面・西側壁面の標高は、高い所で8.38m、低い所で8.02mである。

この範囲は、中世後半と考えられる土坑が最も集中したところであり、40基（見SK18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45・46・47・48・49・50・51・52・53・54・55・56・82）を検出した。重複した土坑が多いことから長期に渡って使われたと考えられる。用途が不明であることから一つの土坑がどれぐらいの期間使われたのか解らない。土坑81（見SK50）・80（見SK82）の中からは、礫も検出した。これらの土坑の埋土は、しまりがなく柔らかい青灰褐色シルト質土である。

溝状遺構3（見SD6）の南半分がこの区で検出され、端部は北側と同様閉塞されている。南西側には溝状遺構2（見SD81）がある。床面しかとらえられなかった。

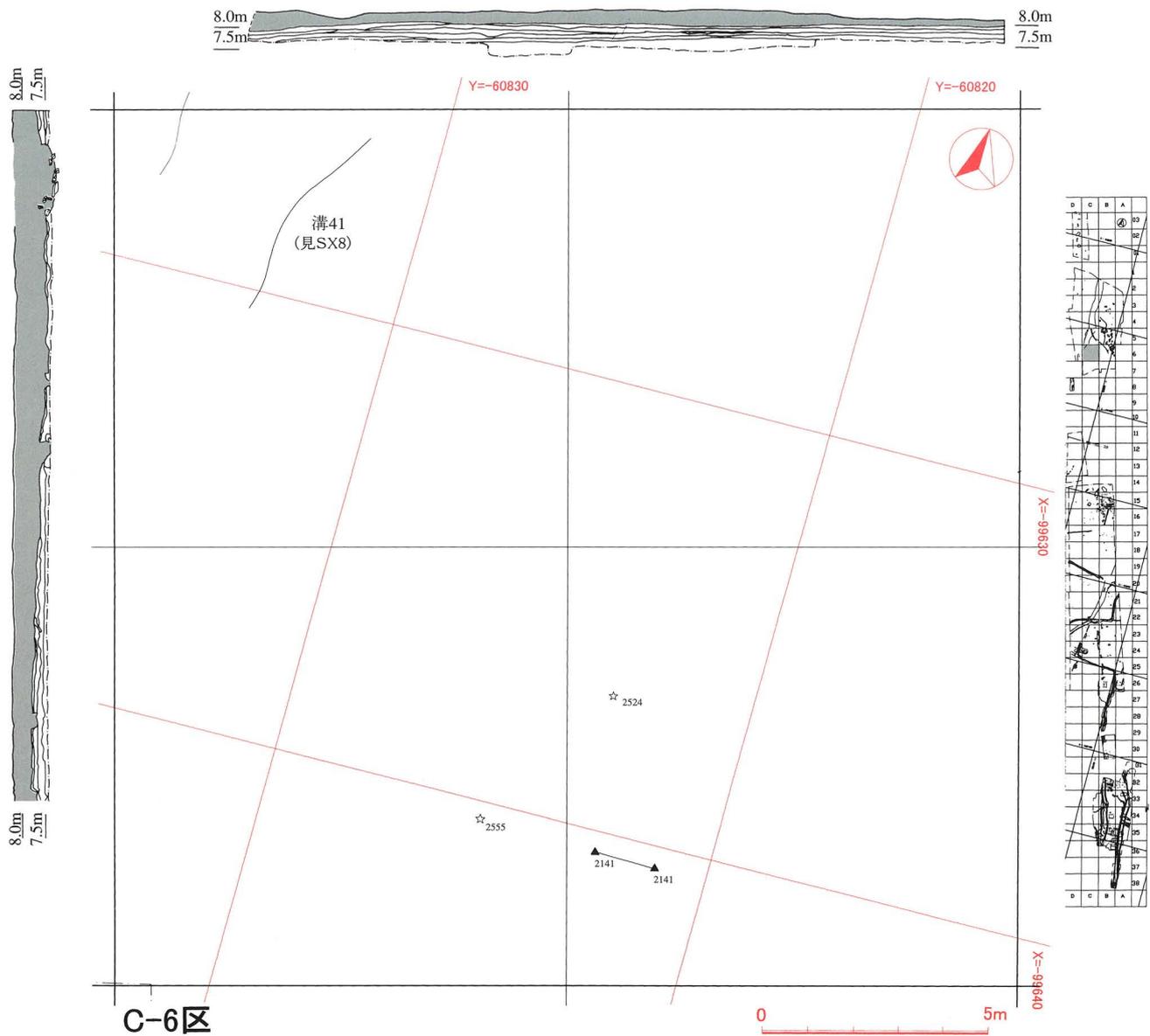
遺物の出土状況は、全般的な範囲で出土しているが、遺物の量は少なく、範囲内から点在する形で出土している。



第37図 遺構検出及び遺物出土状況 (19) D-6区

**D-6区**

北側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.76mである。溝状遺構41（見SX8）と石列（見SX7）の西側縁の延長を検出した。C-5区との間は確認トレンチで掘り下げられており、図上での復元となった。このような事情から掘る部分も限られており、この範囲からは、遺物は検出されなかった。

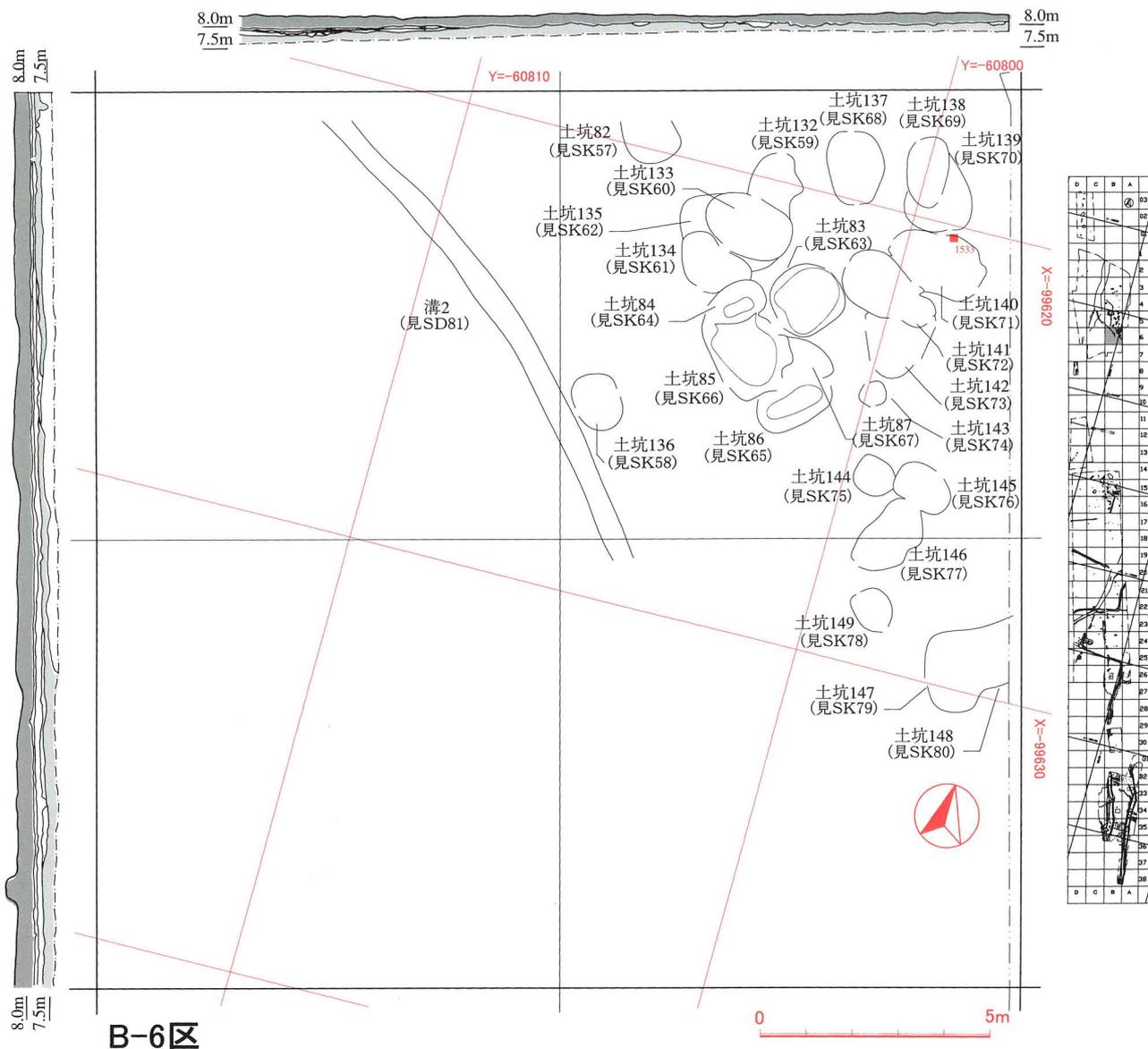


第38図 遺構検出及び遺物出土状況 (20) C-6区

C-6区

C-5区から続く場所で、北側壁面のII層下部全般に灰褐色、暗灰色、黒灰色の層が堆積している。西側壁面でも同様に堆積しており、西側壁面の12.38m～12.58mの地点にかけて幅20cm、厚さ約5cmの青色のグライ土と思われる層が確認できた。また、北西側壁面17.5m～19.2mの地点において、江戸時代～近代にかけての水路の石組と思われる石列(見SX7)を検出した。このことから、この範囲は中世～近世にかけて造られたと思われる川の跡ではないかと考えられる。広い範囲で安定した地層であったが、他に遺構は検出されなかった。

遺物の出土状況としては、中心に向かって南北にかけて出土している。特に南側からの出土が多い。



第39図 遺構検出及び遺物出土状況 (21) B-6区

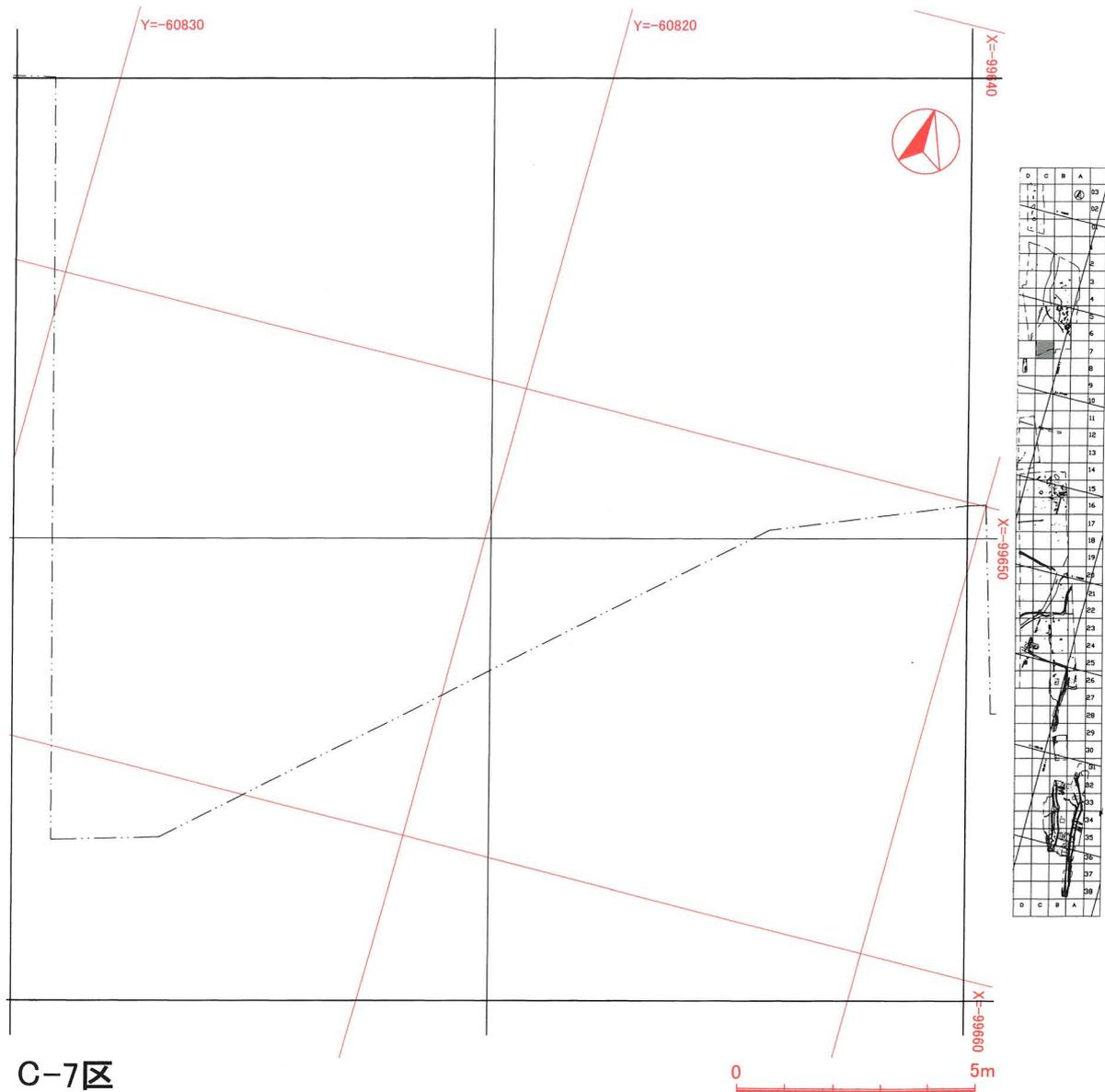
#### B-6区

北側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8m、低い所で7.82mである。

この範囲では、古代～中世のものと思われる溝状遺構2(見SD81)、中世後半と考えられる土坑25基(見SK41・57・58・59・60・61・62・63・64・65・66・67・68・69・70・71・72・73・74・75・76・77・78・79・80)を検出した。土坑は北東部分に集中している。土坑83(見SK63)・84(見SK64)・86(見SK65)・85(見SK66)・87(見SK67)の中からは、礫も検出した。溝状遺構2の埋土は、黄灰色粗砂である。溝状遺構2の南西側は一段低くなっており、遺構も遺物も少なかった。土坑82(見SK57)・132(見SK59)・133

(見SK60)・134(見SK61)・135(見SK62)・83・84・86・85・87・137(見SK68)・138(見SK69)・139(見SK70)・143(見SK74)・149(見SK78)・147(見SK79)・148(見SK80)の埋土はしまりがなく柔らかい黄灰色シルト質土であり、土坑136(見SK58)・140(見SK71)・141(見SK72)・142(見SK73)・144(見SK75)・145(見SK76)・146(見SK77)の埋土はしまりがなく柔らかい茶褐色シルト質土で、土坑115(見SK41)の埋土はしまりがなく柔らかい青灰色シルト質土である。これらの土坑の用途は不明である。

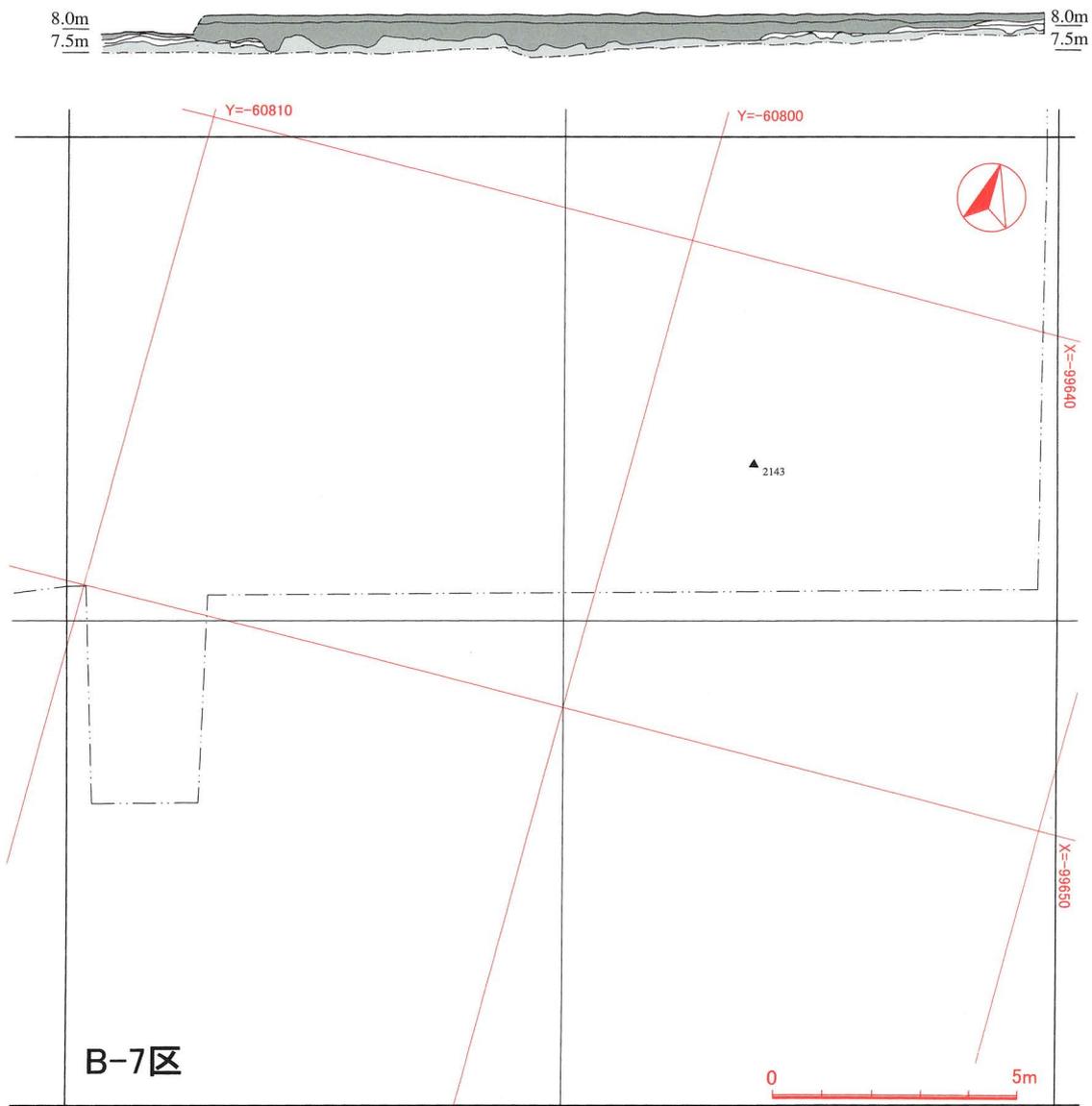
遺物の出土状況は、遺物の量は少なく、西側から点在する形で出土している。図化した縄文時代の遺物は石製土掘具の1点のみである。



第40図 遺構検出及び遺物出土状況 (22) C-7区

C-7区

C-6区で土師器片が若干出土したので、追跡した区域である。確認トレンチ部分で確かめながら、層がしっかり堆積していた部分のみを掘り下げた。しかし、遺構はなく、遺物包含層の確認もできなかった。



第41図 遺構検出及び遺物出土状況 (23) B-7区

**B-7区**

北側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で7.93m、低い所で7.66mである。0.6m～2.5mの地点でⅡ層とⅢ層の間、13.9m～15mの地点でⅠ層とⅢ層の間、16.5m～19.5mの地点でⅠ層とⅢ層の間に灰色粗砂土が堆積しているのが確認された。また、3.5m～3.8mの地点でⅡ層とⅢ層の間には灰色粗砂土が堆積しているのが確認された。

この範囲からは、遺構は検出されなかった。遺物の出土状況は、数点が点在するのみである。



### D-8区

本来調査対象の範囲外であったが、昭和40年代の地形図によると条里型地割大区画の交点にあたる部分であり、工事予定地内に入っていたので、協議の上調査した。

調査の結果、出てきたものはビニール等も含まれており、昭和年間まで下ることがわかった。溝状遺構42 (SR2) とした道状の湾曲した部分もみられたが、どれぐらい古くまでさかのぼるかはわからなかった。はっきりした区画はわからなかったけれども、昭和40年代の区画とほぼ重なる地点であることは明らかとなり、この周辺では当時の状況が残っていると考えられる。

### D-11区

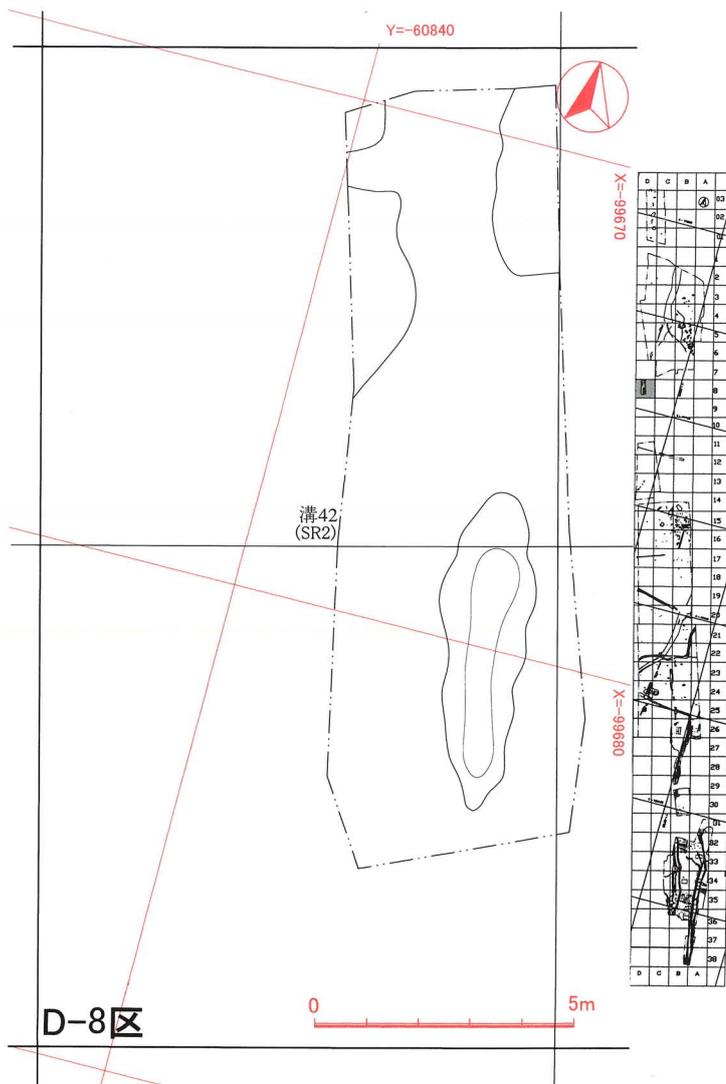
北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.16m、低い所で8.1mである。西側壁面の7.9m～8.2mの地点にかけて、幅30cm、厚さ約16cmの明灰褐色土の層が確認できた。この範囲からは、溝状遺構14 (SD1) が東西方向に検出された。このことから条里型地割の一部と考え、東側へ追えるだけ追ったが、B-12区に入ったところで消滅してしまった。出土した遺物は須恵器が一片である。途切れた部分からさらに東側へ13mをバックホーのバケット幅で確認したが、すでに削平されている様だった。

遺物の出土状況は、古代以降はほとんどみられなかったが、縄文時代の遺物が中心部分と南西の端側から多く出土している。

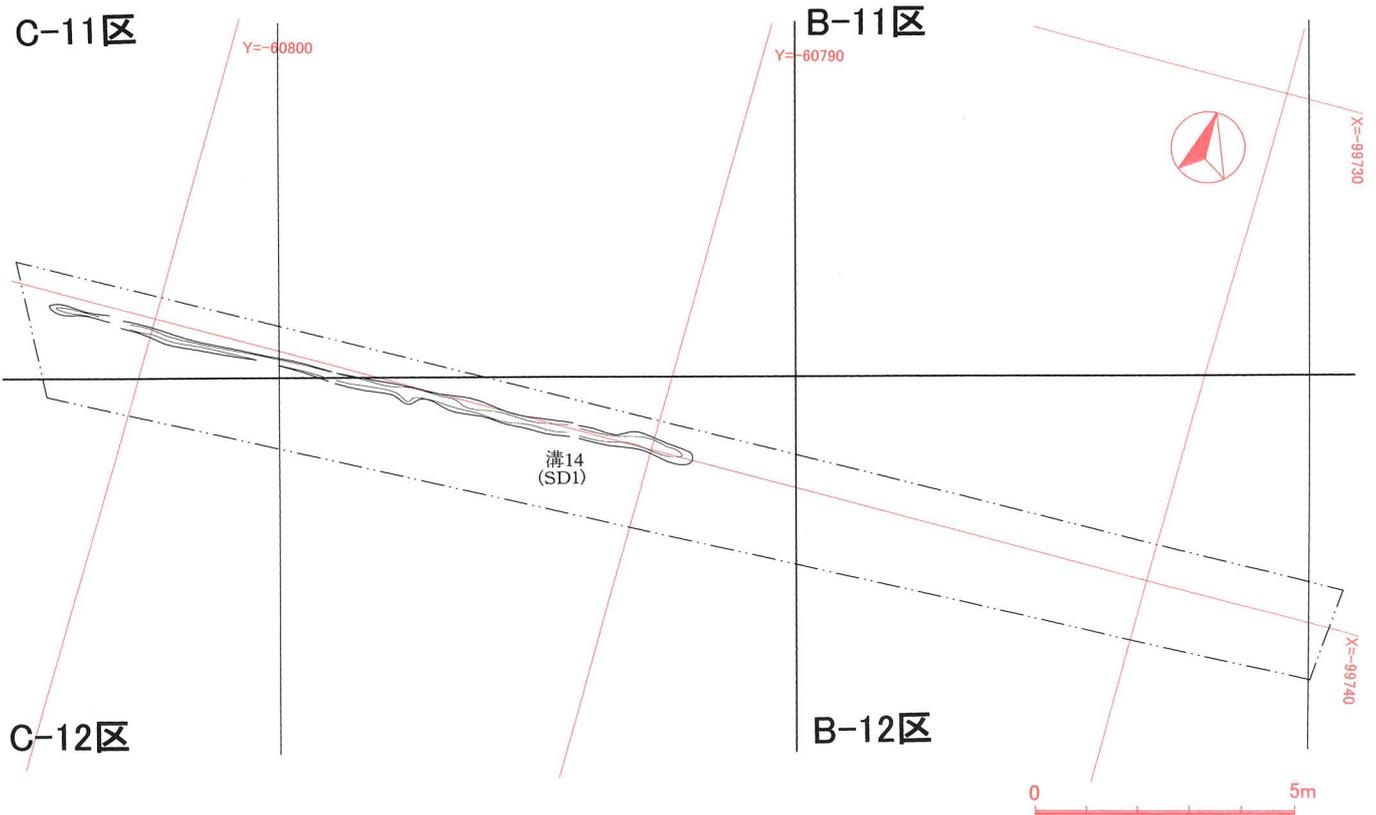
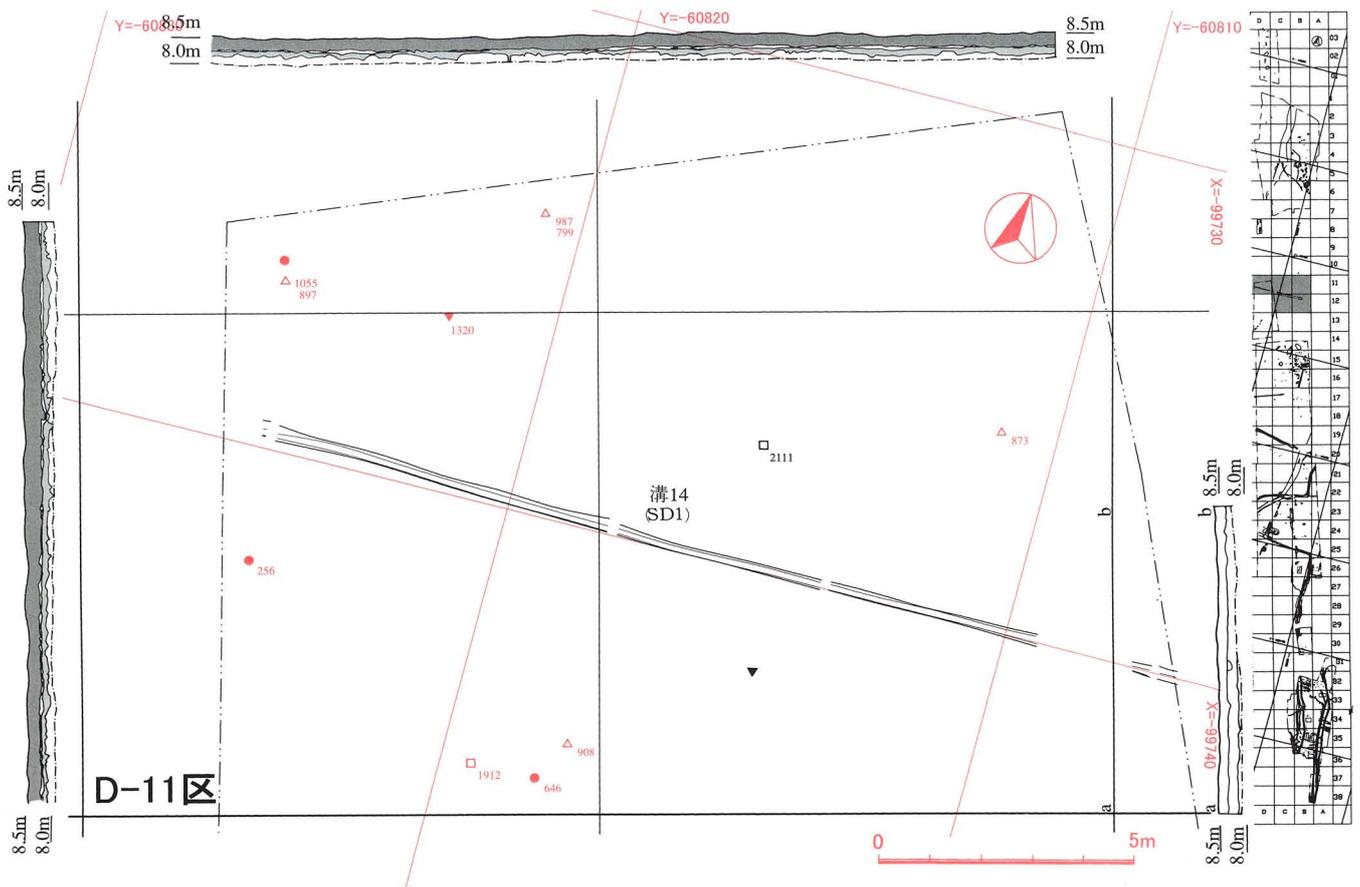
### C-11区

西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.36m、低い所で8.3mである。

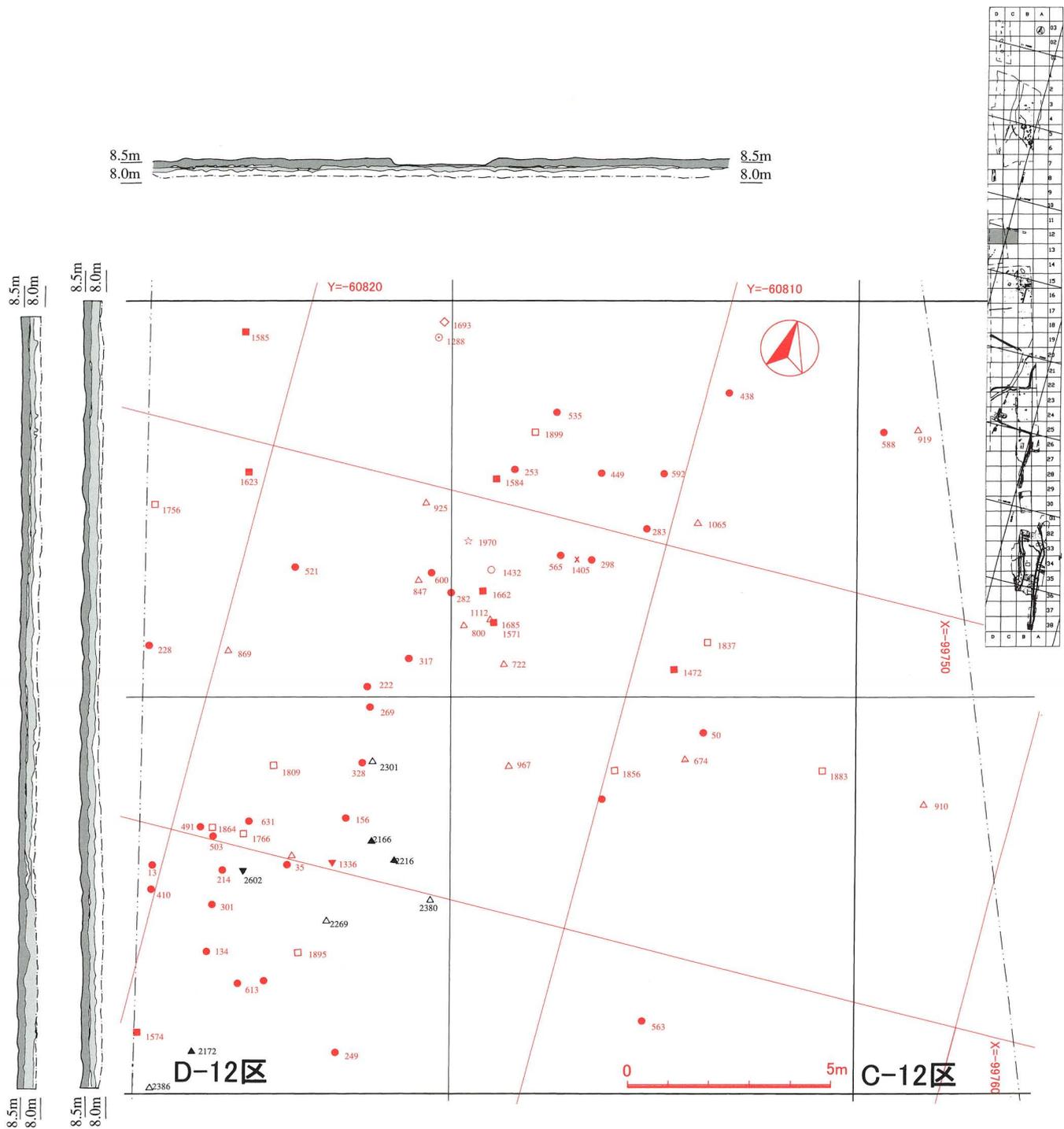
D区から延びてきた溝状遺構14 (SD1) がさらに東西方向に延びている。遺物は、縄文時代及び古代のものがわずかながらみられる。



第42図 遺構検出及び遺物出土状況 (24) D-8区



第43図 遺構検出及び遺物出土状況 (25) D・C・B-11区, C・B-12区



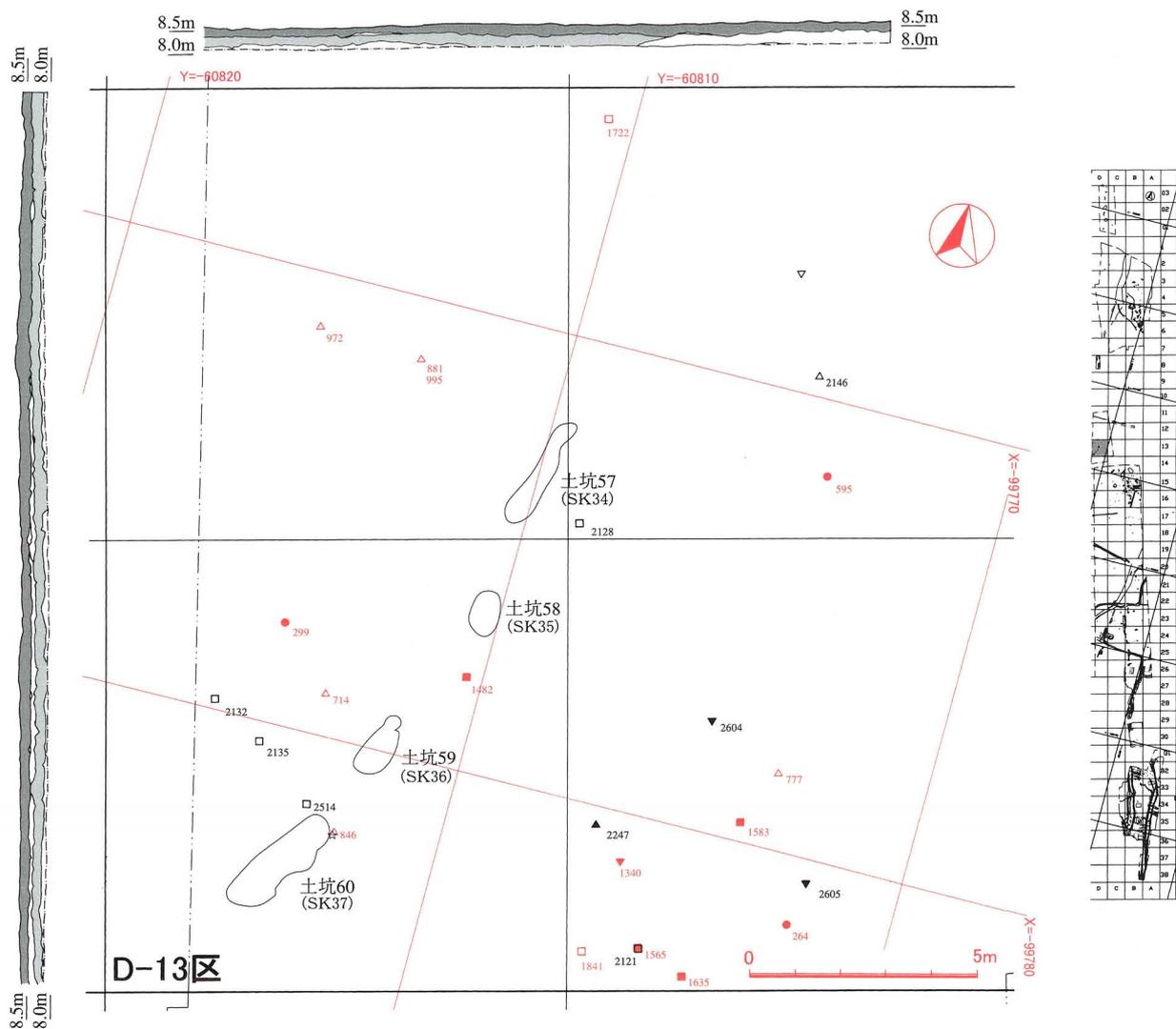
第44図 遺構検出及び遺物出土状況 (26) D・C-12区

**D-12区**

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.36m、低い所で8.3mである。西側壁面の5m～5.64mの地点でⅠ層とⅢ層の間に幅64cm、厚さ約8cmのややしまる砂礫層の堆積を確認した。この範囲からは、遺構は検出されなかった。遺物の出土状況は、全般的に遺物の量は濃密である。縄文時代の遺物は中心部分に多く出土した。縄文時代後期末か

ら晩期にかけての時期であるが、黒川式土器などのやや新しいものが目立つ。ストレートな口縁部をもつ土器は他のグリッドよりも多い。石器も多彩な種類が出土しており、石製土掘具と磨石類が多くみられる。

古代以降の遺物は南西部分から集中して多く出土している。



第45図 遺構検出及び遺物出土状況 (27) D-13区

**C-12区**

西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.4m、低い所で8.3mである。

Ⅱ層が一部にしか存在しないことから、削平を受けているものと考えられる。

この範囲から遺構は検出することができなかった。

遺物の出土状況は、スクレイパー、石鏃、縄文土器、それに須恵器等が西側の端から点在する形で出土している。

**D-13区**

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.43m、低い所で8.3mである。

この範囲からは、土坑57 (SK34)・58 (SK35)・59 (SK36)・60 (SK37) を検出した。一列に並んで検出されているので、この方向に何らかの意味があるのかもしれない。これらの遺構から遺物は出土しなかった。

この範囲の遺物の出土状況は、東西南北と全般的な範囲で出土しており、南にいくほど出土遺物が多い。中でも、南東側からの出土遺物が多い。縄文時代の遺物には石鏃が多く、古代の遺物も増加傾向にある。

### C-13区

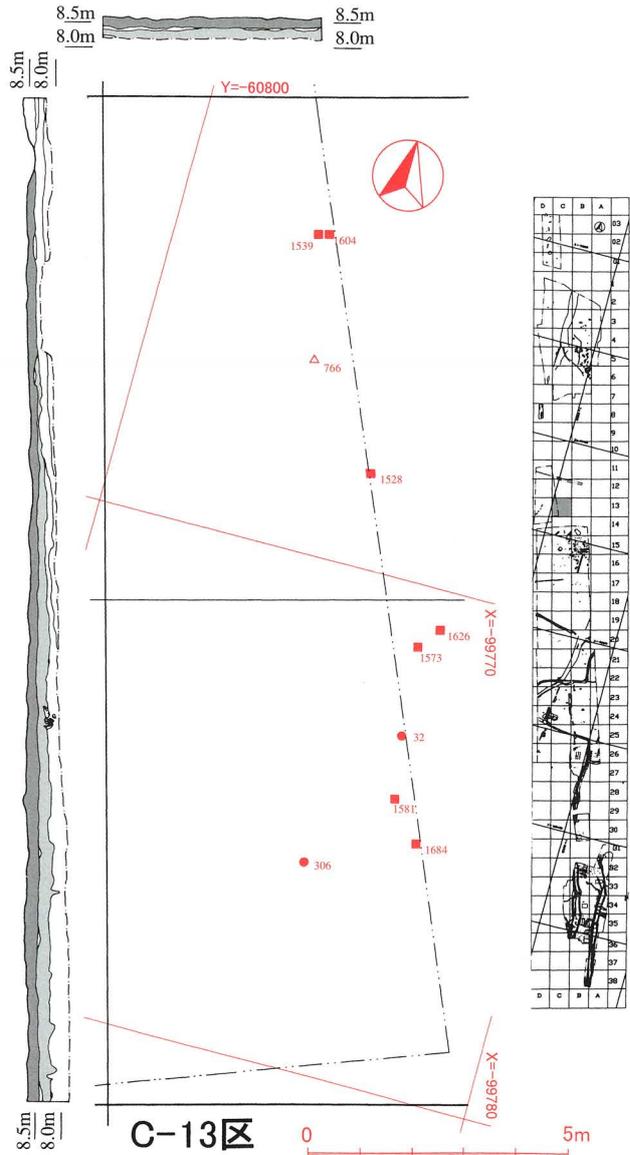
西側壁面でのⅢ層上面の標高は、高い所で8.5m、低い所で8.3mである。

この範囲から、遺構は検出されなかった。遺物の出土状況は、西側の方からしか出土しておらず、特に、南西方向が濃密であり、集中して出土している。

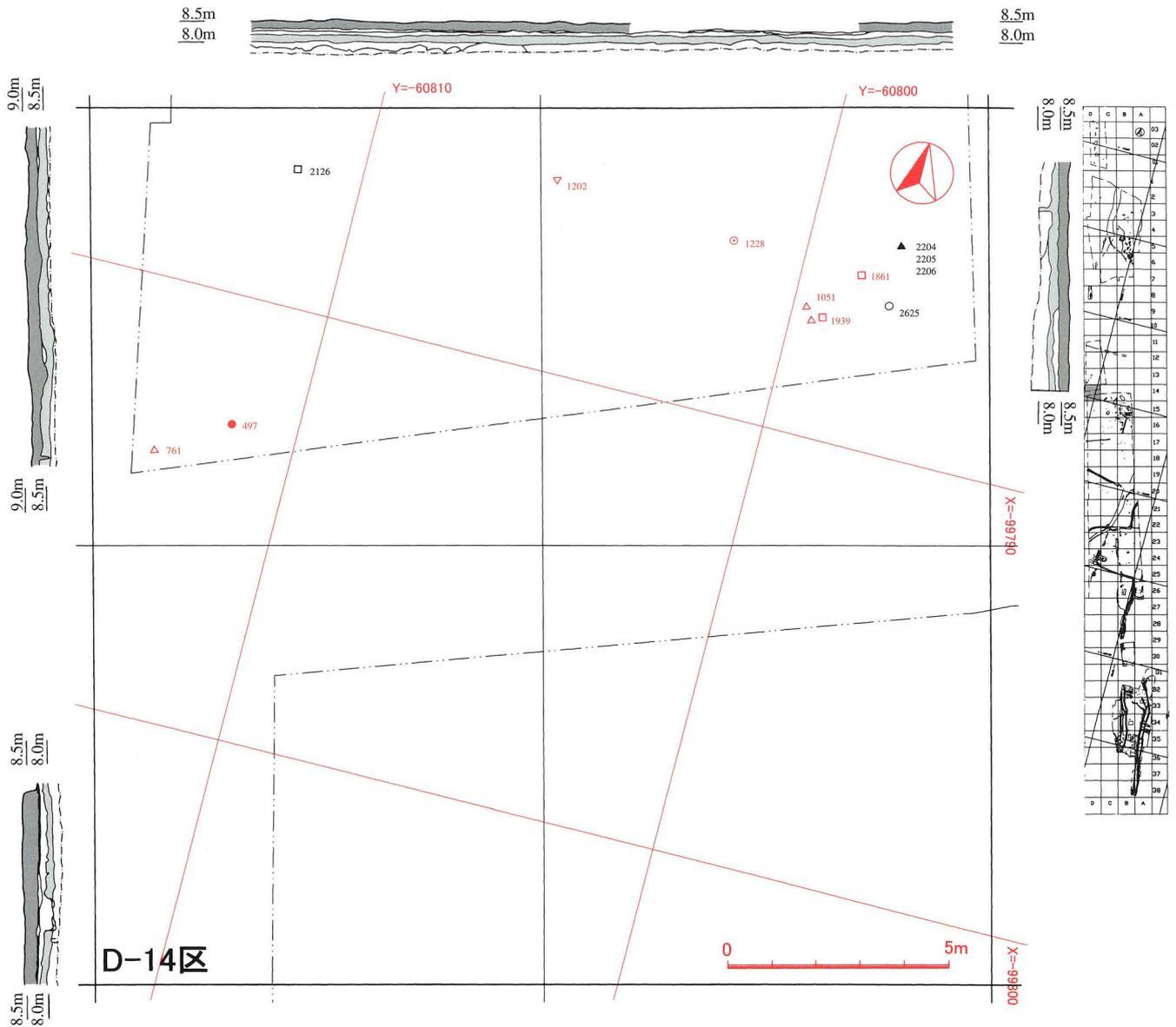
### D-14区

この区の中央部分に東西方向で幅5mの農道があり、その両側を調査した。遺構はなかったけれども、北側部分からは縄文時代の遺物が多く出土した。北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.56m、低い所で8.0mである。Ⅱ層は北側壁面、西側壁面ともその堆積状況からⅡ・Ⅱb層とし、また北側壁面のⅢ層はその堆積状況からⅢ・Ⅲb層とした。北側壁面のⅣ層の下に、Ⅲb層に類似しているもののⅢb層よりもしまりがある層を確認することができたので、これをⅣ'層として分類した。西側壁面では、Ⅳ層の下に粘性が強くしまりがある青色土の層が堆積しているのが確認できた。

この範囲からは、遺構は検出されなかった。遺物の出土状況は、農道より北側からしか出土しておらず、ここからの出土が多い。これは、昭和40年代の圃場整理の際、道路を挟んで南側を深く掘り下げたためではないかと思われる。縄文時代の石器が多い。



第46図 遺構検出及び遺物出土状況 (28) C-13区



第47図 遺構検出及び遺物出土状況 (29) D-14区

#### C-14区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.44m、低い所で8.3mである。Ⅱ層はその堆積状況から、Ⅱb層と分類した。Ⅲ層も西側壁面では微妙な違いがみられる。

遺構として認定したのは、C-15区から延びてくる不明遺構3 (SX75) であり、次第に北へ先細りしていく。北西側にある平行した線は、この部分のみ色調が灰褐色をしていたので記録した。遺構名は付けていない。北側中央部分にある土坑状のものは、埋土との区別が可能であったが、水路で切られていることと、遺物が出土しなかったことから、遺構番号は付さなかった。遺物の検出状況は、石器類や縄文土器等が多く出土している。出土地点は、南東側方向が濃密であり、

ここから集中して出土している。

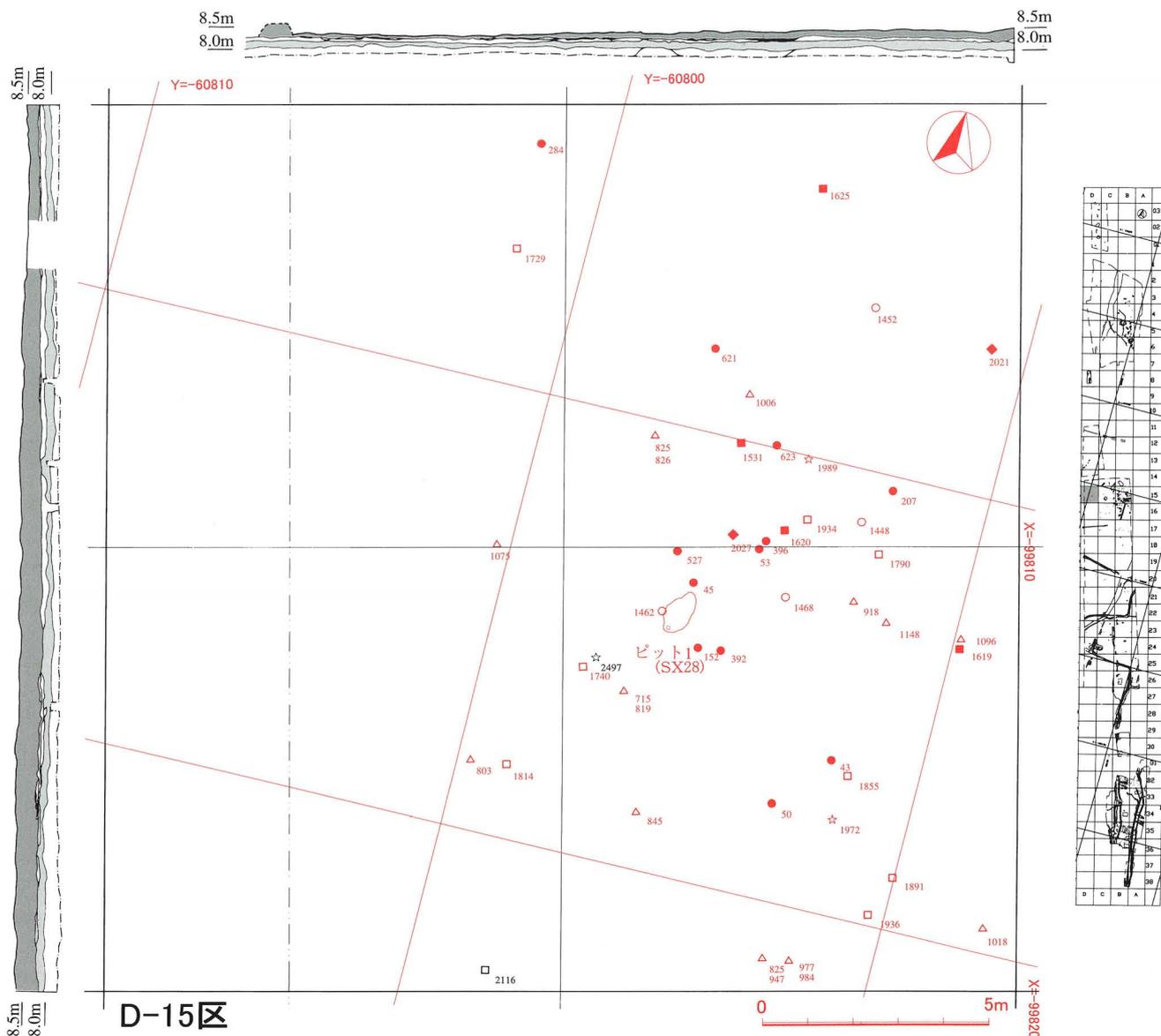
#### B-14区

西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.4m、低い所で8.32mである。現在使われている農道を挟むため、7mの地点までしか調査ができなかった。

この範囲から縄文時代の埋設土器3 (SJ79)・9 (SJ80)、同じく縄文時代の土坑2 (SK118)、古代の焼土遺構 (SF20)、同じく古代の不明遺構4 (SX81) を検出した。焼土遺構については、掘り下げていくと焼土粒が広がって遺物と混在してきたため、結局不明遺構4と同一のものと判断した。

遺物の出土状況は、縄文時代及び古代ともに中心部分から南西方向で多量に出土しており、濃密である。





第49図 遺構検出及び遺物出土状況 (31) D-15区

#### D-15区

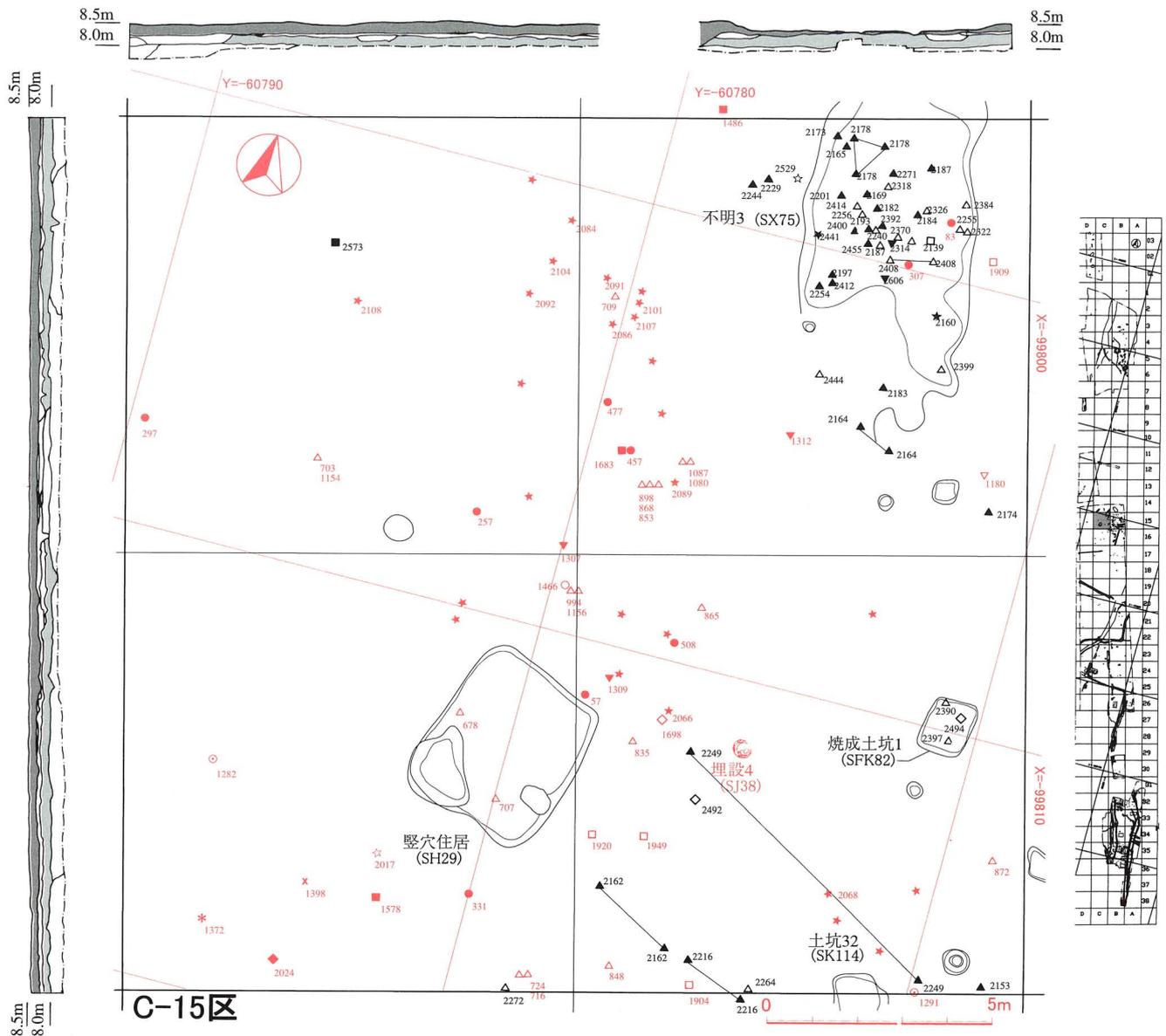
北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.24m、低い所で7.88mである。北側壁面のⅢ層は、その堆積状況から、Ⅲ・Ⅲ'層とした。北側壁面、西側壁面のⅡ層をその堆積状況から、北側壁面をⅡb層、西側壁面をⅡb'層と分類した。特に西側壁面のⅡb層、Ⅱb'層の中に炭化物の混入が確認された。

古代の遺構・遺物はほとんどなく、この時期の生活場所はC-15区以東であったと考えられる。一方、縄文時代にはこの区域まで生活場所が広がっていたと考えられる。この範囲から、縄文晩期のものと思われるピット1 (SX28) を検出した。この遺構の埋土は、炭化粒を多く含み粘質が強い。この遺構からは、

縄文土器の土器片が出土した。

遺物の出土状況は、石斧・石製土掘具・磨石・石鏃・異形石器・石皿・勾玉・管玉・縄文土器、それに陶磁器等が出土しており、非常に濃密である。遺物の出土は、全体的な範囲から出土しているが、西側にいくにつれて、やや量を減じている。縄文時代は後期後半の上加世田式土器が他のグリッドよりも多く出土している。





第50図 遺構検出及び遺物出土状況 (32) C-15区

### C-15区

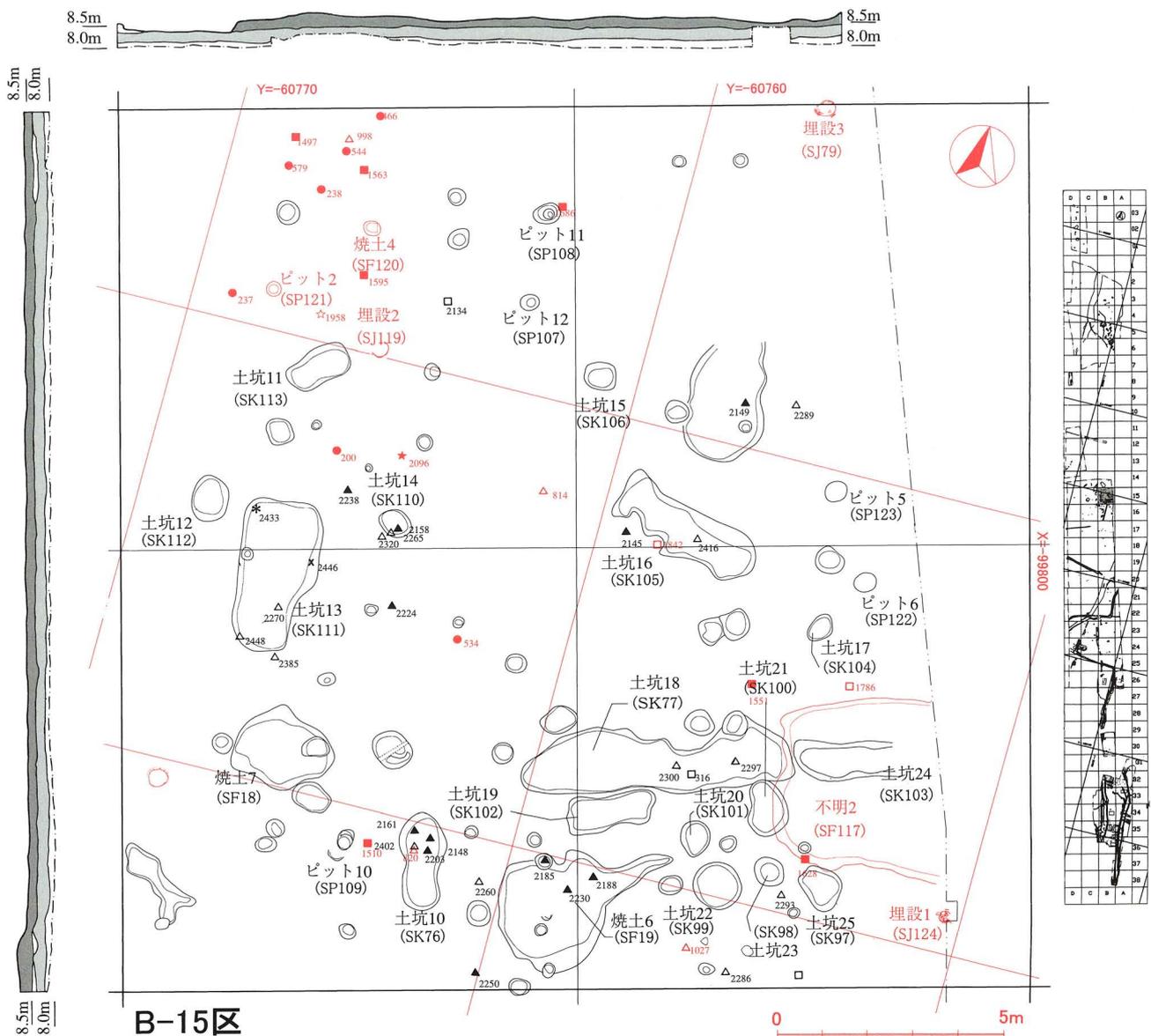
北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.36m、低い所で8.13mである。Ⅱ層をその堆積状況から、Ⅱb・Ⅱb'層として分類した。北側壁面18m～19.04mの地点にかけて、Ⅰ層下部とⅢ層上部の間に、幅1.04m、厚さ約12cmの灰黄色粘質土の層が堆積していた。また、北側壁面の22.7m～23.7mの地点にかけて、Ⅱa層下部とⅢ層上部の間に、幅1m、厚さ約12cmのマンガンが混入している青灰色粘質土の層が堆積していた。中央より東側には排水路がつくられており、寸断されていた。

この範囲からは、縄文時代後期後半のものと思われる埋設土器4 (SJ38)、古代前半のものと思われる竪穴住居跡 (SH29)、古代のものと思われる焼土を伴

う土坑1 (SFK82)、同じく古代のものと思われる土坑32 (SK114) を検出した。

これらの遺構からの出土遺物としては、竪穴住居跡からは底部が丸平底となる土師甕、焼成土坑1からは須恵器・土師器・土錘、不明遺構3 (SX75) からは須恵器・土師器・鉄製品・獣骨等が出土した。

この範囲からの遺物の出土状況としては、石器類・勾玉・管玉・縄文土器・須恵器・土師器等が出土している。その中でも特に縄文時代後期終末の玉類が多く、この区全般的に出土しており濃密である。中心部と北東方向から多く出土している。



第51図 遺構検出及び遺物出土状況 (33) B-15区

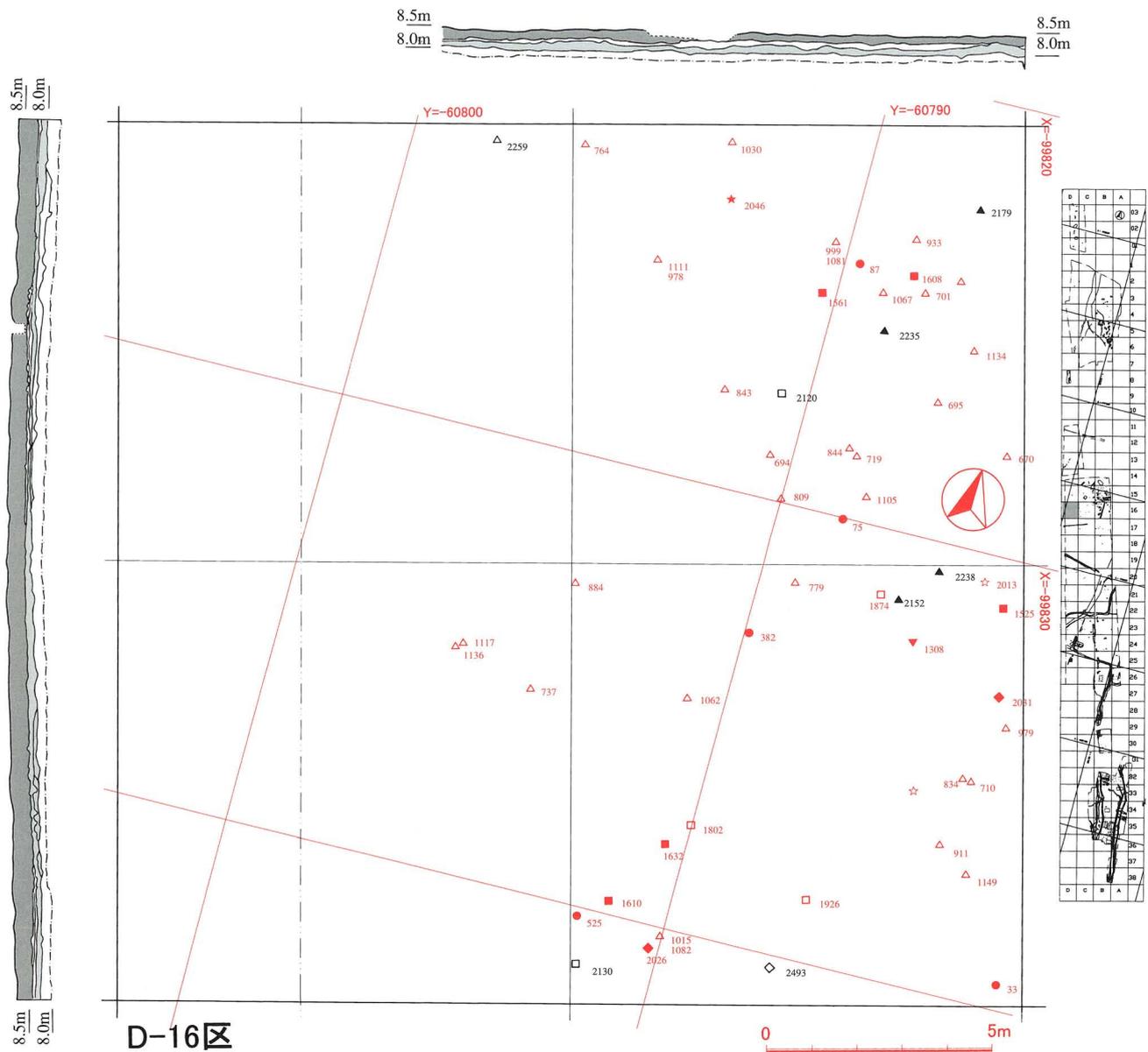
### B-15区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.4m、低い所で8.3mである。この範囲はⅠ層→Ⅲ層→Ⅳ層となっており、Ⅱ層がないことから、昭和40年代の耕地整理で、削平されたものと考えられる。

この範囲から、縄文時代のものと考えられる埋設土器2 (SJ119)・埋設土器1 (SJ124)、古代前半と考えられる焼土遺構2基 (SF6・7)、古代の土坑16基 (SK76・77・97・98・99・100・101・102・103・104・105・106・110・111・112・113)、古代のピット4 (SP116)・6 (SP122)・5 (SP123)を検出した。土坑やピットの埋土には、焼土粒や炭化粒が含まれている遺構もあった。すべてのピットに名称をつけた

わけではなく、遺物が出土したものや、特徴的な形状及び埋土堆積状況を示すものだけに遺構名をつけた。ピットもいくつか検出したが、並ばせられなかった。この範囲の遺物は、縄文時代の埋設土器の他に、土坑・ピット内部より、土師器・須恵器・轆の羽口等が出土した。

遺物の出土状況としては、石製土掘具・磨石・玉等の石器類や縄文土器、土師器・須恵器等が中心部に向かって弧を描くような形で大量に出土した。特に中心から周辺部にいくほど、遺物の量が多く濃密である。



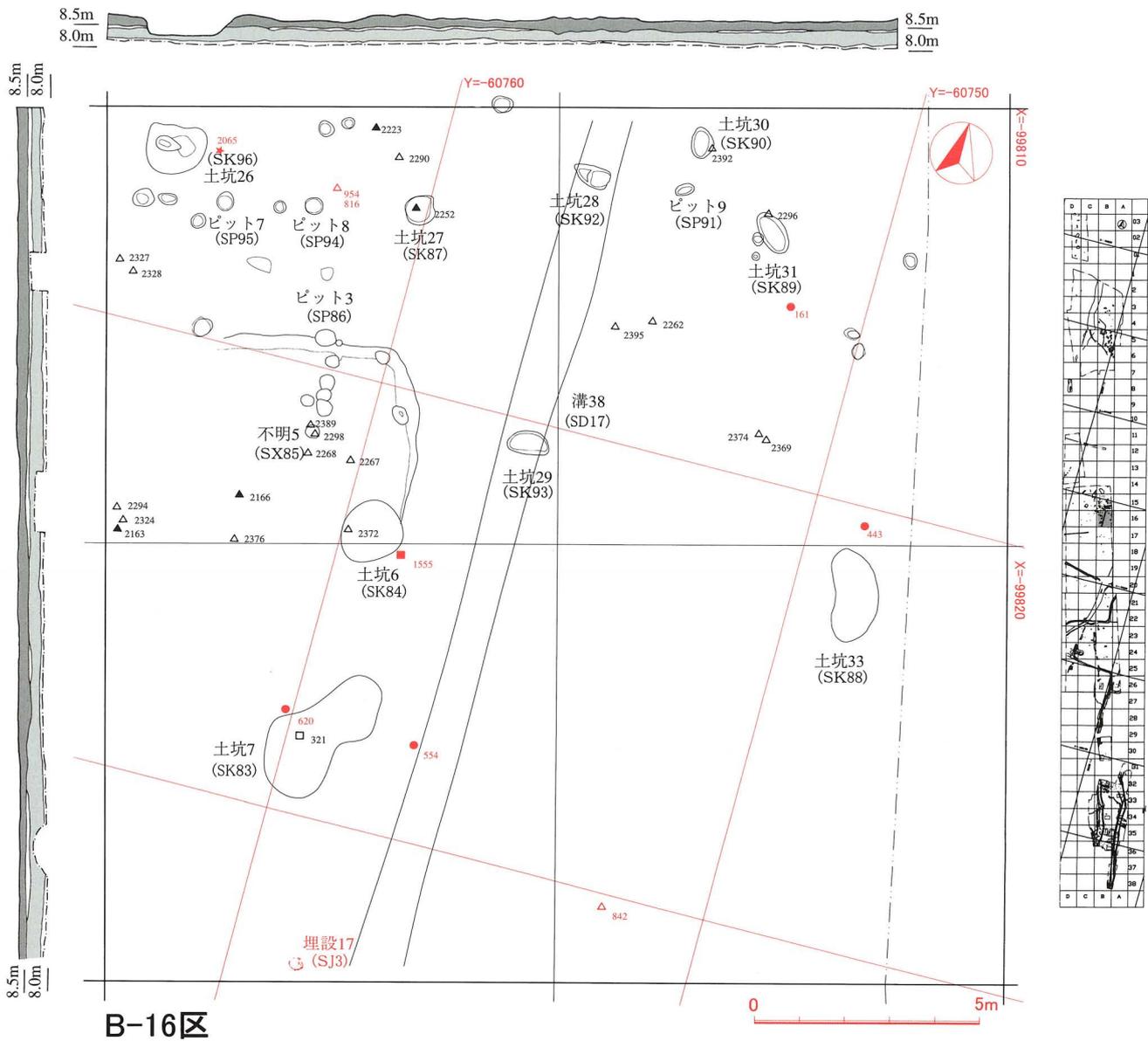
第52図 遺構検出及び遺物出土状況 (34) D-16区

D-16区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.4m、低い所で8.04mである。北側壁面のⅡ層は、その堆積状況からⅡ・Ⅱb層とした。また、西側壁面では、Ⅱb層に炭化物が入ったものを確認したのでⅡb'層とし、Ⅲ層に暗灰褐色土でマンガン分が少量入ったややしまっている層を確認したので、これをⅢb層として分類した。

遺物の出土状況は、非常に濃密であり、特に石鏃が多く出土しており、またこの範囲の西側寄りに、縄文土器や須恵器等の多量の遺物が出土している。縄文土器は古手のものが多い。





第54図 遺構検出及び遺物出土状況 (36) B-16区

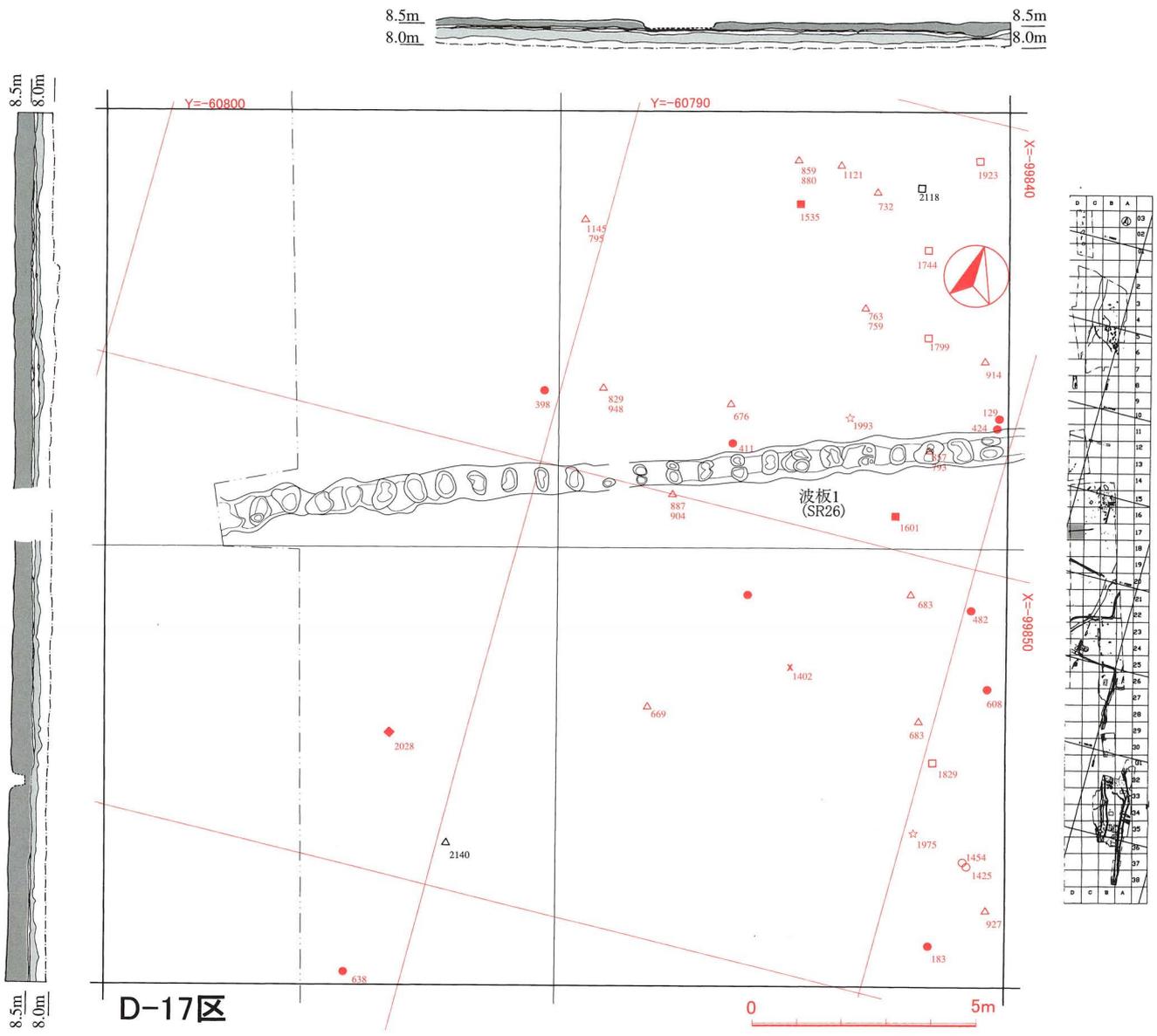
**B-16区**

北側壁面と西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.5m、低い所で8.3mである。北側壁面の0.8m～2.8mの地点にかけて削平されていた。

この範囲からは、縄文時代後期のものと思われる埋設土器17 (SJ3)、古代のものと思われる土坑9基 (SK83・84・87・88・89・90・92・93・96)、古代のものと思われるピット3 (SP86)・9 (SP91)・8 (SP94)・7 (SP95)、古代のものと思われる不明遺構5 (SX85)、近世以降のものと思われる溝状遺構38 (SD17)を検出した。土坑やピットの埋土には、焼土粒や炭化粒が含まれているのもあった。この範囲の遺物は、縄文時代の埋設土器の他に、土坑・ピット内部から、土師質の土器、土師甕の口縁部と甌の

底部と考えられるもの、安山岩の礫、須恵器片等が出土した。溝状遺構38は表土除去後に精査したところ、この部分だけ筋状にサビ色をしていた。通常の遺構のつもりで掘り下げてみても、底面及び壁面ははっきり出てこなかった。おそらく上部に存在していたと考えられる溝状遺構の痕跡と判断した。ちょうど南北方向にあることから、条里型地割に関するものと考えられる。

遺物の出土状況としては、中心部からはあまり出土せず、北東・北西・南西より中心部に向かって弧を描くような形で、縄文土器や土師器・須恵器等が出土していた。南側では縄文時代及び古代以降ともに遺物の出土量が減ってきている。



第55図 遺構検出及び遺物出土状況 (37) D-17区

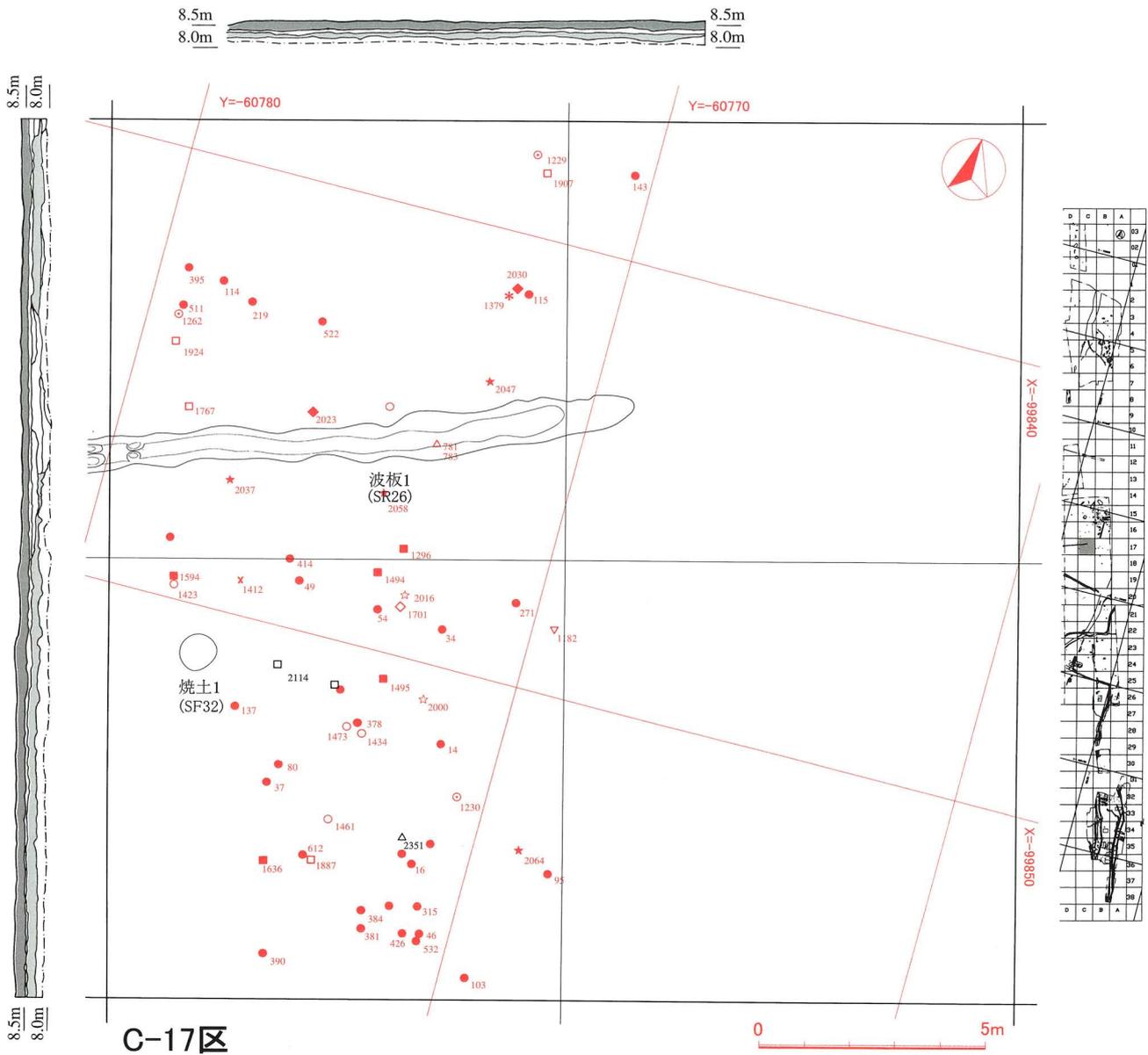
**D-17区**

北側壁面・西側壁面の標高は、高い所で8.43m、低い所で8.2mである。北側壁面のⅡ層は、下部に白灰色の層を確認したのでⅡb層とした。また、西側壁面では、Ⅰ層の下部にⅠ層よりもややしまりがあり赤味がかっている層を確認したので、これをⅠb層とした。さらにⅡ層の中に炭混じりの層を確認し、これをⅡb層とした。そしてⅡb層に似ているがⅡb層よりは粘性が強くしまりのある土の層を確認したので、これをⅡd層として分類した。

この範囲から、古代のものと思われる波板状凹凸面1 (SR26) を検出した。当初は遺構とはわからず、雨がりにいつもここだけが筋状に早く乾くことから掘り下げたところ、底面が波板状となった。この

遺構から遺物は検出されなかった。

遺物の出土状況は非常に濃密であり、この範囲のより東側から石器類や縄文土器等の多量の遺物が出土している。また、D-16区の延長で石鏃の出土点数が目立つ。



第56図 遺構検出及び遺物出土状況 (38) C-17区

### C-17区

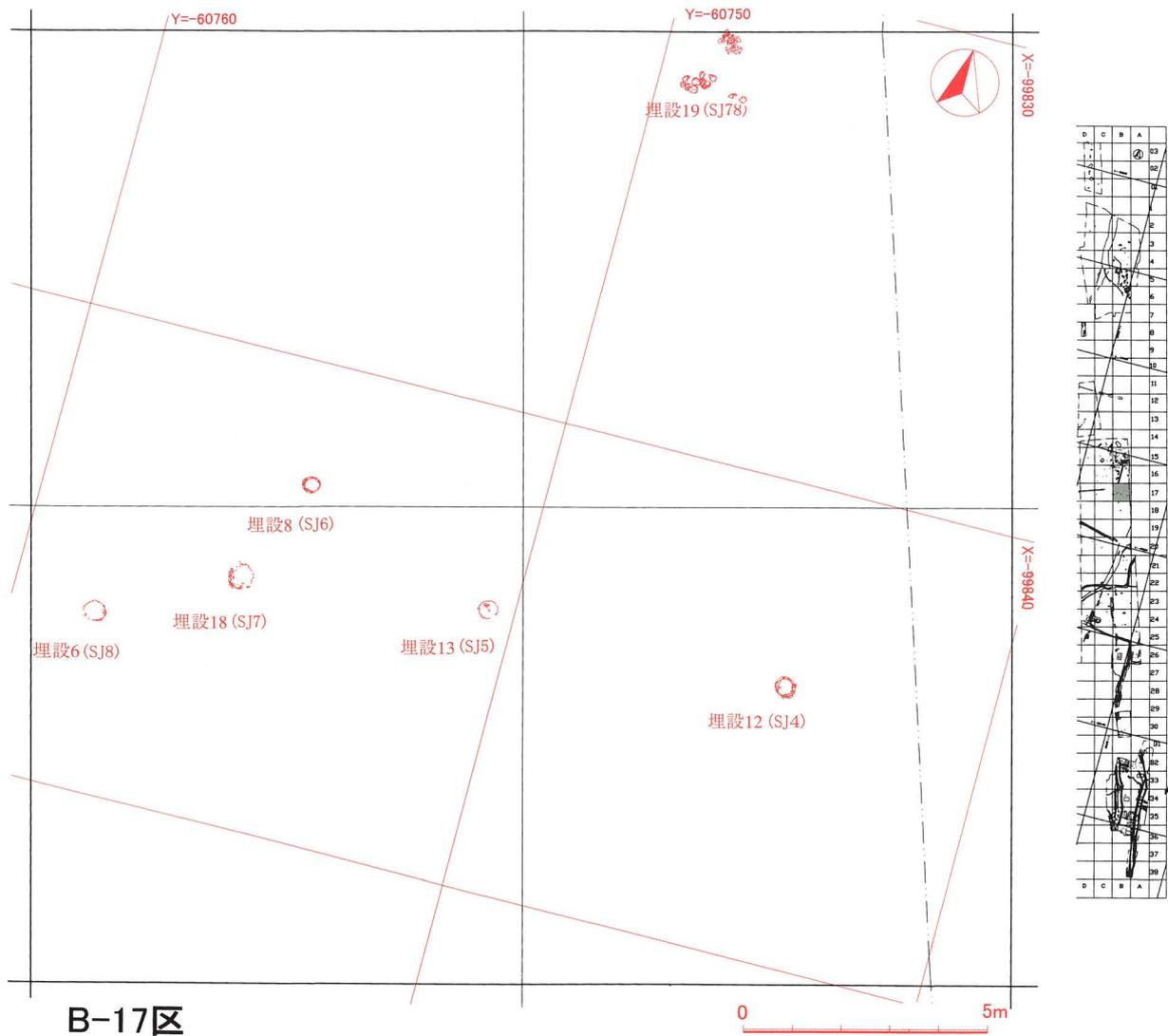
北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.4m、低い所で8.24mである。Ⅱ層はその堆積状況から、Ⅱ・Ⅱb・Ⅱe・Ⅱf層とした。西側壁面の14.3m～15mの地点と19.6m～20m地点のⅡf層に、溝らしきものを認めたが、遺構としては判断しなかった。

この範囲では、西側壁面の12.2m～12.8mの地点のⅢ層上面で、幅60cm、厚さ約12cmの古代と考えられる波板状凹凸面1 (SR26) を検出した。波板状の凹凸がはっきりするのは西端のみであり、この区では単なる溝状遺構となって中央付近で消滅している。また、縄文時代の後期から晩期のものと思われる焼土1 (SF32) を検出した。

遺物の出土状況は、石器類や縄文土器・玉等が西

側の方から多量に出土しており、特に南西方向が濃密である。

東側は水路で寸断されているものの、縄文時代の遺物も見られず、波板状凹凸面1もこの付近で消滅していることから、後世に削平されたものと思われる。



第57図 遺構検出及び遺物出土状況 (39) B-17区

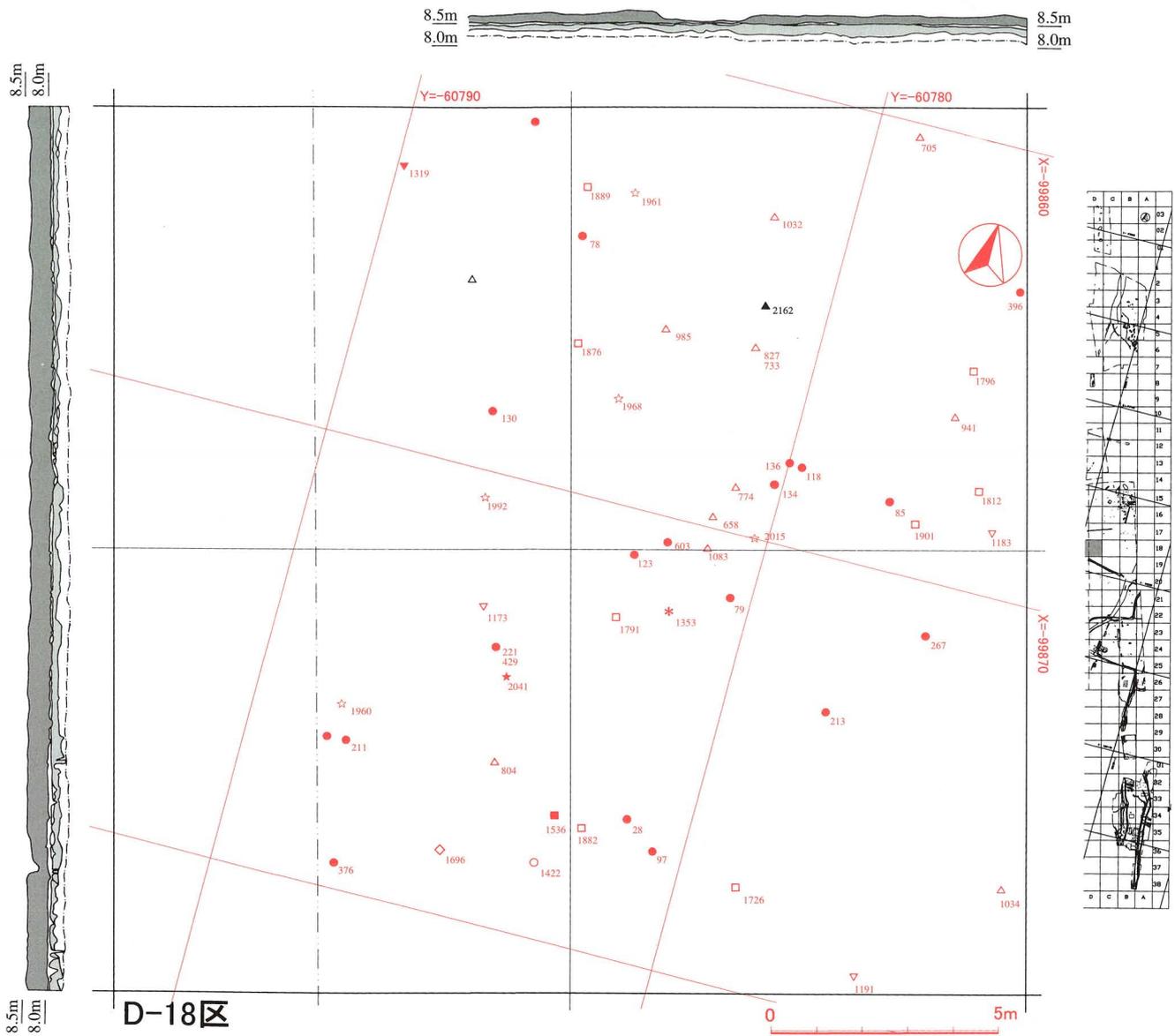
**B-17区**

北側壁面については表土層直下がⅢ層の途中であり、西側壁面については水路によって削平されていたため、図化しなかった。

この範囲から、縄文時代後期後半から晩期のもと思われる埋設土器12 (SJ 4)・13 (SJ 5)・8 (SJ 6)・18 (SJ 7)・6 (SJ 8)・19 (SJ 78)を検出した。

埋設土器以外の遺構は検出されなかった。古代の遺構・遺物が全くなく、縄文時代の遺物の出土もなかった。さらに、埋設土器自体も半分より下部が辛うじて残っている状態であったことから、この範囲は後世に削平されたものと考えられる。



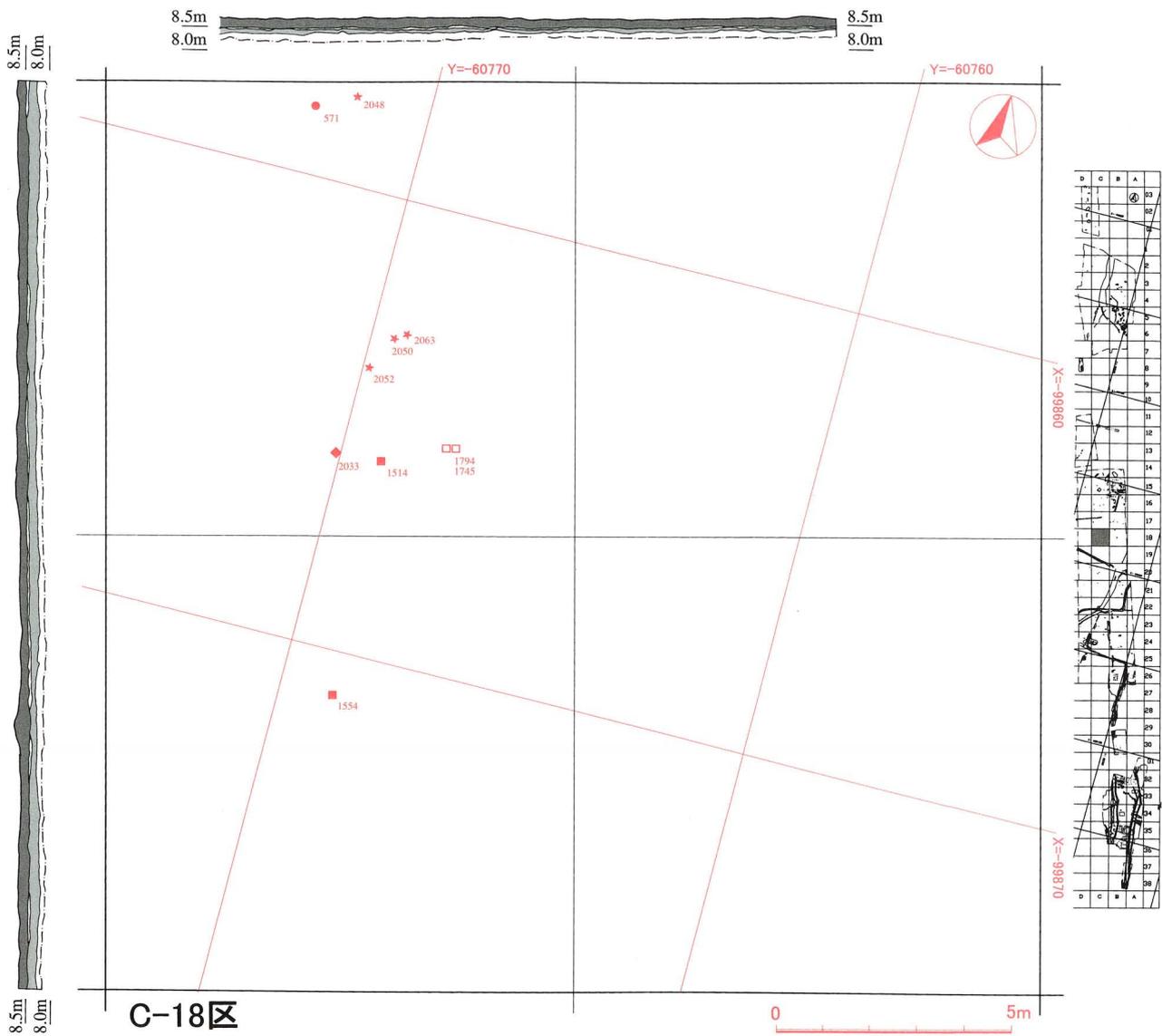


第58図 遺構検出及び遺物出土状況 (40) D-18区

D-18区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.5m、低い所で8.42mである。北側壁面の11.8m～13.9mの地点にかけてⅠ層が極端に薄くなるので、この部分は削平を受けていたことが考えられる。

この範囲から古代及び縄文時代の遺構は検出されなかった。古代の遺物はまばらであるが、縄文時代の遺物の出土状況は非常に濃密であり、この範囲の東西南北いたるところから石器類や縄文土器等の多量の遺物が出土している。特に、中心に向かって弧を描くように出土している。西側にも広がる様相がみられ、調査範囲外にも包含層が広がるとみられる。

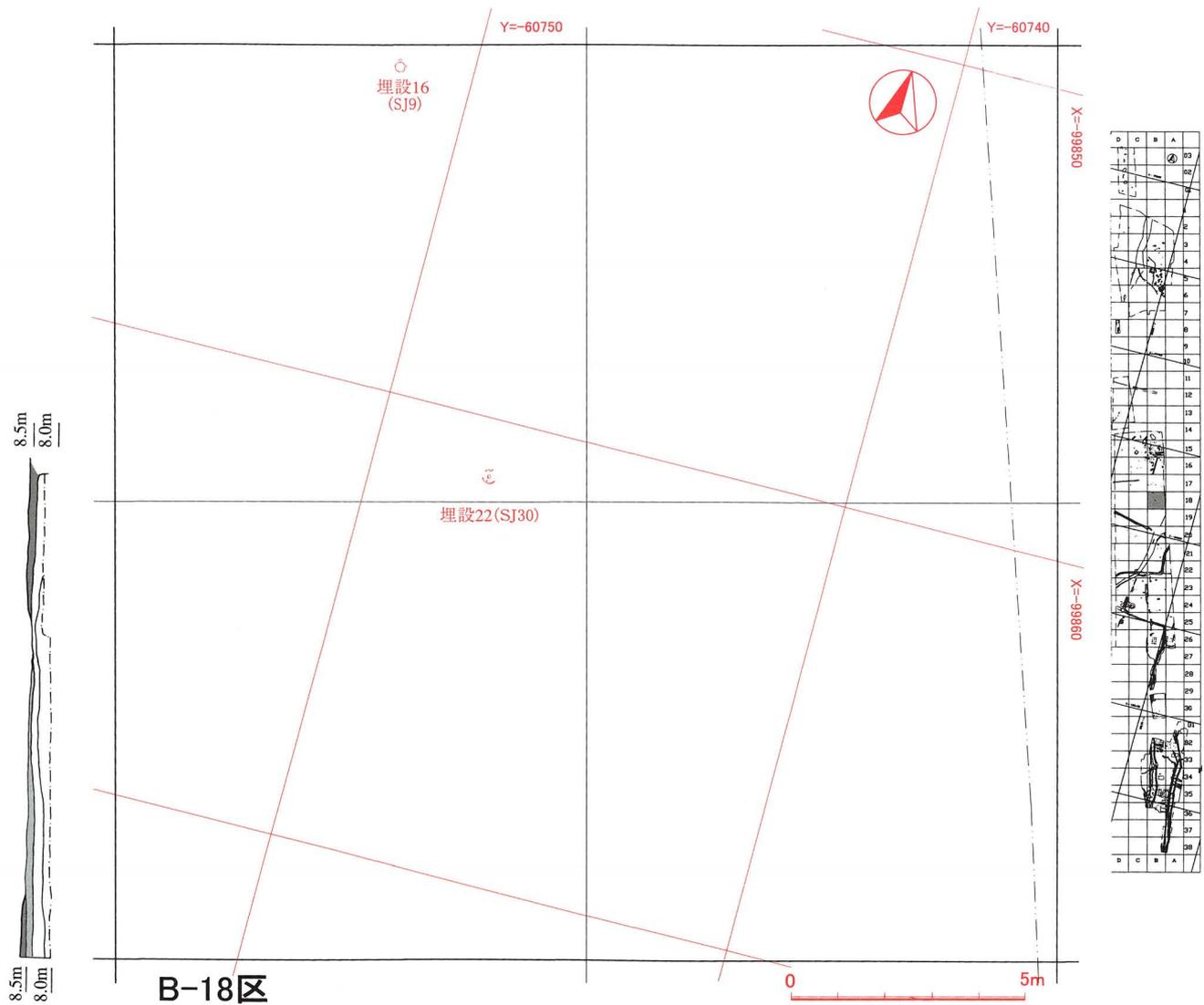


第59図 遺構検出及び遺物出土状況 (41) C-18区

C-18区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.5m、低い所で8.4mである。北側壁面・西側壁面ともにⅡ層が薄い。

遺物の出土状況は、石器類や縄文土器等の遺物がやや西側に点在して出土している。玉類もこの区の北側までは出土しており、分布範囲が明らかである。東側は後世に削平されたものと考えられる。



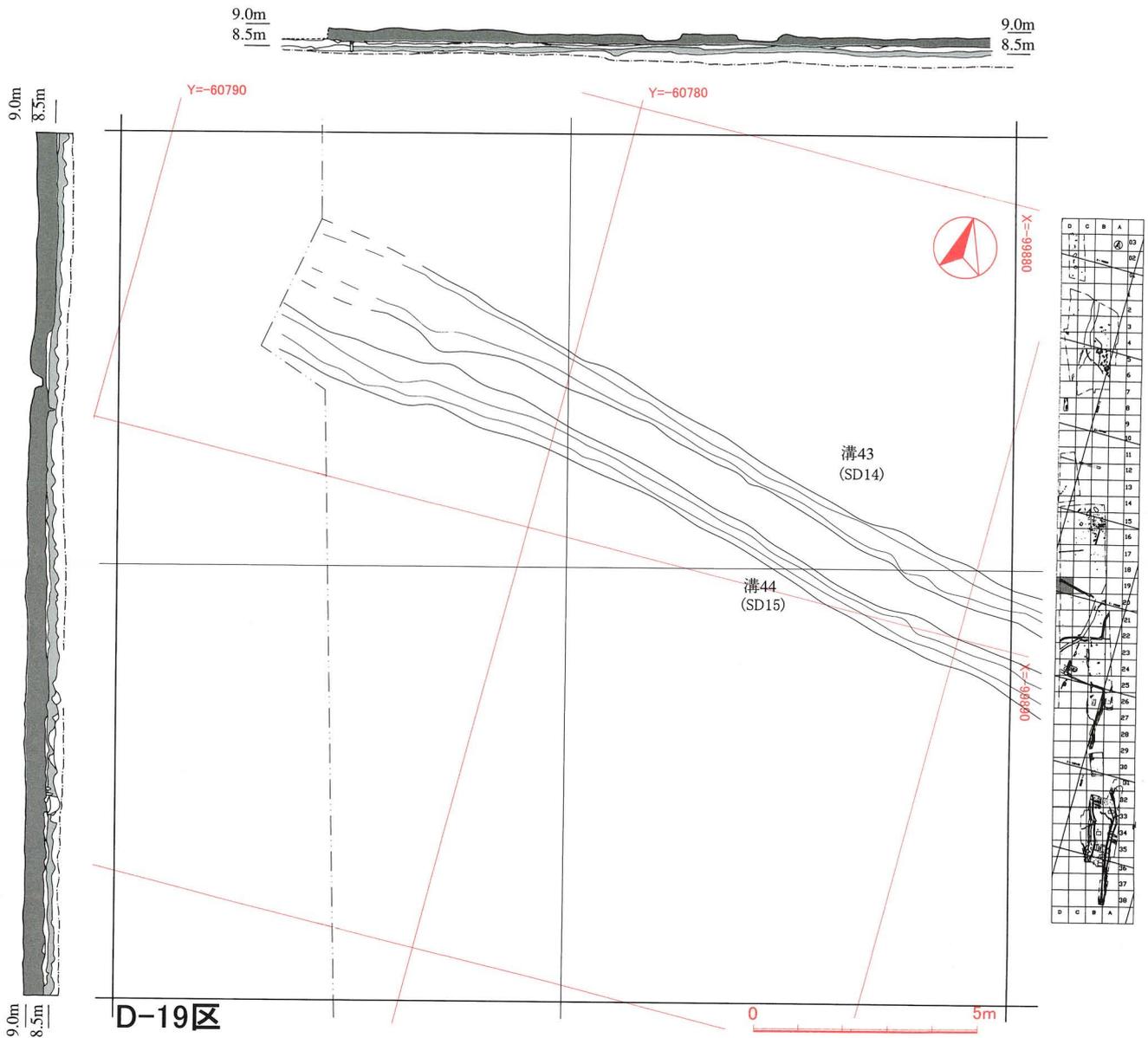
第60図 遺構検出及び遺物出土状況 (42) B-18区

**B-18区**

西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.5m、低い所で8.4mである。この範囲の層位はⅠ層部分が、1.36mの地点～7.3mの地点まで無く、Ⅲ層上面が地表に現れていることから、調査の段階で削平を受けていたことが考えられる。また、12mの地点から側溝工事のために深く掘られていた。

この範囲からは、縄文時代晩期のものと思われる埋設土器16 (SJ9)・22 (SJ30) を検出した。

埋設土器以外の遺物は検出されなかった。埋設土器も下半部しか出土しなかったことから、後世に削平を受けて辛うじて残ったものと考えられる。



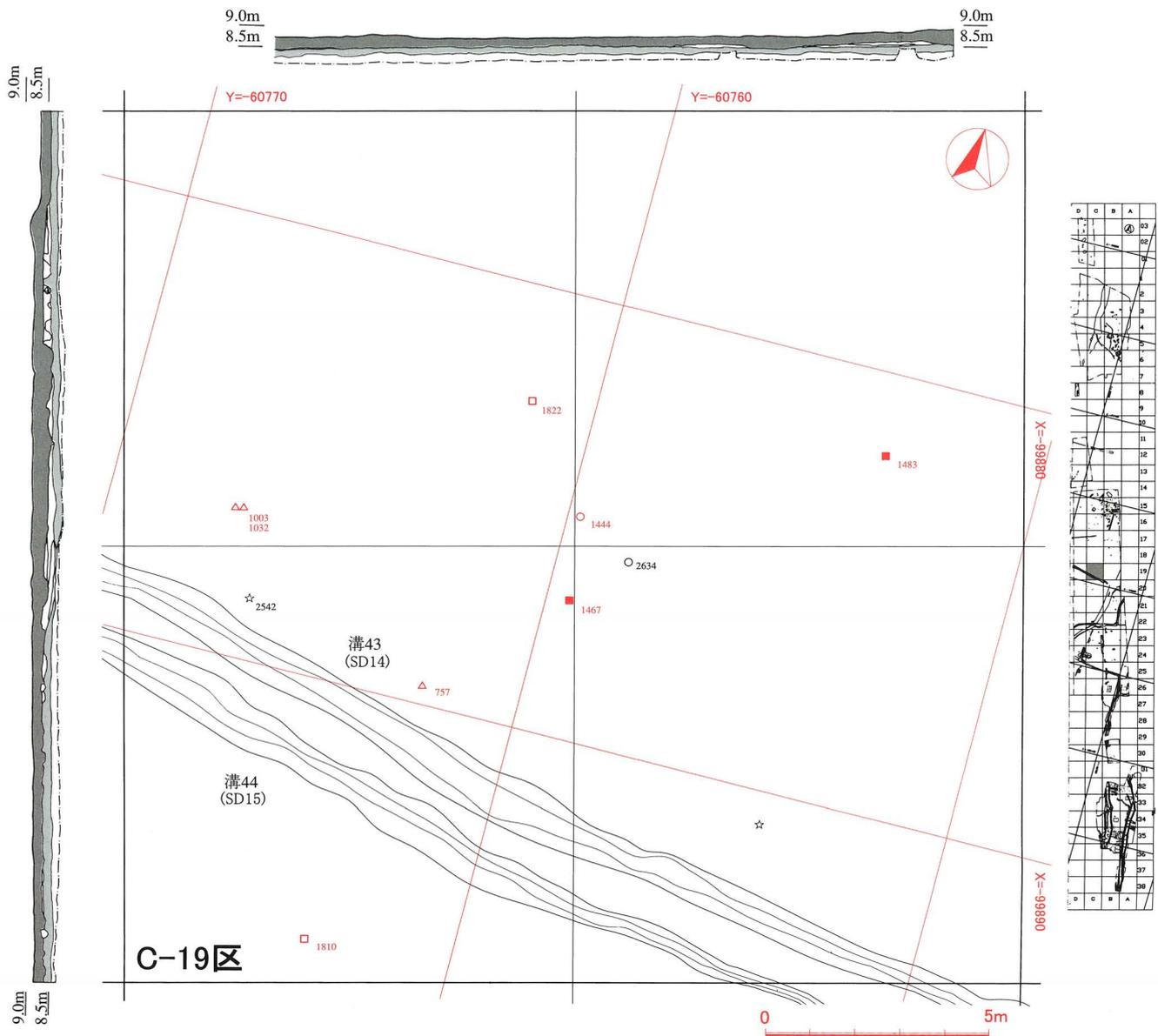
第61図 遺構検出及び遺物出土状況 (43) D-19区

**D-19区**

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.6m、低い所で8.3mである。北側壁面のⅠ層は、3.46m～4.5mの地点で削平を受けていたことが考えられる。Ⅱ層は、その堆積状況からⅡ・Ⅱb層とした。また、西側壁面のⅢ層はその堆積状況からⅢ・Ⅲ'層とした。西側壁面の0m～7.3mの地点では、Ⅱ層・Ⅱb層・Ⅱb'層・Ⅲ層・Ⅲ'層と細かく点在していることが確認された。

溝状遺構43 (SD14) と溝状遺構44 (SD15) が並行して東西方向に延びており、昭和40年代の地籍図に描かれた道跡と一致した。その他の遺物や遺構がないことから、後世に削平された部分ではないかと考えられる。条里型地割大区画の南東隅に位置するこ

とから、条里型地割の施工時期に旧地形の中では最も深く削平されたのではないかと考えられる。



第62図 遺構検出及び遺物出土状況 (44) C-19区

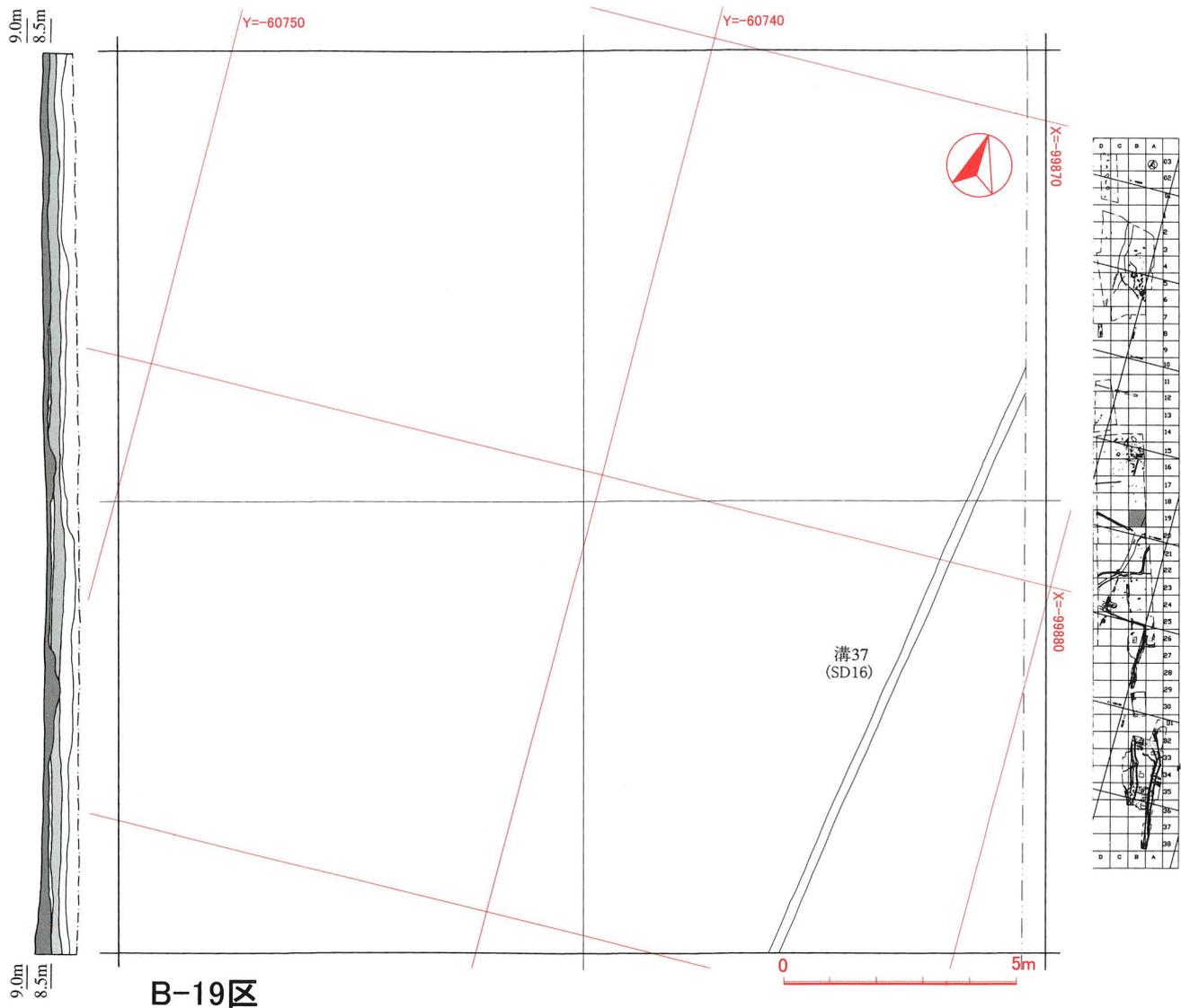
### C-19区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.66m、低い所で8.46mである。北側壁面の3.24m～5mの地点にかけて、Ⅰ層とⅢ層の間に厚さ4cm程度の赤橙化した層が認められた。その堆積状況からⅠ層をⅠ・Ⅰb層（灰褐色土層：見入来遺跡で見られた溝の埋土に類似しており、乾燥すると灰白色になる）、Ⅱ層をⅡb・Ⅱe層（Ⅱb層よりマンガン分が多く、しまりが弱い暗灰褐色土）・Ⅱf層（Ⅱe層より粗く、マンガン分を含む黒灰褐色砂質土）とした。

南側には、近世～近代のものと考えられる、東西方向の溝状遺構43（SD14）・44（SD15）を検出した。これらの遺構の中から、近代陶磁器片や波瓦片、薩摩焼の播鉢等が出土した。また、溝内には使用済み

の石炭が埋められており、駅周辺の利用状況が窺える。昭和40年代の地籍図に道路として表示されており、ちょうどこの部分であることがわかった。

遺物の出土状況は、石器類や縄文土器・陶磁器類等が全般的な範囲から出土している。特に、南東方向から多く出土している。



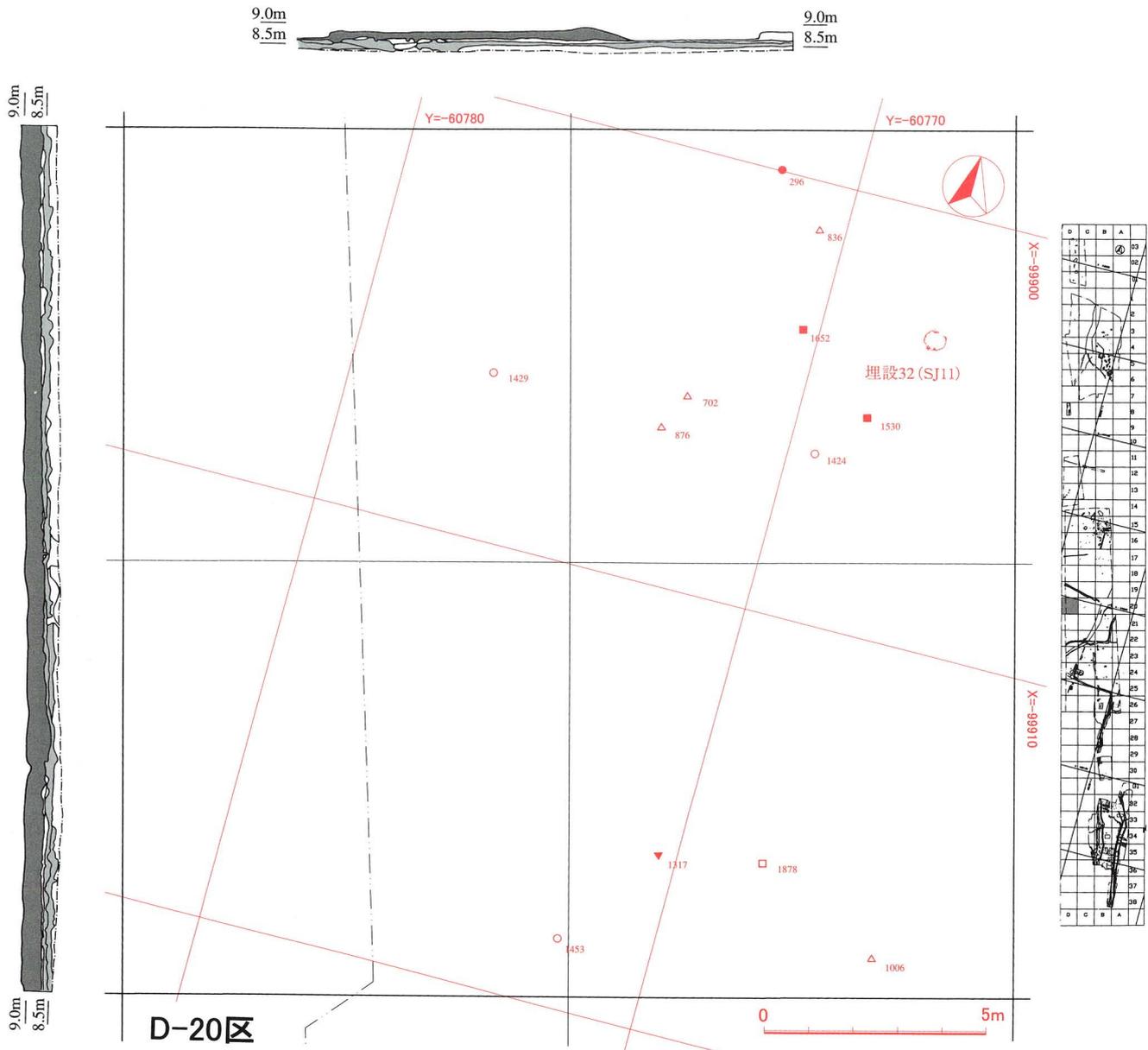
第63図 遺構検出及び遺物出土状況 (45) B-19区

**B-19区**

西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.5m、低い所で8.44mである。Ⅲ層内部の特色から、これをⅢa・Ⅲb層と分けた。

この範囲からは、近世以降のものと思われる溝状遺構37 (SD16) が検出された。これは表土を剥がして精査した時点で、この部分だけが筋状にサビ色を呈していたので遺構名を付した。通常の遺構のつもりで掘ってみたものの、壁面も床面もつかむことができず、漸次層が変わっていった。したがって、この上部に何らかの施設があり、その痕跡として溝状に土質が変化した部分が検出されたのではないかと考えられる。条里型区画の延長上にあることと、磁北に合っていることから、関係があるものと想定される。昭和40年代の地籍図では、畦道と水路の様なものが描かれており、この水路の部分なのではなか

ろうか。他の遺構や遺物は検出されなかった。後世に削平されたものと考えられる。



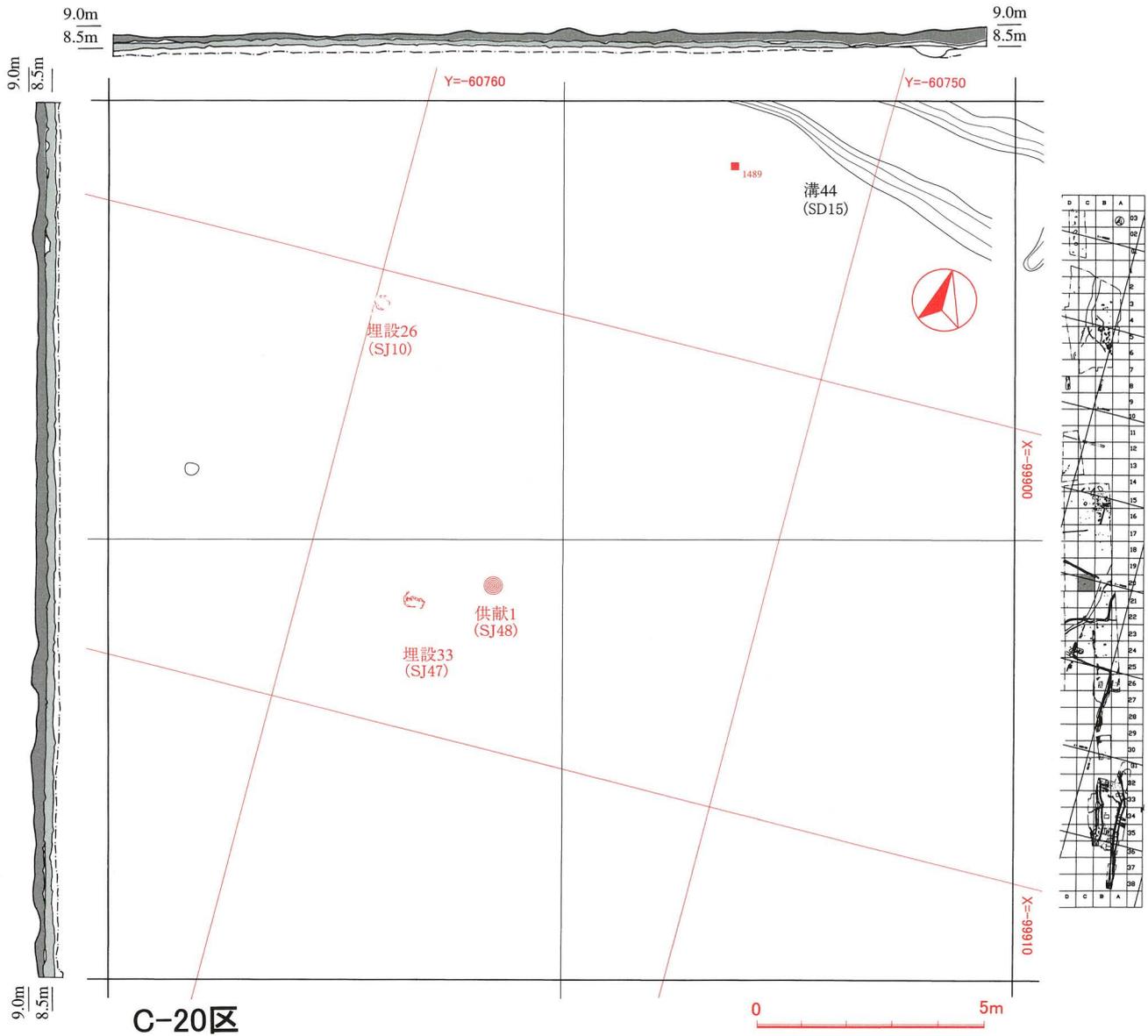
第64図 遺構検出及び遺物出土状況 (46) D-20区

**D-20区**

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.64m、低い所で8.5mである。北側壁面のⅡ層は、その堆積状況から、Ⅱ・Ⅱb・Ⅱb'層とした。また、西側壁面でもⅡ層の堆積状況からⅡ・Ⅱb層とし、Ⅲ層下部の層をⅢ'層とした。西側壁面の15.6mの地点～16.3mの地点にかけて、Ⅰ層下部の層をⅠb層として分類した。

この範囲からは、縄文時代晩期のものと考えられる埋設土器32 (SJ11) を検出した。この区で出土する土器は黒川式土器が優位を占めている。

遺物の出土状況は、石器類や縄文土器等の遺物が東側から多量に出土している。



第65図 遺構検出及び遺物出土状況 (47) C-20区

**C-20区**

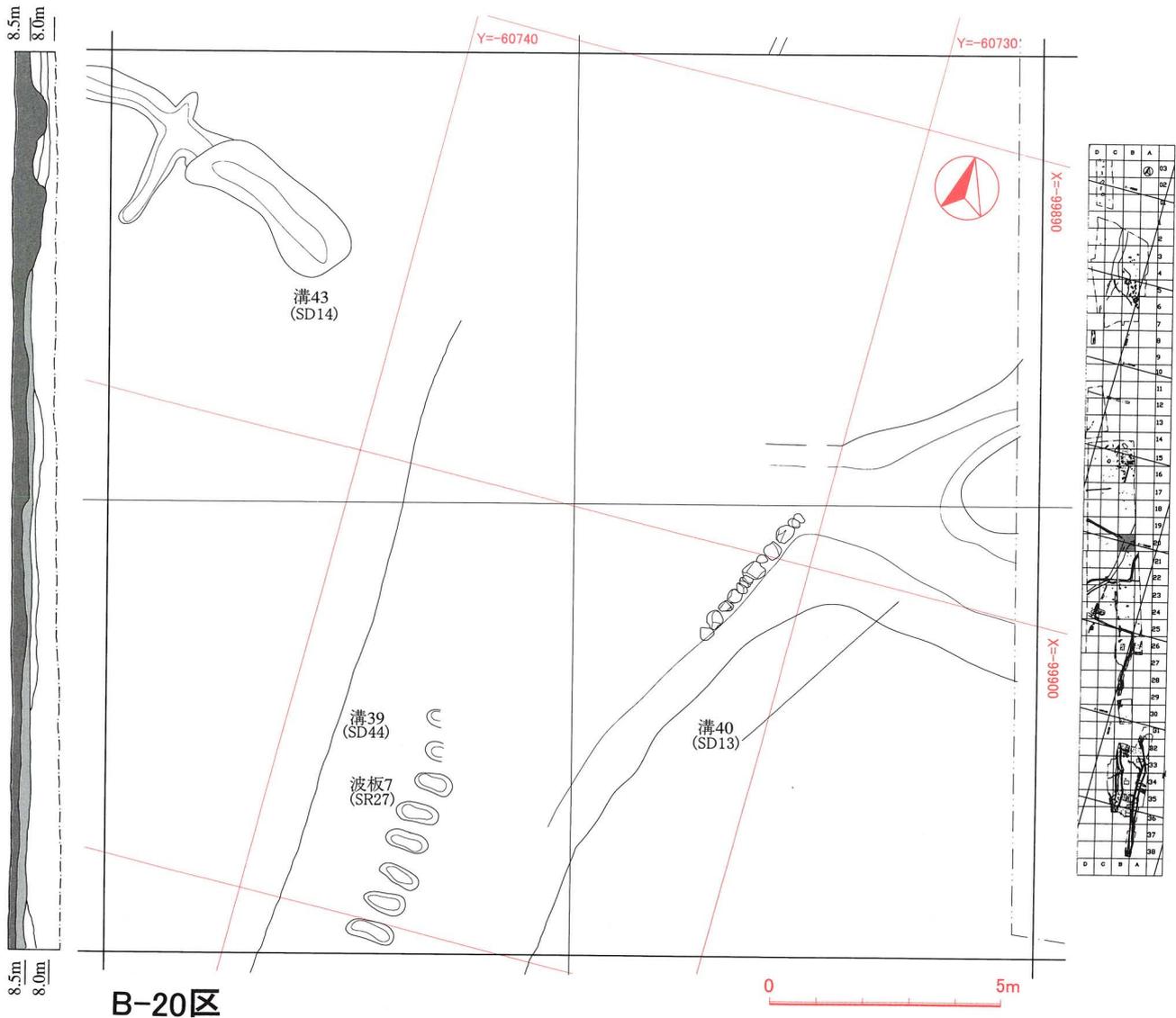
北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.7m、低い所で8.53mである。Ⅰ層をその堆積状況からⅠ・Ⅰb層とした。北側壁面・西側壁面ともⅡ層は認められなかった。

この範囲からは、縄文時代晩期のものと思われる埋設土器26 (SJ10)・33 (SJ47)、供献土器1 (SJ48)を検出した。埋設土器26は表土を下げた時点で検出できたのであるが、埋設土器33及び供献土器1については、最終的な重機による掘り下げの際見つかったものである。この区での包含層はすでに削平され

ていたと考えられ、埋設された土器だけが確認できたといえる。近現代の道跡（溝状遺構43・44）は北東隅で確認された。

遺物の出土状況は、北側に点在する形で出土している。





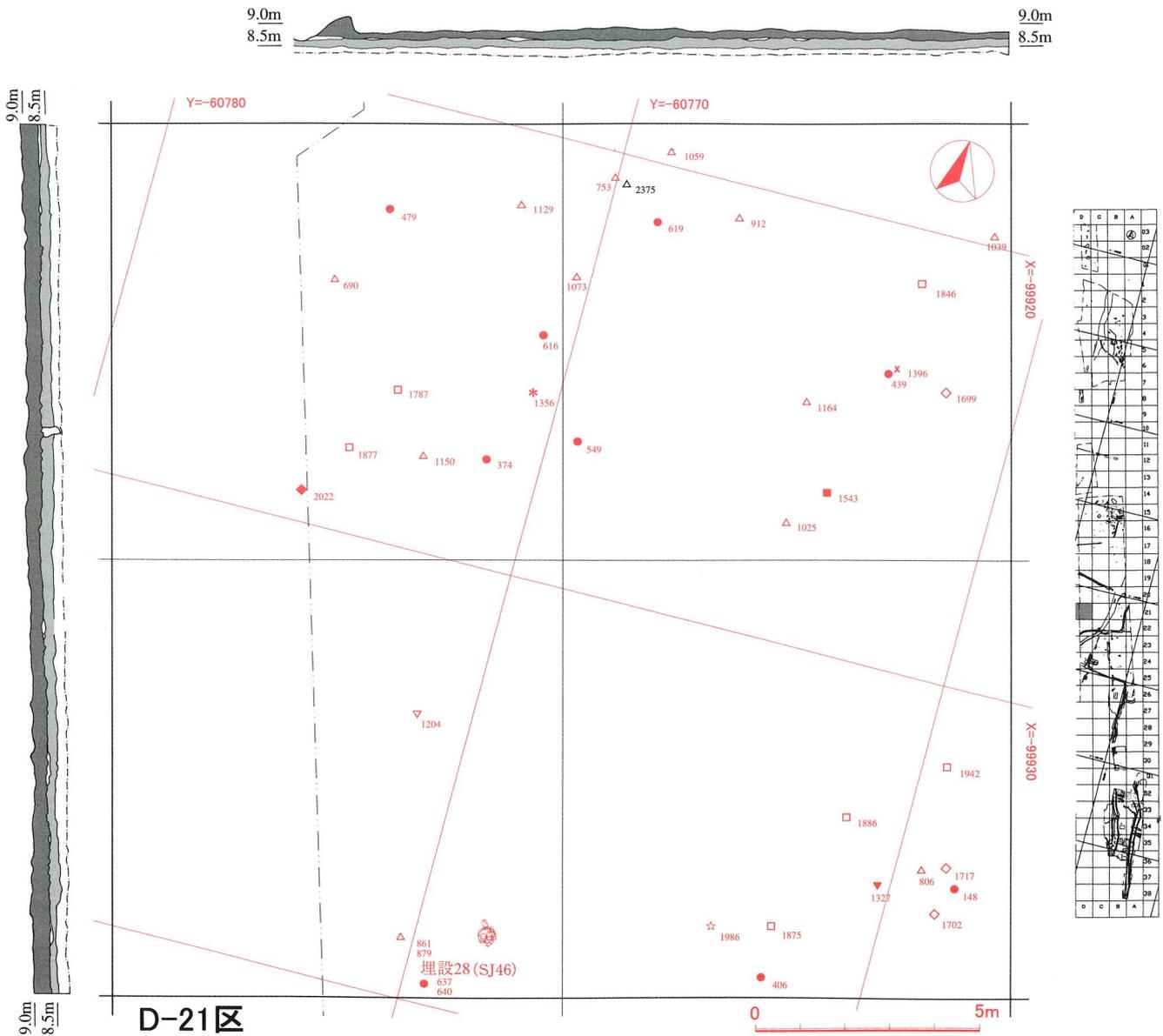
第66図 遺構検出及び遺物出土状況 (48) B-20区

**B-20区**

西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.6m、低い所で8.5mである。この範囲の層位はⅠ層→Ⅲ層→Ⅳ層→Ⅴ層となっていることから、昭和40年代の耕地整理の段階で削平を受けていることが考えられる。特にⅤ層が厚い。また、15m~20mの地点にかけてはⅠ層とⅤ層が厚く堆積している。

この範囲からは、中世のものと思われる波板状凹凸面7 (SR27)、近世以降のものと思われる溝状遺構40 (SD13) を検出した。遺物はスクレイパーや石製土掘具等の石器類が出土した。条里型地割の大区画

の交差点部分と考えられる地点であるが、ちょうど水路によって切られていたり、確認トレンチが入れられたためもあってか、はっきりした交差点を見出すことができなかった。南側へは昭和40年代までは川となっていた様であり、東側の一部を石列で護岸している。東側へは溝状の遺構が2つに分かれて延びていく様だったが、それ以上の追究は範囲外のためできなかった。昭和40年代の地籍図では、この部分で同様な田んぼ境が描かれている。これより北東側は山裾になるため、条里型には区画できなかったのではないかと推察される。

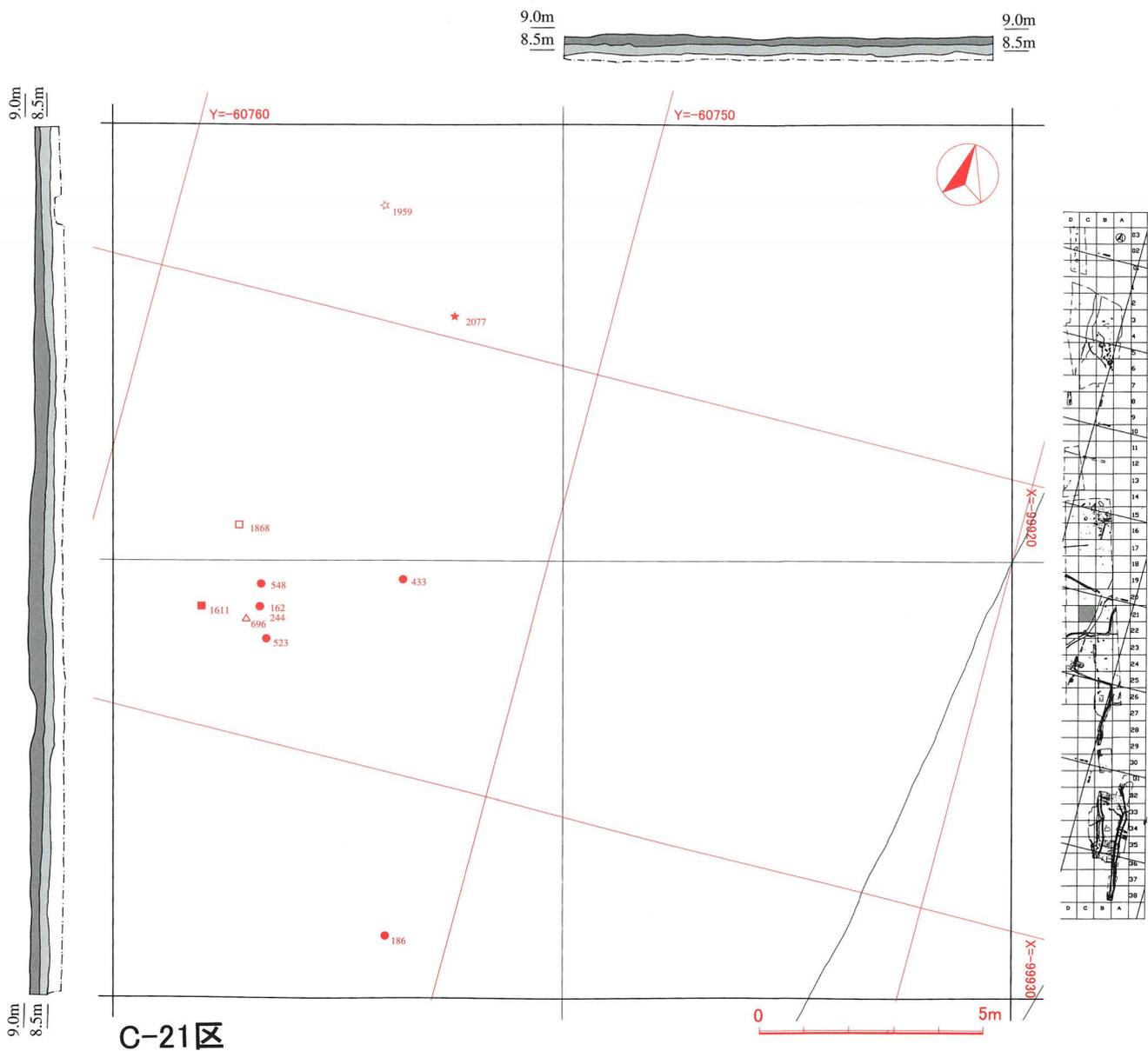


第67図 遺構検出及び遺物出土状況 (49) D-21区

D-21区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.66m、低い所で8.55mである。この範囲からは、縄文時代の埋設土器28 (SJ46) を検出した。上下の底部形態は異なるが、入佐式土器であると考えられる。この土器の数cm下から人頭大の礫も検出した。遺物の出土状況は濃密であり、大きくみると北側と南側に分かれる様である。縄文時代の遺物が多く出土しているが、円盤形石製品が4点とまとまりがある。

古代以降の遺構は全くみられず、遺物もごく少量であった。後世の削平によるものと考えられる。



第68図 遺構検出及び遺物出土状況 (50) C-21区

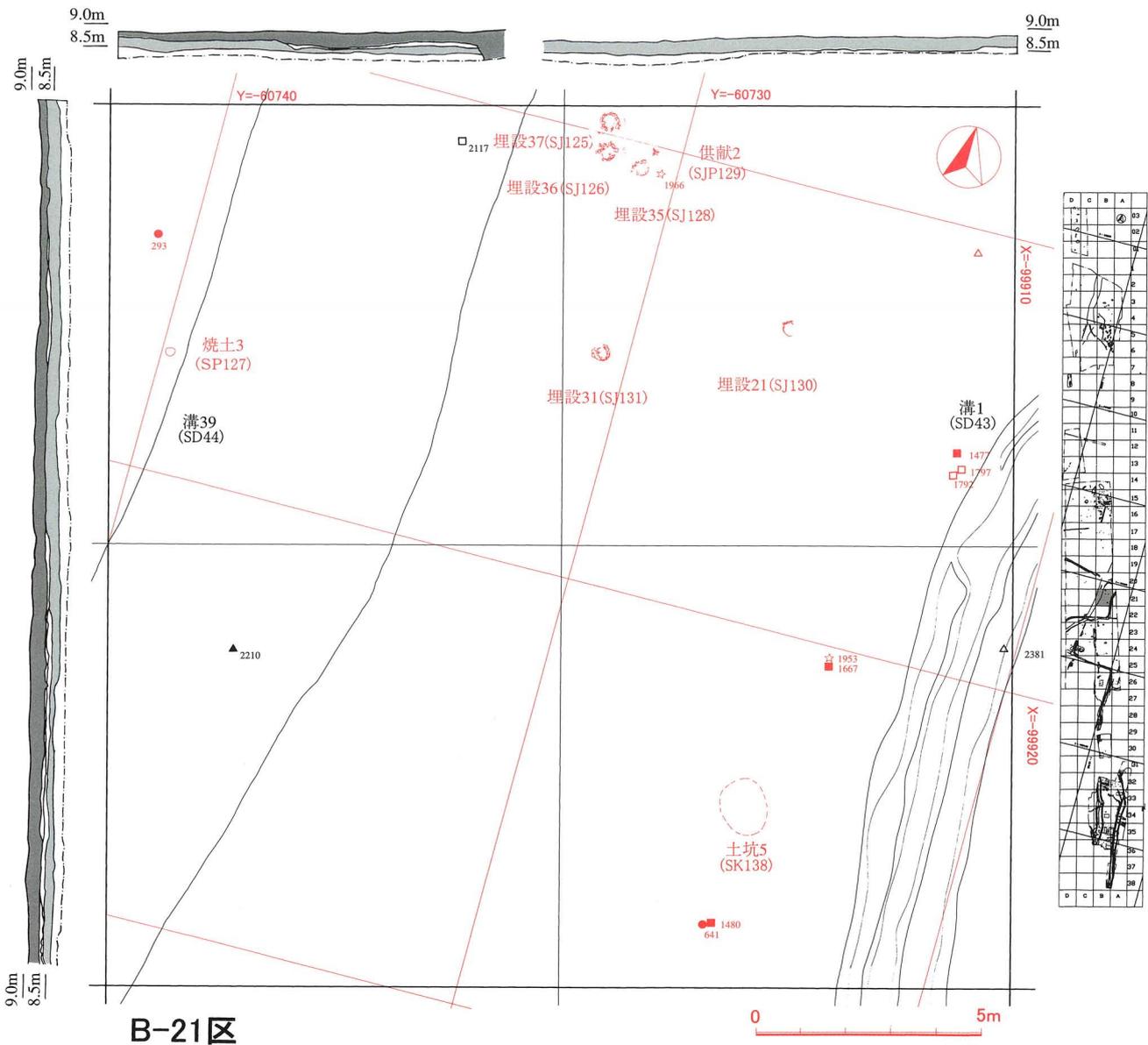
C-21区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.7m、低い所で8.5mである。南東隅に昭和40年代まで利用されていた溝状遺構39 (SD44) があるだけで、他の遺構は全くなかった。Ⅱ層がないことから、昭和40年代の耕地整理の際に削平を受けていたことが考えられる。

この範囲からは遺構は検出されなかった。遺物の出土状況は、西側から石製土掘具・石鍬等の石器類や縄文土器が出土している。

古代以降の遺物がほとんどなかったのは、後世の

削平のためだと思われる。



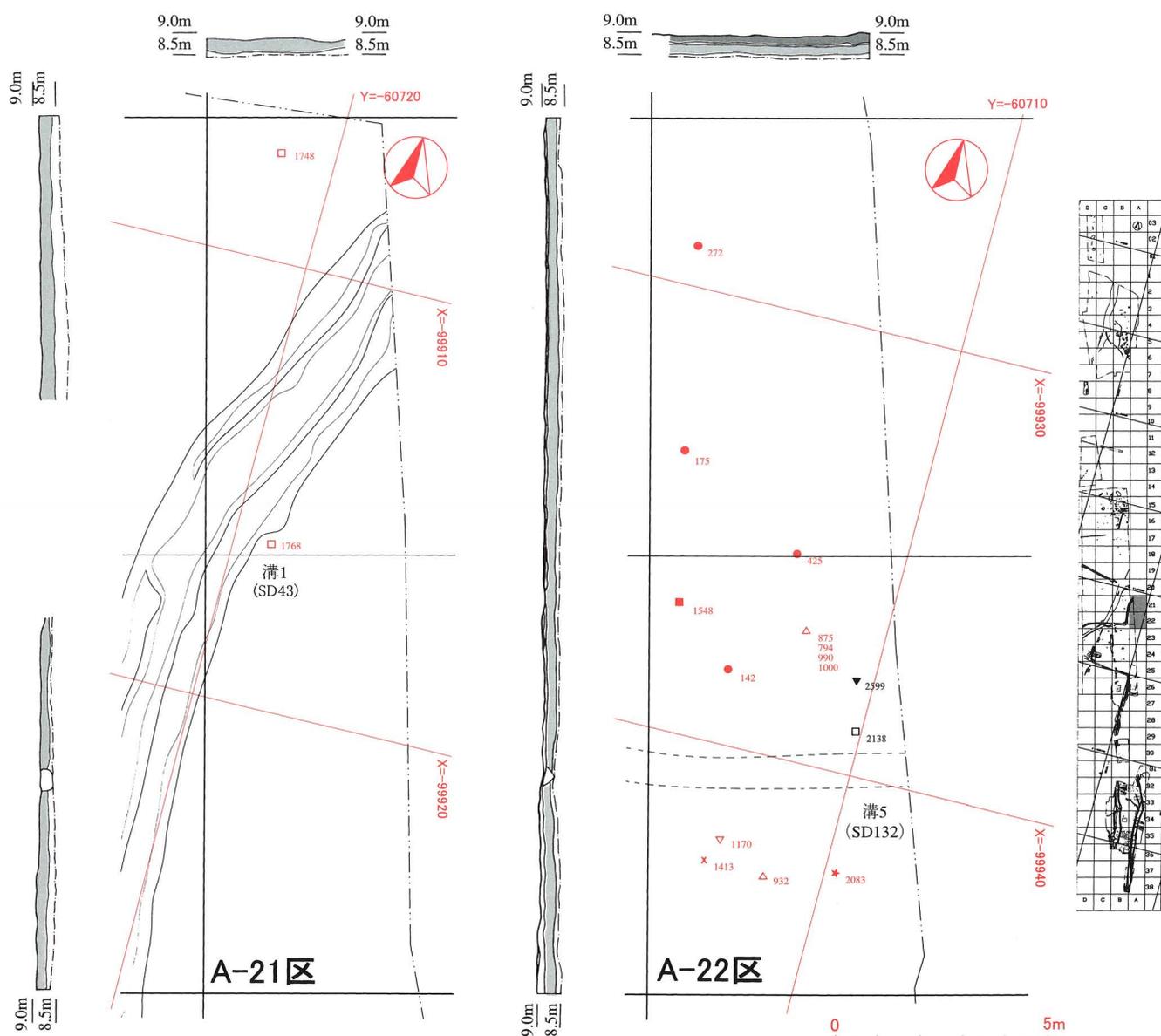
第69図 遺構検出及び遺物出土状況 (51) B-21区

### B-21区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.8m、低い所で8.5mである。北側壁面の8m～9.4mの地点の層で攪乱があった。溝状遺構39(SD44)が西側を占めていて、東側には溝状遺構1(SD43)が南北に走る。B-20区で検出した波板状凹凸面7(SR27)は、この区では検出できなかった。この範囲からは、縄文時代晩期の埋設土器37(SJ125)・36(SJ126)・35(SJ128)・21(SJ130)・31(SJ131)、供献土器2(SJP129)、縄文時代のピット1基、縄文時代の土坑5(SK138)を検出した。土坑からは小さな破片の土器が出土した。埋設土器は北東寄りに集中して検出されたが、若干の時期差がみられる。

遺物の出土状況は、石製土掘具・石錘等の石器類

や縄文土器、須恵器・土師器等の遺物が中心より南東側の方から多く出土している。



第70図 遺構検出及び遺物出土状況 (52) A-21・22区

#### A-21区

北側壁面・西側壁面の標高は、高い所で8.9m、低い所で8.8mである。北側壁面・西側壁面とも、表土除去後Ⅲ層上面から現れていることから、確認調査の段階で削平を受けていたことが考えられる。B-21区から延びてきた溝状遺構1 (SD43)は、向きを東北に変えながら調査対象範囲外へ延びる。

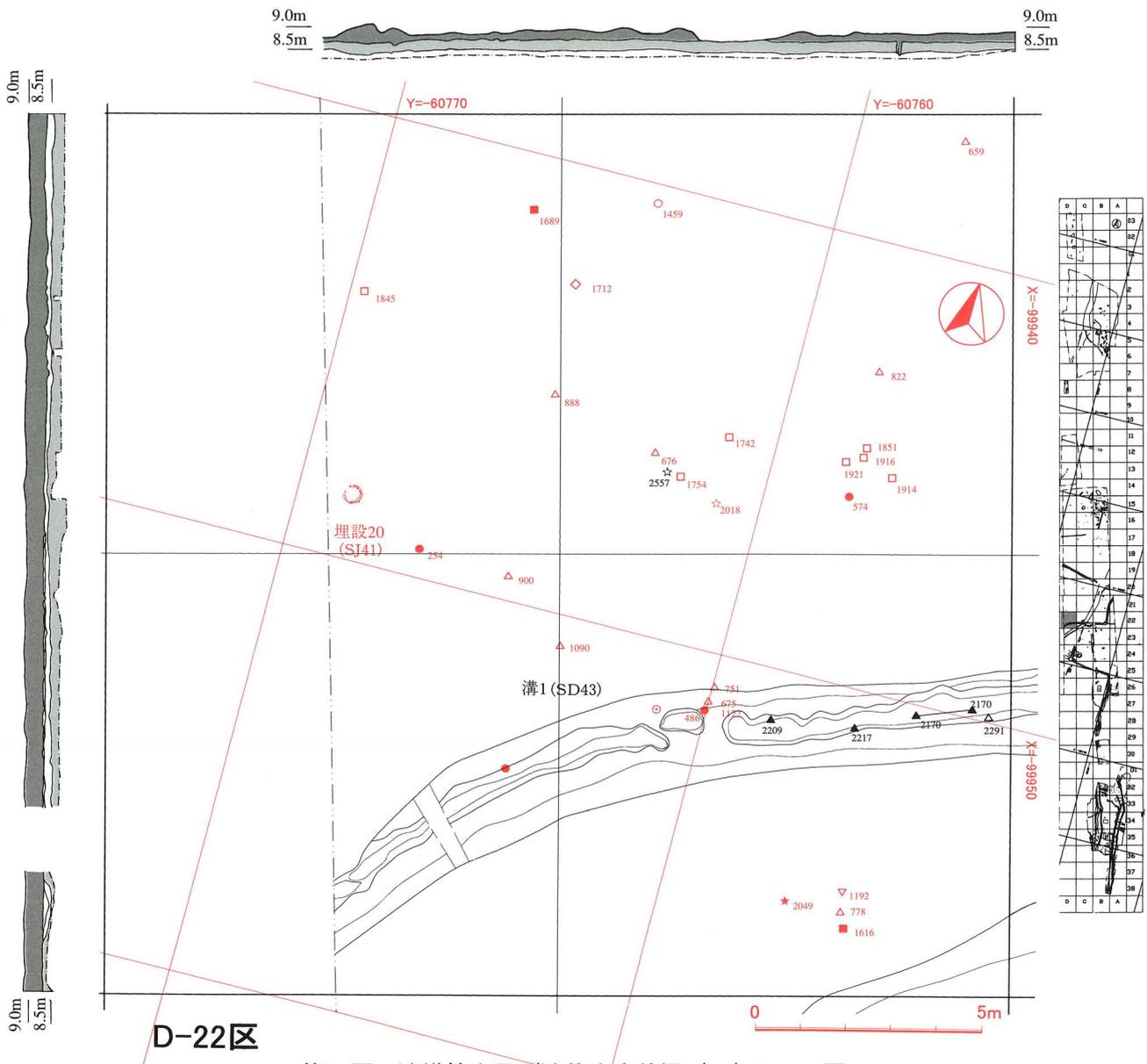
遺物はこの範囲の中にまばらに点在する形で出土している。

#### A-22区

北側壁面・西側壁面の標高は、高い所で9m、低い所で8.7mである。北側壁面・西側壁面とも、Ⅱ層上面から現れていることから、確認調査の段階で削平を受けていたことが考えられる。西側壁面のⅢ層とⅣ層の間に、明灰色弱粘質土の土坑のような所が検出されたが、遺物は出土しなかった。

溝状遺構1 (SD43) から延びてきた溝状遺構5 (SD132)があったが、平面図は不手際により作成しなかった。写真及び土層断面と略図が頼りとなった。

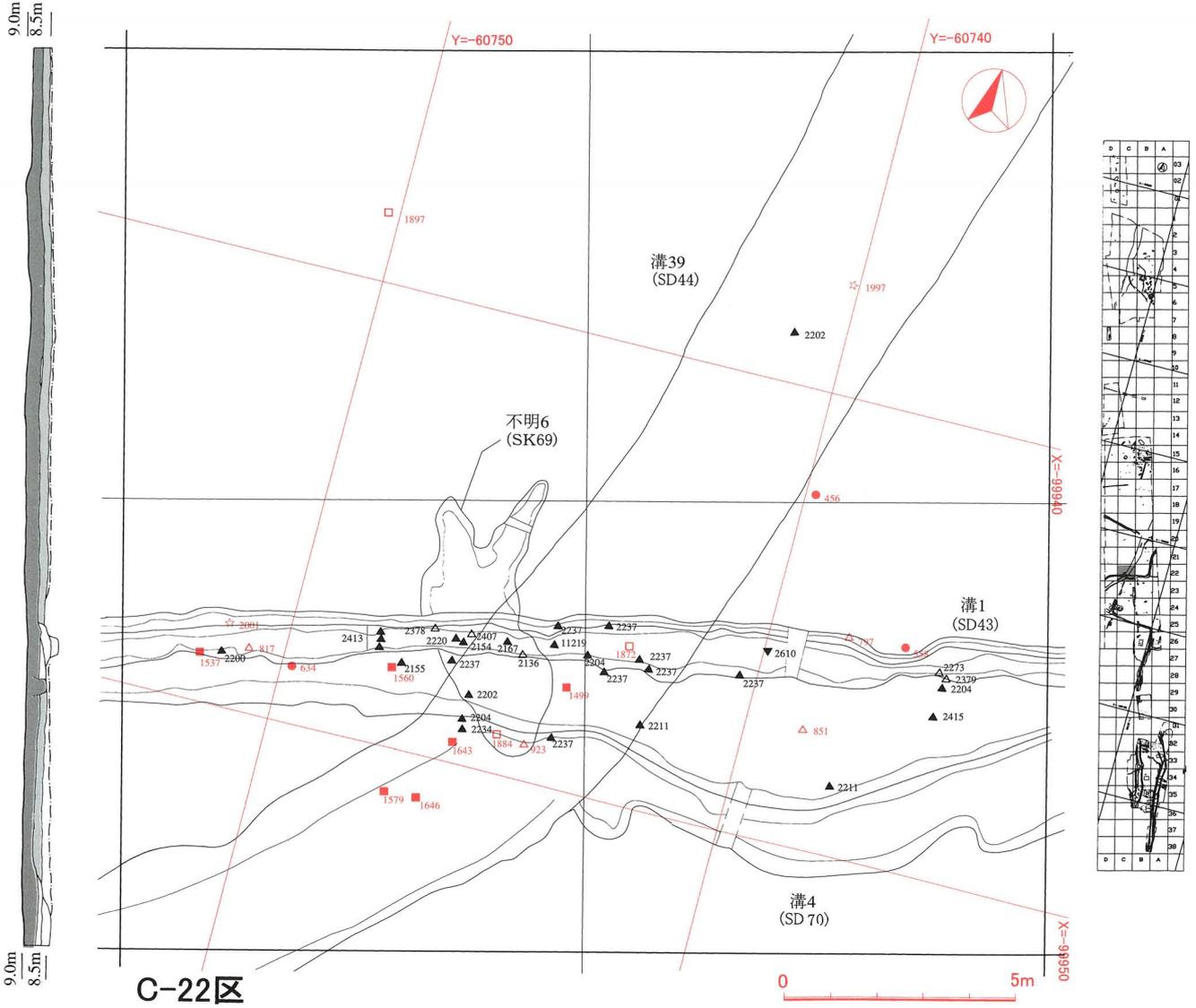
遺物の出土状況は、石鏃・石核等の石器類や縄文土器等、この範囲全般から多く出土しており、遺物の量は比較的濃密である。



第71図 遺構検出及び遺物出土状況 (53) D-22区

### D-22区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.66m、低い所で8.55mである。この範囲の西側壁面の2.7m～4.16mにかけて削平を受けていたことが考えられる。西側壁面のⅡ層はその堆積状況から、Ⅱa・Ⅱb層とした。この範囲からは、縄文時代の埋設土器20 (SJ41)、古代の溝状遺構1 (SD43)を検出した。溝状遺構1からは、須恵器や土師器が出土した。南西側からややカーブしながら、山裾に向かって東へ走る。この範囲の遺物の出土状況は、石鏃・磨石・玉等の石器類や縄文土器、土師器・須恵器等の遺物が全般的な範囲で出土している。



第72図 遺構検出及び遺物出土状況 (54) C-22区

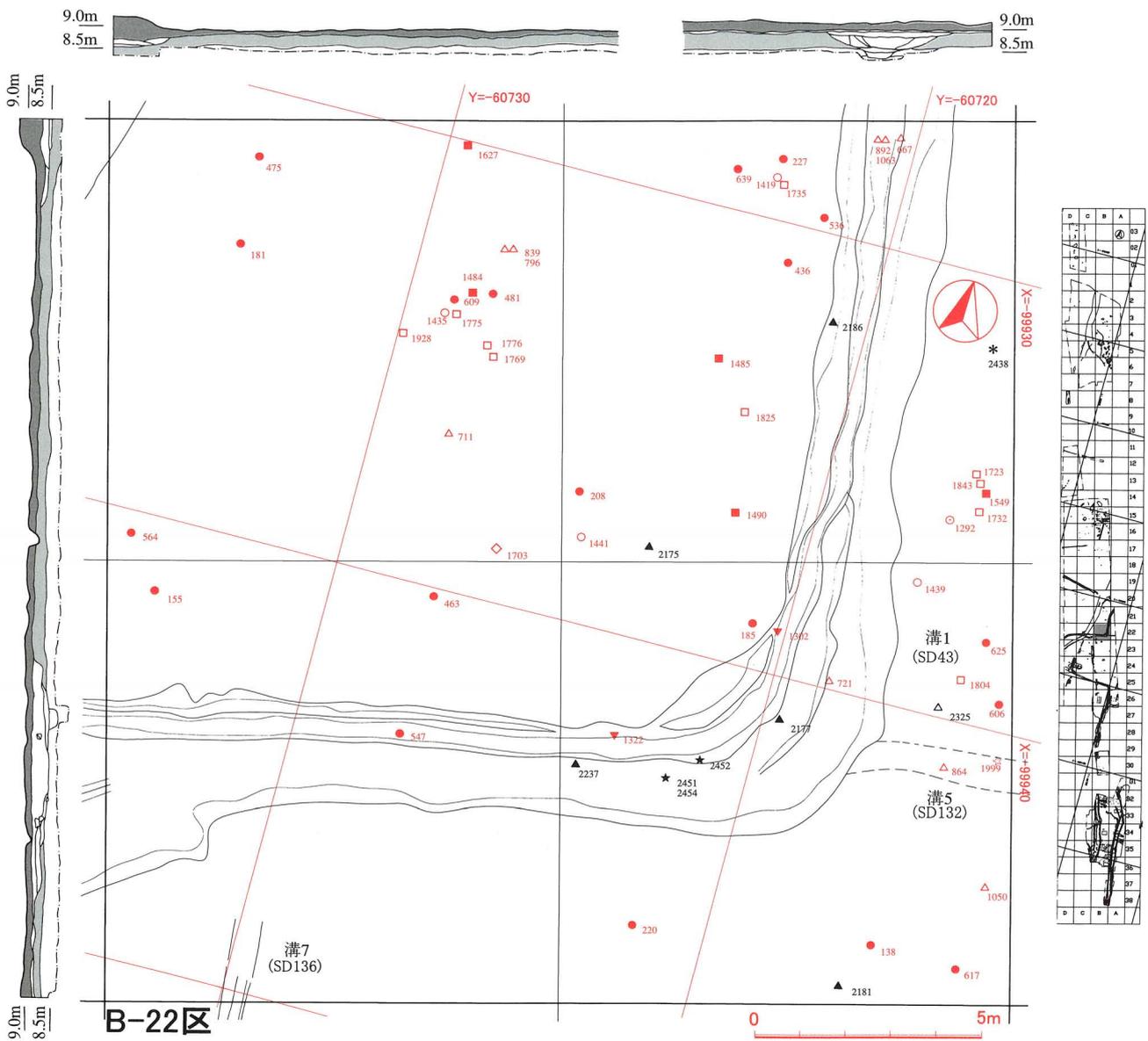
**C-22区**

北側壁面・西側壁面の標高は、高い所で8.8m、低い所で8.5mである。西側壁面のⅡ層下部の0m～1.2mの地点にかけて、厚さ約20cm程度の青灰褐色砂質土の層が堆積している。また、5.64m～6mの地点にかけて攪乱が認められた。北側壁面では15.1m～15.4mにかけて、厚さ約8cmの青灰色粘質土の層が認められた。北側壁面の16.1m～16.2mの地点に、幅10cm、深さ16cmの樹根が認められた。

溝状遺構1 (SD43) はこの区では、グリッドに沿った方向で東西に延びている。古代前半のものと思われる溝状遺構4 (SD70)、古代末～中世のものと思われる不明遺構6 (SK69) を検出した。溝状遺構4の埋土は、暗灰褐色粘質土である。不明遺構6から

は、須恵器片と土師器片の小破片が敷き詰められる形で出土した。古代前半の遺物は溝状遺構1の埋土及びその南側に集中しており、この周辺に当時の生活場所があったのではないかと考えられる。

遺物の出土状況は、石鏃・磨石等の石器類や縄文土器、土師器・須恵器等の遺物が全体的な範囲で多量に出土している。特に、南西側の方が濃密である。



第73図 遺構検出及び遺物出土状況 (55) B-22区

### B-22区

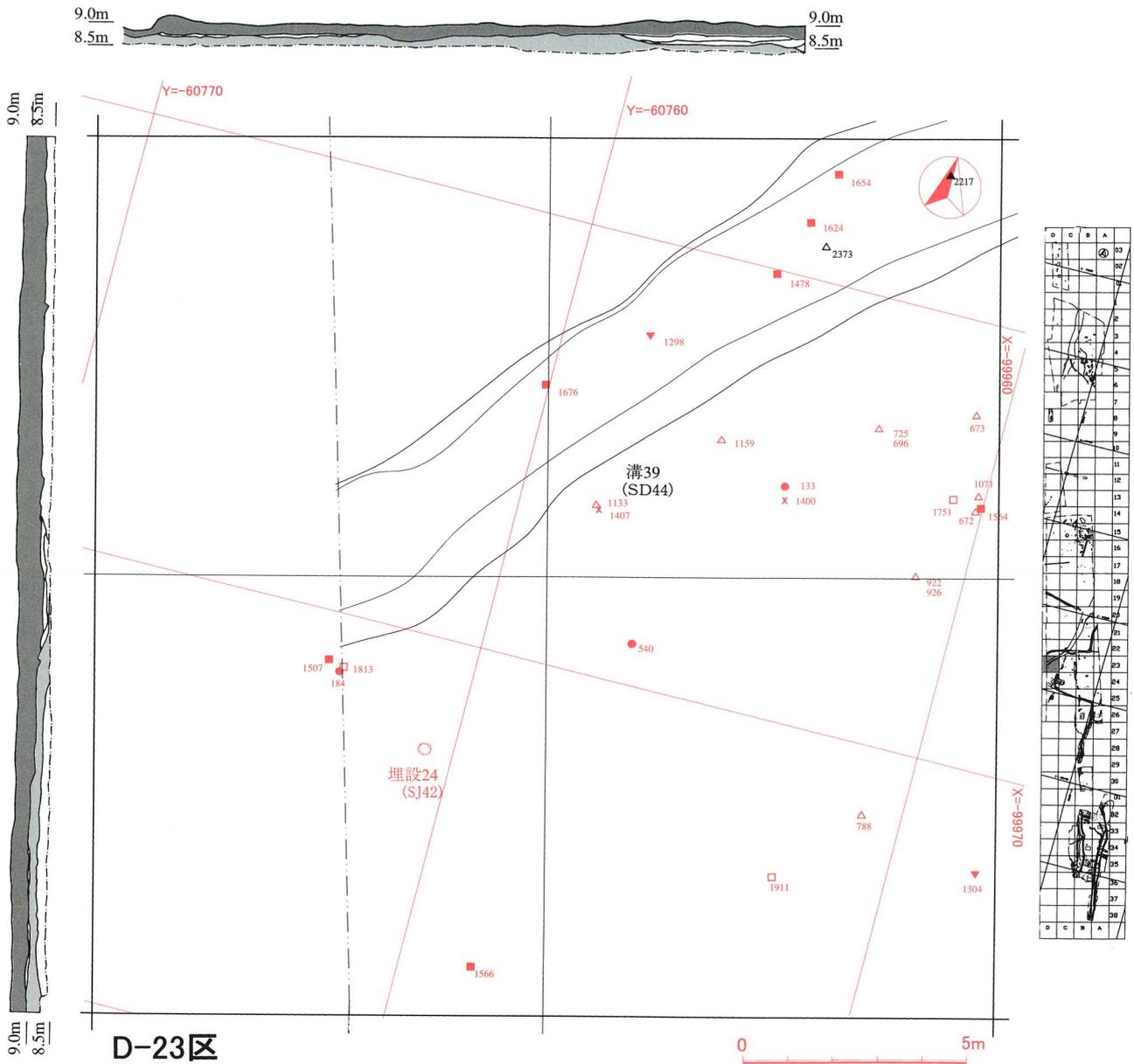
北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.9m、低い所で8.56mである。北側壁面の11.2mの地点～12.64mの地点にかけて、削平されていた。北側壁面の15.84mの地点～18.4mの地点にかけて、Ⅱ層とⅢ層の間に黄灰褐色粘質土・暗灰色粘質土・褐色砂質土がレンズ状に堆積していた。溝状遺構1 (SD43) の埋土である。この遺構はこの区の南東側で、カーブを切りながらも直角に折れて北側へ向かう。

この範囲から、奈良時代～平安時代ものと思われる溝状遺構5 (SD132) を検出した。また、ここから須恵器片等が出土した。

遺物の出土状況は、凹石・石斧・石製土掘具・磨

石等の石器類や縄文土器、土師器・須恵器等の遺物が多量に出土している。特に中心部と、北西・東側から集中して出土している。





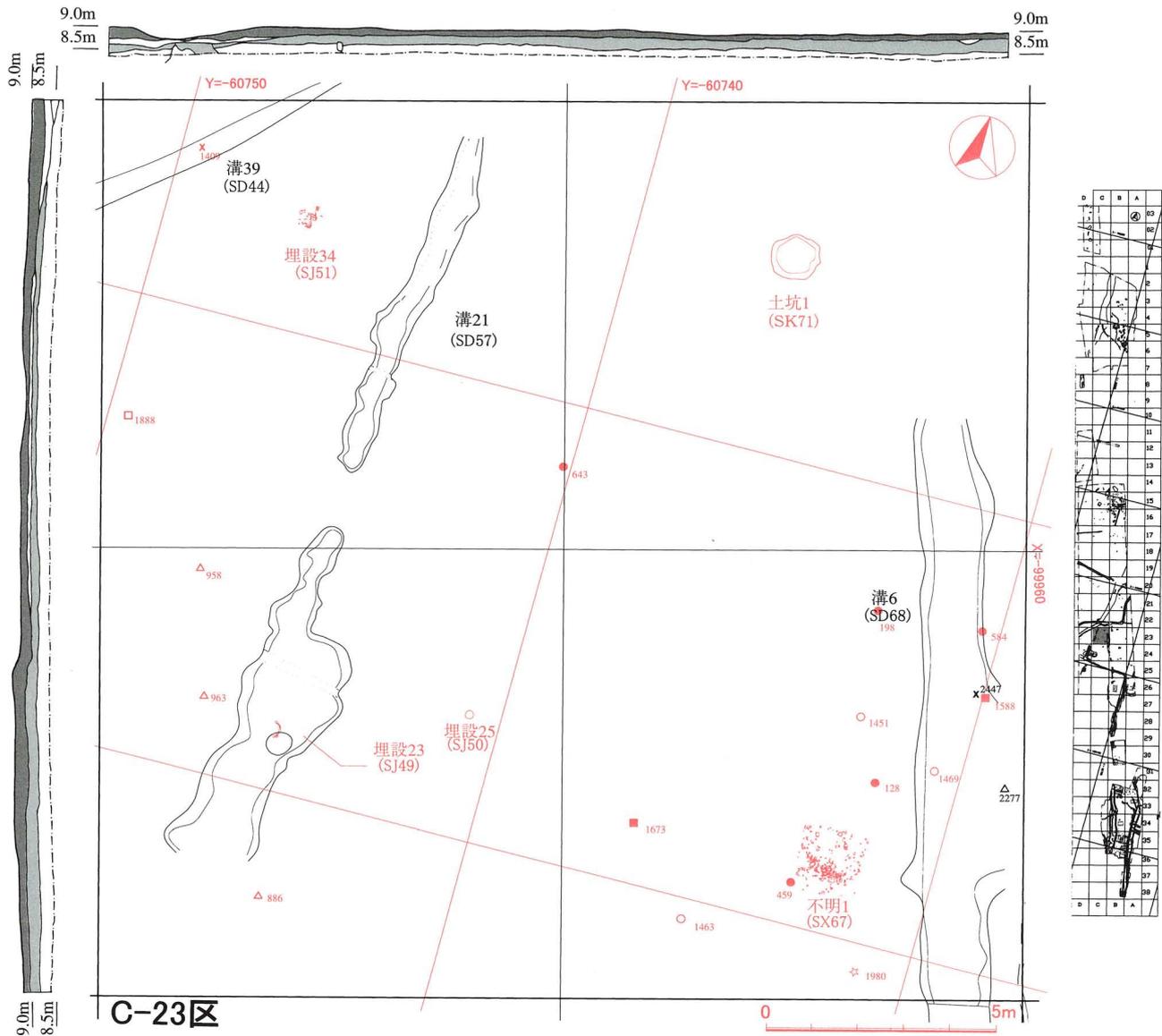
第74図 遺構検出及び遺物出土状況 (56) D-23区

D-23区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.71m、低い所で8.22mである。北側壁面のⅡ層はその堆積状況からⅡ・Ⅱa層とした。

この範囲から、縄文時代晩期のものと思われる埋設土器24 (SJ42)、近代のものと思われる溝状遺構39 (SD44) を検出した。

遺物の出土状況は、石製土掘具・磨石・石鏃等の石器類や縄文土器、須恵器・土師器等の遺物がこの範囲全般的な部分で多く出土している。



第75図 遺構検出及び遺物出土状況 (57) C-23区

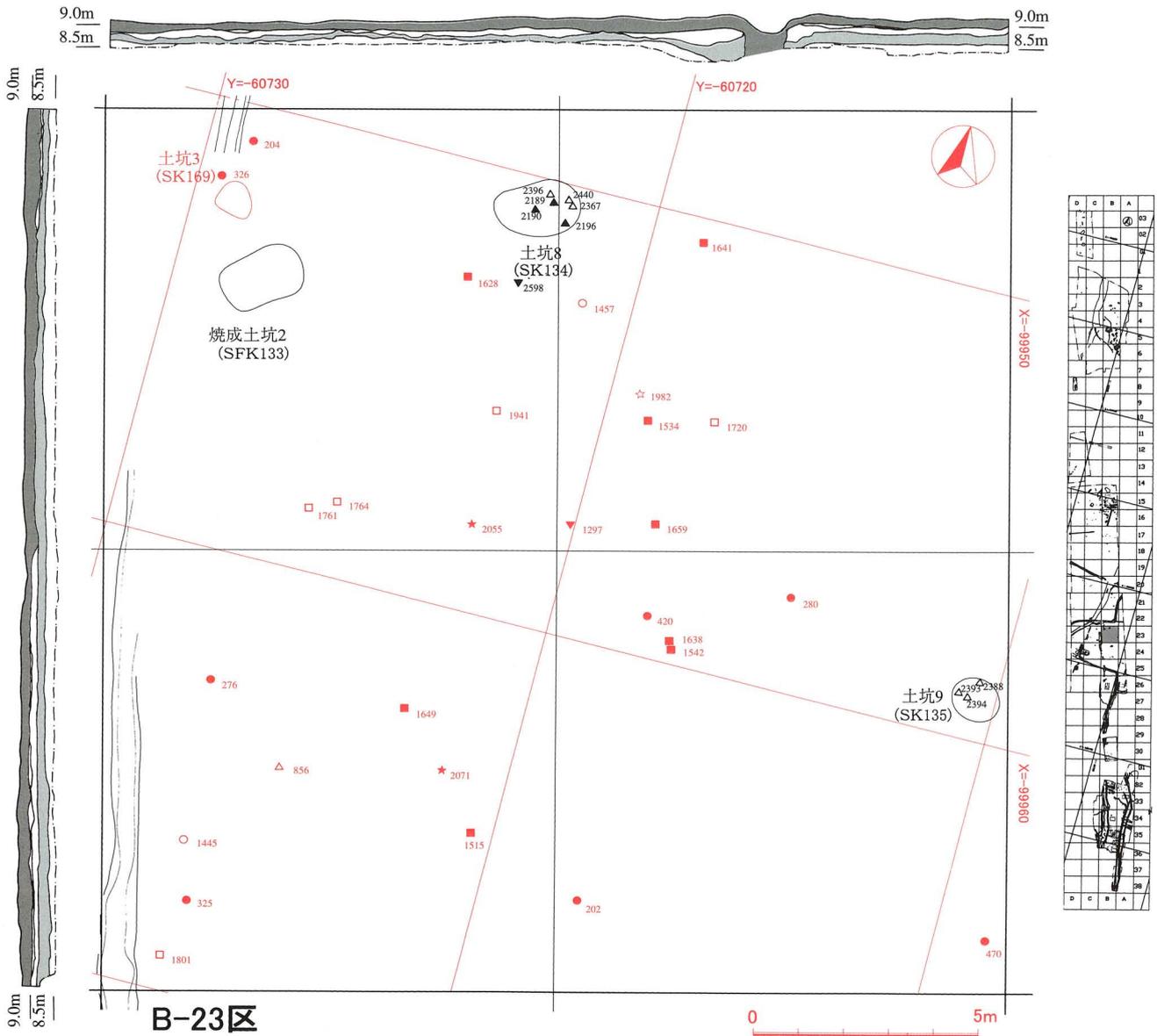
### C-23区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.03m、低い所で8.56mである。Ⅱ層は西側壁面には存在せず、北側壁面の0.6m～3.9mの地点と、4.9m～5mの地点にしか存在しないことから、削平を受けていると考えられる。北側壁面のⅢ層の土質は灰褐色酸化鉄層で、Ⅳ層は灰褐色粘質土（酸化鉄変質）であることが確認された。北側壁面の西から18.48m～18.96mにⅢ層に落ち込んだ灰黄色粘質土があり、溝状遺構6 (SD68)の延長とも考えられる。

この範囲からは、縄文時代晩期のものと思われる埋設土器23 (SJ49)・25 (SJ50)・34 (SJ51)、不明遺構1 (SX67)、縄文時代の土坑1 (SK71)、古代末期～中世のものと思われる溝状遺構6を検出した。

これらの遺構から出土した遺物は、不明遺構1から縄文時代晩期の土器や人頭大の円礫、土坑1から縄文時代晩期の土器片、黒川式土器期に該当する浅鉢や深鉢が出土した。

遺物の出土状況は、石鏃・凹石等の石器類や縄文土器、土師器・須恵器等が南側から多く出土している。



第76図 遺構検出及び遺物出土状況 (58) B-23区

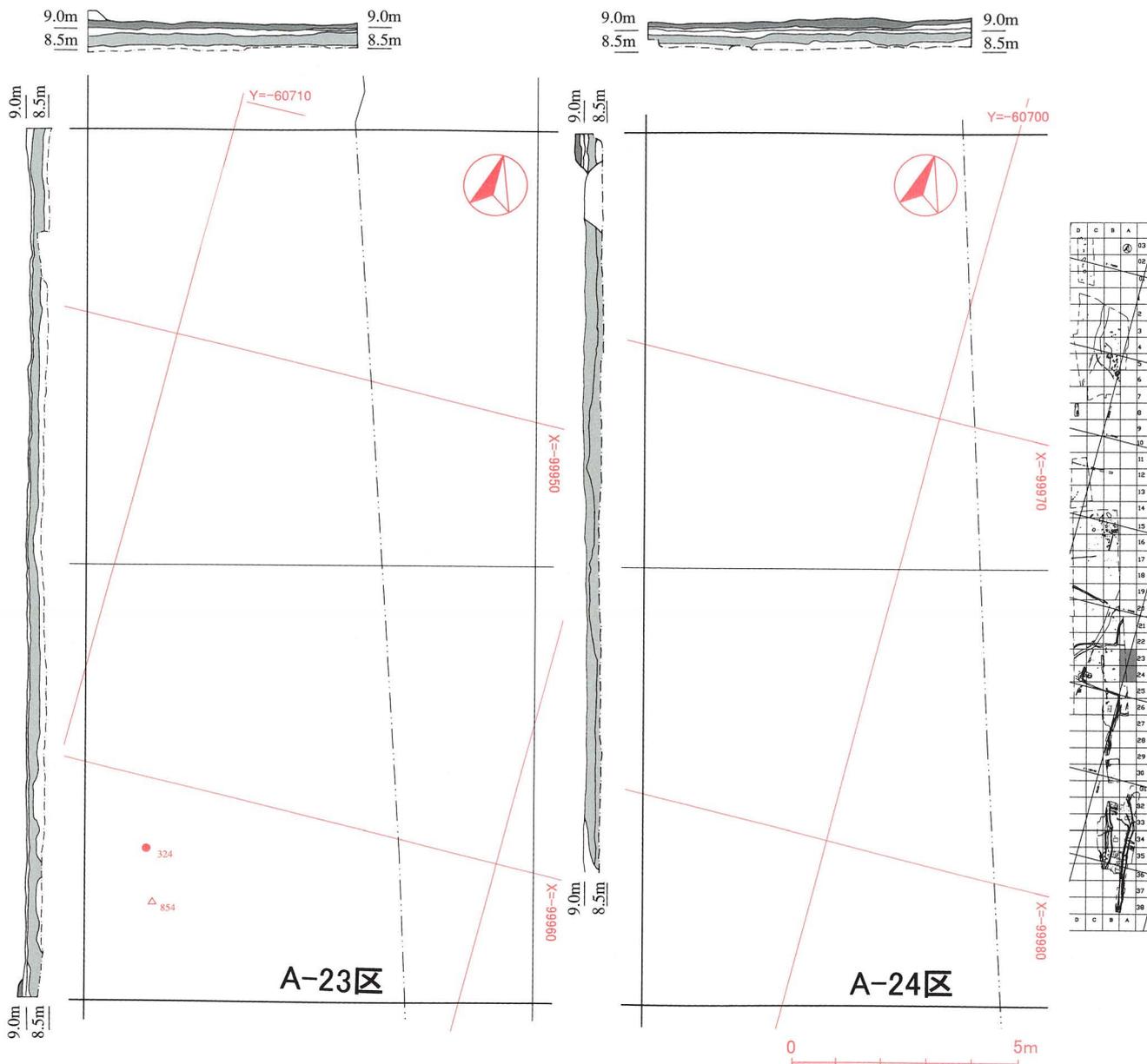
**B-23区**

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.2m,低い所で8.5mである。北側壁面のⅡ層は、その堆積状況から、Ⅱa・Ⅱc層とした。西側壁面はⅢ層から現れてきていることから、確認調査の時点で削平を受けていたことが考えられる。

この範囲から、縄文時代晩期と思われる土坑3 (SK169)、奈良時代～平安時代と思われる焼成土坑2 (SFK133)、奈良時代～平安時代と思われる土坑8 (SK134)・土坑9 (SK135)、平安時代以降のものと思われる溝状遺構7 (SD136)が検出された。溝状遺構7はグリッドに沿っており、確認トレンチ部分では削平されていた。これらの遺構の中からは、縄文土器の土器片や土師器等の遺物が出土した。

遺物の出土状況は、石製土掘具・磨石・玉等の石器類や縄文土器等が、この範囲の中のいたる箇所が出土している。

古代の遺物は遺構内以外からはほとんど出土せず、包含層自体が削平されたものと考えられるが、この区から南側に当時の生活空間があったものと考えられる。



第77図 遺構検出及び遺物出土状況 (59) A-23・24区

#### A-23区

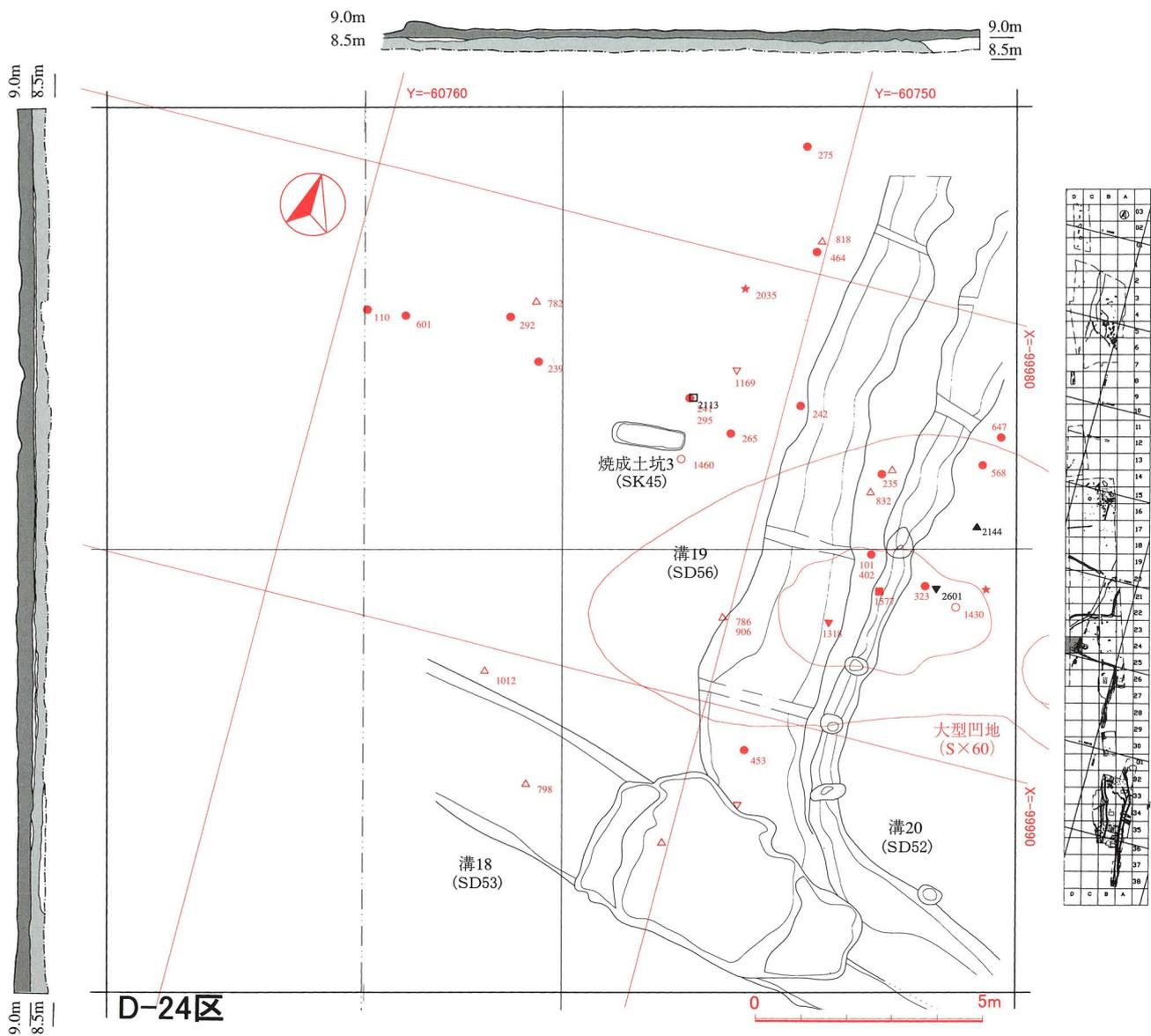
北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.96m、低い所で8.8mである。西側壁面はⅡ層上面から現れていることから、調査の段階で削平を受けていたことが考えられる。遺構は検出されなかった。

遺物の出土状況は、この範囲では縄文土器等が南側の方から多く出土している。

#### A-24区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.0m、低い所で8.8mである。西側壁面はⅢ層上面から現れていることから、調査の段階で削平を受けていたことが考えられる。西側壁面のⅢ層とⅣ層の間にオレンジが強い層があり、Ⅲ'層とした。西側壁面の18mの地点から、砂礫層が堆積している。

この範囲からは、遺構は検出されず、遺物は縄文土器が数点出土した。



第78図 遺構検出及び遺物出土状況 (60) D-24区

#### D-24区

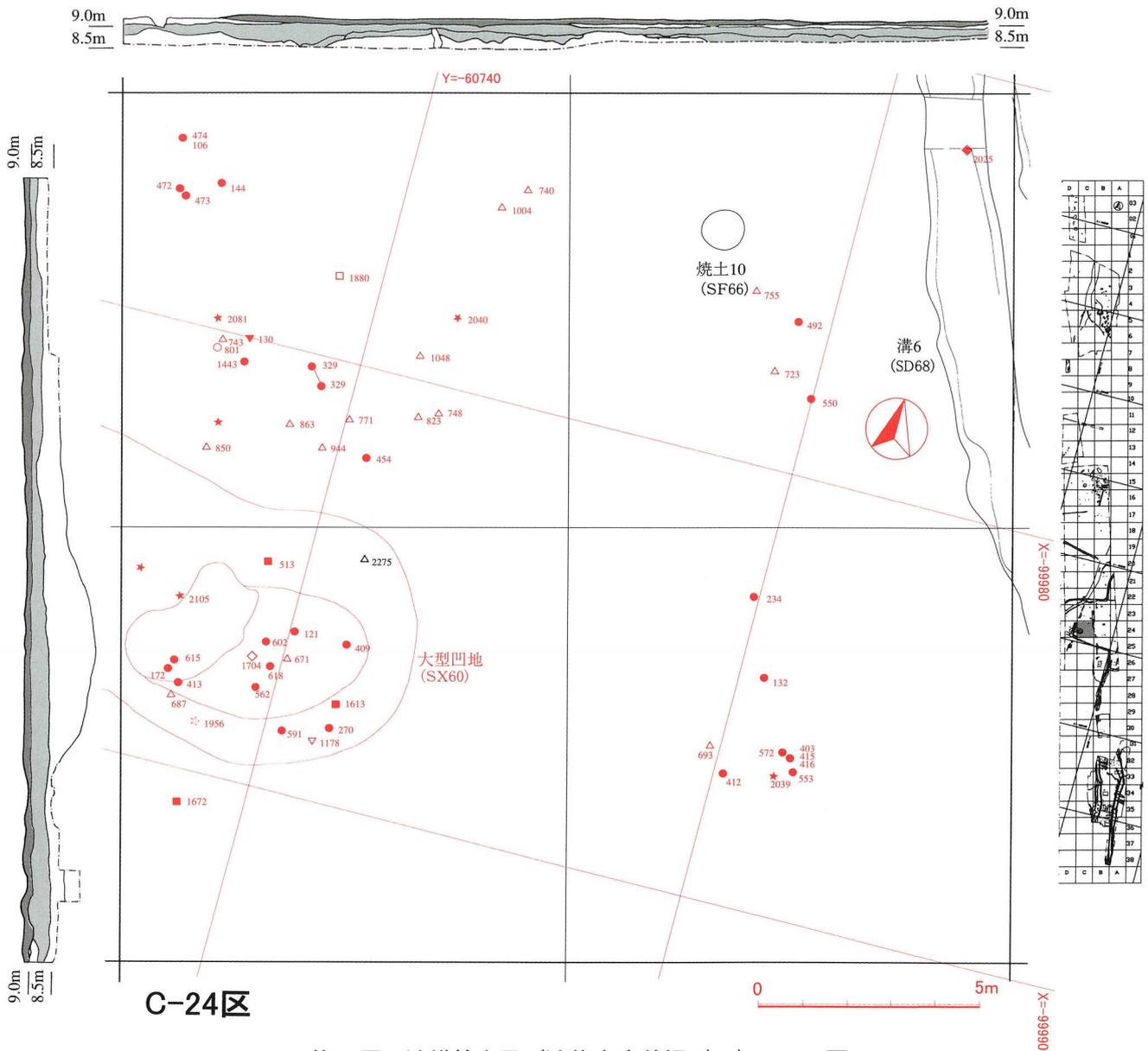
北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.02m、低い所で8.64mである。北側壁面の17.9m～19.2mの地点Ⅲ層中に、幅1.3m、厚さ約12cmのⅢ層よりも柔らかく砂っぽい層を確認した。

この範囲から、縄文時代のものと思われる大型凹地 (SX60)、古代～中世のものと思われる焼成土坑3 (SK45)、中世のものと思われる溝状遺構20 (SD52)・18 (SD53)・19 (SD56) を検出した。溝状遺構については埋土は存在せず、痕跡のみの検出であった。大型凹地の西側半分からは、土器や焼土塊、玉類等が出土したものの、東半分の量には及ばなかった。

この範囲の遺物の出土状況は、石製土掘具・石鏃・磨石等の石器類や縄文土器等が全般的な範囲で

出土しており、中でも南側から多量に出土している。

この区の南側に南北に延びる溝状遺構と東西に延びる溝状遺構との交点があることから、条里型地割の大区画の交差点であったと考えられる。



第79図 遺構検出及び遺物出土状況 (61) C-24区

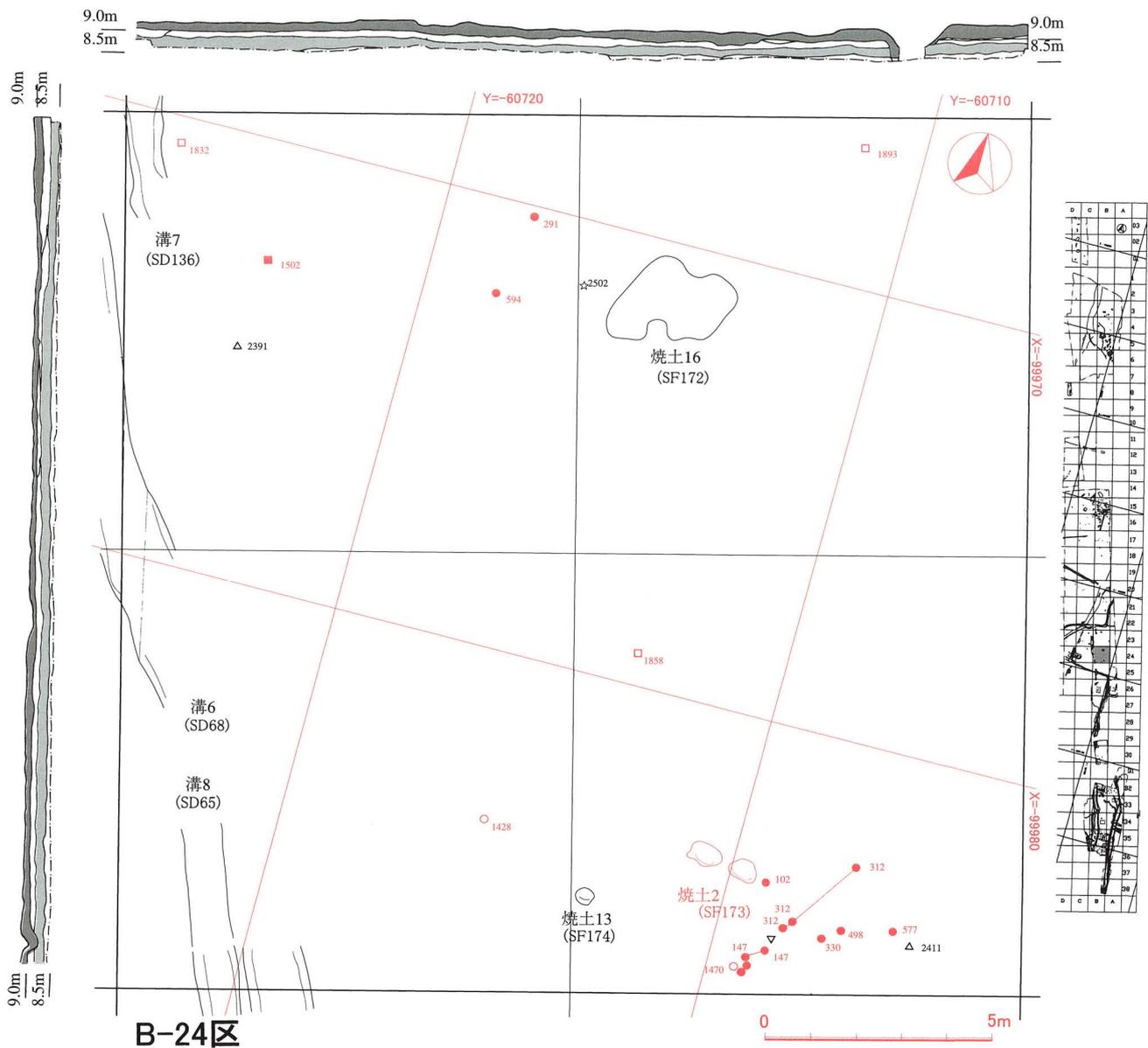
**C-24区**

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.7m、低い所で8.73mである。北側壁面のⅡ層はその堆積状況から、Ⅱa・Ⅱc層とした。北側壁面の0.56m～0.96mにかけて、深さ24cmの排水溝があった。西側壁面のⅣ層下部の標高は8.48mであり、長さ2.9m～3.1mと11.1mの地点で炭化粒が混入している層を確認した。また、2.1mと11.9m～12.1mの地点では、どちらも直径約12.2cmの焼土の塊の層を確認した。土質はⅡ層が灰褐色粘土混じり、Ⅲ層が酸化鉄混層、Ⅳ層が粘質で酸化鉄変質の層であった。

この範囲から、古代前半のものと思われるほぼ全面に赤く焼けている焼土遺構10(SF66)を検出した。この遺構では、焼土・炭及び灰白色の粒子が目立ち、

土師甕と考えられる破片が3点ほど出土した。溝状遺構6 (SD68)は北側から東側へゆるくカーブしている。

遺物の出土状況は、磨石・石鏃等の石器類や縄文土器がこの範囲で全般的に出土している。中でも大型凹地 (SX60) が位置する西側から多く出土しており、特に南西方向からの出土が濃密である。



第80図 遺構検出及び遺物出土状況 (62) B-24区

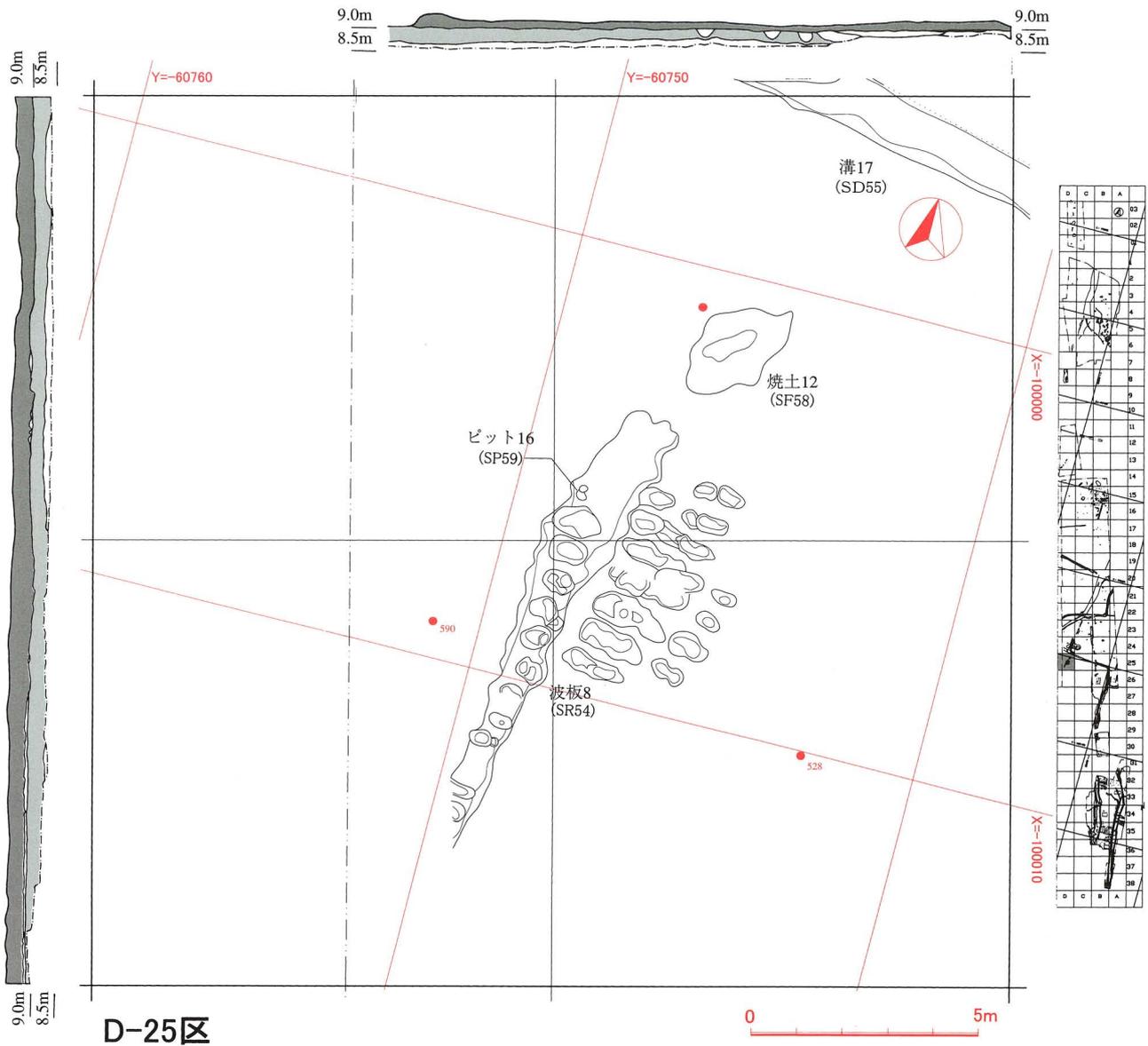
**B-24区**

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.9m、低い所で8.7mである。Ⅱ層はその堆積状況から、Ⅱa・Ⅱc層とした。北側壁面の17mの地点～18mの地点にかけて、排水溝が通っていたため調査が実施できなかった。

この範囲からは、縄文時代のものと思われる焼土遺構2 (SF173)、平安時代のものと思われる焼土遺構16 (SF172)・13 (SF174)、古代末期～中世のものと思われる溝状遺構8 (SD65)を検出した。これらの遺構からの出土遺物は、焼土遺構13周辺からは縄文時代晩期の土器が出土した。その他の土坑からは、遺物は出土しなかった。

遺物の出土状況は、石器類や縄文土器等が中心の

南北を結ぶ線上に点在している。また、焼土遺構2 近くの北東の端から集中して出土している。



第81図 遺構検出及び遺物出土状況 (63) D-25区

**D-25区**

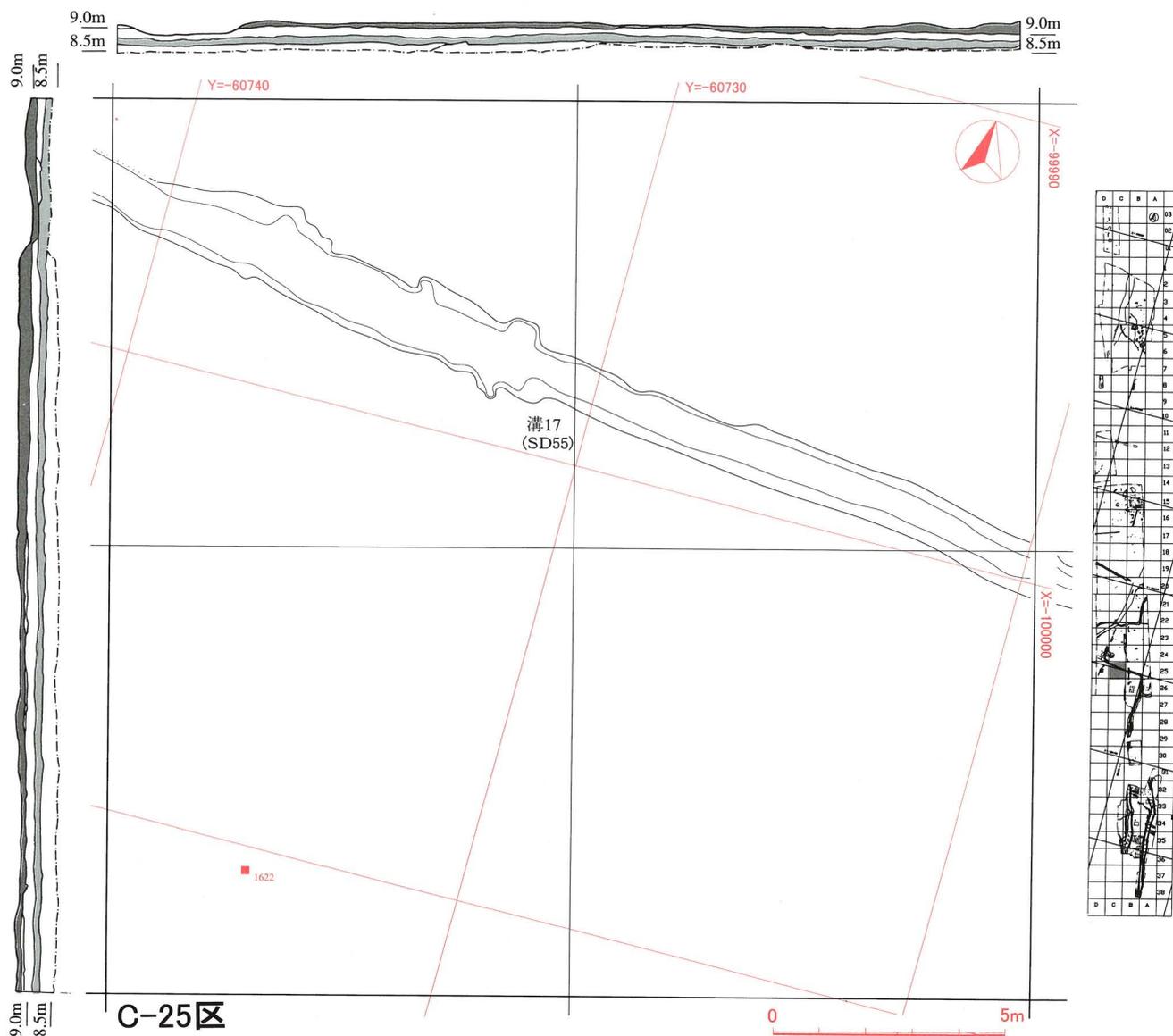
北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.04m、低い所で8.62mである。北側壁面のⅢ層中13.1m～13.5m及び14.5m～14.9mの地点で、それぞれ厚さ約20cmの暗灰色粘質土を確認した。

この範囲から、古代のものと思われる焼土を伴う遺構12 (SF58)、同じく古代のものと思われるピット16 (SP59)、中世のものと思われる波板状凹凸面8 (SR54) を検出した。波板状凹凸面8は北側で次第に消えてゆき、南側は調査範囲外へ伸びている。公共座標に沿っていることと、条里型地割の起点に向かっていていることから、条里型地割施行後の道跡であると考えられる。

遺物の出土状況は、縄文土器がこの範囲から点在

する形で出土している。また、この区から組織痕をもつ縄文土器も出土した。



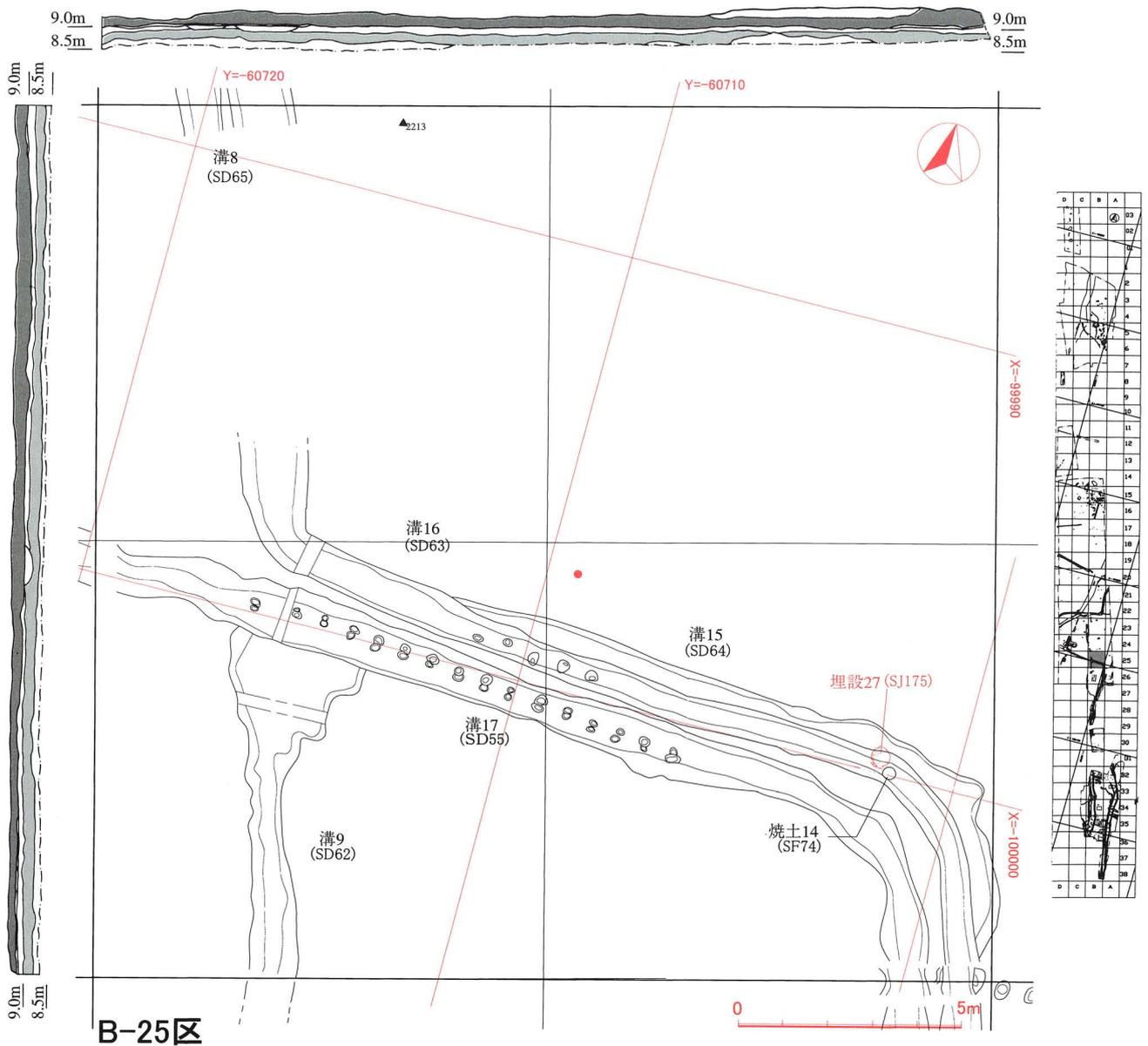


第82図 遺構検出及び遺物出土状況 (64) C-25区

C-25区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で8.9m、低い所で8.7mである。北側壁面・西側壁面のⅡ層はその堆積状況からⅡ・Ⅱc層とした。北側壁面のⅣ層は、Ⅲ層よりも砂っぽくオレンジの酸化鉄が混じっているのが認められた。西側壁面の17.6m～18.7mの地点では、Ⅰ層とⅡc層の間に幅1.1m、厚さ約12cmの暗灰色粘質土が堆積しているのが認められた。

溝状遺構17 (SD55) はこの区の北側で公共座標に沿って東西に延びている。これ以外に縄文時代・古代ともに遺構はなく、遺物の出土量も少なかった。したがって、この区から南西は生活域の外側であったことが考えられる。



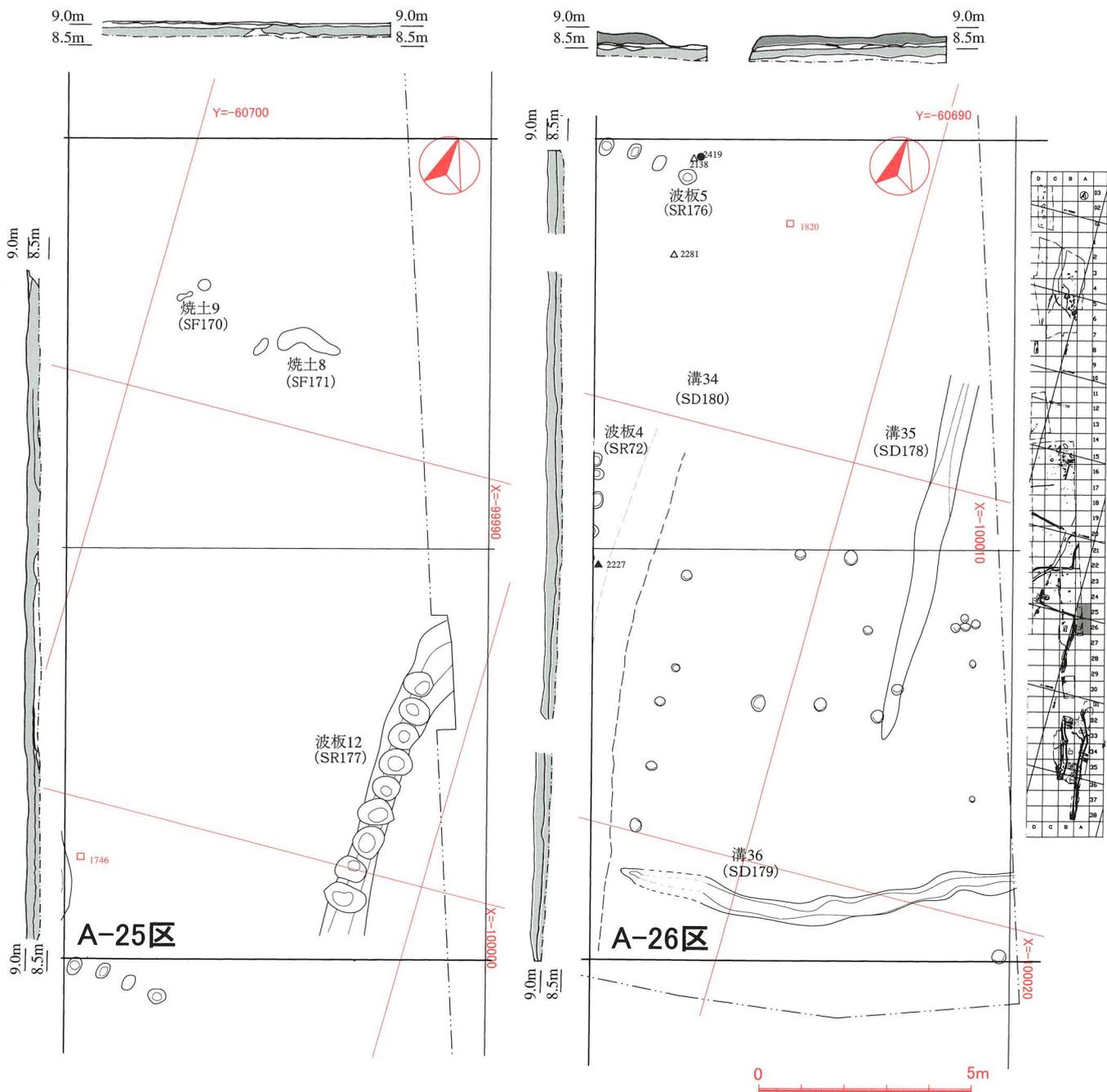
第83図 遺構検出及び遺物出土状況 (65) B-25区

**B-25区**

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.0m、低い所で8.8mである。Ⅱ層では、その堆積状況からⅡa・Ⅱc層とした。北側壁面の13.5mの地点～18.3mの地点にかけて、客土がなされていた。

この範囲から、縄文時代晩期初頭の入佐式土器新段階と考えられる埋設土器27 (SJ175)、平安時代末から中世のものと思われる溝状遺構9 (SD62)・溝状遺構16 (SD63)・溝状遺構15 (SD64)を検出した。この区で3条の溝状遺構が交差しながら残存しているのは、条里型地割の変遷を考える上で重要である。すなわち、条里型地割施行前の溝状遺構9、施行途中の溝状遺構16、そして施行後使用された溝状遺構17 (SD55)が重なるのである。

遺物の出土状況は、まばらな形で点在している。



第84図 遺構検出及び遺物出土状況 (66) A-25・26区

#### A-25区

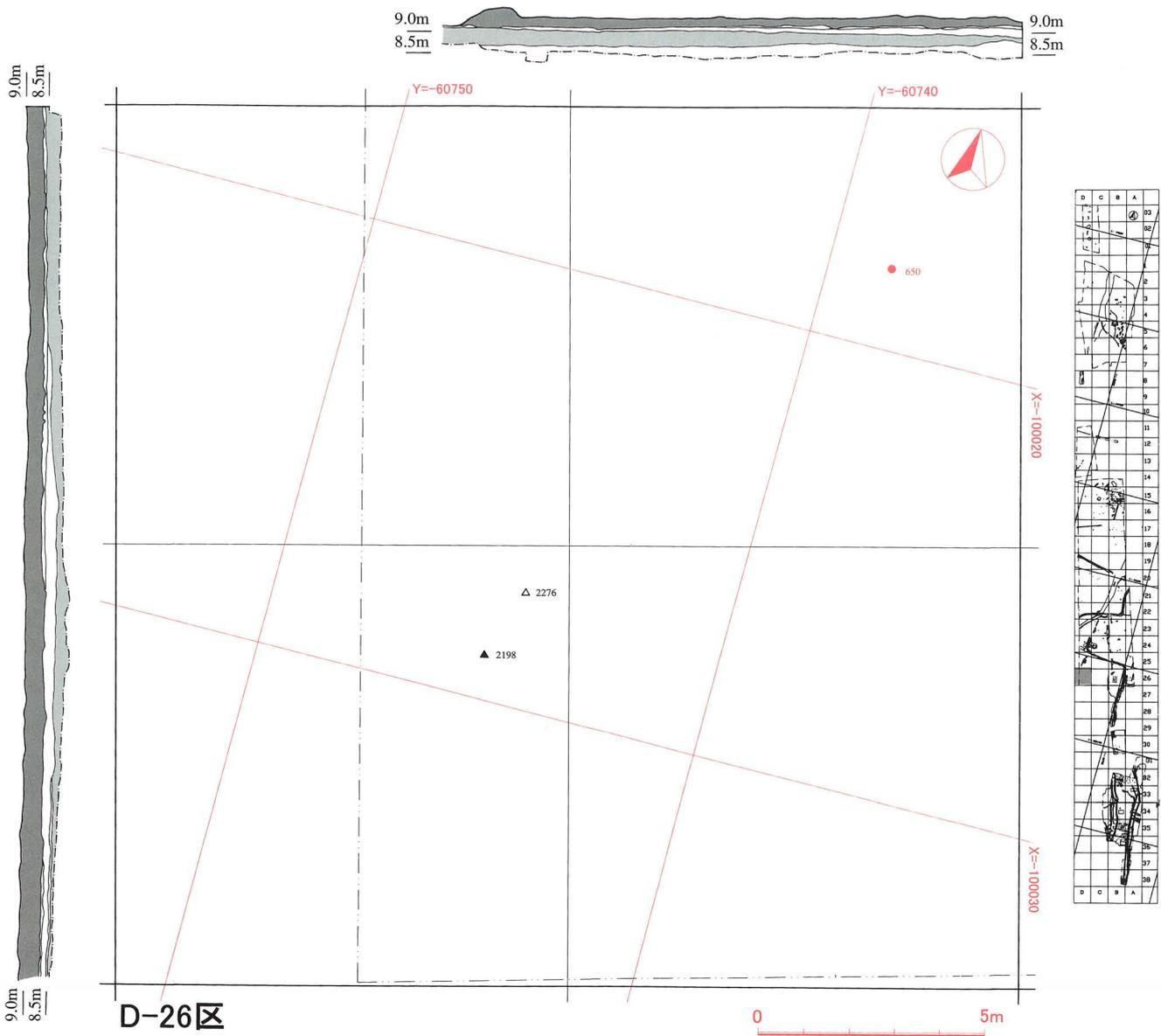
北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.0m、低い所で8.9mである。北側壁面はⅡ層上面から、西側壁面はⅢ層上面から現れていることから、調査の段階で削平を受けていたことが考えられる。西側壁面の北西隅16mの地点で、排水溝があったため調査はできなかった。

この範囲から、平安時代のものと考えられる焼土遺構9 (SF170)・8 (SF171) を、Ⅲ層から数cm掘り下げた時点で検出した。また、中世のものと考えら

れる波板状凹凸面12 (SR177) を検出した。埋土は灰白色細砂である。26区になると削平のため確認できなかった。

#### A-26区

北側壁面・西側壁面の標高は、高い所で9.2m、低い所で8.9mである。北側壁面の2.6m～3.6mの地点は排水溝があったため調査はできなかった。西側壁面はⅢ層上面から現れていることから、調査の段階で削平を受けていたことが考えられる。西側壁面



第85図 遺構検出及び遺物出土状況 (67) D-26区

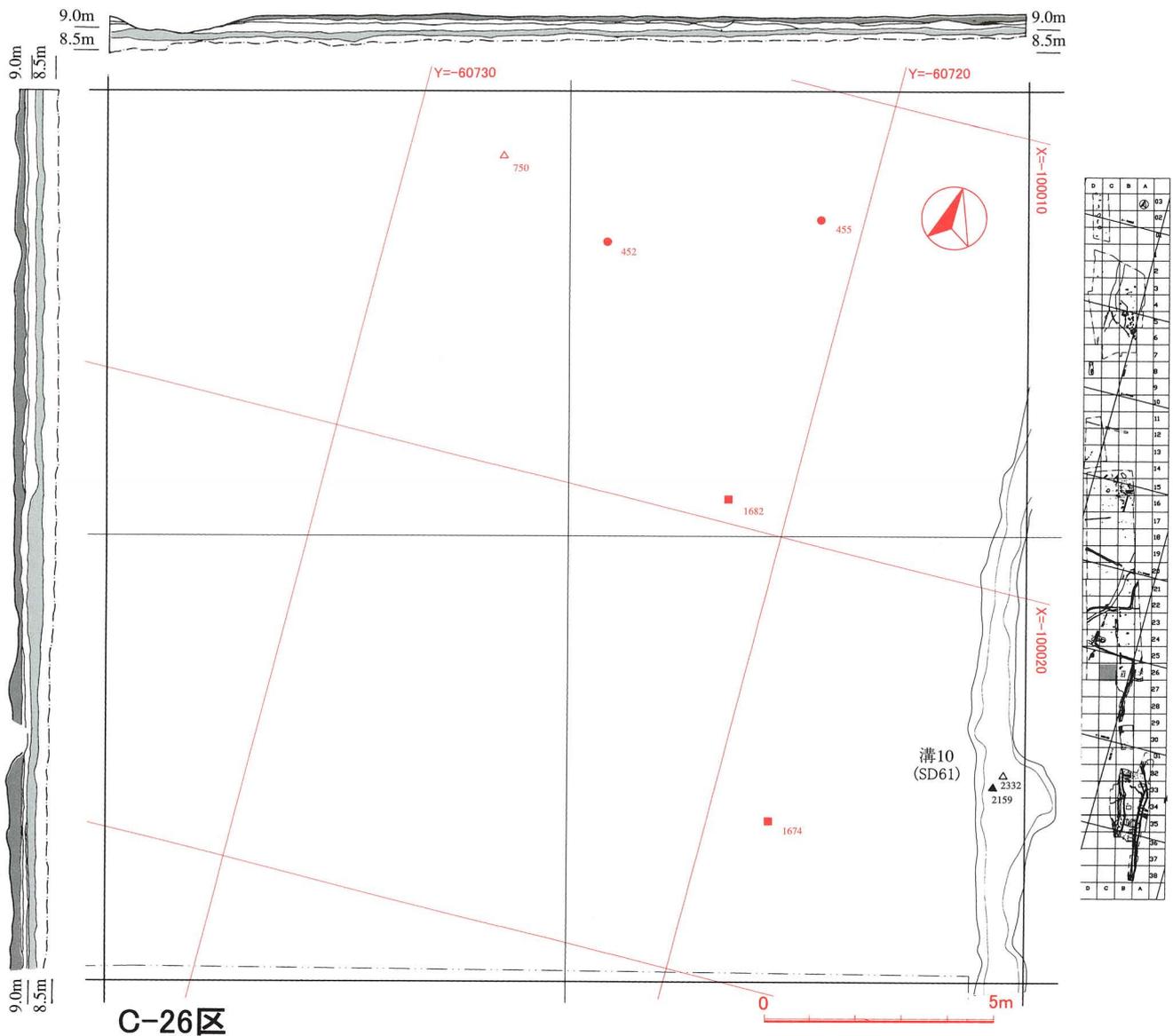
のⅢ層とⅣ層の間に、オレンジ色の酸化鉄のような層が8cm～16cm堆積していることから、これをⅢ'層とした。北側壁面には、波板状凹凸面がⅡ層下位のⅡb層から落ち込んでいる。埋土は、暗灰色砂質土である。

この範囲からは、中世のものと考えられる波板状凹凸面5 (SR176)・溝状遺構35 (SD178)・36 (SD179)・34 (SD180)を検出した。ピットも十数基検出されたが並べられなかった。

遺物の出土状況は北側と南側に集中して出土しており、中央部分からは、あまり出土しなかった。

#### D-26区

D区で最も南側に位置するグリッドである。遺構は全く確認されなかった。遺物もほとんど希薄となり、縄文土器・土師器ともに少なかった。



第86図 遺構検出及び遺物出土状況 (68) C-26区

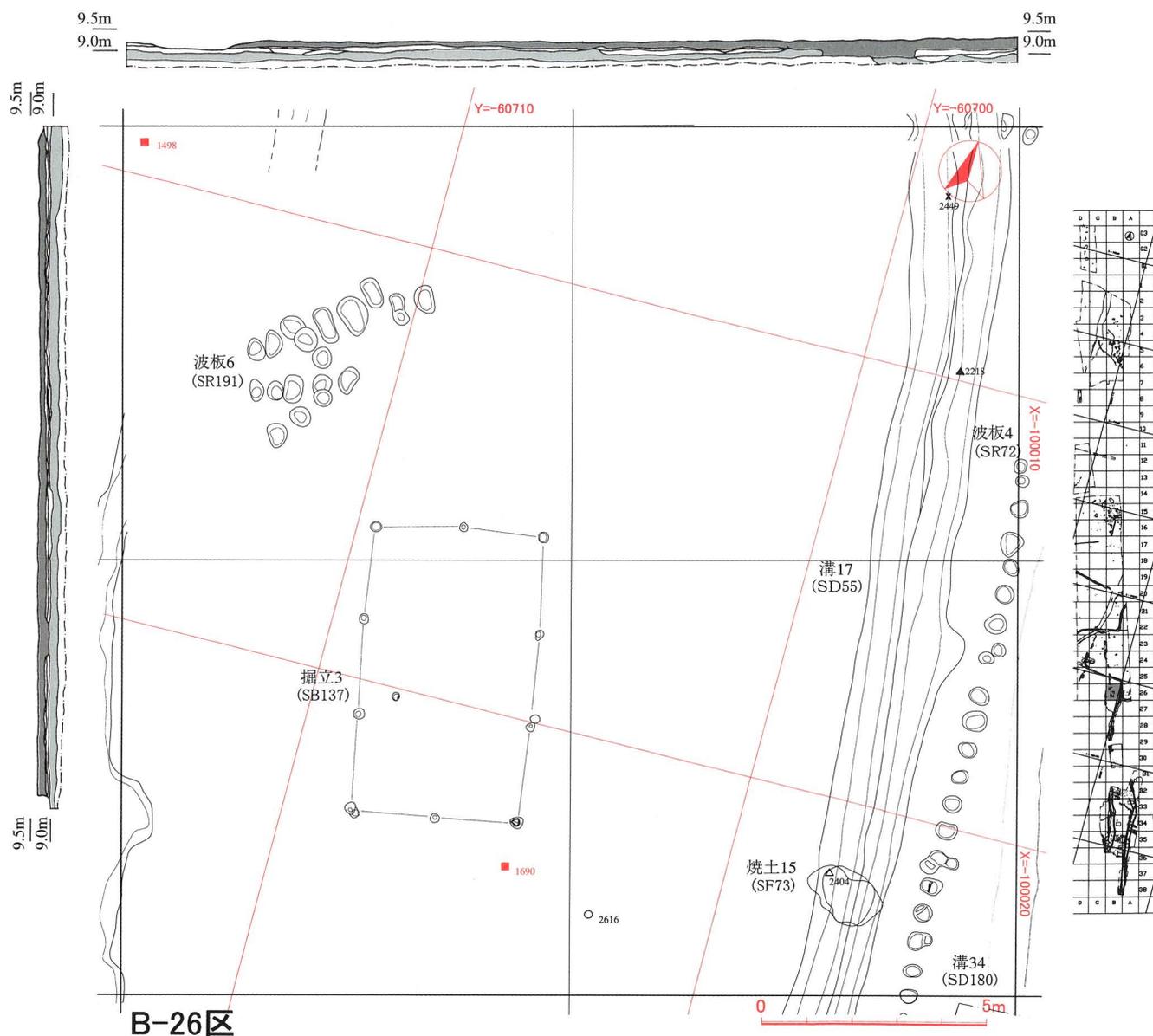
### C-26区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.96m、低い所で8.8mである。北側壁面・西側壁面のⅡ層はその堆積状況から、Ⅱa・Ⅱc層とした。また、西側壁面0.5m～3.56mの地点でⅡa層とⅢ層の間に、幅3.6m、厚さ約4cmの、Ⅲ層に比べて赤味の強い粘質土の堆積が認められたので、これをⅡd層とした。北側壁面では、11.7m～12.64m及び12.7m～13.5mの地点にかけて、厚さ約5cm～12cmの青灰色粘質土が堆積しているのが認められた。

この範囲からは、古代～中世のものと思われる溝状遺構10 (SD61)を検出した。埋土は灰白色の砂質土である。これらの遺構からは、須恵器や土師器片及び焼塩壺の破片が出土した。

遺物の出土状況は、この範囲にわずかに点在して

いる形で出土しており、特に遺構の周囲にあたる東側からの出土が多い傾向にある。縄文時代の遺物も中央より東側に寄っており、次第に分布が限られている。



第87図 遺構検出及び遺物出土状況 (69) B-26区

### B-26区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.1m、低い所で8.9mである。Ⅱ層中に灰黄色粘質土及び青灰色粘質土の層が堆積していたので、Ⅱa・Ⅱc層とした。

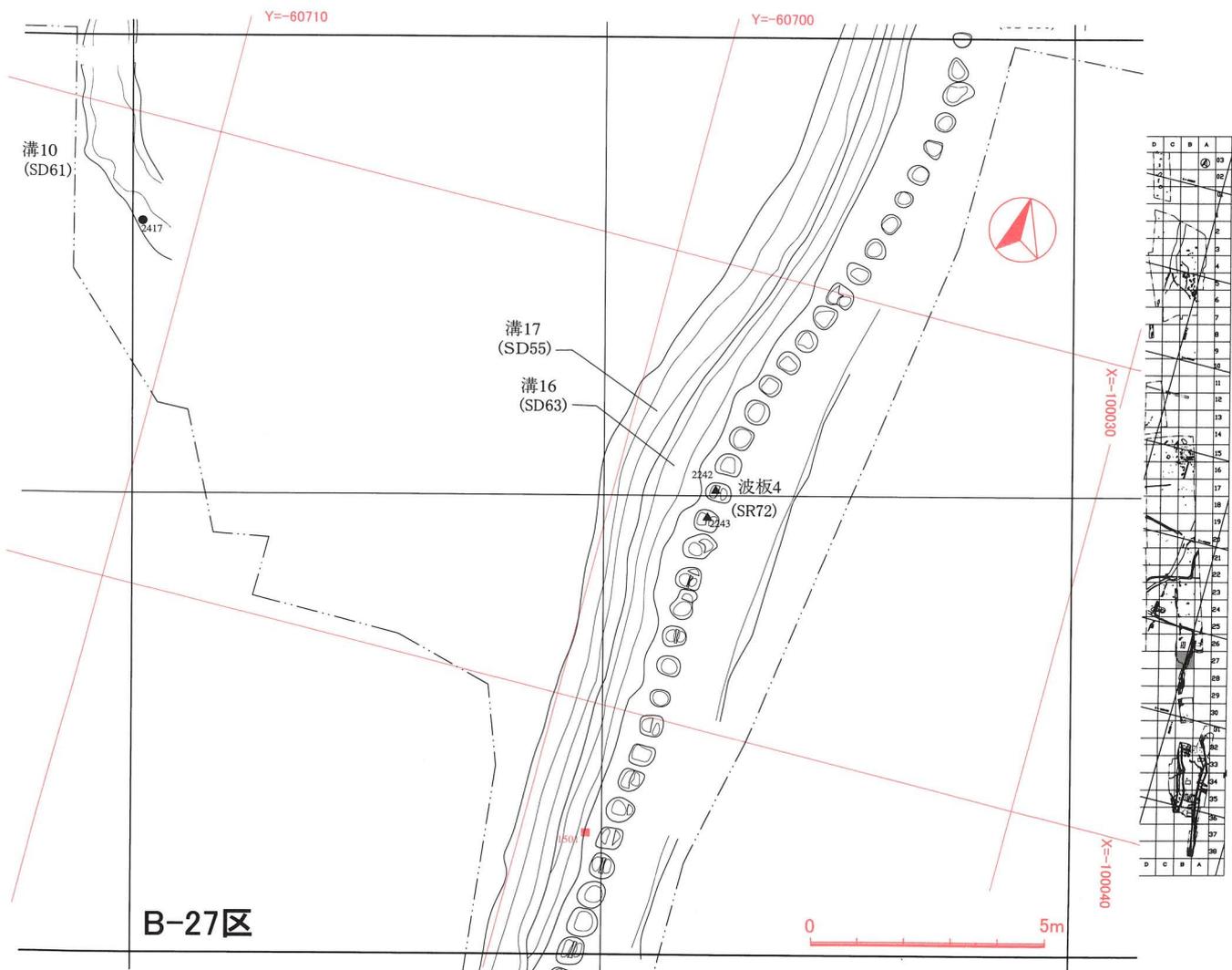
この範囲から、平安時代から鎌倉時代のものと思われる掘立柱建物跡3 (SB137) を中央付近で検出した。その北側には古代から中世のものと思われる波板状凹凸面6 (SR191) を検出した。ちょうど確認トレンチによって切られているので、波板状凹凸面6と溝状遺構10 (SD61) との関係を明らかにすることはできなかった。溝状遺構の埋土は白色の砂質土である。ここからは、須恵器片と考えられる土器片が出土した。東側には溝状遺構16 (SD63)・17 (SD55)

及び波板状凹凸面4 (SR72) が並行しながら、ほぼ南北に延びる。

遺物の出土状況は、この範囲の東側端から多く出土している。縄文時代の遺物は少なく、図示したのは石製土掘具の2点のみである。

### B-27区

確認調査を基に予定された本調査対象区は26区以北であったが、溝状遺構10 (SD61)・16 (SD63)・17 (SD55) 及び波板状凹凸面4 (SR72) が延びることから、協議の上最小限の範囲で調査を行った。溝状遺構10は確認トレンチで切られており、調査範囲内でそれ以上の追跡はできなかった。確認調査時点で認識できていないことから、確認トレンチに重な



第88図 遺構検出及び遺物出土状況 (70) B-27区

る方向に延びていた可能性もある。

溝状遺構16・17、それに波板状凹凸面4は並行しながら公共座標に沿って延びている。溝状遺構16と17は南端で合流して一つになる。当初予定していない発掘区域であったので、北側及び西側の断面図はとっていない。

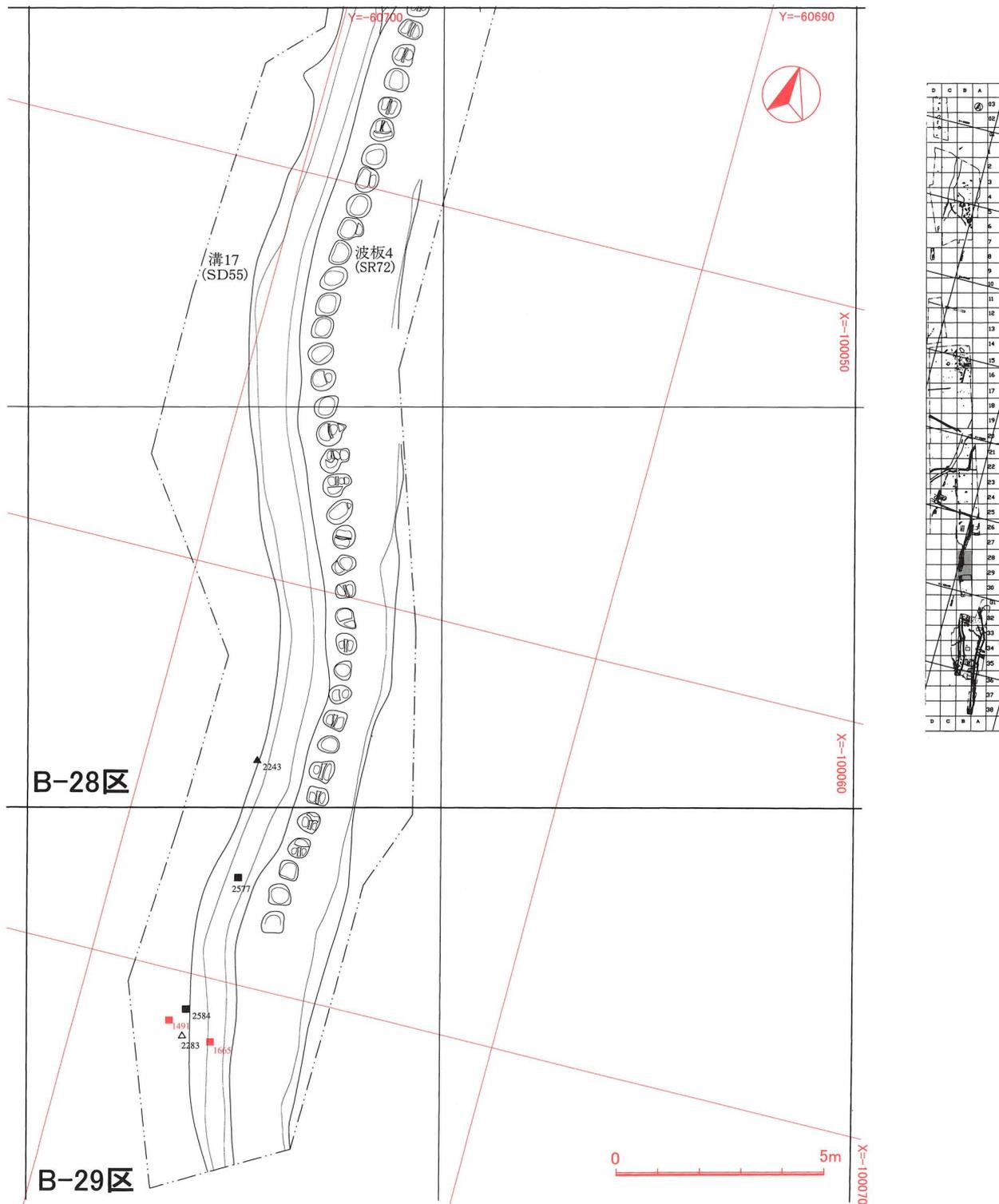
#### B-28区

B-27区から続く古代末期から中世にかけての波板状凹凸面4 (SR72) と溝状遺構17 (SD55) を追跡して最小の範囲で調査した。

遺物の出土状況は、この遺構に沿うような形で南北に点在して出土している。当初予定していなかった発掘区のため断面図はとっていない。

#### B-29区

本調査の対象区ではなかったけれども、溝状遺構16 (SD63) ・17 (SD55) 及び波板状凹凸面4 (SR72) が続くと考えられたことから、協議の上最小限の範囲を調査することとなった。溝状遺構16と17は重複して1本となり、波板状凹凸面はそれに並行していたが、29区北側で次第に浅くなり消滅した。29区の中ほどには約2m幅の三面側溝があり、この部分まで調査したが、それより南側へも延びることがわかった。当初予定していなかった発掘区であるため、断面図はとっていない。



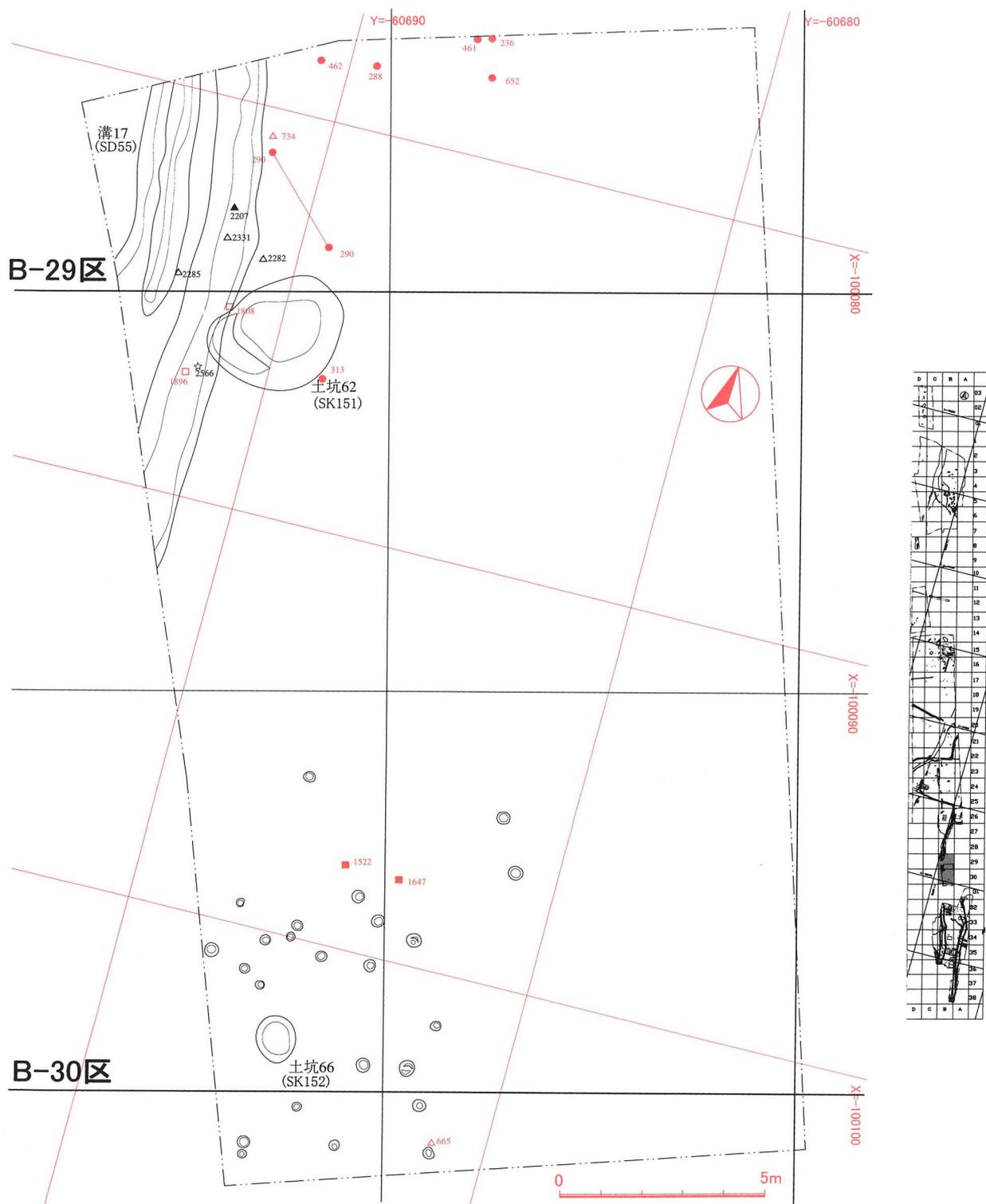
第89図 遺構検出及び遺物出土状況 (71) B-28・29区

**B-30区**

本調査対象区には入っていなかったけれども、溝状遺構17 (SD55) の延長が想定されたことから、再協議の上調査した地点である。アスファルトを剥が

して客土を除去した後、手掘りによる発掘を行った。東側の大半は深く攪乱を受けており、遺物包含層は残存しなかった。当初予定していない発掘区域であったことと、客土が厚かったことから、北側壁面及





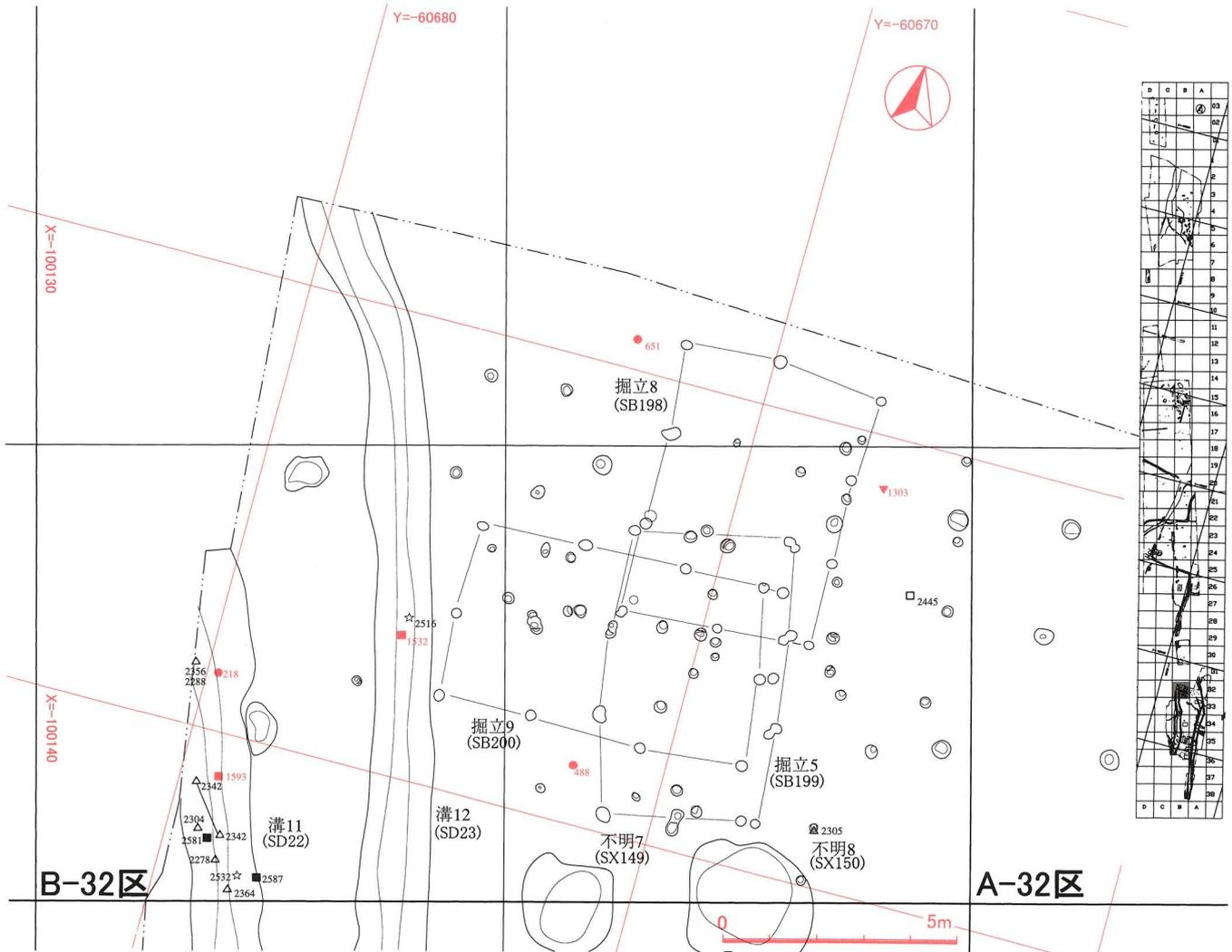
第90図 遺構検出及び遺物出土状況 (72) B-30区

び西側壁面の断面図はとっていない。

この範囲から、平安時代～鎌倉時代のものと思われる土坑62(SK151)・66(SK152)を検出した。この遺構から土師器片や須恵器片が出土した。土坑66の周辺には柱

穴が多数検出されたが、並べることはできなかった。最も南側にある柱穴は掘立柱建物跡の北面とも想定されたが、これ以上の追究は不可能であった。

遺物の出土状況は、この範囲のやや中心よりの南



第91図 遺構検出及び遺物出土状況 (73) B-32区

側に集中して出土している。溝状遺構17はさらに西側へ延びていくが、工事が進行していたためこれ以上の追跡は不可能であった。

#### A-31区

工場敷地だった場所であり、アスファルトを剥がしてからの掘り下げとなった。アスファルトの基礎や客土を除去すると、サビ色をしたⅢ層であり、特に東側は礫がゴロゴロしていた。西壁・北壁とも断面は実測していない。焼土17(SF204)は明確な境はなく、深さも広がりも漸移的であった。溝状遺構22(SD146)から枝分かれした溝状遺構26(SD202)・27(SD205)・28(SD201)は次第にはっきりしなくなり消滅してしまった。

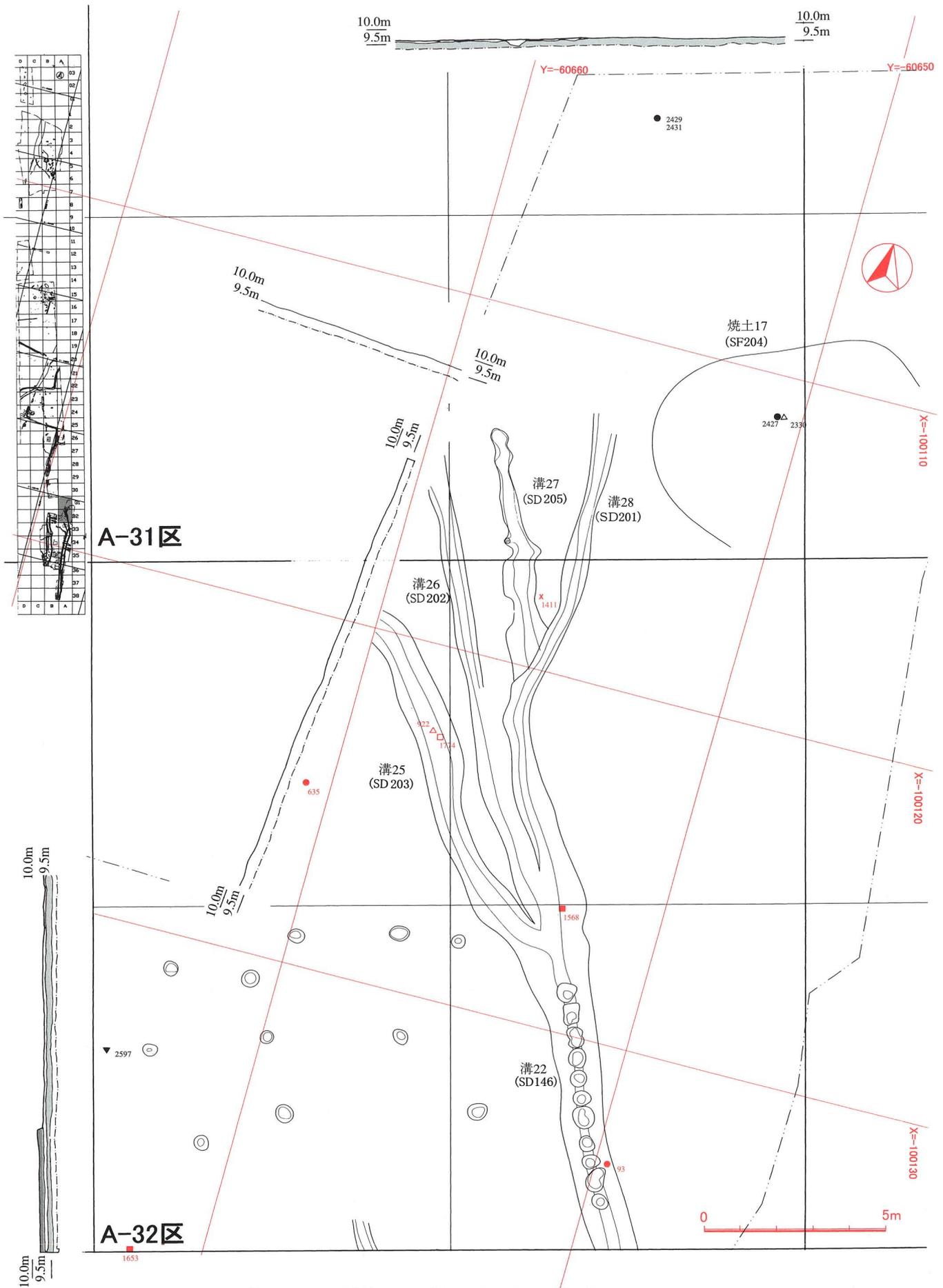
#### B-32区

市道沖田2号線が通っていた場所であり、最後の調査区となった。市道のこの部分だけが、位置的にも方向的にも条里型地割の痕跡が存在することを予想して掘り下げたが、期待に反して全く予想外の結果となっ

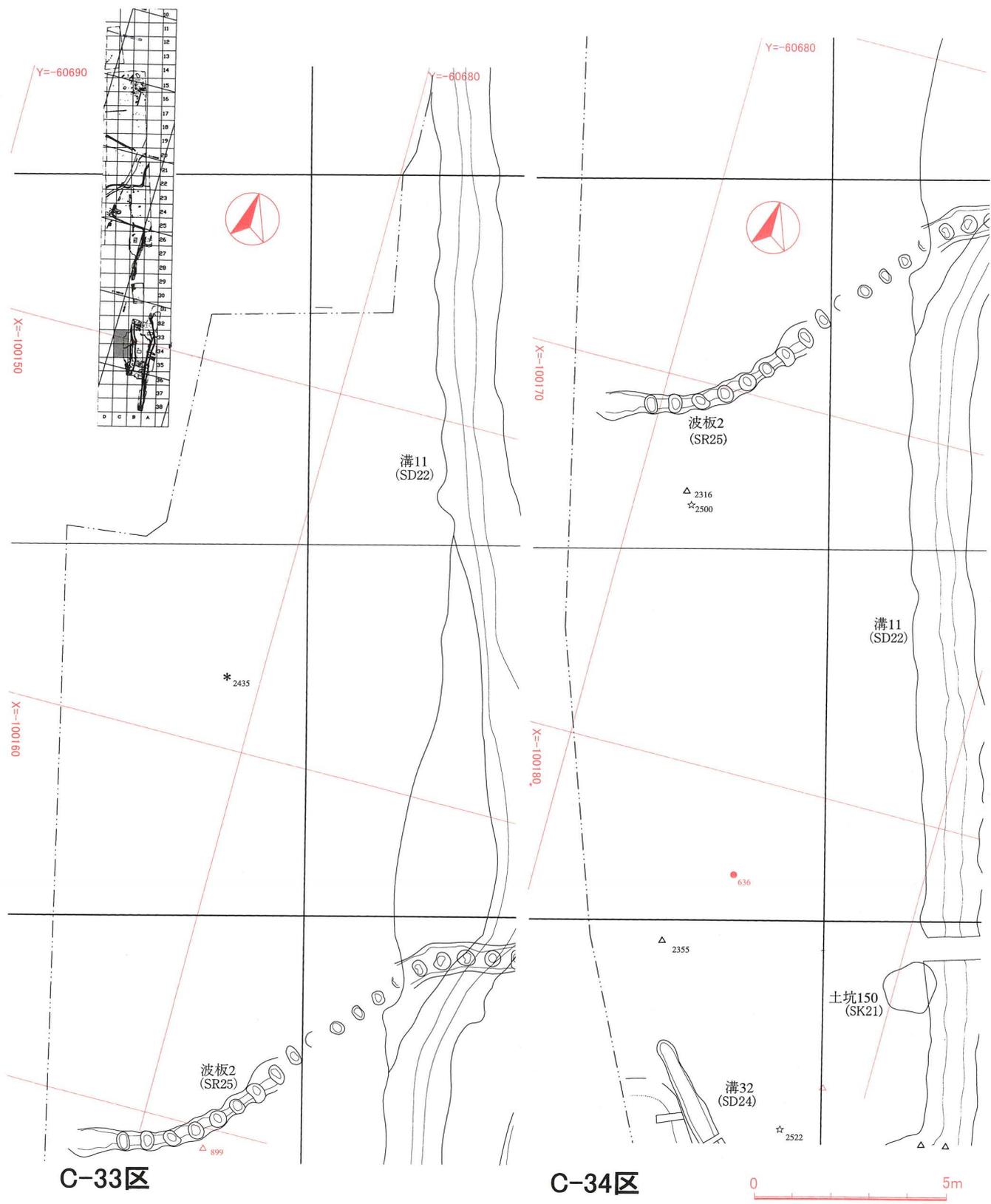
た。多数の柱穴が集中して検出され、3棟分の掘立柱建物跡を把握することができた。同じ場所で建て替えられており、この地点が条里型地割の大区画に相当する場所でなかったことが明らかとなった。掘立柱建物跡に接して不明遺構7(SX149)・8(SX150)がある。溝状遺構11(SD22)・12(SD23)はわずかに西側へ向きを変えていくが、これ以上の追跡はできなかった。西壁・北壁とも断面は実測していない。

#### A-32区

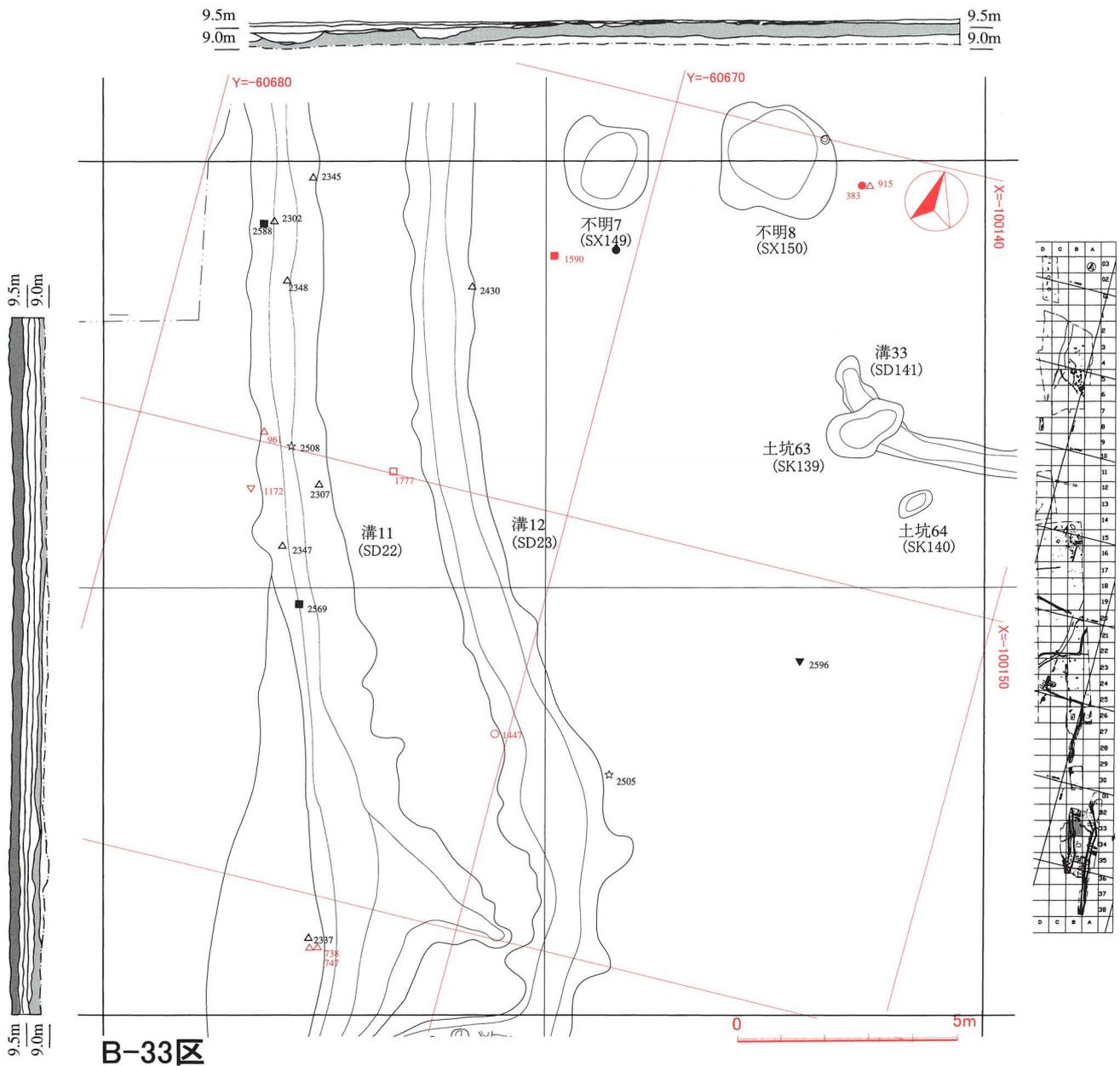
北側壁面・西側壁面・南側壁面の標高は、高い所で9.6m、低い所で9.54mである。北側壁面・西側壁面・南側壁面とも、Ⅱ層上面から現れていることから、調査の段階で削平を受けていたことが考えられる。南側壁面の6.2m～11.88mの地点にコンクリート壁が位置していたため、調査を実施することができなかった。北側壁面のⅢ層10cm～15cmの間には拳大の礫がつまっていた。市道沖田2号線があった場所であり、発掘調査が最後になった地点である。市道は方向的にも距離



第92図 遺構検出及び遺物出土状況 (74) A-31・32区



第93図 遺構検出及び遺物出土状況 (75) C-33・34区



第94図 遺構検出及び遺物出土状況 (76) B-33区

的にも条里型地割の大区画に相当しそうな地点であったが、それを示す様な遺構はみられなかった。

この範囲の遺構はA-33区から延びてきた溝状遺構22 (SD146) があり、その底面に波板状凹凸面が確認できた。さらに北側へは溝状遺構28 (SD201)・26 (SD202)・25 (SD203) が枝分かれしているのが明らかとなった。

直径40~55cm程度の土坑を10数基検出したものの、埋土が新しかったので遺構としては認定しなかった。

遺物の出土状況は、中心部から弧を描くような形で出土している。

#### C-33区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所

で9.5m、低い所で9.2mである。

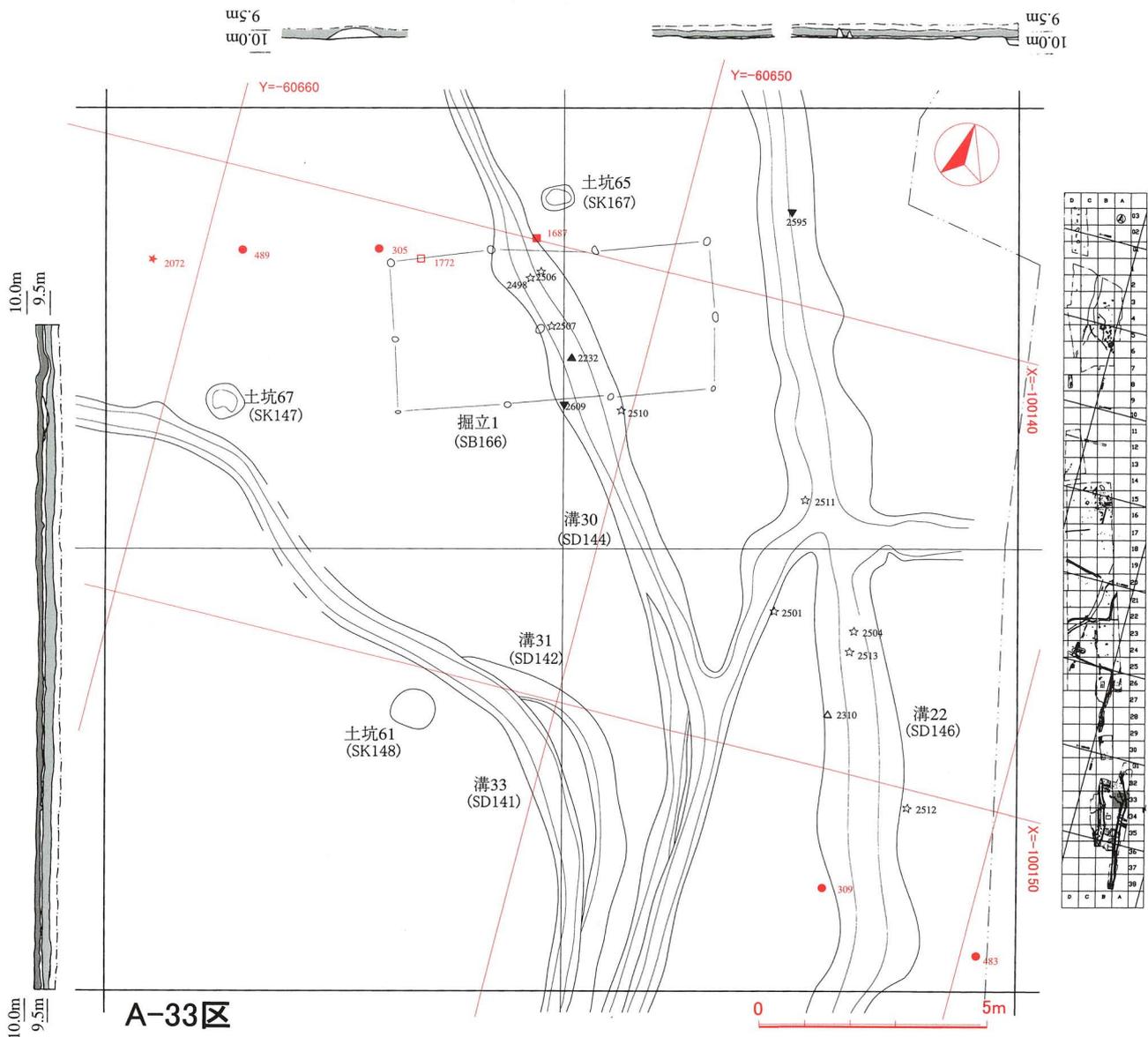
この範囲からは、遺構は検出されなかった。遺物の出土状況は、南東側から数点しか出土しなかった。

#### C-34区

北側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.24m、低い所で9.2mである。西側は調査区域外であり、この範囲のⅢ層は北側壁面の17.4m~19.6mの地点だけしか確認できなかった。Ⅱ層はその堆積状況から、Ⅱ・Ⅱb・Ⅱc層と分類した。

この範囲では、B-34区から続く古代末期から中世初頭のものと思われる波板状凹凸面2 (SR25) を検出した。

遺物の出土状況は、東側全般に広がって出土している。



第95図 遺構検出及び遺物出土状況 (77) A-33区

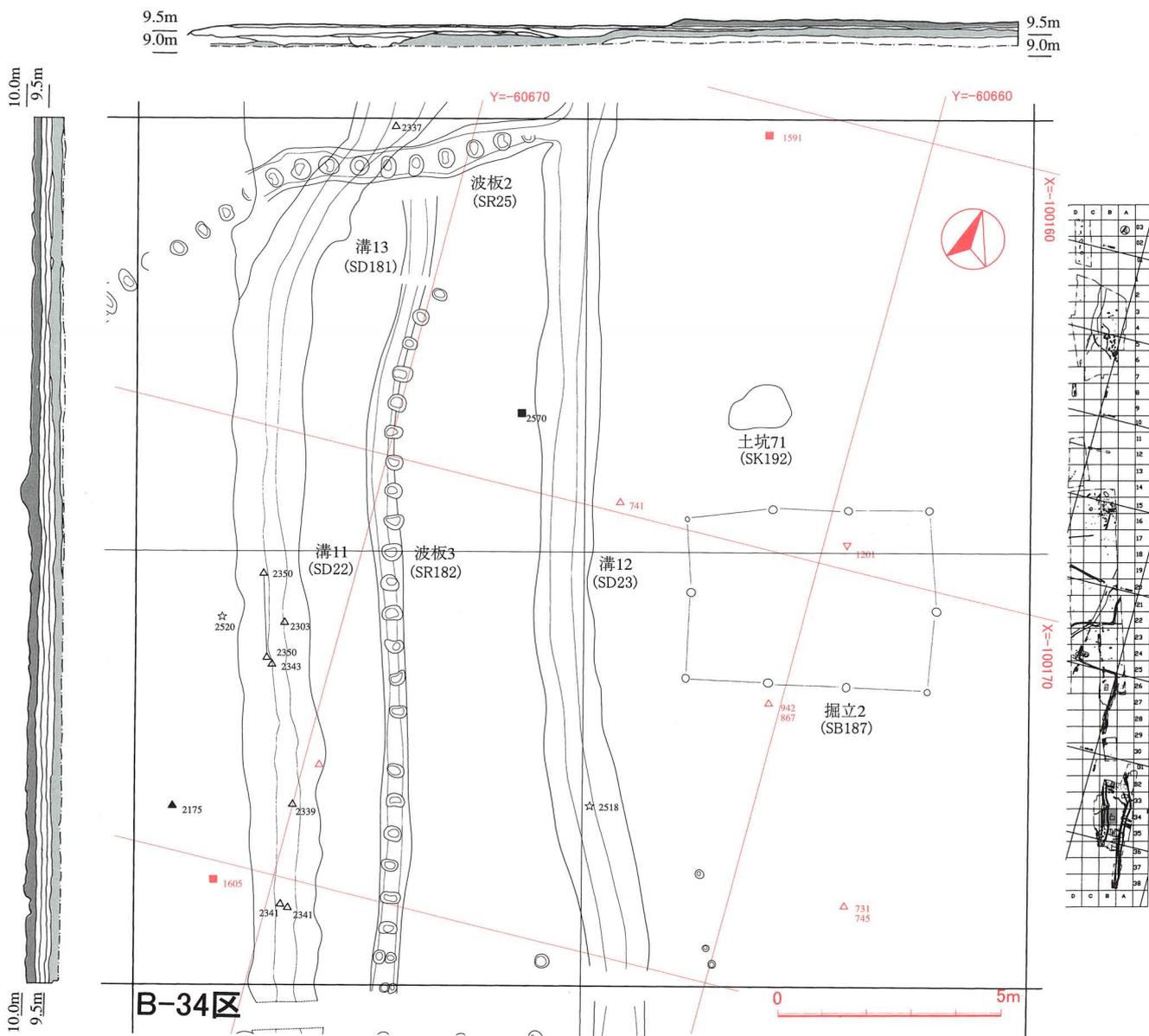
**B-33区**

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.6m、低い所で9.0mである。Ⅱ層はその堆積状況から、Ⅱa・Ⅱb・Ⅱc・Ⅱd層として分類した。北側壁面の3.2m～5mの地点のⅡb層とⅡc層の間には、暗灰褐色粘質土が堆積している層があり、また、その下には厚さ8cm、幅42cm程度の暗灰色砂質土で、5mm程度の砂利が混入している層がある。

この範囲からは、平安時代から鎌倉時代のものと思われる溝状遺構11 (SD22)・12 (SD23)を検出した。この遺構から、土師器・滑石製品・磁器が出土した。溝状遺構11は南側で大きく広がっており、東側へは登り口状のスロープもみられる。この張り出しに影

響されたせいか、溝状遺構12もこの地点で東側へ若干張り出している。また、土坑63 (SK139)・64 (SK140)、不明遺構7 (SX149)・8 (SX150)を検出した。土坑の埋土は灰色を呈する砂質土であり、不明遺構の埋土は黒灰色の粘質土である。不明遺構は、堆肥置き場または生活用水を一時貯めておくような、湿気が多い所 (スドボイ) が想定されたので土壌分析を行ったが、特別な物質は出てこなかった。これらの遺構からは遺物は出土しなかった。

遺物の出土状況は、この範囲から全般的に出土しているが、特に西側の方からの出土が多い。



第96図 遺構検出及び遺物出土状況 (78) B-34区

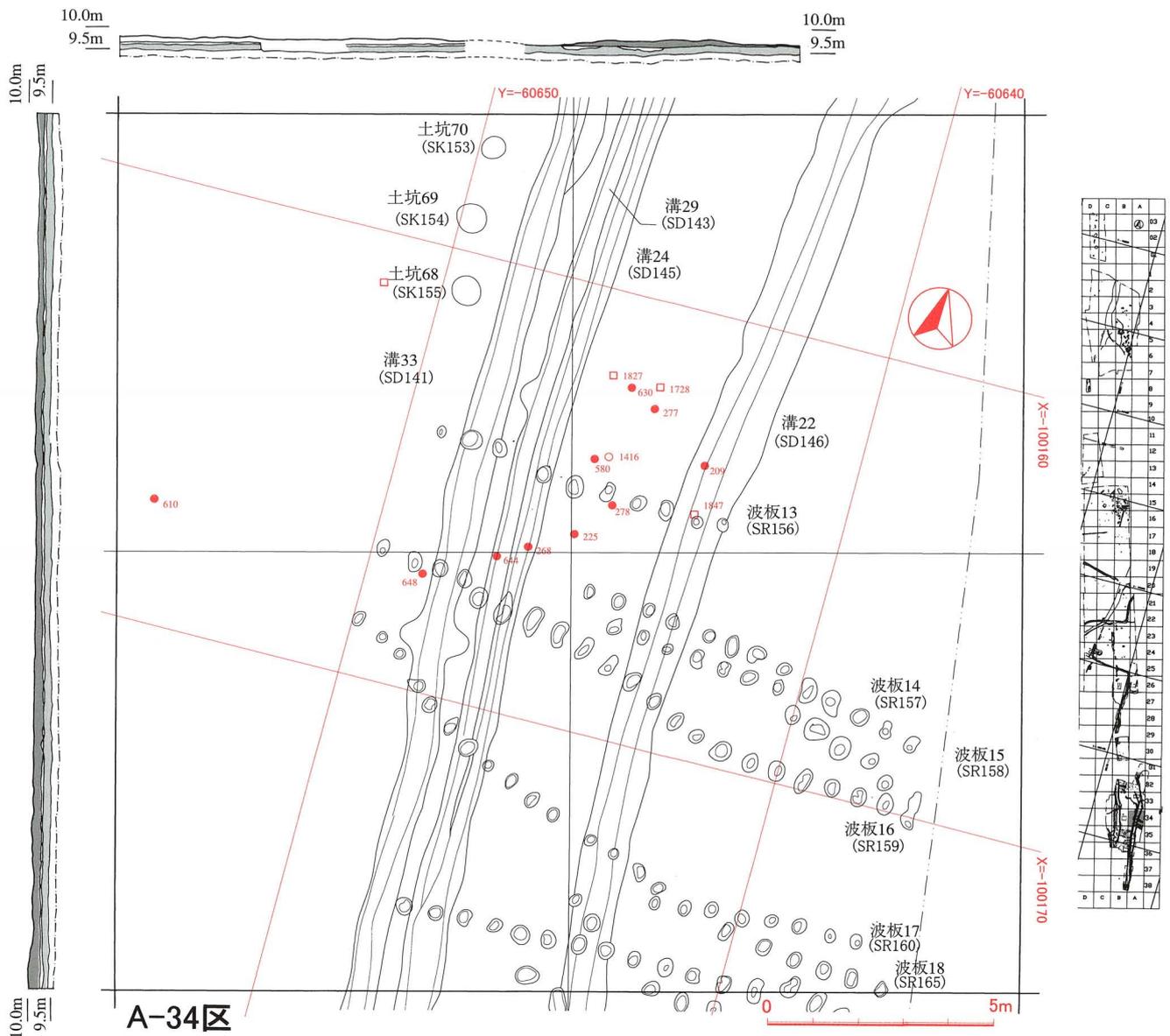
### A-33区

西側壁面の標高は、高い所で9.64m、低い所で9.56mである。12.28mの地点で、Ⅱa層の中に暗黄褐色粘質土が入っており、Ⅲ層の中には暗灰黄色粘質土が入っている。西側壁面16.66mの地点～17.02mの地点にかけて、暗灰褐色弱粘質土が入り込んでいる。18.6mの地点からコンクリートの壁があったため、北側壁面の調査ができなかった。

この範囲からは、平安時代から鎌倉時代のものと思われる溝状遺構33 (SD141)・31 (SD142)・29 (SD143)・30 (SD144)・24 (SD145)・22 (SD146)、土坑67 (SK147)・61 (SK148)、掘立柱建物跡1 (SB166)が検出された。溝状遺構29は溝状遺構24と重なりながら延びて、溝状遺構30に吸収される。すべての溝

状遺構がこの地点で方向を変えたり分岐したりする様相がみられ、この区が条里型地割の何らかの変換点だったことが窺える。埋土は暗茶褐色粘質土である。36区の方から山裾に沿って、わずかに蛇行しながら延びてきた溝状遺構22は、埋土は黒茶褐色の粘質土であり、溝状遺構24と合流してA-32区に延びている。これらの溝状遺構の中からは、須恵器・土師器・滑石製品・玉縁の白磁等が出土した。土坑67・61は楕円形及び円形の土坑で、埋土はⅢ層と同一の暗黄褐色土である。掘立柱建物跡1の埋土は黒茶褐色の粘質土である。

遺物の出土状況は、中心に向かって周辺部分で出土しており、特に南西方向から多く出土している。



第97図 遺構検出及び遺物出土状況 (79) A-34区

### B-34区

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.46m、低い所で9.04mである。北側壁面はⅡ層から現れていることから、昭和40年代の耕地整理で削平を受けていることが考えられる。Ⅱ層はその堆積状況から、Ⅱa・Ⅱb・Ⅱc層と分類した。北側壁面の6.5m～8.24mの地点のⅡ層とⅢ層の間に厚さ約8cm、幅1.5mの古代の耕作土と考えられる層が堆積していた。また、西側壁面の10m～14.04mの地点のⅡc層には、幅20cm～40cm、厚さ4cm～8cmの砂の塊の層が堆積しており、鋤痕ではないかと考えられる。上面は平坦に近く、下面は凸レンズ状となる。平面で広げてみたが、この層は確認できず、方向もわからなかった。

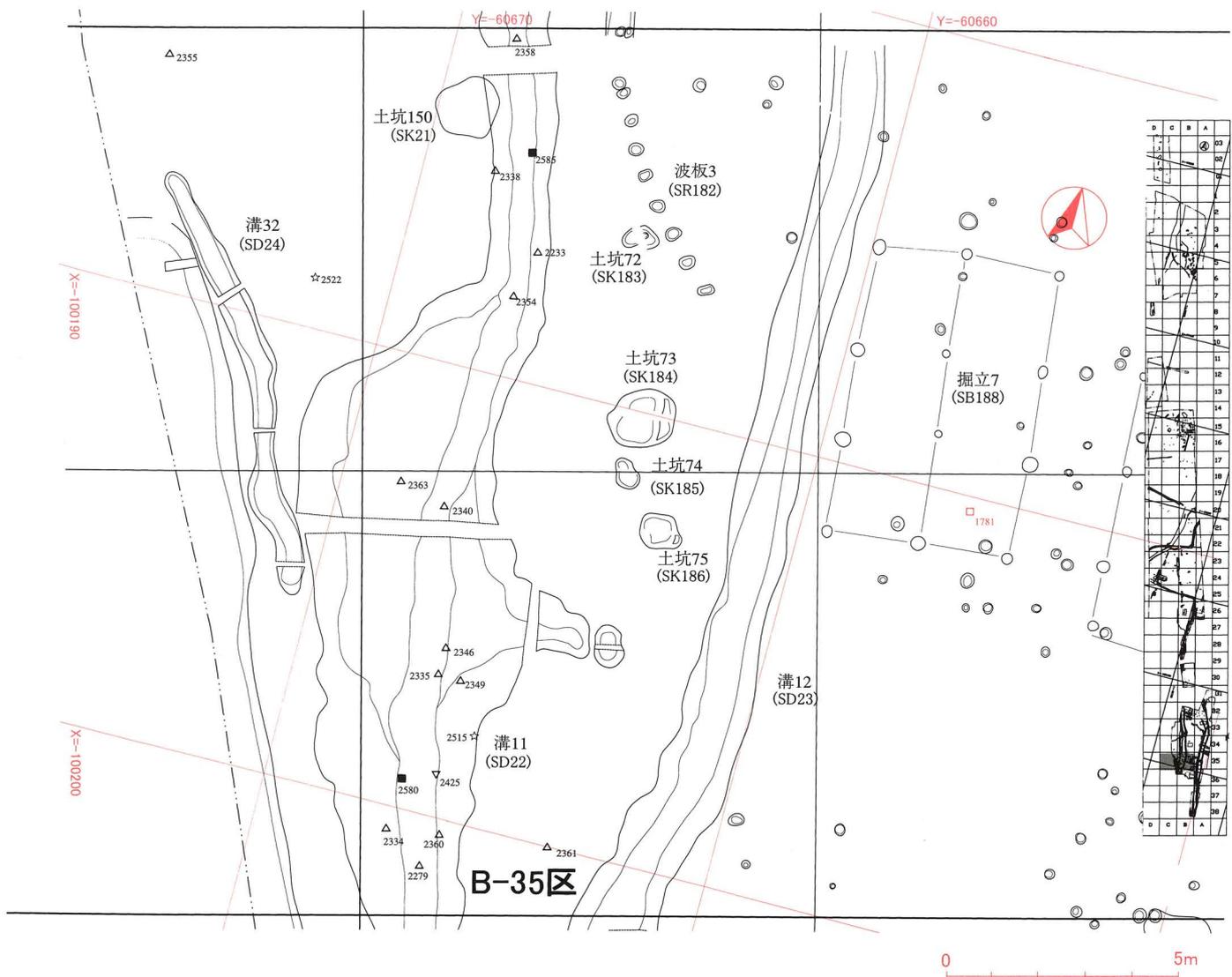
この範囲からは、古代末期から中世初頭のもの

と思われる溝状遺構13 (SD181)、波板状凹凸面2 (SR25)・3 (SR182)、掘立柱建物跡2 (SB187)、土坑71 (SK192)を検出した。溝状遺構と掘立柱建物跡は同じ向きをしている。

波板状凹凸面2の溝の中の埋土は灰褐色砂質土であり、床面の埋土は白色の細砂である。掘立柱建物跡2の埋土は暗茶褐色の粘質土、土坑71の埋土は炭化物の細粒を含んでいる黒茶褐色の粘質土である。

遺物の出土状況は、全般的に出土している。特に西側からの出土が多い。また、北から南に向かって、線状に出土している。





第98図 遺構検出及び遺物出土状況 (80) C・B-35区

**A-34区**

溝状遺構22 (SD146)・24 (SD145)・33 (SD141) が公共座標に沿って並行している。溝状遺構24から分岐した溝状遺構29 (SD143) は、半分重なりながら並行する。土坑68 (SK155)・69 (SK154)・70 (SK153) も溝状遺構の方向で並んでおり、関連性が窺える。溝状遺構が完全に埋まった後、波板状凹凸面13 (SR156)・14 (SR157)・15 (SR158)・16 (SR159)・17 (SR160)・18 (SR165)・19 (SR161)が形成されている。東側の谷方向へ続いており、最も北にある波板状凹凸面13は東西の公共座標に沿っている。

**C・B-35区**

北側壁面・西側壁面のⅢ層上面の標高は、高い所で9.62m、低い所で9.24mである。Ⅱ層はその堆積状況から、Ⅱa・Ⅱb・Ⅱc・Ⅱd層と分類した。北側壁面では古代の耕作土と考えられる層があり、Ⅱd層とした。北側壁面のⅡ層とⅢ層の間の7.84mの地点～9.04mの地点にかけて、厚さ約30cm、幅1.2mにわたって砂礫層が堆積していた。西側壁面ではⅡc層の下に溝状遺構11 (SD22)の埋土が堆積している状況が認められた。

この範囲から、古代末期のものと思われる土坑72 (SK183)・73 (SK184)・74 (SK185)・75 (SK186)、中世のものと思われる土坑150 (SK21)、同じく中世のものと思われる掘立柱建物跡7 (SB188)、B-35区と36区の境で古